

一般社団法人 全日本大学ソフトボール連盟機関誌

# ウインドミル

第27号



一般社団法人  
**全日本大学ソフトボール連盟**  
 Japan College Softball Federation



# 野球・ソフトボールが 地球にできること

野球・ソフトボールはプレーヤーだけでなく、観る人にも感動と興奮を

与えてくれる素晴らしいスポーツだと思います。

環境変化が激しくなる中、この素晴らしい文化を後世に

伝えていくにはどうすればいいのか？

それを考え実行するのが創業以来、野球と共に歩んできた

ミズノの使命だと考えるのです。

野球・ソフトボールが地球に出来ること始まります。

「野球・ソフトボールが地球に出来ること」  
ミズノは、出来る事から始めています。

<https://jpn.mizuno.com/baseball/sdgs>



## ごあいさつ

一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟  
代表理事 児玉 公正



機関紙「ウインドミル」第27号の発刊に際し、僭越ではございますが一言ごあいさつ申し上げます。

当連盟の活動の目的は大学ソフトボールの普及・発展、振興及び競技力向上を図るとともに、ソフトボールを通して学生の心身の健全な発達及び我が国のソフトボールの発展に寄与することを掲げております。「ウインドミル」の発刊は、連盟が本年度に展開した活動の一端をご紹介することも目的の一つに含まれ、目次からも明らかなように連盟の事業報告から学生が関与した大会の結果記録、研究報告まで多岐にわたります。

今年度で開催を予定した大学ソフトボールの大会は各方面のご支援を賜り全て終了することができませんでした。多くの皆様のお力添えをいただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。学連に所属する選手たちは、大学での学修に加えソフトボール活動を通じて諸課題と対峙しながら多くの事を体験したと思いますが、これまでの取り組みは大きな糧となって、皆さんが社会に出られたときに必ずや活かされてくることでしょう。また、選手を支援する指導者各位におかれましても、感染症対策を含めてコミュニケーション方法の見直しを迫られるなど、ご負担もお掛けすることになりました。今後もこの逆境を逆手に取り、お互いに手と手を携え、心を通わせ、力を合わせることによって多くの障壁を乗り越えることができると信じています。

さて、連盟が企画・運営する多くの大会は、大学の学修に影響を及ぼすことがないように、かつ晴天に恵まれる可能性が高い夏季休暇期間に開催します。最近猛暑による炎天下での実施を余儀なくされ、プレーする選手、大会を支える審判員や記録員、応援に駆けつける選手のご家族の健康を脅かしかねない環境下での催しとなっています。暑熱環境下において大会を安全に運営することは喫緊の課題であり、開催時期や試合に要する時間短縮等の議論が必須な状況です。スポーツの試合時間は多くの種目が概ね90～120分で終了し、ソフトボールも同調の可能性を探る時期にきております。特に投手が次の投球までに要する時間は、捕手が投球を受け投手へ返球する際にボールが手元から離れた瞬間から時間計測されると聞き及んでいます。この動作局面は投球の「間」と表現され、スキルの一つとして戦略や戦術に含まれ、投手が投球動作をセットして静止動作を確保する時間的長さとともに打者との駆け引きに用いられています。また、試合は基本的に7イニングが約束され、終盤の6回や7回の攻防も勝敗を大きく左右しかねない魅力の一つです。試合時間短縮の議論は多くの懸案事項を紐解きながら多角的な検討が求められます。その際、国の施策であるスポーツ立国戦略（する人、観る人、支える人）に則した実施形態となることは申し上げるまでもございませぬが、今後、我々は選手や指導者、そして試合運営にご協力をいただく皆様のご意見を傾聴しながら、猛暑対策を講じる必要性があります。

大学ソフトボールは、心身の発育・発達過程が完了した選手による充実した体力とスポーツ技術に裏打ちされ、洗練された戦略・戦術を駆使したスポーツパフォーマンスが魅力の一つです。特に、ベースボール型球技としては幾分狭い競技スペースでのゲームとなり、その分瞬時の状況判断やスピード感あるプレーが求められます。この点がソフトボールの魅力であり、多くの皆様にご紹介することを「我々は未来から託されています」。スポーツ競技に取り組む青少年の競技人口は少子化の影響により減少が続いておりますが、次代の指導者養成も含めた大学連盟の位置づけが重要であることは申し上げるまでもございませぬ。連盟に在籍する皆様やそれを外部からご支援いただく多くの団体様と今後もよりいっそうの連携を図らせていただきながら、ソフトボール種目の益々の発展に努めてまいりたいと思います。引き続きご尽力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。最後になりましたが、関係各位の皆様のご健勝をご祈念申し上げましてごあいさつに代えさせていただきます。

ごあいさつ●代表理事 児玉 公正	1
【特集1】●文部科学大臣杯第58回全日本大学ソフトボール選手権大会	4-7
【特集2】●第14回WBSC U18 softball World Cup大会	8-11
【事業報告】●専務理事 木田 京子	12-13
【研究論文】●管理と自主性から問うチームマネジメント	
ー東北福祉大学女子ソフトボール部での活動を手がかりにー 舟山 健一	14-19
【研究紹介】●ソフトボール 金メダルへの取り組み	
山口 真澄,大田 穂,三上 弾,那須 大樹,柏野 牧夫	20-24
【報告資料】●全日本大学ソフトボール連盟 チーム登録数および登録選手数の推移について	
松井 陽香里,高橋 流星,相馬 満利	25-27
【卒業論文】●女子ソフトボールJDリーグにおける戦術分析 ～無死1塁のケースにおいて～	
芝 夢太郎, 松井 陽香里,高橋 流星,相馬 満利	28-31
【主催大会】●文部科学大臣杯第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会	
記録長 池田 雅彦	32-33
大会結果	34
大会記録	35-37
「2023 インカレを振り返って得たもの」	
環太平洋大学男子ソフトボール部 主将 高草 昂大	38-39
●文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会	
記録長 本部 享	40-41
大会結果	42
大会記録	43-45
「第58回全日本インカレを振り返って」	
中京大学女子ソフトボール部 主将 市川 愛渚	46-47
【共催大会】●第37回東日本大学（男子）ソフトボール選手権大会	
大会報告 高橋 伸次	48-49
大会結果	50
大会記録	51
●第37回東日本大学（女子）ソフトボール選手権大会	
大会報告 舟山 健一	52-53
大会結果	54
大会記録	55-56

●第54回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会	
大会報告 二瓶 雄樹	58-59
大会結果	60
大会記録	61-62
●第54回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会	
大会報告 二瓶 雄樹	63-64
大会結果	65
大会記録	66-67

【後援大会】

① 令和5年度全国国公立大学(男女)ソフトボールオープン大会	68-69
② 第15回HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会	70-71
③ 第22回大学男子ソフトボール東海オープン	72
④ 第24回「峠まち」Matsuida Cap 男子大学ソフトボール強化大会	73
⑤ 第20回北信越オープン(男子の部・女子の部)	74
⑥ 第54回関東大学ソフトボール選手権大会(男子の部・女子の部)	75-76
⑦ 第2回関東大学選抜女子リーグ戦	77-78

【全国大会】●第69回全日本総合男子選手権大会	79-81
●第75回全日本総合女子選手権大会	82-83

【連盟事業】●2023年度日本女子リーグ交流戦イベントについて	84-103
---------------------------------	--------

【協力報告】●第1回WBSC女子U15 softball World Cup2023大会を終えて	104-105
--	---------

【海外派遣】●マカッサルオープン報告	106-159
--------------------	---------

【学連情報】●インカレ成績一覧	160-163
-----------------	---------

●入賞校・入賞回数	164
●令和5年度男子加盟大学一覧	165
●令和5年度女子加盟大学一覧	166
●令和5年度(一社)全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	167
●2024年度全日本大会日程	168
●連盟機関誌「ウィンドミル」投稿規定	169
●一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟定款	170-181
●編集後記	182

文部科学大臣杯  
第58回全日本大学男子選手権大会

令和5年9月9日(土)~11日(月)  
富山県富山市  
岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場



2年連続4回目の優勝を飾った環太平洋大学(岡山)



環太平洋大学(岡山)  
歓喜のインカレ連覇!

今回で第58回を数える「全日本大学男子ソフトボール選手権大会」は、前年同様「インカレ男子の聖地」富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場を舞台に「熱き戦い」が繰り広げられた。

大会には前回優勝の環太平洋大学(岡山)、準優勝の京都産業大学(京都)をはじめ「全国各ブロックの予選を勝ち抜いた32チーム」が出場。大学男子ならではのパワー、スピード、技術を兼ね備えた好プレイ・好ゲームの数々が会場に訪れた観客を大いに魅了した。

初日・2日目と激戦を勝ち上がり、最終日の準決勝に駒を進めたのは環太平洋大学(岡山)、福岡大学(福岡)、高崎経済大学(群馬)、岐阜聖徳学園大学(岐阜)の4チーム。

準決勝は、まず環太平洋大学が福岡大学を延長8回タイブレークの末「劇的なサヨナラホームラン」で3-1と撃破。もう一方のゾーンでも高崎経済大学と岐阜聖徳学園大学が終盤まで手に汗握る攻防を繰り広げたが、「地力」で勝る岐阜聖徳学園大学が最終的に10-4と得点差を広げ、決勝進出。それぞれ優勝に王手をかけた。

環太平洋大学 vs 岐阜聖徳学園大学の決勝戦は、岐阜聖徳学園大学が4回表に4番・梅田瑠河のツーランホームランで2点を先制すれば、環太平洋大学もその裏3連打と犠牲フライで1点を返し、反撃。その後も両チーム得点を奪い合い、4-4の同点でいよいよ7回裏に突入することとなった。

迎えた土壇場の7回裏、環太平洋大学は5番・植田樹生、6番・大城周人、7番・大西智也が3連続四球を選び、無死満塁。絶好のサヨナラのチャンスを得ると、ここで8番・有村翼が「気持ち」でピッチャー強襲タイムリーを打ち返し、歓喜爆発！先手を奪われながらもしぶとく、粘り強く食らいつき……最後はしっかり「王者の底力」を発揮する「さすがの戦いぶり」で、見事2年連続4回目のインカレ優勝を飾った!!





「王座返り咲き」を狙うチームも各々に「熱き戦い」を繰り広げたが…



福岡大学(写真左)と高崎経済大学(写真右)はベスト4入りを果たすも、決勝進出ならず…

初の「決勝進出・準優勝」と躍進した  
岐阜聖徳学園大学。「勢い」は確か!



# 文部科学大臣杯 第58回全日本大学女子選手権大会

令和5年8月25日(金)～28日(月) ※荒天のため1日順延  
愛知県安城市  
デンソーブライトペガサスタジアム 他



10年ぶり2回目の優勝を飾った中京大学(愛知)



# 中京大学(愛知) 10年ぶりの頂点へ！

「全日本大学女子ソフトボール選手権大会」も男子と同じく58回目を迎え、前年に続いて愛知県安城市／デンソーブライトペガサスタジアムを主会場に開催された。

今回見事優勝に輝いたのは中京大学(愛知)。2020年のインカレ代替大会：全国大学選抜女子選手権大会で優勝を飾っているものの、公式の成績での「インカレ制覇」は「10年ぶり2回目」となった。

その中京大学は1回戦／日本女子体育大学(東京)戦を4-0、2回戦／同志社大学(京都)戦を6-2で快勝し、準々決勝／金沢学院大学(石川)戦にも「日をまたぐ死闘」(※雷鳴・降雨により、9回表二死ワンボール・ワンストライクでサスペンデットゲームに。翌日再開された)の末2-1(延長10回タイブレーク)で辛勝。前回王者を倒し「勢いを加速させた」中京大学は、続く準決勝も山梨学院大学(山梨)に5番・伊藤美紅の先制ソロホームラン、相手守備の乱れ等で2-1と競り勝ち、決勝へ進出。

決勝／園田学園女子大学(兵庫)との対戦は初回に1点を先取される形となりはしたが、3回表、一死から連続四球等で一・二塁とすると、2番・竹田愛佳のショートゴロが相手守備の乱れを誘い、この間に二塁走者が一気にホームイン。なお一死二・三塁のチャンスが続き、代打・日比野佑香がヒットエンドランを決め、逆転に成功。さらにワイルドピッチでもう1点追加し、逆に2点のリードを奪った。中京大学は2点リードのまま迎えた7回表にも安打、内野ゴロで一死二塁とし、二死後、2番・竹田愛佳の三遊間を破るタイムリーで決定的な4点目を追加。そのまま4-1で勝利を収め、「10年ぶり2回目」の「頂点」へ登り詰めた。





準々決勝／金沢学院大学 vs 中京大学は延長10回「日をまたぐ死闘」の末、中京大学に軍配！



王座奪還を誓った園田学園女子大学は、惜しくも準優勝

熱戦を勝ち上がり、ベスト4進出した山梨学院大学とIPU・環太平洋大学

# WBSC 第14回男子U18ワールドカップ



## 男子U18日本代表 大激戦の末の、栄冠!!



2023年11月11日(土)～19日(日)の9日間、メキシコ・エルモシージョにおいて「WBSC第14回男子U18ソフトボールワールドカップ」が開催され、「男子U18日本代表チーム」が世界の舞台にチャレンジ。日本男子ソフトボール・ジュニアカテゴリー “初の連覇” をめざし、激闘を繰り広げた。

大会には各大陸予選を通過した9チーム(北・中・南米:アルゼンチン①、カナダ④、アメリカ⑤、ベネズエラ⑧) ヨーロッパ:チェコ⑥ アジア:日本③、シンガポール⑫ オセアニア:オーストラリア②、ニュージーランド⑦)と開催国1チーム(メキシコ⑩)、ワイルドカード1チーム(コロンビア⑭)を加えた合計11チームが出場(※当初、ここにイスラエルが加わり合計12チームで覇が競われるはずであったが、現在イスラエル当局が代表チームの海外遠征を許可していないため、残念ながら『出場辞退』を余儀なくされることになった)。

○数字は大会開催時の世界ランキング  
出場11チームを世界ランキングに基づき2グループに振り分け、まず1回総当たりの「オープニングラウンド」を実施。各グループの上位3チームが「スーパーラウンド」へ進み、同じく1回総当たりで対戦し(※ただし、オープニングラウンドで同グループだったチーム同士の対戦は、オープニングラウンドの試合結果が持ち越される)、ラウンド順位を決定。最終日、スーパーラウンド3位・4位がブロンズメダルゲーム(3位決定戦)を、スーパーラウンド1位・2位がワールドチャンピオンシップファイナル/ゴールドメダルゲーム(優勝決定戦)を戦うというスケジュールで覇が競われた。

「大会 MVP」に選ばれた津田龍輝選手(日本体育大学)



完全アウエーの雰囲気の中、地元・メキシコと歴史に残る「熱戦・激闘」を繰り広げた!!

日本はアルゼンチン、アメリカ、ニュージーランド、ベネズエラといった “強豪揃い” のグループBに振り分けられ、戦前から “厳しい戦い” が予想されていたが……大事な初戦(ニュージーランド戦)に10-5でキッチリ勝利し、次戦のアルゼンチン戦も12-1(4回コールド)で大勝！ 第3戦/アメリカとの対戦には1-9と屈辱の5回コールド負けを喫してしまっただが……ここで下を向くことなく、むしろチーム全体のギアをもう一段上げる戦いぶりでオープニングラウンド最終戦/ベネズエラ戦に10-3(6回コールド)で快勝。オープニングラウンド・グループB2位(3勝1敗)でスーパーラウンドに駒を進めた。

アメリカ戦での “完敗” を “成長の糧” とし、そこからチームの結束をより強め、選手・スタッフ一丸となって「前進し続ける」日本は、勝負がかかったスーパーラウンドの3戦(カナダ戦、オーストラリア戦、メキシコ戦)を4-1、6-0、7-4と3連勝！ ラウンド成績4勝1敗で首位に立ち、ゴールドメダルゲーム進出が確定。ラウンド成績3勝2敗で2位となった開催国・メキシコと「決勝の舞台」で「再戦」することになった。

大会最終日のワールドチャンピオンシップファイナル/ゴールドメダルゲーム(優勝決定戦)は、地元・メキシコの熱狂的な観客が球場に詰めかけ「超満員」となる中、日本、メキシコの両チームが “これぞ、男子ソフトボール！” と感じさせる「一瞬たりとも目が離せない」まさに「エキサイティング」な大激戦を展開。4-4の同点で延長タイブレークへもつれ込む熱戦となり、迎えた延長8回裏、日本は送りバント、二者連続故意四球で一死満塁と絶好のサヨナラのチャンスを得ると、目の前の満塁策に奮い立った6番・梅田瑠河がバットを一閃！ 「世界一」を決める「劇的なサヨナラ満塁ホームラン」を叩き込み、歓喜爆発!! 今大会国を挙げて(本気で)優勝を狙いにきた “最大の難敵” メキシコを再び8-4と打ち破ってみせ、初の「連覇」達成。見事「2大会連続4回目の優勝」を成し遂げた。



## 男子U18日本代表チーム ヘッドコーチ／田中徹浩 (日本体育大学OB)

### 日本男子ソフトボールを “牽引する存在” に!!

日本から遠く離れたメキシコ・エルモシージョの地で「約3週間」にわたる長丁場、「チーム一丸」となって最後まで戦い抜けたことを何より誇りに思います。

特に印象に残っているのは、私のソフトボール人生でも体験したことがない「超完全アウェー」の中でのホスト国・メキシコとの2連戦。技術のみならず、精神的にも突き抜けて力を出し切れたことについては、私自身驚きでしたし……まるで心・技・体を超越したかのような「今回のチームの底力」を感じたことでした。

また、スタッフの方々も適材適所「それぞれの役割」を全うしていただき、チームとしての一体感・強靱な輪が生まれておりました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

最後になりますが、今大会“優勝・世界一”をつかみ取った選手の方々にはこのかけがえのない経験を活かして、次なるステージでも光輝き、日本男子ソフトボールを“牽引する存在”になってもらいたい！そして自らのプレイ・行動をもって、もっともっと男子ソフトボールを盛り上げていってほしい!!と心から期待しております。

**君たちなら、やれる(できる)はずです!**

**メキシコ・エルモシージョの地であれだけの観客を虜にしたのですから。**

## 男子U18日本代表 キャプテン／淀川瑛澄 (岐阜聖徳学園大学所属)

### U18日本代表としてプレイできたこと、 主将を務めさせてもらったことは“宝物”

成田空港に集合して結団式を行った際、選手全員の意気込みや強い意志を再確認することができ、私自身もワールドカップへの想いが人一倍強くなりました。

大会期間中はチームの「キャプテン」として、一つひとつ目の前の試合に勝つこと、自分の結果よりも「チームが勝つ！」ということを最優先して動きましたが、優勝決定戦ではスタメン落ち……の悔しい経験もしました。その優勝決定戦で代打ではありましたが「勝ち越しタイムリー」を打てたことはとても嬉しかったですし、今でも鮮明に覚えています。

今回のワールドカップは好打者・好投手が多く、海外特有のパワーはもちろん、打者の打ち方(特性)もさまざま。投手が投げ込んでくる球の威力、変化球のキレ(ボールの動き)も「日本との違い」があり、対応・適応に苦労しましたが、最後はみんなの気持ちが一つになって「超完全アウェー」の雰囲気にも負けることなく「優勝・世界一」をつかみ取ることができました。

U18日本代表としてプレイできたこと、また、チームの主将を務めさせてもらったことは私にとって最高の“宝物”となりました。この経験を活かしてこれからもソフトボールに真摯に向き合い、さらに上のレベル、次のステージをめざしていきたいと思えます。



淀川瑛澄 選手

## 男子U18日本代表 梅田瑠河

(岐阜聖徳学園大学所属)

### 応援して下さった方々、 そして仲間が打たせてくれた “サヨナラ満塁ホームラン”

優勝決定戦／開催国・メキシコとの2度目の対戦は、とても緊張していました。まず詰めかけた超満員の観客に驚き、あの完全アウェーの空気感……ソフトボール人生初の経験でしたが、同時にその舞台を「楽しめていた自分」がいたことも確かでした。

その決勝・メキシコ戦では延長8回まで3打席凡退と何もできず、大会を通じて19打数4安打と悩み苦しんでいましたが、最後一死満塁(※延長8回裏、送りバント、二者連続故意四球／メキシコが4番・松尾唯斗、5番・橋本怜との勝負を避けるで一死満塁となる)の絶好のサヨナラのチャンスで「世界一」を決める“サヨナラ満塁ホームラン”を放つことができました。本当に嬉しかったですし、このチーム(選手・スタッフ)で優勝することができて何よりでした。

最後の最後まで苦しい戦いの連続でしたが、チームの勝利に貢献できてよかった！大会を終えて心からそう思います。それができたのも、私たちを導き全力でサポートして下さったチームスタッフの方々、現地で、または日本から応援して下さった方々、そして「チームメイト」(仲間)のおかげです。ありがとうございました!!



梅田瑠河 選手

## 【事業報告】

### 令和5年度の事業報告と今後の活動方針

一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟  
専務理事 木田京子（園田学園女子大学）



令和5年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された3年間がようやく落ち着き、5月8日には5類感染症に移行されました。学校生活で多くの制限があった学生たちの活動も大きく変わりました。昨年までは黙食・孤食・集合しない・マスク着用等の生活も何か今となれば懐かしいような気がします。今年度の連盟の活動には、制限を取り払い、無事に終了できたことに安堵しております。学生たちの3年間で少しでも取り戻す年に出来ればと考え、運営して参りました。

共催事業の東日本インカレは、男子・群馬県館林市・邑楽郡、女子・山梨県北社市で開催され、日本体育大学のアベック優勝となりました。準優勝は国土舘大学（男子）・東京女子体育大学（女子）となりました。西日本インカレは、男子・熊本県八代市、女子・三重県熊野市で開催され、優勝はIPU環太平洋大学（男子）・園田学園女子大学（女子）、準優勝は京都産業大学（男子）・中京大学（女子）となりました。東西連盟の舟山理事長・二瓶理事長を中心に多くのご協力のもと、無事に開催・終了となりました。

本連盟事業である全日本大学選手権大会については、昨年までに引き続き、男子は富山県富山市、女子は愛知県安城市にお世話になりました。大会が盛会に全日程終了しました事に改めてご関係各位に御礼申し上げます。結果は、男子は優勝 IPU環太平洋大学・準優勝 岐阜聖徳学園大学、女子は優勝 中京大学・準優勝 園田学園女子大学でありました。いずれもコロナの制限撤廃も関係したのか、多くの来場者があり、コロナ前の大会と比較しても上回る状況であったと思います。また、連盟として新たに学生委員会の田島理事及び渡辺理事のご尽力もあり、普及活動ブースを設置しました。具体的にはASOボールやTボールで自由にボールやバットで遊ぶスペース、ソフトボール選手になれる顔はめパネル設置・過去のインカレ軌跡・参加チームの動画紹介等、「インカレを盛り上げよう」「ソフトボールの楽しさを紹介」に取り組んで頂きました。また、UNIVAS・富山県協会のご協力もあり全試合LIVE中継が今年も実現し、さらに準決勝・決勝は数台のカメラ導入し、アナウンサーや解説をつけての放送。女子についてはバックスクリーンにスロー再生も行い、「見る」視点でもわかりやすいソフトボールにしました。今後の課題は試合のスピードアップの取り組み・男子のスピードに適応する試合環境整備・熱中症対策の為に期間や時期の検討等を早急に行う必要があると考えております。

強化事業は今年度、2件実施することができました。7月に日本女子リーグ選抜チームとの強化試合、10月にはインドネシアに男女の大学選抜チームの派遣を行いました。いずれも強化委員会の佐藤理事を中心に選手選考方法を検討頂きました。日本リーグとの試合を行うチーム編成は各地区連盟からの推薦選手で構成し、大学選抜チームとして試合を行いました。結果、7対0での勝利となり大学生の実力を示す機会となりました。また、参加した学生は、多くの観客での試合する経験となり、良い経験となったことと思われまます。

さらに、インドネシア マカッサルオープンに参加のチームは、高額な参加費も発生することから公募となりましたが、男子は40名超の希望者があり、海外遠征への関心の高さを感じました。女子についても関係各位のご協力の元、チーム編成・派遣に至りました。現地にも同行頂いた、藤井まり子顧問のご協力もあり、無事に遠征を終えることとなりました。学生たちの満足度の高い遠征となりました。今後についても積極的な国際交流や派遣などを行っていくことで、強化や指導者育成にも繋がることと思われまます。

法人化2年目、まだまだ至らない点が多くありますが、令和6年はさらに組織編成を行い、様々な課題に取り組むこと、新たな事業にも積極的に検討したいと考えます。具体的には、規定等のルール整備・地区連盟のあり方の検討・インカレの今後への検討・連盟登録者を取り戻す対策等を早急に行いたい。さらに、新たなご協賛会社の開拓・別の連盟主催大会設置の検討等、学生のソフトボール環境を整え、様々な経験ができる教育機会を提

供できるように考えて参ります。さらには女子になりますが、2028年のオリンピックチームには、大学出身者・現役大学生の選出されるよう、継続した強化や大学ソフトボールの魅力を発信する組織を目指したいと考えます。

今年度、本連盟に新たにご協賛いただきましたミズノ株式会社・株式会社JTB、またインカレ協賛頂いております名鉄観光サービス株式会社・株式会社日本旅行、この他広告等にご協力頂きました多くの関係各位に感謝申し上げます。

最後になりましたが、今年度連盟に対してお支援頂きました（公財）日本ソフトボール協会・富山県ソフトボール協会・安城市・安城市ソフトボール協会をはじめ、この他にも多くのご尽力を頂戴しました。引き続き、大学ソフトボール連盟にご協力頂ければ幸いです。

## 【研究論文】

### 管理と自主性から問うチームマネジメント —東北福祉大学女子ソフトボール部での活動を手がかりに—

舟山 健一（東北福祉大学）

#### 1. 問題関心と目的

本稿は、学問領域で生み出された科学知と、実践現場で生み出された生活知を同等に扱う「超学際」<sup>注1)</sup>の立場からチームマネジメントについて考察する。この立場を本稿が採用する背景には、指導現場の問題解決を試みるうえで、研究論文などで展開される研究成果と同様に、現場に蓄積されてきた知識も役立ったという著者自身の指導現場での実感があるからである。

直井ら（2018）は、高校球児が求める指導者像の視点からチームマネジメントを考察し、自身の研究成果を「指導者側の考えのみによって進められがちな指導に新たな視点を提供できる」と述べている。また、元ラグビー日本代表メンタルコーチの荒木は、著書「リーダーシップを鍛える」（2019）において、「自分たちが決定していく経験が増えることは、内発的なモチベーションを保つ大きな条件」と述べている。これら二つの主張に共通するのは、選手の「自主性」に価値をおいた点であり、学問領域において同じような主張が頻繁にみられる（石田・小川、2011；倉藤ほか、2011；福富、2015；鈴木ほか、2018）。

以上のように、近年の学問領域においては、自主性を促すチームマネジメントが正しいと主張される傾向が強い。このように自主性に価値を置くチームマネジメントは、指導者の世界では「今のやり方」と呼ばれ、これとは逆に管理に価値を置くチームマネジメントは「昔のやりかた」と呼ばれている、その会話が成立している前提には「昔のやり方」を「時代遅れで悪い指導法」とし、「今のやり方」を「現代に適合する正しい指導法」とする価値観が存在していることに気づく<sup>注2)</sup>。つまり、管理に価値を置くチームマネジメントは時代遅れで悪く、自主性に価値を置くチームマネジメントは今のやり方で正しいという「暗黙の了解（あたりまえ）」が、私たち指導者の間には存在しているといえよう。

ところがその一方で、管理の厳しい「昔のやり方」でも根強く人気のあるチームが存在することや、「自主性」を促す「今のやり方」でも上手くいっていないチームが存在することを、私たち指導者は確かな事実として知っている。そこで本稿では、あえて原点に立ち戻り、「チームマネジメントにおいて大切なことは管理なのか自主性なのか」という素朴でかつ極めて重要な問いから、私のこれまでの指導経験を再構成することを目的としたい。すなわち、「あたりまえ」と信じ込んでいる理念を疑い、目の前にある事実から、チームマネジメントの議論を捉え直す試みとして本稿がある。

#### 2. 管理と自主性を実践現場から問う

##### 2-1 「管理」する指導

私は、2002年4月に、東北福祉大学（以後、福祉大）に奉職し、同時に女子ソフトボール部の監督に就任した。私が就任する以前の福祉大ソフトボール部は大学の体育会に所属していなかった。私が監督に就任した当初は、競技部としての歴史がないチームに対して、グラウンド内外におけるルールを徹底させる等の、「管理」する指導を行うことで、「まとまりのあるチーム」ができた。しかし、私があまりにも「管理」を強めたことで、選手が練習を楽しめない、退部希望者が出る等の息苦しいチームになってしまった。

私はその改善案として「学生コーチ制度」を導入した。この制度の特徴は、学生コーチに監督と同等の権限を与え、学生コーチと監督が密に連携を取り、監督の「管理」に重きを置くチームから、学生コーチが主体となった「自主性」を重んじたチーム作りを目指すところにある。この学生コーチ制度は2002年から2015年度まで続くことになる。

## 2-2 「自主性」を促した「学生コーチ制度」

さて、学生コーチには当時1年生の関口（仮名）に就任してもらうことになった。関口とは基本的な流れとして、彼女を通して将来のチームを見据えた私の意向を選手に伝えることによって、選手の「自主性」が強まるようにチームを方向づけた。具体的には、これまで「学内で最も模範となる運動部になる」ために、私が私生活にまで細かく口を出し「管理」していたが、これについては関口と密に連携をはかり、その時々状況に応じて厳しく「管理」する方向に進めるか、それとも「自主性」に任せるかを判断し、方向性を探ることにした。そして、生活指導の流れが安定してからは、練習全般においても、これまで私が一元「管理」していたものを、関口を中心に選手の意向を取り入れながら、練習メニューの立案、トレーニング管理に至るまでの多くを選手と共有することを意識した。

私が就任して4年目、学生コーチ制度を初めて導入した年の1年生が4年になった年、福祉大ソフトボール部はインカレ（2005年、群馬県安中市で開催）で初優勝を遂げた。この年は選手が36名と部が大きくなっていた為、学生コーチも4年生になった関口の他、4年生一人・2年生一人に就任してもらっていた。彼女たちが生活面から練習運営に及ぶ部活動全般の指導を担うことによって、最後のインカレでは、前日のホテルでの過ごし方から天候に合わせたアップの設定、ゲームの戦術の確認に至るまで、私の意図の通り選手が自主的に動く理想的なチームとなっていた。

## 2-3 「管理」する指導から学んだこと

私に限らず指導者の方であれば、誰もが監督就任直後の頃の私と似た経験を一度はしているのではないだろうか。また同時に、このような経験は、「若かりし日の苦い思い出」として片付けられてしまうのが普通である。しかし、チームマネジメントにおける「管理」と「自主性」という視点に基づいて私の経験を振り返ってみることで、以下のような意味を見出すことができよう。

私が監督に就任した当初は、競技部としての歴史がないチームに対して強く「管理」する指導を行うことで、「まとまりのあるチーム」ができた。しかし、私があまりにも「管理」を強めたことで、結果的に息苦しいチームになってしまった。そこで「管理」をより弱くする一方、「自主性」をより強く方向づけるために「学生コーチ制度」を導入した。最終的に、「学生コーチ制度」を起点に「管理」と「自主性」のバランスをうまく調節できたとき、私も選手も「いい状態だ」と実感できるチームができた。つまり、福祉大の監督に就任してからの私の4年間とは、強過ぎる傾向にあった「管理」に価値を置く「昔のやり方」をより弱くすると同時に、「自主性」に価値を置く「今のやり方」をより強くする方へと方向づけるために、模索する日々であったといえよう。「学生コーチ制度」は2002年から10年間、チームに全日本大学選手権優勝3回、入賞2回という多大な功績をもたらした。

## 2-4 「自主性」を促す指導

2011年の東日本大震災の影響に伴う活動環境の制限によって福祉大ソフトボール部は部員数が減り、一時は廃部の危機を迎えた。震災後数年間はピッチャーやマネージャーが野手を兼任する等、試合をするのがやっとという状況が続いた。しかし、今から数年前に至って状況が好転する。震災復興が進んだことに加え、福祉大の入試制度が変わりスポーツ経験者が入学しやすくなり、さらには大学のキャンパス前に専用グラウンドが整備された。これらの好条件により部員が増え始め、本格的にチームマネジメントが必要とされるようになってきた。

新たなチームのスタートを機に、これまでの反省をふまえ、私は可能な限り「管理」による指導を弱め、「自主性」を強める指導を始めた。まずは「管理」を弱くするために、可能な限りルールを無くした。具体的には、これまでショートカットに決められていた髪の長さは自由に、また大学内での服装も自由にした。男女交際についてもこれまで明確な決まりはなかったが、「男女交際は自由」と明言し、責任を個人に委ねた。また、練習においても練習時間をこれまでの3分の1程度に減らし、技術指導においても基本的には個人のスタイルを最大限尊重した。考えられる全ての面で「自主性」の色を強めたのである。

## 2-5 「自主性」を促す指導の失敗

「自主性」の色を強めた指導をしてから半年後、練習で私に対し挨拶をしない、反抗的な態度をとる等の利己的な選手が増えていることに気がついた。利己的な選手が増えたのは、知らず知らずのうちに私が以前のような「管理」を強めてしまったことが原因だと思い、より「自主性」が強まる活動ができるように、最新のコーチングの手順を改めて確認し、実施した。まずは手順通り、私が選手に対してチームの強化スケジュールを提示した後、選手たちに「チームビジョン」を作成させることで、より「自主的」な運営ができるように方向づけたのである。しかし、さらに状況は悪化し、私が気付いた部分以外にも、実際には、寮のルールを守らない、目上の人に敬語を使えない（使わない）等、様々な問題があることが発覚した。「自主性」を強め過ぎて教育的な指導がなかったため「内面的に未成熟」な選手が多くなっていたのである。

## 2-6 「管理」を促す「ユニット制」の導入

私は「自主性」が色濃く出すぎたチームに対し、チームの「管理」強化を目的として「ユニット制」（二瓶、2016）を導入した。ユニット制は「チームの中に小さいチームを作り、それぞれのチームがチームビジョンや課題解決に沿った目的を達成するために、チーム内で積極的に活動する」制度のことをいう。ユニット制を導入した当時の課題は戦力の強化よりも、①下級生への「教育」、②タテヨコの「人間関係」、③寮や学校での「生活」にあったため、「安心してソフトボールに取り組めるチームにする」ことを大きな目的にマネジメントを行った。具体的には、ユニットを大きく「強化ユニット」と「生活ユニット」に分け、多くの部員に両ユニットを兼務させた。「強化ユニット」には、①メディカル・トレーナー、②フィジカル・トレーナー、③データ・マネジメント、「生活ユニット」には、①チームマネジメント、②スケジュール、③プロモーション、④クリーニング、⑤グラウンドコンディション、⑥レクリエーション、以上6つのユニットを設置した。各ユニットはそれぞれ4～6人程度で構成されている。私がそれぞれのユニットをマネジメントする上で特に意識したのが、選手たちがチームマネジメントに興味をもつよう働きかけることで、自由を与えすぎて規律がなくなったチームを「管理」する方へ方向づけることにあった。

ユニット制が軌道に乗ると、チームに「規律」が形成され、人間関係も徐々に改善されていった。「安心してソフトボールが出来るチーム」となったのである。私と選手の双方が「いいチームになった」<sup>注3)</sup>と実感するまで、約7か月の時間を要した。この年は、決して力のあるチームではなかったが、震災以降9年ぶりにインカレで3位に入賞している。

## 2-7 「自主性」を促す指導から学んだこと

私は、選手たちに自由を与えすぎたことによる過度の「自主性」が原因のチームの乱れ、そして「ユニット制」に基づくチーム「管理」の成功という一連の経験を通して、以下の事を学んだ。すなわち、「管理」の行き届かない中で「自主性」を強め過ぎることは、いい結果を生まないということである。言い換えれば、「今のやり方」である「自主性」を方向づけていくためには、同時に「昔のやり方」である「管理」をないがしろにすることはできないということである。

## 3、事例の小括

事例からわかったことは、「管理」も「自主性」もどちらか一方に価値が偏りすぎたときに失敗する一方で、両者のバランスを時代に合わせて上手く調節できたときに、チーム作りに成功したと感じられていた事実である。この試みによって明らかとなったことは、これまでチームマネジメントが照射できなかった、指導現場から生み出される知識に光を当てる視点の発見であった。私たちは「昔のやり方」である「管理」は悪く、「今のやり方」である「自主性」は正しいと考えがちである。しかし、本稿の試みから導き出したのは、そのチームを取り巻く状況や時代背景に応じて「管理」か「自主性」は濃淡を変えつつも常に同時に登場し続けているという事実と、チームマネジメントにおける『「管理」と『自主性』は一对である』という視点であった。つまり、両者の関係は

常に一対で、今も昔も同じ位相の同一線上を揺らいていると理解できよう。「どちらも大切」なのである。

#### 4. おわりに

これまでの私の経験を素材に、チームマネジメントにおいて『管理』と『自主性』は一対であり、このバランスが時代に合わせて調節できたとき、指導者と選手の双方が「いいチームになった」と実感し、力が発揮されるということを導き出した。これは、あまりにも当たり前すぎる帰結だ。しかしながら、このごろのチームマネジメントをめぐる議論は、選手の「自主性」に価値を置く「今のやり方」と、「管理」に価値を置く「昔のやり方」とを分け、その上で「今のやり方」のみが「正しい」とされる風潮がある（福富，2015；水鳥，2017；鯉川，2018；鈴木ほか，2018；直井ほか，2018）。

「昔のやり方」から学ぶと言われてもどこか抵抗があるのはなぜか。それは、「管理」に価値を置く「昔のやり方」に“暴力性”を感じてしまうからではないか。現在も、体罰に関する報告が後を絶たない（スポーツ庁，2017）。選手の「自主性」に価値を置く「今のやり方」の重要性が昨今叫ばれているのも、「体罰からの解放」という意味合いを含んでいるからだともいえよう。いかなる状況であっても、また指導者と選手の間いかに信頼関係があっても、体罰は認められるものではない。体罰を認めるということは、「暴力社会を認める」ということに他ならないからである。スポーツどころか、外を歩くことすらできない社会を作り上げてしまうことだけは避けなければならない。

チームマネジメントにおける『管理』と『自主性』は一対である」という事実は、両者が「どちらも大切」であるということを出し出す。そして、それが理解された時「古いものは悪く、新しいものは正しい」という「暗黙の了解（あたりまえ）」から私たちは解放され、チームマネジメントにおいて、これまで現場が生み出してきた「知識」<sup>注4)</sup>に光を当てることを可能とする。「古いものは悪く、新しいものは正しい」から「どちらも大切」へと視座を転換した先には、「古い」とされるかつての指導者も「敬い大切にすべき存在である」という人間観・世界観も導き出せるだろう<sup>注5)</sup>。

本稿は、かつての指導法（≡指導者）を「古い」と一括りにして否定し学ぶことが出来なくなっている現状に、少しは風穴を開けることが出来たのではないかと考えている<sup>注6)</sup>。現在流行している指導法も、私も含める現在の指導者も、いずれ「古く」なる。だからこそ、「古い」過去と「新しい」現在の「どちらも大切」であるという視点は、これまで創意工夫し続けてきた私たちの知識を次世代へと継承していくことに結び付くと思うのである。少々大げさではあるが、本稿がその架け橋となれば幸いである。

#### 注

注1) 家中（2019）は、「知識生産や技術開発は大学など研究機関の専門研究者の役割であって、地域社会はその利用者として受身的に位置づけられている」現状を述べ、「従来唱えられてきた『学際（interdisciplinary）』が学問領域間の連携・協働にとどまっていたのに対して、学際を超えて地域のさまざまな主体との連携・協働に及ぶこと」の重要性について触れている。そして「超学際」によってはじめて、地域課題の解決に迫ることができると述べている。本稿は、この「超学際」の立場を、ソフトボールの指導現場で模索する当事者の視点からのアプローチとして応用的に採用し、チームマネジメントにおける指導者の切実な悩みと結びついた問題解決の知識に照射することを試みた。超学際の独創性は、知識生産は学際領域だけではないという点。つまり、現場で生まれてくる知識も、学問と同等に、私たちが生きていく上では有益な知識であると考えている点にある。

注2) 私たちが囚われている価値観の本質には、「古いもの」は「悪い」、「新しいもの」は「正しい」というマルクス主義にも通ずる「発展段階論」がある。本稿においては、経験に基づいた規律や「管理」を重視する「昔のやり方」を「悪い」指導、科学的知見に基づいた主体性や「自主性」を重視する「今のやり方」を「正しい」指導という見方（偏見）。

注3)「いいチームになった」と実感し、力が発揮されること(チーム)について、フーコーの「権力の内面化」を援用し説明したい。フーコーは著書「監獄の誕生」の中で、パノプティコン(一望監視施設)と呼ばれる監獄を例に「権力の内面化」を説明する。それまでの監獄は、看守が一つ一つの房を見て回らなければならなかったが、パノプティコンは、高い塔を中心に房が環状に配置され、塔の上にある監視室から看守が全ての房を監視することができる。しかも、房にいる囚人の側からは監視室の内部は見るできない構造で、囚人は看守からいつ見られているのかが分からない。その結果、監視される側の囚人は、実際に看守から監視されているか否かに関わらず、常に監視されているような気持ちになり、それが身体化(無意識化)することで、たとえ看守がいなくても監視されているのと同じような行動を自然にとりはじめる。ここでは、権力行使の主体は「看守による監視や監視の目」であると同時に、それを内面化した囚人(被監視者)自身である。このように監視という権力が人々に内面化した状態を「権力の内面化」という。本論に例えるならば次のように理解できる。チームマネジメントが上手くいっているチーム、つまり選手が「自主性」を発揮し、のびのびと活動するチームを想像してほしい。「今のやり方」という理想的なチームである。このチームの選手は、チームへの帰属意識へも高く、指導者との信頼関係も深く築かれ、積極的に指導者の話を聞こうとするであろう。また、指導者の監視の有無に関わらず手を抜かず練習し、私生活においても指導者の信頼を裏切ることなくアスリートに相応しい生活を送っているだろう。まさに、限りなく「自主性」が発揮された状態である。ところが「権力の内面化」から考えれば、このような「自主性」が発揮されればされる状態ほど、より「管理」が浸透した状態であると理解されるのである。なぜなら、このときの「管理」の主体は自身が敬う指導者(権力者)の思考が内面化された「自分自身」だからである。選手が「管理」されていると全く感じていない状態、つまり限りなく「自主性」が発揮されているチームは、限りなく「管理」されているチームとも言えよう。上述したチームや、本稿で述べた、「いいチームになった」と実感した状態とは、フーコーのいう「権力の内面化」がされた状態を指すのである。

注4) ベネディクト・アンダーソンは、著書「ヤシガラ腕の外へ」で、凝り固まった価値観(既成概念)に囚われている人々を、「ヤシガラ腕の中のカエル」と表現している。インドネシアやシヤムには「ヤシガラ腕の下のカエル」という諺があるという。半分に割ったヤシガラをお椀として使うが、不安定な椀に間違っただけで飛び込んだカエルは中に閉じこめられ、抜け出すことが出来ず、カエルの知る世界は狭い椀の中だけになってしまう。これと同じように、現実社会においては、ナショナリズムやグローバル化が私たちの視野を狭め、価値観を単純化させる傾向にある。アンダーソンは、われわれ現代人が囚われているナショナリズムやグローバル化の「椀」から解放されることで、新しい知識や想像が開かれる可能性の大切さを説いている。本稿では、「古いもの」=「昔のやり方」・「管理」は「悪い」指導法、「新しいもの」=「今のやり方」・「自主性」は「正しい」指導法であるという既成観念をアンダーソンのいう「ヤシガラ腕」に擬え、指導者や選手がそこから解放されることによって、新たなチームマネジメントの展望が拓けるのではないかと考えている。

注5) クロード・レヴィ=ストロースは、構造主義が広まるきっかけとなった著書「野生の思考」において、西洋人から差別的な扱いをされていた、原始的な生活を送っている未開社会の人々も、科学的な思考方法と対等、場合によってはより優れた知恵や文化を持っていることを述べている。ここでレヴィ=ストロースは、「新しく発展」した社会を「優れた」社会、発展の概念を持たず「古くから同じ生活」を淡々と続ける未開社会を「劣る」社会(発展段階論)と見なす西洋の認識に対し、どちらも同じ文化的な生活をしており、両者を「序列」ではなく「並列」とみるべきである(文化相対主義)と主張している。本稿では、チームマネジメントにおける「『管理』と『自主性』は一对である」という新たな視点を導き出す過程と結果から、「新しいもの」=「今のやり方」・「自主性」は「正しい」こと、「古いもの」=「昔のやり方」・「管理」は「悪い」ことという一般認識に対し、レヴィ=ストロースの主張に倣って両者を「並列」、本稿でいうところの「どちらも大切」とみることで、チームマネジメントにおける新たな視点と創造が拓かれる。具体的には、チームマネジメントにおける

「管理」の重要性はもちろん、「古い」とされるかつての指導者も「敬い大切にすべき存在である」ということが容易に導き出せる点である。

注6) 念のため述べておくが、本稿の主張は「古いもの」や「昔のやり方」のみが「正しい」という主張ではない。これでは、「新しいもの」や「今のやり方」のみが「正しい」という主張と、一方に価値が偏っている点で同じだからである。具体的には、一般的に、チームマネジメントにおいて「既成概念を覆す」という表現は、「昔のやり方」である「管理する悪い指導」から「今のやり方」である「自主性を促す正しい指導」への移行を示す場合に使われる。しかし、この主張は「今のやり方」を否定し、頑なに「昔のやり方」にこだわる主張と、「一方を否定し、もう一方を肯定する」という点においては同じ主張である。つまり、これはチームマネジメントにおいて「管理」と「自主性」が明確に分けられた議論なのである。本稿の主張は、「管理」と「自主性」はそれぞれ独立しては存在せず、つまり、両者は「一対」であり「どちらも大切」であるという視点から拓かれる新たな可能性である

#### 文献

- 荒木香織 (2019) : リーダーシップを鍛えるラグビー日本代表「躍進」の原動力. 講談社.
- ベネディクト・アンダーソン : 加藤剛訳 (2009) ヤシガラ椀の外へ. NTT 出版.
- クロード・レヴィ=ストロース : 大橋保夫訳 (1976) 野生の思考 (日本語). みすず書房.
- 福富信也 (2015) 1 人 1 人の意見が尊重され自主性を伸ばすチームをつくる. コーチングクリニック 4 月号. ベースボール・マガジン社, 29 (4) : 10-13
- 石田靖彦・小川久之 (2011) スポーツ系部活動における目標志向性が部活動での取り組みに及ぼす影響 — 個人目標, 集団目標の観点から —. 愛知教育大学研究本稿, 教育科学編, 60 : 111-117.
- 倉藤利早・田島誠・米谷正造・松枝秀二 (2011) 選手の自主性と指導者のリーダーシップに対する認識の関係. 川崎医療福祉学会誌, 21 (1) : 95-101.
- ミシェル・フーコー : 田村俣訳 (1977) 監獄の誕生 監視と処罰. 新潮社.
- 直井勇人・渡邊裕也・伊藤香菜子・加瀬弘樹・伊藤雅充 (2018) 高校球児が求める指導者像. 野球科学研究, 2:30-45.
- 二瓶雄樹 (2015) チームマネジメント. ソフトボールマガジン 7 月号. ベースボール・マガジン社, 39 (11) : 64-65.
- 鈴木貴士・佐藤進・川尻達也・村田俊也・畝本紗斗子 (2018) 金沢工業大学の課外活動における現状と課題について — 体育系課外活動団体を対象として —. 工学教育研究;KIT progress 26 : 31-39.
- 家中茂 (2019) 地域創造の視座. 家中茂・藤井正・小野達也・山下博樹編, 地域政策入門. ミネルヴァ書房, 1-4.

※本稿は「第 30 回日本スポーツ社会学会」の発表資料と、「日本ソフトボール研究会誌 1 巻」に投稿した論文をまとめ改稿したものである。

## 【研究紹介】

### ソフトボール 金メダルへの取り組み

山口真澄<sup>1)</sup> 大田 穂<sup>2)</sup> 三上 弾<sup>3)</sup> 那須大樹<sup>4)</sup> 柏野牧夫<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> NTT コミュニケーション科学基礎研究所・NTT 物性科学基礎研究所

<sup>2)</sup> 順天堂大学スポーツ健康科学部・NTT コミュニケーション科学基礎研究所

<sup>3)</sup> 工学院大学情報学部・NTT コミュニケーション科学基礎研究所

<sup>4)</sup> NTT コミュニケーション科学基礎研究所

#### まえがき

NTT のスポーツ脳科学プロジェクトが 2016 年にソフトボールに研究対象を広げることになり、近所にある県立厚木商業高校ソフトボール部監督の宗方貞徳先生（当時）にご連絡したところ、高校生だけではもったいないので、ぜひ日本トップ代表にも話をしてほしいと、女子日本代表のチームリーダーに内定していた矢端信介氏をご紹介いただき、思いがけず、日本代表との取り組みがスタートしました。また、厚木で開催されていた高校女子ソフトボールのウィンターフェスティバルを視察に来ていた当時日立サンディーバのアナリスト兼スカウトで、後に情報担当として日本代表チームに加わる大田穂と引き合わせていただいて、NTT と日本代表チームとの連携した取り組みの足掛かりができました。NTT と日本代表チームとの取り組みの中から、東京 2020 前の投手の球質分析と打撃練習についてご紹介します。

本原稿は（公社）応用物理学会機関紙「応用物理」12月号に掲載された ほっと一息「ソフトボール 金メダルへの取り組み」を一部改編して転載しています。



図 1. 女子ソフトボール日本代表チームが NTT コミュニケーション科学基礎研究所に来訪

## スポーツ脳科学

日本電信電話株式会社 (NTT) の研究所の一つであるコミュニケーション科学基礎研究所の中にスポーツ脳科学プロジェクト (現: 柏野多様脳特別研究室) があります。スポーツ競技中に発揮される人間の特殊な能力、例えば野球の投手が投げてから打者が打つまでの 0.4 秒足らずに起こっていること、即ち、意識して体を動かすよりも短時間だが、脊髄反射のような単純なものではない「潜在脳機能」の解明を一つの研究テーマにしています。そして、ここでは、学術的な追求だけでなく、その知見を実際のアスリートのパフォーマンス向上につなげることまでを目指しています。

その中心的な学術分野である認知脳科学そのものは奥深いものであるにもかかわらず、専門やバックグラウンドを超えて会話ができるのはスポーツの良いところです。著者の一人である山口も、元々は物理学が専門ですが、このプロジェクトを通して脳科学はもとより、スポーツ関係などいろいろな専門の方と議論することができ、様々な気づきや発見を得ています。

## スポーツ科学とスポーツ脳科学の違い

スポーツの科学的取り組みというと、選手の動きや戦術の分析がイメージされがちです。野球のセイバーメトリクスに象徴されるようなスポーツアナリティクスや、フォームや体の使い方を分析するバイオメカニクスをはじめ、栄養学やけが予防、あるいはスポーツ心理学などもあります。ソフトボールの日本代表でも、アナリストやスポーツ心理学、栄養士、トレーナー、スポーツ医学などの専門家がサポートしていました。

ただ、我々の研究の主眼はそこではなく、選手の動きを司る脳の働きを解明することです。体を鍛えて強くバットを振ることができても、投手が投げてきたボールをとらえることができなければ打てません。スポーツ脳科学では、従来のスポーツ科学がカバーできていなかった、いわゆるボールをとらえる能力に着目しています。

日本代表チームとの取り組みの中では、相手選手の分析に使う試合での映像撮影や、数秒ずらした遅延映像を使った選手自身によるフォームのチェック、相手投手を想定した VR シミュレータなど、スポーツ脳科学に関することも直接関係ないことも、いろいろ挑戦しました。詳しくは NTT 技術ジャーナルの東京オリンピック特集号で紹介しています。ここでは、東京オリンピックのアメリカ対策として活用された投手データ分析とピッチングマシンについてご紹介したいと思います。

[女子ソフトボール × スポーツ脳科学 | NTT 技術ジャーナル](https://journal.ntt.co.jp/article/16471) : <https://journal.ntt.co.jp/article/16471>

## 3 人のエースの特徴

女子ソフトボールの投球プレートからホームベースまでの距離は 13.11m と野球の 18.44m よりも約 5m も短い。えに、世界のトップ投手はソフトボール独特のウインドミル投法で 120km/h 近い速球を投げてきます。投手のリリースからのタイミングで換算すると野球の 170km/h に近い速球に対応します。しかし、打つのが難しいのは、実はこれが本質ではありません。単に速いだけなら、タイミングさえ合わせれば素人でも打つことが出来ます。実際に投手が投げってくるボールは回転しており、その回転数と回転軸の向きによって、軌道が大きく変化し、さらに、コースと緩急が加わるので打てないのです。

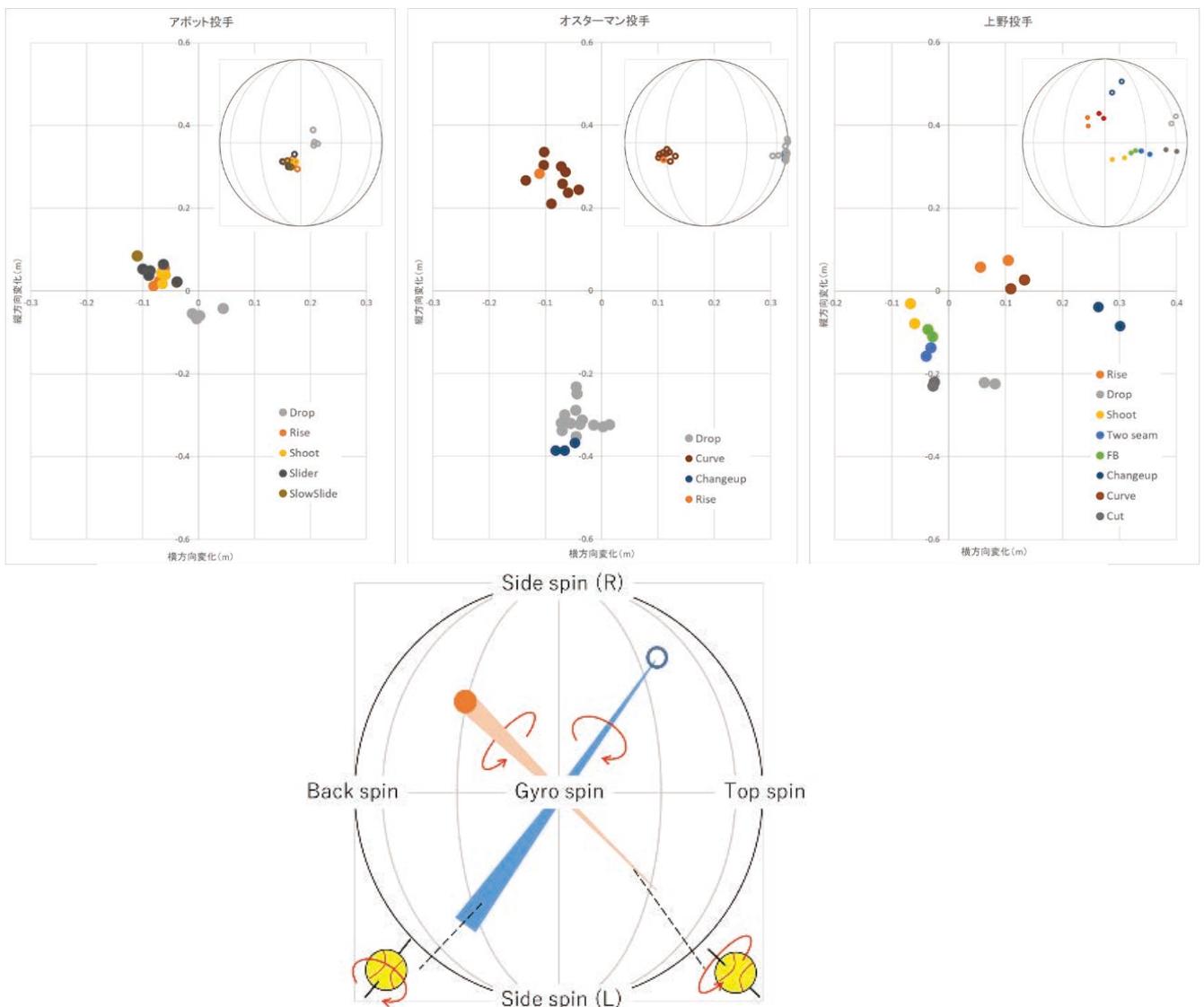
図 2 に東京オリンピックアメリカ代表のモニカ・アボット投手とキャット・オスターマン投手、及び日本のエース上野由岐子投手の回転軸の向きと、その回転及び球速から推定される変化量を示しました。投手がボールをリリースしてからホームベースに到達するまでに、回転によって縦横にどれくらい軌道が変化するかを示しています。挿入図はボールの回転軸の向きを球面上の点で表しています。手前側をボールの進行方向 (捕手から見た方向) として、球の中心から表面の点をつなぐベクトルが回転軸です。回転軸が縦に立っていれば (点が円の上下の端に近い場合には) 横への変化が、横に寝ていれば (点が左右の端に近い場合は) 縦の変化が大きくなります。中央はジャイロ回転を表し、軌道の変化に対する回転の寄与は小さくなります。ここでは回転数は示していませんが球種によって 800-2000 回転/分程度の値です。最近のメジャーリーグベースボール (MLB) ではこのようなデータが公開されていますが、ソフトボールにはそのようなものはないので、国際試合等でバックネ

ット裏から撮影したハイスピードカメラ映像をもとに、コンピュータビジョンを専門とする三上弾（現：工学院大学准教授）が作ったプログラムを用いて回転数と回転軸を抽出し、スピードガンの結果と合わせて変化量を独自に解析しました。

アボット投手は速球派で、長身から 118km/h の速球を投げ込んできます。ただし、ボールの回転軸はジャイロ回転に近く、軌道の変化がほとんどないのが判ります。一方でオスターマン投手は球速こそ 100km/h 前後ですが、回転軸が左右に分かれているため上下ともに回転による変化が大きく、同じ投げ出し角度で投げられたボールがホームベース上では上下に 60cm も差があることを示しています。

アメリカは、この全くタイプの異なる 2 人の投手を継投してくるので、しっかり対策しておかないと対応できません。（他にもアメリカにはハイレベルな投手がたくさんいて、本番に誰が選ばれてくるかという情報戦もあったのですが、話が発散するのでここでは省略します。）

ちなみに、日本の上野投手は一般には速球投手のイメージが強いですが、本当の凄みはそこではありません。図 2 に示した回転軸の多様さと正確さが示すように、120km/h 近い速球を持ちながら、非常に多種の変化を正確に投げ分けることが出来る投手です。



球の中心から球面上の点を結んだ方向がボールの回転軸（右手系）を表す。捕手からの目線でSolid circle (●) は手前側の半球面上、Empty circle (○) は奥側の半球上の点を示す。

図 2. 高速カメラ映像から解析した回転軸の向きと、それから推定される変化量

### さて、どうしたら打てるのか

最も大切なことは、このボールをどうしたら打てるようになるかということです。スポーツ脳科学プロジェクトでは“脳を鍛える”ことを謳っていますが、それも研究であって、実際にどうすればできるのかという方法論が確立されているわけではありません。ただ、今回のオリンピックに関しては「アメリカの投手を打つ」という非常に条件が限定された課題でした。

この場合には、単純には同じ事を経験して慣れる（学習しておく）ことが対策になります。そこで活躍したのが図3のピッチングマシンです。このマシンでは、実際のアボット投手やオスターマン投手がその球種を投げた時のフォームの映像に合わせて、その球種に近い軌道のボールが射出されます。バッティングセンターと似ていますが、球種ごとのフォームとその投手固有の軌道をセットにして再現しているところが、単純なピッチングマシンとは異なるところです。また、投手のフォームの癖（見ればわかる癖も、見てもわからない癖も含めて）をビデオやVRなどを使って単に見るだけでなく、実際に出てくる球を打つという動きと連結した経験として学習することが出来ます。我々にとってみれば、投手の軌道とフォームの癖を学習する装置ですが、選手にとってみれば慣れ親しんだマシン打ち練習が進化したものなので、難しいことは抜きにして練習として受け入れやすかったと思います。「アボットがバッティングピッチャーに来てくれた」とか、「アボットを打ち崩してきた」とか（アボットさんごめんなさい）、本番前の約2か月間、選手は楽しんでこの練習に取り組んでくださいました。



図3. 相手投手の癖と軌道を学習するためのピッチングマシンと練習の様子

## ソフトボール日本代表チームとの取り組みを振り返って

女子ソフトボールは決勝でアボット投手やオスターマン投手をとらえ、アメリカに勝って金メダルを獲得しました。終わってみると、良かったところだけが取り上げられて、すべてが計画されていてうまくいったような気になります。しかし、実際はほとんどが手探りで、役に立たなかったことや、役に立ったのかどうかわからなかったことばかりです。しかし、もし、私たちがオリンピック直前に、突然同じマシンを持ちこんだとしても、ここまで使われることもなく、役立つこともなかったと思います。練習時間が無駄になるのではないか、打撃の感覚的にもマイナスになるのではないか、という不安やリスクがつきまとい、また、そのような不安を持って練習しては、良い結果につながるとは考えにくいです。実際にピッチングマシンは効果のある練習だったと思いますが、2016年からの4年余を通して、チームが取り組みを理解し、ポジティブに練習に取り入れてくださったからこそ、本番に生かされる良い結果が得られたのだと思います。

## ソフトボールを楽しもう

さて、2023年春はワールド・ベースボール・クラシック（WBC）で日本中が盛り上がり、野球の面白さが再認識されました。野球・ソフトボールは2028年のロサンゼルスオリンピックでの復帰が決まり、大学生をはじめとした若手選手にもまた大きな目標が生まれたと思います。オリンピックを目指さない方にとっても、ソフトボールをいろいろな視点から理解して切磋琢磨できれば、一味違ったソフトボールの楽しさを味わえるかもしれません。ソフトボールはアスリートの競技としてだけでなく、近所の狭いグラウンドでもプレイが出来、また、その一方で、ちょっとした経験者が投げるボールでもプロ野球投手の速球と同じようなスピード感を味わえる、いろんなレベルのプレイヤーと一緒に楽しめるスポーツです。本稿でご紹介した分析や取り組みも多くの方々にソフトボールの面白さが伝わる一助になれば幸いです。

## 【報告資料】

### 全日本大学ソフトボール連盟 チーム登録数および登録選手数の推移について

松井 陽香里<sup>1)</sup> 高橋 流星<sup>1)</sup> 相馬 満利<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 日本体育大学（野球・ソフト）研究室 <sup>2)</sup> 十文字学園女子大学

ソフトボール競技において、2020年東京オリンピックで日本は米国を下し、前回実施された2008年北京オリンピックに続く金メダルを獲得したことは記憶に新しい。しかしながら、2024年パリオリンピックからソフトボール競技が再び除外されることはすでに決定しており、ここまで高い国際競技力を誇ってきたソフトボール競技が、その力を存分に発揮できる場所を失ってしまう危機感がある。

図1.2は、大学ソフトボール連盟のチーム登録数（1997～2023年）及び登録選手数（2006～2023年）の推移を示したものである。男子において、2010年のピーク時には、152チーム加盟していたが、2023年には、102チームと、32.9%減少している。さらに、2016年のピーク時には、3,090名加盟していたが、2023年には、2,167名と29.9%減少している。

また女子においては、2011～2012年のピーク時には、107チーム加盟していたが、2023年には、86チームと、19.6%減少している。さらに、2019年のピーク時には、2,364名加盟していたが、2023年には、2,013名と14.8%減少している。このことから大学学生連盟の存続及びソフトボール競技存続の危機に直面していることもうかがえる。大学カテゴリーのみならず、中学校・高等学校体育連盟に加盟するチーム登録者数及び登録選手数も同様に、減少傾向にあることは周知の事実である。我々が向き合わなければならない課題であり、緊急に解決しなければならない課題であることは言うまでもない<sup>4)</sup>。

さらに、年々、少子化が進む中、ソフトボール競技のみならず、運動部活動数、運動部員数も減少傾向にある。スポーツ庁が委託した調査「中体連・高体連・高野連に加盟する生徒数等試算（2019年3月）」<sup>5,6)</sup>では、人口推計結果から今後30年間（2048年まで）の部活動人口を推計するとピーク時の2009年から2048年には約30%が減少するといわれている。部活動衰退によってもたらされる問題は少なくない。小学校や中学校、高等学校など発達段階の学校教育においては、体育の授業や運動部活動等を通じて、体を動かすことの楽しさを理解し、生涯に渡っての運動習慣を確立していくことや、スポーツを通じて集団での協調性や目標達成への努力の経験といった貴重な機会でもある。これからの社会を担う子どもたちの「教育」や教師の「教育の質」、未来を繋ぐ人財育成の為の「教育環境」を構築することは、非常に重要である。

この問題に直面した理由は、三つあると考える。一つ目は、人口減少である。現在、日本の人口は1億2千万人以上である。しかし、資料1に示した通り、2050年には日本の人口が1億人を切ると予想されている。二つ目は、競技環境、用具である。以前は公園でのボール遊びは日常的であったが、今ではボール遊びを禁ずる場所が多くなったこと。また、道具なしで出来るダンスや体操に比べ、道具の準備が必要となる点。三つ目は、発達障害の誤認についてである。チームスポーツを行う上では欠かせない仲間との協調性を苦手とする子供が多くなっていることは事実だが、成長段階ということを理解せずに発達障害だと誤認してしまう点である。

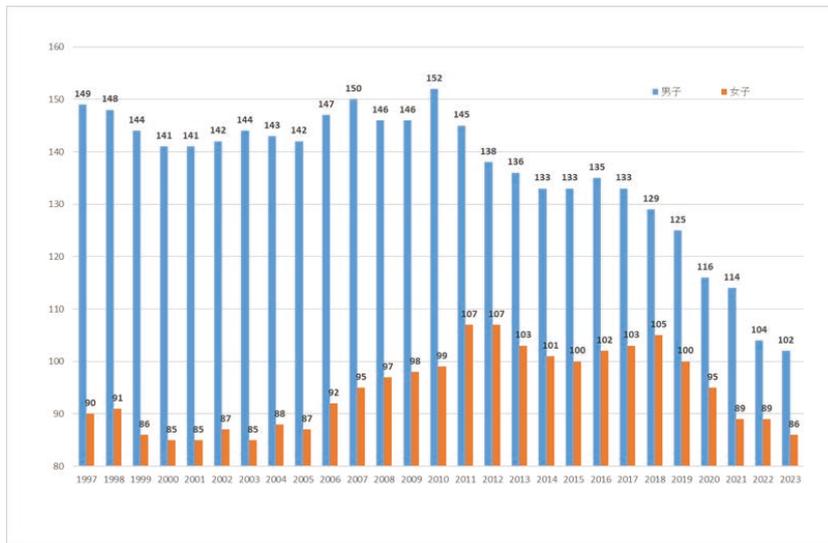


図1. 大学ソフトボール連盟における登録チーム数

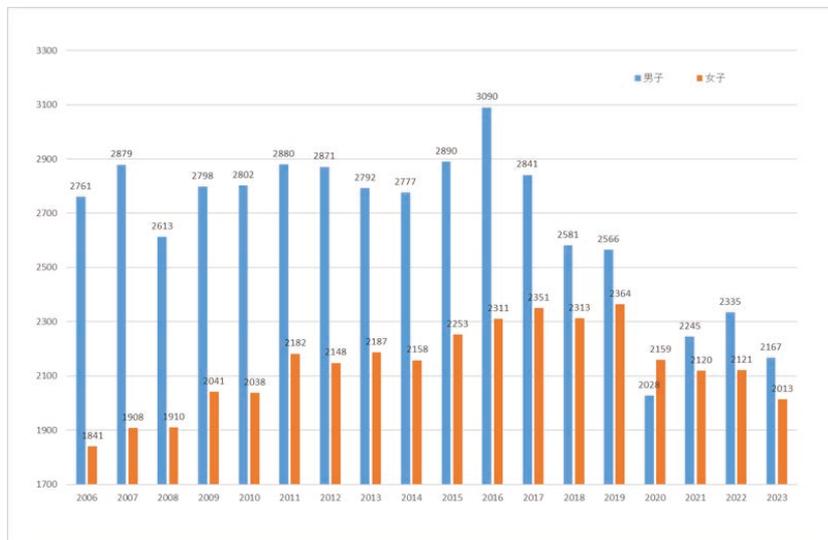


図2. 大学ソフトボール連盟における登録選手数

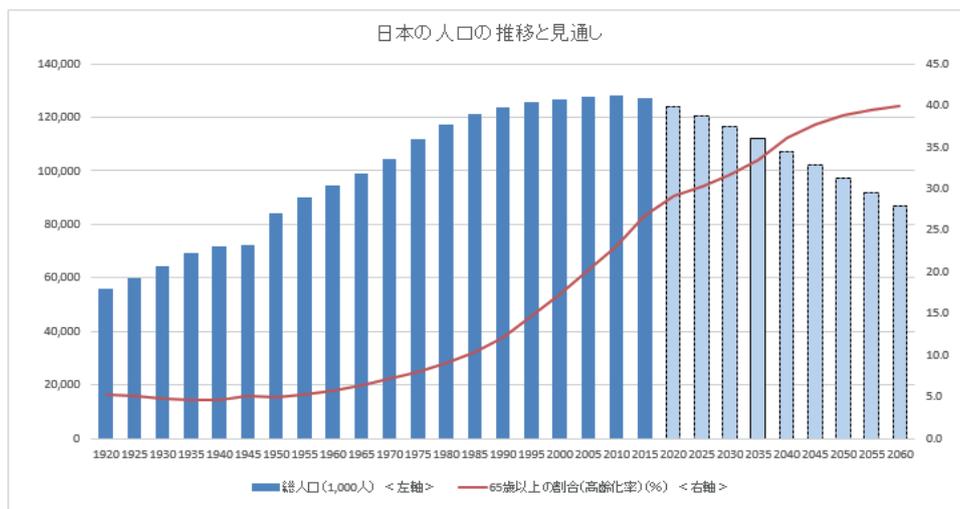


図3: 総務省統計局「日本の統計 2016」(2015年まで)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計)(2020年以降)<sup>2)</sup>

上記の問題は下記のような課題に繋がると考える。

日本の人口減少については、出生率減少の元を辿ると、理由の一つに「養育費がかかるから子どもを希望しない」といった考えが増加していることは間違いない。その中で用具に費用の掛かるソフトボールは避けられてしまう傾向があると考え。人口減少を避けることは難しく、いかに競技人口を減少させないかを検討すべきだと考える。そのため、海外の選手（生徒）を受け入れることができるように、大学や高校も留学制度を早急に準備、利用すべきである（他競技は多くの留学生が来日し、競技に取り組んでいる）。

また、発達障害の誤認については、チームスポーツ内での協力が得意の子がいれば不得意の子もいる中、チームの輪を乱してしまう子どもが発達障害だと謳われることが多くなった。「発達障害」という言葉が先に知られてしまったことで、的確な診断をせずに判断し、チームスポーツから離れてしまうことが原因として挙げられる。また近年、eスポーツも非常に盛んになり、賞金については3億円を超える大会も頻繁に開催され、更に運動を好まないこともたちも増加していることも報告されている<sup>3)</sup>。しかしながら、学校体育でのベースボール型の必修化がされているいま、誰もがソフトボール競技（ベースボール型）に触れられる為、限られた時間内でどれだけ子供たちに楽しさや競技の魅力を伝え広めていけるかが重要になると考える。

以上のことから、大学連盟が出来ることとして、学校・地域への協力（ソフトボール講習会開催）や宣伝（SNS発信の定期化）を行うことから始め、勝利至上主義にならず、この競技の魅力を発信し続ける努力をするべきだと考える。2028年には五輪競技復活することが発表されたが、それに甘んじていては、今後のソフトボール競技の発展は、皆無に等しいと考える。今日の現状を踏まえ、中長期的に先を見据え、ソフトボールの行く末を真剣に考えるチームや組織、人材を育成することが大学連盟に求められていることかもしれない。

#### 参考文献

- 1) 中体連・高体連・高野連に加盟する生徒数等試算，スポーツ庁（2017）
- 2) 総務省統計局「日本の統計 2016」（2015 年まで）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成 24 年 1 月推計）（2020 年以降）
- 3) 清野 隼，坪山 義明，内藤 裕志，高橋 義雄：わが国の高等学校における e スポーツ活動の実態と e スポーツ部活動の設立に向けた課題，スポーツ産業学研究 = Journal of Japan Society of Sports Industry 33 (3), 201-214, 2023-07
- 4) 高橋流星：特集 変わりゆくスポーツと科学(パート 34)ソフトボール競技における現状と今後の課題，Strength & conditioning journal：日本ストレングス&コンディショニング協会機関誌 25 (10), 2-10, 2018-12
- 5) 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン，スポーツ庁(2018) <<https://sports.go.jp/special/value-sports/30.html>>（2024-02-07 閲覧）
- 6) 競技別加盟校数及び生徒の運動部活動加入状況，公益財団法人日本中学校体育連盟(2021) <<https://nippon-chutairen.or.jp/data/result/>>（2024-02-07 閲覧）
- 7) ソフトボールの未来と 70 年の軌跡:公益財団法人日本ソフトボール協会<<http://www.softball.or.jp/announcement/pdf/JSA70.pdf>>

## 【卒業論文】

女子ソフトボール JD リーグにおける戦術分析 ～無死 1 塁のケースにおいて～

芝 夢太郎<sup>1)</sup> 松井 陽香里<sup>2)</sup> 高橋 流星<sup>2)</sup> 相馬 満利<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 日本体育大学体育学部体育学科 <sup>2)</sup> 日本体育大学 (野球・ソフト) 研究室 <sup>3)</sup> 十文字学園女子大学

Tactical analysis in the Women's Softball JD League ~In the case of no-out first base~

SHIBA Yumetaro, MATSUI Hikari, TAKAHASHI Subaru, SOMA Mari

**Abstract:** The purpose of this study was to clarify the effectiveness of the bunt at first base with no outs based on a tactical analysis of the Women's Softball JD League. The survey covered 897 cases in all 284 games of the 2023 JD League regular season, and analyzed four items: bunting, hitting, stolen bases, and others. As a result, the total number of innings performed was the highest at 445. However, bunts were high in success (216) and success rate (83.9%) (178 successful hits, 40.2% success rate), and hitting was high in hits (107) and survival rate (59.6%). (Bunt had 85 survivings and a survival rate of 36.3%), and bunts were shown to have the lowest number of survivals. This suggests that softball has become a mainstream strategy in softball where hitters choose to hit, try to score multiple runs, and create big innings rather than letting hitters bunt. It was found that it is not always effective to bunt in the tactics that have been considered a theory in the past..

要旨：本研究の目的は、女子ソフトボール JD リーグの戦術分析から無死一塁における送りバントの有効性を明らかにすることであった。2023 年 JD リーグレギュラーシーズン全 284 試合の 897 ケースを対象とし、分析項目は、バント、ヒッティング、盗塁、その他の 4 項目であった。その結果、実施総回数はヒッティングが 445 回と最も多かった。しかしながら、成功数 (216 回) および成功率 (83.9%) はバントが高く (ヒッティングは成功数 178 回、成功率 40.2%)、生還数 (107 回) および生還率 (59.6%) ではヒッティングが高いことが示された。(バントでは生還数 85 回、生還率 36.3%) さらに、生還数においては、バントは最も低いことが示された。このことから、打者にバント選択させるよりもヒッティングを選択し、複数得点を狙う、ビッグイニングを作るといった戦法がソフトボール界で主流になっていることが示された。従来、セオリーとされてきた戦術において送りバントをすることが有効であるとは一概にも言えないことがわかった。

Keywords: bunting, hitting, scoring,

キーワード：バント、ヒッティング、得点

### 1.背景

現在の日本の野球においては、無死 1 塁で第一に考えられる戦術は送りバントである<sup>1)</sup>。送りバントは重要な戦術として位置づけられており、プロ野球選手のバントの技術書、指導書も数多く存在し、多くの人に読まれ、無死 1 塁は送りバントがセオリーであると浸透している。しかし、アメリカのメジャーリーグやキューバ、メキシコのリーグで同様の送りバントが行われるケースにおいて必ず送りバントが多用されているというわけではない。また、高校野球において頻繁に見られる犠打は、得点創出という観点から非合理的

な戦法である可能性があることが述べられている<sup>2)</sup>。しかしながら、ソフトボール競技において、攻撃戦術構造に関する報告は、皆無に等しい。そこで本研究は、ソフトボール競技に着目し、日本のトップリーグにあたる JD リーグレギュラーシーズンのゲーム分析を用いることで、タレント発掘・育成・強化を含めた一貫指導の基準づくりにもなり、延いてはソフトボールの国際競技力の向上につながることを期待できる。

## 2.目的

本研究の目的は、2023年JDリーグレギュラーシーズンのデータを基に、現在は得点をとることにおいて送りバントが一番有効な作戦であるのか、成功確率が高くランナーを進めることに貢献しているのかを検討し、日本の女子ソフトボールリーグのレベルアップを目的とした。また、ソフトボールにおいて無死1塁での送りバントは最も重要視され、得点に結びつきやすいと仮説を立てた。

## 3.方法

### 3-1 調査対象

本研究は、一般社団法人日本女子ソフトボールリーグ機構・JDリーグ(Japan Diamond Softball League)のレギュラーシーズン全284試合を対象とした<sup>3)</sup>。本リーグは、2022年シーズンから公益財団法人日本ソフトボール協会・会長の三宅豊氏が代表を務め、ソフトボールリーグ活性化プロジェクトとして16チームにより発足されたものである。本リーグは日本最高峰のリーグであり各チーム20名ほどで構成されており、アメリカ、オーストラリア、イタリアといった強豪国からも選手が入団し、世界最高基準のリーグでもある。

### 3-2 データ算出方法および項目

JDリーグ2023年レギュラーシーズンにおける全284試合のアーカイブを視聴<sup>4)</sup>し、無死1塁のケースとその後の戦術を、チーム別にMicrosoft Excel2023上

に入力した。

本研究においては、バント\*<sup>1</sup>、ヒッティング\*<sup>2</sup>、盗塁\*<sup>3</sup>、その他\*<sup>4</sup>に大別して分類を行った(脚注参照)。

JDリーグは、東西地区に分かれていることもあり、東西地区において作戦実行回数、割合、走者進塁率(成功回数÷作戦実行回数)と生還率(走者得点回数÷作戦実行回数)を算出した。

### 【脚注】

- \*<sup>1</sup> 送りバント、バントエンドラン、バントを行なった後の守備側の失策は作戦成功として記録。
- \*<sup>2</sup> エンドラン、バスターエンドラン、スラップも含む。作戦実行時、走者が封殺後、失策で打者が二塁に進塁成功した場合は作戦失敗として記録。
- \*<sup>3</sup> 打者がフェアグラウンドに打球を飛ばさず走者が進塁した場合。
- \*<sup>4</sup> 四死球、不正投球、バッテリーミス、離塁アウト、走塁ミス

## 4.結果

### 4-1 全体での分析

表1は、全チームにおける各事象の平均及び標準偏差である。実施総回数はヒッティングが最も多かった。成功数、生還率はバントが高かったが、成功数、生還率においてはヒッティングの方が高い結果となった。また生還数においては、バントは最も低い結果となった。

表1. 全チームにおける各事象の平均及び標準偏差

	総回数		成功数		生還数		総回数%		成功率%		生還率%			
	mean	± SD	mean	± SD										
バント			16.0	± 7.2	13.5	± 6.5	5.3	± 3.5	27.9	± 11.1	83.9	± 8.4	36.3	± 16.2
ヒッティング	56.1	± 8.8	27.8	± 4.4	11.1	± 3.1	6.7	± 2.5	50.5	± 10.2	40.2	± 9.0	59.6	± 14.3
盗塁			5.9	± 3.4	4.9	± 3.2	2.5	± 1.8	10.5	± 5.9	78.2	± 27.8	46.8	± 30.6
その他			6.3	± 1.9	5.8	± 2.3	3.2	± 1.9	11.2	± 2.5	88.3	± 18.4	52.1	± 26.4

### 4-2 東西地区に分けて分析

2023年JDリーグレギュラーシーズン公式戦で、無死1塁となった全897で取られた作戦実行件数及び割合を表2～表4示した。東地区はバントが34.7%であったが、西地区は27.5%であった。またヒッティングは東地区が52.1%に対して西地区は56.9%であった。

表2. 無死一塁ケース時の合計

作戦	総回数	成功数	生還数			
バント	256	216	85			
ヒッティング	445	178	107			
盗塁	95	79	40			
その他	101	92	51			
合計	897	565	283			

表 3. 東地区の集計（ホンダ、BIG、太陽誘電、戸田中央、日立、大垣、NEC、デンソー）

作戦	総回数	成功数	生還数	%	成功率	生還率
バント	150	128	52	34.7	85.3	40.6
ヒッティング	225	101	58	52.1	44.9	57.4
盗塁	49	38	19	11.3	77.6	50.0
その他	52	45	22	12.0	86.5	48.9
合計	476	312	151	110.2	65.5	48.4

表 4. 西地区の集計（トヨタ、豊織機、東理科、日精工、SGH、シオノギ、伊予銀、タカギ）

作戦	総回数	成功数	生還数	%	成功率	生還率
バント	106	88	33	27.5	83.0	37.5
ヒッティング	220	77	49	57.1	35.0	63.6
盗塁	46	41	21	11.9	89.1	51.2
その他	49	47	29	12.7	95.9	61.7
合計	421	253	132	109.4	60.1	52.2

## 5. 考察

2023 年 JD リーグレギュラーシーズン全 284 試合の 897 ケースを対象として、無死 1 塁時に選択した戦術を分析した主な結果は以下のとおりである。

- ① 無死一塁時の作戦実行回数は、バントよりもヒッティングの方が多く傾向が示された。
- ② JD リーグにおいては（2023 年の場合）、アウトを取られランナーを進塁させるよりも、ヒッティングでランナーを貯め、複数得点を狙う戦法が、JD リーグにおいては、主流になっていることが見受けられた。
- ③ 本研究では JD リーグのトップリーグを対象に、更には、東西地区で比較を行ったが、総回数は東地区が多く、成功率、生還率も東地区が高い結果となり、東地区がより攻撃的であることが見受けられた。
- ④ また、両地区ともにヒッティングの実行数が半分近くを占めている傾向であった。また成功率で見ると、盗塁以外の割合で東地区が勝っており、東地区の作戦成功率の高さを表している（西地区の投手力が低い可能性もある）。
- ⑤ バントの成功率は 80%を超えているがその後の走者生還率は半分ほどに減少している。送りバントをすることで、守備側はアウトを獲得す

ることができる。一塁にランナーがいないことから打者に対して厳しいコースに投じることができ、その結果として、生還率がバントのほうが低いと考えられる。

- ⑥ 生還率での比較においては、走者を生還させるという期待値が高いのはヒッティングを実行したほうが良いことが分かった。その他の年間総回数が全体の約 10%という結果は、日本のソフトボールリーグの守備、投手のレベルの高さを示している。投手の球速が向上し、コントロール、ボールのキレは海外を見ても際立っている故の結果だろう。

## 6. まとめ

今回の分析で得られたことは次のとおりである。

- ・ 作戦実施回数は、ヒッティングがバントよりも 2 倍近くの件数であった。
- ・ 走者進塁率は、ヒッティングに比べバントが倍ほど高い成功率であるがその後の生還率はヒッティングのほうが大きく上回った。
- ・ 生還率の平均値ではバントよりもその他の項目の値のほうが高かった。

以上の結果によりバントが最も有効性のある作戦であるという仮説に対し、従来セオリーとされてきた送りバントにおいて多くの得点を相手より取らなければならない狙いを考え、送りバントの有効性は一概に言えない問題であることが分かった。

前述したとおり、本研究では、JD リーグの 2023 年を対象としたため、不明瞭な部分も多数考えられる。また、本研究以外のケース（1 アウト 1、2 塁、2 アウト、2、3 塁など）も存在し、様々なケースで、どのような戦術が実施されているかも非常に興味深い。また、今後縦断的に分析を深めていく事で、JD リーグにおける戦術傾向が示される可能性を秘めている。現在の日本は少子高齢化社会に移行しつつあり、それにとともにソフトボール人口も減少傾向にある。ソフトボールに興味関心を持つことができるような取り組みを日本ソフトボールのトップレベルである JD リーグが行うことが今後必要不可欠である。

## 7.文献

- 1) 及川研, 栗山英, 佐藤精. 野球の無死1塁で用いられる送りバント作戦の効果について. コーチング学研究. 2011; 24(2): 119-28.
- 2) 新末. 高校野球における送りバントは有効な戦法と言えるか. 体育の科学 (Journal of health, physical education and recreation). 2018; 68(5): 381-5.
- 3) 一般社団法人日本女子ソフトボールリーグ機構, 団体概要,  
<<https://jdleague.jp/about/overview/>> website  
(accessed. 2023-12-2).
- 4) 一般社団法人日本女子ソフトボールリーグ機構, ゲーム結果アーカイブ  
<<https://jdleague.jp/games/result/>> website  
(accessed. 2023-12-2).

## 8.謝辞

本研究を遂行するにあたり、公益財団法人日本ソフトボール協会をはじめ、一般社団法人日本女子ソフトボールリーグ機構の関係者の皆様には、アーカイブの視聴をはじめ、本研究にご協力いただきまして、誠に有り難う御座いました。重ね重ね御礼申し上げます。

## 文部科学大臣杯第 58 回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

### 大会所感

公益財団法人日本ソフトボール協会

記録委員会 池田 雅彦

伝統と権威を持つ同大会は富山県富山市にある富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場にて、2023年9月9日（土）から11日（月）の3日間で開催された。

競技開始に先立ち9月8日に本大会においては4年ぶりとなる開会式が緑鮮やかな富山市民球場グラウンドで執り行われ、各ブロック予選を勝ち抜いた精鋭32チームが一堂に会した。2年連続4回目の優勝を狙う環太平洋大学、昨年の雪辱を晴らしたい京都産業大学、王者復活をかけた日本体育大学などそれぞれの想いを胸にこの開会式に臨んでいたことだろう。選手宣誓を行った環太平洋大学：主将 高草 昂大 選手からも並々ならぬ闘志が伺えた。

#### 【準決勝 福岡大学 VS 環太平洋大学】

環太平洋大学 サヨナラ本塁打で決勝へ！

昨年大会の準決勝と同じ対戦となった。

序盤 福岡大学：青木琉真投手、環太平洋大学：影山 蓮投手の好投で両チーム無得点のまま3回まで進んでいった。環太平洋大学は1点先行された直後の4回裏、離塁アウトで二死走者なしとなり得点の機会を失ったかに見えたが、6番：大城周人選手が追い込まれながらも左中間越え本塁打を放ち同点に追いついた。

その後も投手戦は続き、1対1のままタイブレークに入った8回裏、一死三塁で5番：植田樹生選手が決勝打となる右中間越えの2点本塁打を放ち連覇の舞台へ駒を進めた。一方福岡大学は、8回表に一死三塁の好機を得たが、影山投手の踏ん張りに得点できずに敗退した。

#### 【準決勝 岐阜聖徳学園大学 VS 高崎経済大学】

岐阜聖徳学園大学 大逆転で決勝へ。

昨年準決勝で敗れた京都産業大学を1回戦で倒し、勢いそのまま準決勝に勝ち上がった岐阜聖徳学園大学と5年ぶりに本大会に出場し、初優勝を狙う高崎経済大学の対戦となった。岐阜聖徳学園大学は、3点先行された5回表、二死ながら9番：仲宗根根哉選手の左翼前安打が反撃の合図となった。その後1番：徳永大輝選手が四球を選び走者一・二塁から2番：安達陸斗選手が右翼前安打でまず1点、3番武田 善選手の左翼越え3点本塁打で逆転に成功。ここからゲームの流れを一気に取り戻し、6回には4安打で4点を加点、さらに7回にも8番：梅田琉河選手の右翼越え本塁打で2点を追加してゲームを決めた。高崎経済大学は、前半のうまい試合運びで流れを掴み、このまま逃げ切れるかと思われたが終盤に加点がなく力尽きた。

#### 【決勝 岐阜聖徳学園大学 VS 環太平洋大学】

環太平洋大学 苦しみながらも連覇達成！

恵みの雨がパラつく中、岐阜聖徳学園大学：山本愛闘投手と環太平洋大学：影山蓮投手の両エースの登板で決勝が始まった。初優勝を目指す岐阜聖徳学園大学と2年連続4回目の優勝を狙う環太平洋大学の戦いは両者一歩も譲らぬ好ゲームとなった。

4回裏 一死満塁からに二者連続三振でピンチを乗り切る

6回裏 連続四球を選び無死満塁とし押し出し

7回表 二死一塁で2番：足立が2ストライクと追い込まれながらも左中間を抜く三塁打を放ち同点に追いついた。

7回裏 制球力を欠いた山本投手が連続四球を出したのちに二番手梅田投手に後を託した。ピッチャー強襲安打にてサヨナラ。

環太平洋大学は、岐阜聖徳学園大学の長打攻勢で先行され我慢の戦いを強いられた。2点を追う6回裏相手投手の制球の乱れ乗じ何とか同点とすることに成功した。さらに勝ち越されて迎えた7回裏制球がまだ定まらず、無死満塁から8番有村翼選手への痛烈な打球がサヨナラ安打となり2年連続4回目の優勝を手にした。

岐阜聖徳学園大学は、安打の数、長打の数ともに上回りながらもあと一步届かなかったが、昨年より1段高い準優勝は素晴らしい成績であり誇りに思っている。

この3日間の素晴らしい大会を無事に終えることができたのは、大会前からの綿密な準備、そして大会期間中にはきめ細やかなサポートをしていただいた、一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟、一般社団法人富山県ソフトボール協会、富山市ソフトボール協会のほか関係各位のご尽力の賜物である。ここに深く感謝を申し上げる。



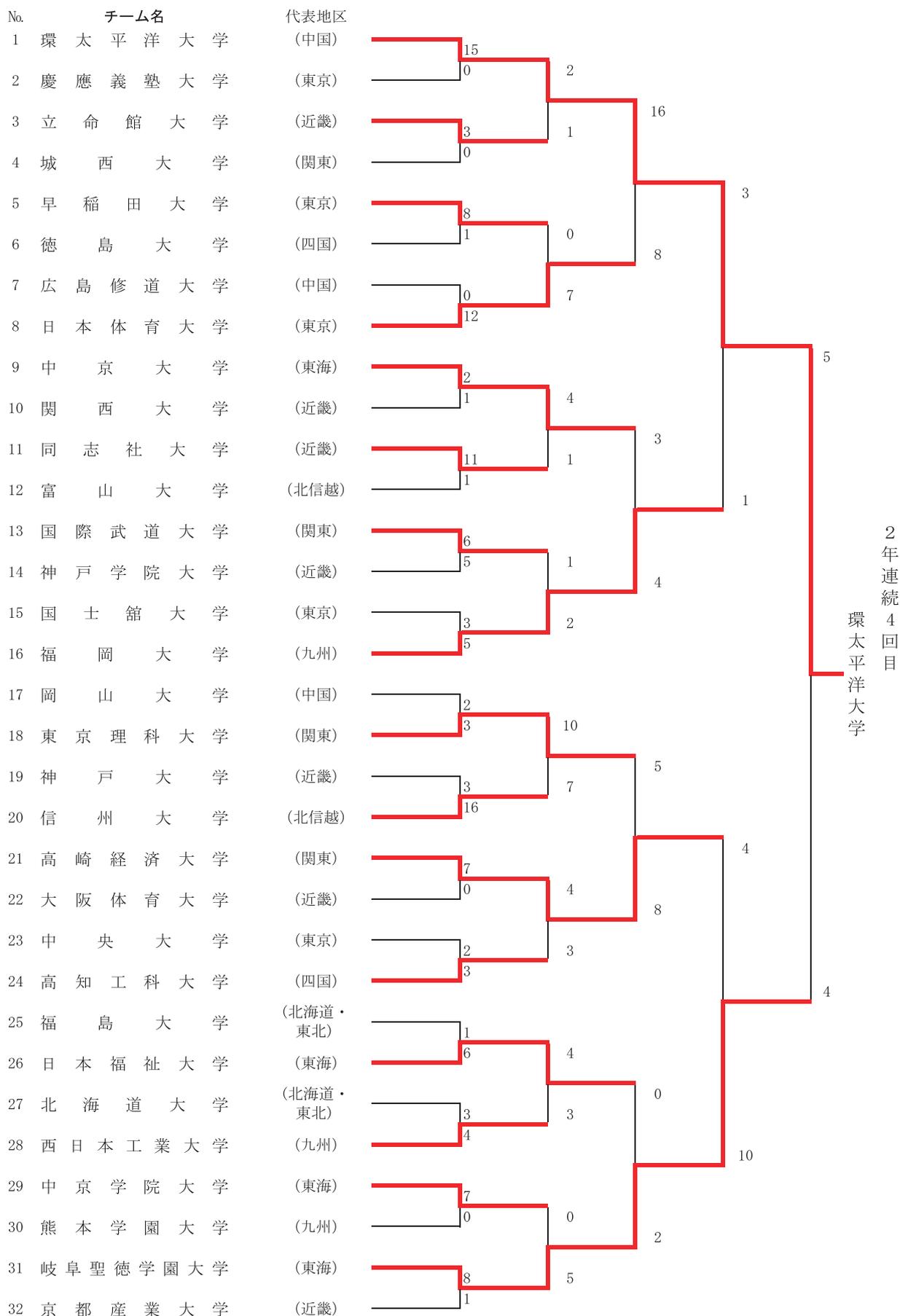
優勝：環太平洋大学



準優勝：岐阜聖徳学園大学

文部科学大臣杯  
第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

期 間 令和5年9月9日(土)～11日(月)  
会 場 富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場



大会名：文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会  
 投手の記録 規定投球回数 8回以上

《記録5号順位別》

順位	氏名	チーム名	投球回数	打者	打数	被安打	失点	自責点	犠牲打		与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投球	打撃妨害	投球数	防御率	勝利数	敗戦数	勝利率	試合数
									バント	フライ													
1	相島 克亮	日本福祉大学	12 1/3	51	49	12	1	1	0	0	1	1	19	0	1	0	0	177	0.57	1	0	1.000	3
2	上鶴 大聖	中京大学	16 1/3	61	54	8	3	2	1	0	6	0	17	1	1	0	0	243	0.86	1	1	0.500	3
3	山本 愛闘	岐阜聖徳学園大学	28 2/3	118	95	14	7	5	2	2	19	0	45	1	1	0	0	479	1.22	4	1	0.800	5
4	青木 琉真	福岡大学	25 2/3	104	89	15	8	5	1	1	11	2	38	4	3	0	0	415	1.36	3	0	1.000	4
5	景山 蓮	環太平洋大学	29 1/3	112	102	21	10	9	2	1	5	2	48	4	2	1	0	470	2.15	5	0	1.000	5
6	川田 勝己	高知工科大学	13	52	51	12	6	4	0	1	0	0	13	1	1	0	0	195	2.15	1	1	0.500	2
7	西田 翔琉	高崎経済大学	19	88	73	23	7	6	3	2	8	2	6	0	1	0	0	311	2.21	2	0	1.000	4
8	高橋 理央	同志社大学	9	39	34	5	4	3	0	0	4	1	16	0	1	0	0	140	2.33	1	1	0.500	2
9	中島 翼	国際武道大学	9 1/3	35	33	7	4	4	0	0	2	0	11	0	1	0	0	127	3.00	1	0	1.000	2
10	片岡 久也	西日本工業大学	13	51	50	13	7	6	0	0	1	0	17	2	2	1	0	208	3.23	1	1	0.500	2
11	皆木 遼太郎	東京理科大学	15	74	63	22	12	7	3	2	4	2	11	0	2	0	0	266	3.27	1	1	0.500	3
12	吉本 和央	日本体育大学	8	32	29	4	7	5	0	0	3	0	15	1	0	0	0	138	4.38	2	1	0.667	3
13	小川 大貴	信州大学	9 1/3	50	36	13	11	10	2	2	9	1	1	1	0	0	0	169	7.50	1	0	1.000	2

大会名：文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会  
 打撃ベスト30 規定打席数 9打席以上

《記録6号順位別》

順位	補殺	刺殺	失策	守備率	氏名	チーム名	打席	打数	安打	得点	打点	犠牲打		四球	死球	三振	盗塁	残塁	打撃妨害	出塁	打撃率	本塁打	三塁打	二塁打	出塁率	試合数
												バント	フライ													
1	0	10	0	1.000	丹羽 祥太	信州大学	9	5	5	2	6	0	2	0	2	0	0	4	0	7	1.000	1	0	0	0.778	2
2	0	5	0	1.000	桜井 陽大	信州大学	10	7	5	3	4	0	0	3	0	0	1	6	0	8	0.714	0	0	0	0.800	2
3	0	1	0	1.000	新井 優太	日本体育大学	10	9	5	5	4	0	0	0	1	1	0	1	0	6	0.556	3	0	0	0.600	3
3	3	14	2	0.895	藤塚 卓也	東京理科大学	12	9	5	3	1	0	0	3	0	1	0	5	0	8	0.556	0	0	0	0.667	3
5	6	8	0	1.000	半田 浩平	高崎経済大学	11	11	6	3	2	0	0	0	0	0	0	2	0	6	0.545	0	1	2	0.545	4
6	2	8	0	1.000	平山 駿太	高崎経済大学	14	13	7	2	2	0	0	1	0	2	0	1	0	8	0.538	1	1	3	0.571	4
7	0	7	0	1.000	植田 樹生	環太平洋大学	17	10	5	6	5	0	0	6	1	1	0	5	0	12	0.500	2	0	1	0.706	5
7	0	0	0		渋谷 卓	日本体育大学	10	6	3	4	6	0	0	4	0	1	0	0	0	7	0.500	3	0	0	0.700	3
7	1	0	0	1.000	梅田 瑠河	岐阜聖徳学園大学	16	12	6	6	6	0	2	1	1	2	0	1	0	8	0.500	2	0	0	0.500	5
10	5	6	0	1.000	岩永 大輝	福岡大学	11	9	4	0	0	1	0	1	0	3	1	5	0	5	0.444	0	0	0	0.500	4
10	7	5	1	0.923	有賀 征尊	東京理科大学	12	9	4	2	2	0	0	2	1	0	1	6	0	7	0.444	0	1	0	0.583	3
10	8	4	1	0.923	浜塚 光希	日本福祉大学	9	9	4	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0.444	0	1	1	0.444	3
13	6	3	0	1.000	成崎 想	福岡大学	14	14	6	3	1	0	0	0	0	1	0	1	0	6	0.429	1	0	0	0.429	4
13	0	1	0	1.000	宮下 陽生	日本福祉大学	10	7	3	2	3	0	0	3	0	2	0	1	0	6	0.429	1	1	0	0.600	3
15	0	0	0		高草 昂大	環太平洋大学	15	12	5	4	2	1	0	2	0	4	0	1	0	7	0.417	0	0	1	0.500	5
16	5	2	0	1.000	安形 恭悟	中京大学	11	10	4	2	0	0	0	1	0	1	1	3	0	5	0.400	0	0	0	0.455	3
16	3	30	0	1.000	嶋倉 連太郎	高崎経済大学	11	10	4	2	2	0	0	1	0	3	1	4	0	5	0.400	0	0	1	0.455	4
16	2	1	0	1.000	河端 桂大	高崎経済大学	12	10	4	1	2	1	1	0	0	2	1	3	0	4	0.400	0	0	0	0.364	4
16	3	1	0	0.800	山本 愛闘	岐阜聖徳学園大学	15	15	6	0	2	0	0	0	0	1	0	0	6	0.400	0	2	2	0.400	5	
20	6	6	1	0.923	仲宗根 柊哉	岐阜聖徳学園大学	13	13	5	2	1	0	0	0	0	3	0	3	0	5	0.385	0	0	0	0.385	5
21	3	1	1	0.800	古敷谷 宗	日本体育大学	9	8	3	3	2	0	0	1	0	1	0	0	4	0.375	1	0	0	0.444	3	
21	7	0	1	0.875	横山 駿太郎	高崎経済大学	12	8	3	5	1	0	0	4	0	5	1	2	0	7	0.375	0	0	1	0.583	4
21	13	4	1	0.944	赤羽 亮祐	高崎経済大学	9	8	3	1	2	0	1	0	0	1	3	2	0	3	0.375	0	0	0	0.333	4
24	2	43	1	0.978	野上 幸希	福岡大学	13	11	4	1	5	0	0	2	0	6	0	0	0	6	0.364	1	0	1	0.462	4
25	1	53	0	1.000	岩松 近良	環太平洋大学	18	14	5	1	8	2	2	0	0	3	0	0	5	0.357	1	0	1	0.313	5	
25	1	8	0	1.000	西川 詩琉	岐阜聖徳学園大学	16	14	5	2	1	0	0	1	1	2	0	7	0	7	0.357	0	0	0	0.438	5
27	4	0	0	1.000	皆木 遼太郎	東京理科大学	10	9	3	0	1	0	1	0	0	1	0	0	3	0.333	0	0	1	0.300	3	
27	1	7	0	1.000	階戸 啓太	東京理科大学	11	9	3	3	1	0	0	1	1	0	0	3	0	5	0.333	0	0	0	0.455	3
27	1	3	0	1.000	滝田 涼介	東京理科大学	9	6	2	2	1	2	0	1	0	2	0	2	0	3	0.333	0	0	1	0.429	3
30	0	15	0	1.000	今井 孝幸	岐阜聖徳学園大学	17	16	5	4	2	0	0	1	0	5	1	5	0	6	0.313	1	0	0	0.353	5

文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：富山県 メイン会場：富山県 岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場 (記録4号)

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間14分	試合番号	1											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
環太平洋大学		1	8	0	0	0										15	得点差コールド
慶應義塾大学		0	0	0	0	0										0	
先攻	(投手) 〇嵐山 謙、北川 諒丞 (捕手) 岩松 近良、望岡 尚詩																
後攻	(投手) ●藤田 龍仁、山岸 亮太、稲田 淑仁 (捕手) 小川 英祐																
先攻	(本塁打) 植田 樹生、山本 佳依、高田 祥吾 (三塁打) 安藝 大地 (二塁打) 高草 昂次、和田 楓																
後攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打)																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間52分	試合番号	2											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
城西大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
立命館大学		0	0	0	0	3	0	x								3	
先攻	(投手) ●大竹 雅也、山内 惟久夏 (捕手) 池田 亮介																
後攻	(投手) 〇名西 孝晴 (捕手) 大塚 文弥																
先攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打) 小松 峻輔																
後攻	(本塁打) 田中 将太郎 (三塁打) (二塁打) 小山 竜加																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間45分	試合番号	3											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
早稲田大学		0	0	0	0	2	6									8	
徳島大学		0	0	0	0	0	0	1								1	
先攻	(投手) 川崎 晴、〇佐藤 慶弥、川崎 晴 (捕手) 佐藤 希弥、山崎 祐太郎																
後攻	(投手) ●玉岡 直樹、藤井 涼太 (捕手) 熊谷 壮次郎																
先攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打)																
後攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打)																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間06分	試合番号	4											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
広島修道大学		0	0	0	0											0	得点差コールド
日本体育大学		1	1	10	x											12	
先攻	(投手) ●宮間 心温 (捕手) 海谷 真輝																
後攻	(投手) 〇吉本 和央、芝 夢太郎 (捕手) 藤原 琢磨																
先攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打)																
後攻	(本塁打) 新井 優太、嶋谷 蒼、渋谷 卓、古敷谷 宗 (三塁打) 胡京佑 (二塁打)																

特記事項

文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：富山県 メイン会場：富山県 岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場 (記録4号)

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間47分	試合番号	9											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
岡山大学		0	0	0	0	1	1	0								2	
東京理科大学		0	0	0	1	0	0	2	x							3	
先攻	(投手) ●池口 諒 (捕手) 西垣 篤志																
後攻	(投手) 林山 颯、〇岩本 遼太郎 (捕手) 鷲澤 尊																
先攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打)																
後攻	(本塁打) (三塁打) 三浦 和也 (二塁打) 皆木 遼太郎																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間59分	試合番号	10											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
信州大学		5	0	5	0	6										16	得点差コールド
神戸大学		1	0	1	1	0										3	
先攻	(投手) 〇小川 大貴 (捕手) 小林 大輝																
後攻	(投手) ●上山 順也、川端 士道、戸井 大輝、上山 順也 (捕手) 戸井 大輝、高橋 悠真																
先攻	(本塁打) 丹羽 祥太 (三塁打) 桑原 大輔 (二塁打) 黒澤 翔太、池戸 大智																
後攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打) 山下 和希																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間25分	試合番号	11											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
大阪体育大学		0	0	0	0	0										0	得点差コールド
高崎経済大学		0	3	0	0	4	x									7	
先攻	(投手) ●鈴木 大 (捕手) 南山 弘大																
後攻	(投手) 〇西田 翔琉 (捕手) 平山 駿太																
先攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打)																
後攻	(本塁打) 梅本 功大 (三塁打) 平山 駿太 (二塁打) 横山 駿太郎、平山 駿太、半田 浩平																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間43分	試合番号	12											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
中央大学		1	0	0	0	1	0	0								2	
高知工科大学		1	0	0	0	0	2	x								3	
先攻	(投手) ●菊間 哉優 (捕手) 茂原 大登																
後攻	(投手) 〇川田 陽己 (捕手) 根来 悟																
先攻	(本塁打) 兒玉 健聖 (三塁打) (二塁打) 菊間 哉優																
後攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打) 森岡 直史、根来 悟②																

特記事項

文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：富山県 メイン会場：富山県 岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場 (記録4号)

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間53分	試合番号	5											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
中京大学		0	2	0	0	0	0	0	0	0						2	
関西大学		0	1	0	0	0	0	0	0	0					1		
先攻	(投手) 〇上越 大聖 (捕手) 瀧田 広大																
後攻	(投手) ●和田 龍馬 (捕手) 山口 葵音																
先攻	(本塁打) 中西 崇晏 (三塁打) (二塁打)																
後攻	(本塁打) 山口 葵音 (三塁打) (二塁打)																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間13分	試合番号	6											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
同志社大学		4	2	5	0											11	得点差コールド
富山大学		0	0	0	0	1										1	
先攻	(投手) 〇高橋 理央、鶴田 直己、山本 大輔 (捕手) 上野 結来																
後攻	(投手) ●千葉 恭哉、松本 宙大 (捕手) 大崎 浩平																
先攻	(本塁打) 園座 俊輝、神尾 幸宏 (三塁打) (二塁打) 高橋 理央、山本 大輔、藤井 大聖																
後攻	(本塁打) (三塁打) 林 朋哉 (二塁打)																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	02時間45分	試合番号	7											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
神戸学院大学		0	0	0	4	0	0	1	0							5	
国際武道大学		1	0	2	0	0	2	0	1	x						6	
先攻	(投手) 谷本 聖也、●神田 迅 (捕手) 松上 晋輝																
後攻	(投手) 中島 翼、田中 元太、〇中島 翼 (捕手) 菅野 博和																
先攻	(本塁打) (三塁打) 日浦 隼飛 (二塁打) 森中 大暉																
後攻	(本塁打) 菅野 博和 (三塁打) (二塁打)																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	02時間28分	試合番号	8											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
福岡大学		0	0	0	1	0	2	2								5	
国士館大学		0	1	1	0	1	0	0								3	
先攻	(投手) 〇青木 瑠真、豊村 晃平 (捕手) 野上 幸希																
後攻	(投手) ●大坪 優也 (捕手) 井野 義人																
先攻	(本塁打) 野上 幸希、成崎 想 (三塁打) 池田 雄士郎、菊水 晟行 (二塁打)																
後攻	(本塁打) 大坪 優也、井関 綾人 (三塁打) (二塁打)																

特記事項

文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：富山県 メイン会場：富山県 岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場 (記録4号)

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	02時間01分	試合番号	13											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
福島大学		0	0	0	0	0	0	1								1	
日本福祉大学		0	0	0	1	5	0	x								6	
先攻	(投手) ●北松 楓翔 (捕手) 成田 嵩																
後攻	(投手) 〇相島 克亮 (捕手) 加藤 朝陽																
先攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打) 佐藤 孔明、鈴木 郁丸																
後攻	(本塁打) (三塁打) 大滝 叶翔、宮下 陽生 (二塁打) 浜塚 光希、西森 匡助																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間54分	試合番号	14											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
西日本工業大学		2	1	0	0	0	1	0								4	
北海道大学		0	0	1	0	0	0	2								3	
先攻	(投手) 〇片岡 久也 (捕手) 下山 晋也																
後攻	(投手) ●高橋 仁志 (捕手) 尻江 倫登																
先攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打) 下山 晋也、奥田 彪晴、片岡 久也																
後攻	(本塁打) (三塁打) 吉川 大智 (二塁打) 高橋 仁志																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	01時間25分	試合番号	15											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
熊本学園大学		0	0	0	0	0										0	得点差コールド
中京学院大学		0	0	5	0	0	2	x								7	
先攻	(投手) ●津田 涼輝 (捕手) 富田 透輝																
後攻	(投手) 〇宮崎 尊真、神尾 拓真 (捕手) 三島 輝輝																
先攻	(本塁打) (三塁打) (二塁打)																
後攻	(本塁打) 松本 誠、豊村 友之介 (三塁打) (二塁打)																

特記事項

第1日	2023年09月09日	1回戦	試合時間	02時間11分	試合番号	16											
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
京都産業大学		0	0	0	1	0	0									1	得点差コールド
岐阜聖徳学園大学		1	0	0	2	1	4	x								8	
先攻	(投手) ●内																

文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県 メイン会場: 富山県 岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

《記録4号》

Table with 17 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 2回戦, 試合時間: 02時間00分, 試合番号: 17. Teams: 立命館大学, 信州大学, 東京理科大学. Results: 立命館大学 0-0, 信州大学 0-0, 東京理科大学 2-0.

Table with 18 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 2回戦, 試合時間: 01時間23分, 試合番号: 18. Teams: 早稲田大学, 日本体育大学. Results: 早稲田大学 0-0, 日本体育大学 2-0.

Table with 19 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 2回戦, 試合時間: 02時間14分, 試合番号: 19. Teams: 中京大学, 同志社大学. Results: 中京大学 0-0, 同志社大学 0-0.

Table with 20 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 2回戦, 試合時間: 02時間26分, 試合番号: 20. Teams: 国際武道大学, 福岡大学. Results: 国際武道大学 0-0, 福岡大学 0-0.

Table with 25 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 準々決勝, 試合時間: 03時間12分, 試合番号: 25. Teams: 環太平洋大学, 日本体育大学. Results: 環太平洋大学 0-4, 日本体育大学 2-0.

Table with 26 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 準々決勝, 試合時間: 02時間59分, 試合番号: 26. Teams: 中京大学, 福岡大学. Results: 中京大学 0-0, 福岡大学 0-0.

Table with 27 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 準々決勝, 試合時間: 01時間56分, 試合番号: 27. Teams: 高崎経済大学, 東京理科大学. Results: 高崎経済大学 0-2, 東京理科大学 2-1.

Table with 28 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 準々決勝, 試合時間: 01時間58分, 試合番号: 28. Teams: 日本福祉大学, 岐阜聖徳学園大学. Results: 日本福祉大学 0-0, 岐阜聖徳学園大学 1-0.

文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県 メイン会場: 富山県 岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

《記録4号》

Table with 21 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 2回戦, 試合時間: 02時間54分, 試合番号: 21. Teams: 信州大学, 東京理科大学. Results: 信州大学 0-3, 東京理科大学 0-4.

Table with 22 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 2回戦, 試合時間: 01時間50分, 試合番号: 22. Teams: 高知工科大学, 高崎経済大学. Results: 高知工科大学 0-0, 高崎経済大学 1-0.

Table with 23 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 2回戦, 試合時間: 01時間58分, 試合番号: 23. Teams: 西日本工業大学, 日本福祉大学. Results: 西日本工業大学 0-0, 日本福祉大学 1-0.

Table with 24 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 2回戦, 試合時間: 01時間56分, 試合番号: 24. Teams: 中京学院大学, 岐阜聖徳学園大学. Results: 中京学院大学 0-0, 岐阜聖徳学園大学 0-2.

Table with 29 columns: 3rd Day, 2023年09月11日, 準決勝, 試合時間: 02時間21分, 試合番号: 29. Teams: 福岡大学, 環太平洋大学. Results: 福岡大学 0-0, 環太平洋大学 0-0.

Table with 30 columns: 3rd Day, 2023年09月11日, 準決勝, 試合時間: 02時間04分, 試合番号: 30. Teams: 岐阜聖徳学園大学, 高崎経済大学. Results: 岐阜聖徳学園大学 0-0, 高崎経済大学 1-2.

Table with 31 columns: 3rd Day, 2023年09月11日, 決勝, 試合時間: 02時間46分, 試合番号: 31. Teams: 岐阜聖徳学園大学, 環太平洋大学. Results: 岐阜聖徳学園大学 0-0, 環太平洋大学 0-0.

文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県 メイン会場: 富山県 岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

《記録4号》

Table with 25 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 準々決勝, 試合時間: 03時間12分, 試合番号: 25. Teams: 環太平洋大学, 日本体育大学. Results: 環太平洋大学 0-4, 日本体育大学 2-0.

Table with 26 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 準々決勝, 試合時間: 02時間59分, 試合番号: 26. Teams: 中京大学, 福岡大学. Results: 中京大学 0-0, 福岡大学 0-0.

Table with 27 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 準々決勝, 試合時間: 01時間56分, 試合番号: 27. Teams: 高崎経済大学, 東京理科大学. Results: 高崎経済大学 0-2, 東京理科大学 2-1.

Table with 28 columns: 2nd Day, 2023年09月10日, 準々決勝, 試合時間: 01時間58分, 試合番号: 28. Teams: 日本福祉大学, 岐阜聖徳学園大学. Results: 日本福祉大学 0-0, 岐阜聖徳学園大学 1-0.

文部科学大臣杯 第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会を  
振り返って得たもの

環太平洋大学男子ソフトボール部  
主将 高草 昂大

全日本インカレを振り返って得たことは『最後まで諦めない気持ちを持つ』と、ということです。

去年の第57回全日本インカレで自分達は優勝することができました。監督からは2連覇をする権利を持っているのはこのチームだけだ、と新チームが始まってからはいつも言われていました。環太平洋大学は開学以来、優勝を3回しているのですが連覇をしたことはありません。ミーティングで新チームとしての目標を2連覇する事と決めました。新チームとなって自分がキャプテンに指名されたのですが、自分自身、キャプテンの経験がなく就任しての初めての目標が『2連覇する事』と、プレッシャーをすごく感じていました。



去年の大会も試合に出て優勝経験をさせてもらいましたが、4年生の先輩がいたので気負うことなくプレーが出来ていました。今年の大会ではキャプテンとして周りのことが気になってしまい、言い訳になりますが、自分自身のプレーがうまく行かずに結果が出なかったためチームにも迷惑を掛けてしまい連覇に向けて不安な気持ちになっていました。岡山県の全日本総合予選では、10年近く県予選では負けていなかったのですが、クラブチームに負けてしまいました。

このままではインカレ2連覇を目標に挑戦できるチームではないと思いました。その後、すぐにインカレの中国予選がありましたが、チーム全体で気持ちを切り替えて練習に取り組みました。インカレ予選では全ての試合をコールドで勝利するというチーム目標を立てて予選に挑みました。大会では打線が爆発し目標を達成してインカレ中国予選を突破することができました。

7月に西日本インカレがあり、西日本インカレも大会4連覇中で5連覇のかかった大会でした。2回戦の関西大学戦では先制点を取られてしまい後半でやっと追いつきタイブレークに突入。また先に点を取られてしまい、もうダメかと思いましたが、ここで負けていては目標のインカレ2連覇は達成できないと思いチームを鼓舞して逆転し勝利することができました。そのあとは順当の勝ち進み、無事に5連覇を達成し9回目の優勝することができました。

ついに9月に入り全日本インカレ。1回戦、2回戦と順当に勝ち進み、準々決勝では東日本チャンピオンの日本体育大学と対戦して初回にホームランを打たれて2点のビハインドで始まりましたが、序盤に安藝の満塁ホームランで逆転してからはIPUのペースで試合は進み、大きなヤマと思っていた試合を16-8の6回コールドで勝利した勢い付きなんとか決勝戦まで進むことができ、新チームが始まってからずっと言ってきた目標の2連覇があと一步のところまでできました。

決勝戦の相手は岐阜聖徳学園大学。先制点と中押しをされ6回表まで1-3負けていましたが、ここでチーム一体になり3者連続の四球を奪い満塁から尚も粘って押し出し四球で4-3と逆転することができました。正直ここで優勝をしたと思っていたのですが、7回表に4-4と追いつかれてしまいました。7回裏の攻撃でも粘って四球を奪い無死満塁からタイムリーヒットでサヨナラ勝ちをすることができました。

これまで何回も追い込まれ負けるのかな？無理なのかな？と思ったことがありましたが、岡山の総合県予選で負けた事を教訓にチームで練習に取り組み、最後まで諦めずに挑み続けて2連覇を達成することができました。最後まで諦めないこと、経験を積み重ねる事は本当に大切なことだということに気付けた大会でした。



文部科学大臣杯第 58 回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

大会所感

公益財団法人日本ソフトボール協会

記録委員会 本部 享

標記大会は、『『聖地、白熱。』覚悟と渾身の一球がアツいドラマを起こす。』のスローガンのもと、愛知県安城市総合運動公園ソフトボール場を主会場に開催された。ゲリラ豪雨のため日程の変更も余儀なくされる中、優勝経験のある中京大学、IPU・環太平洋大学、園田学園女子大学、初のベスト4進出を果たした山梨学院大学の4チームが準決勝に駒を進めた。

◇準決勝

中京大学 0 1 0 1 0 0 0 2 (中) 浅田、○小泉、成瀬一市川

山梨学院大学 0 0 0 0 0 1 0 1 (山) ●林、田中、手塚一棕梨

㊦ 伊藤 (中) ㊧ 吉田 (山)

中京大学は、2回5番伊藤美紅の左越本塁打で1点を先制。4回には四球で出塁した4番市川愛渚が、盗塁と犠打で三塁に進塁、相手守備の乱れから貴重な2点目を追加した。これに対し山梨学院大学は、6回先頭打者2番河西真奈が一塁手前のバント安打で出塁、犠打と盗塁で三塁に進塁した後、5番松原緑の二塁ゴロの間に生還し1点差に追いついた。両チームとも3人の投手を繰り出す継投策で相手打線を抑えるが、安打2本に抑えられた中京大学が決勝進出を決めた。

◇準決勝

IPU・環太平洋大学 0 0 0 0 0 0 0 0 (環) ●吉村、清水、松村一田村、大西

園田学園女子大学 2 0 0 0 3 0 x 5 (園) ○飯島一長江

㊦ 保谷 (園)

園田学園女子大学は、初回無死一・二塁と好機をつかみ、相手守備の乱れと5番山根葉月の左前安打で2点を先制、幸先のよいスタートを切った。5回には四球で出塁した8番阿出川美夢を2番中川唯の二遊間安打で迎え入れ1点、なおも3番保谷蓮の右越2点本塁打で試合を決定づけた。IPU・環太平洋大学は6回無死満塁と絶好の反撃期を迎えるものの、園田学園、飯島綾香投手に3者連続三振に打ち取られ、涙をのんだ。

◇決勝

中京大学 0 0 3 0 0 0 1 4 (中) ○成瀬一市川

園田学園女子大学 1 0 0 0 0 0 0 1 (園) ●飯島、太田、飯島一長江、平岡、長江

㊧ 保谷

園田学園女子大学は初回1番中野花季が二塁横を抜く安打で出塁、犠打で二塁に進塁した後、3番保谷蓮の左翼線三塁打で生還し先制点を挙げた。

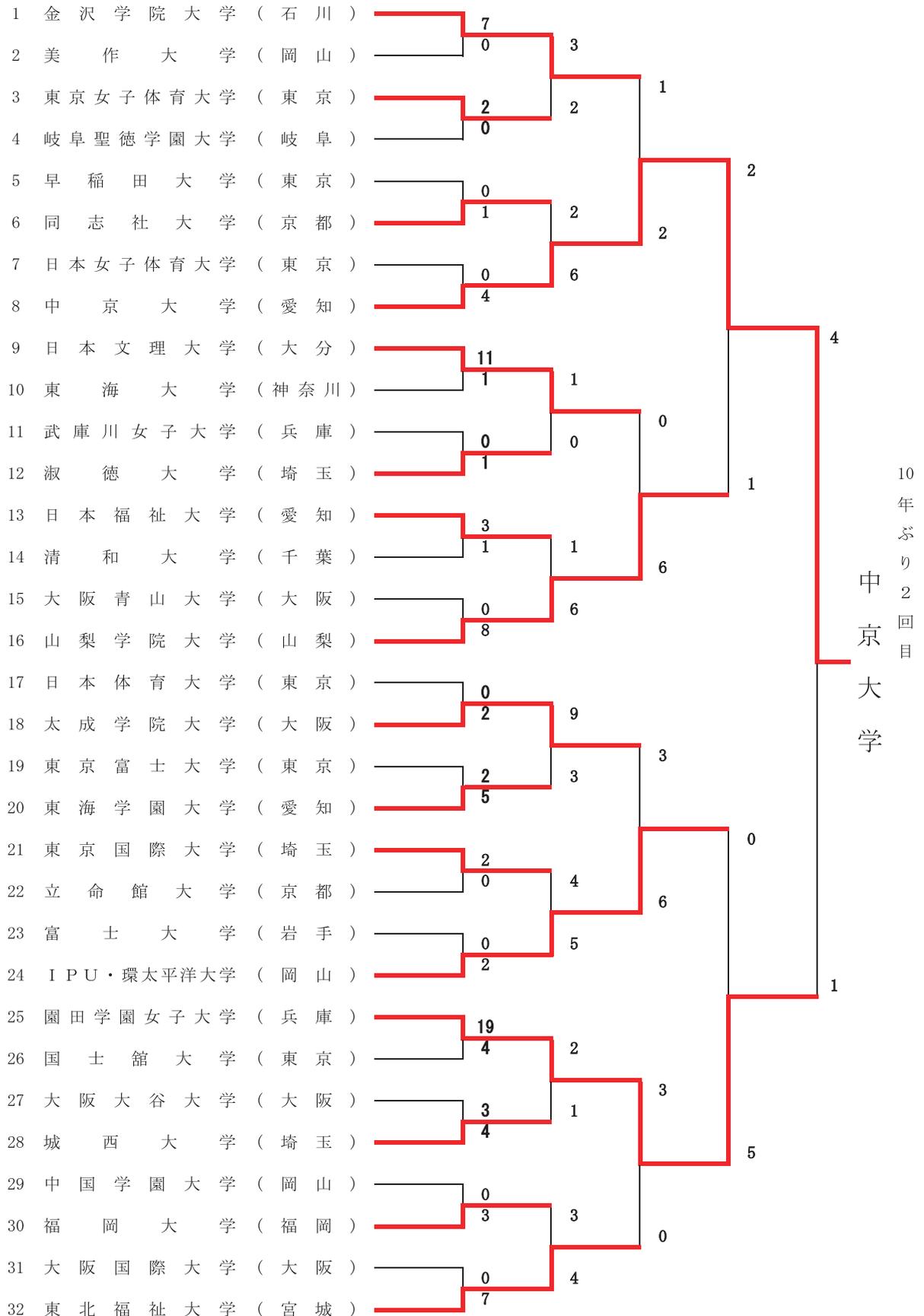
一方、中京大学は3回、四球や相手守備の乱れから無安打で3点を入れ逆転、一気に試合の流れをつかんだ。なおも7回には、代打：榊原深那が遊撃左を抜く安打で出塁、二死後代打：竹田愛佳の適時打でダメ押しの1点を追加した。中京大学打線は、園田学園の継投策の前に2安打に抑えられるが、効果的な攻めで試合を優位に進め、成瀬結衣投手は園田打線を散発6安打に抑える辛抱強いピッチングで10年ぶり2回目の優勝を果たした。



文部科学大臣杯

第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

期 間 令和5年8月25日(金)～8月28日(月)  
 会 場 安城市総合運動公園ソフトボール場・野球場



大会名：文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
 投手の記録 規定投球回数 11回以上

《記録5号順位別》

順位	氏名	チーム名	投球回数	打者	打数	被安打	失点	自責点	犠牲打		与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投球	打撃妨害	投球数	防御率	勝利数	敗戦数	勝利率	試合数
									バント	フライ													
1	山下 千世	金沢学院大学	12 2/3	45	37	5	2	0	4	0	3	1	11	0	1	0	0	176	0.00	0	1	0.000	3
1	木山 陽菜	日本文理大学	12	50	45	10	3	0	3	0	2	0	4	0	0	2	0	152	0.00	1	0	1.000	2
1	手塚 心彩	山梨学院大学	12 1/3	40	39	3	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	151	0.00	2	0	1.000	4
1	鈴木 りりか	東京国際大学	12	51	44	10	0	0	3	0	4	0	5	0	1	0	0	209	0.00	1	0	1.000	2
5	成瀬 結衣	中京大学	23 2/3	91	79	14	2	1	4	0	8	0	27	0	1	0	0	360	0.30	2	0	1.000	5
6	湯田 結那	淑徳大学	15 2/3	54	48	3	1	1	2	0	4	0	22	0	1	0	0	232	0.45	1	1	0.500	2
7	高橋 音森	城西大学	15	59	54	13	5	1	2	0	3	0	10	0	0	0	0	232	0.47	1	1	0.500	2
8	小城 遥香	福岡大学	14	55	50	13	2	1	2	0	1	2	16	0	1	0	0	191	0.50	1	1	0.500	2
9	飯島 綾香	園田学園女子大学	29 2/3	121	102	20	8	5	3	0	11	5	21	0	2	1	0	427	1.18	3	1	0.750	5
10	伊藤 瑠莉	日本福祉大学	11 1/3	48	40	13	3	2	5	0	1	2	5	0	1	0	0	155	1.24	1	1	0.500	2
11	吉村 凜	IPU・環太平洋大学	15 1/3	67	63	18	8	7	0	0	2	2	5	1	1	0	0	256	3.20	2	1	0.667	4

大会名：文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
 打撃ベスト30 規定打席数 12打席以上

《記録6号順位別》

順位	補殺	刺殺	失策	守備率	氏名	チーム名	打席	打数	安打	得点	打点	犠牲打		四球	死球	三振	盗塁	残塁	打撃妨害	出塁	打撃率	本塁打	三塁打	二塁打	出塁率	試合数
												バント	フライ													
1	6	2	0	1.000	保谷 蓮	園田学園女子大学	17	15	9	8	7	0	0	2	0	0	4	2	0	11	0.600	1	2	2	0.647	5
2	8	13	0	1.000	河西 真奈	山梨学院大学	14	13	7	5	0	1	0	0	0	0	2	3	0	7	0.538	0	0	0	0.538	4
3	0	7	0	1.000	丸 優希	山梨学院大学	12	10	5	2	1	1	0	1	0	1	1	2	0	6	0.500	0	0	1	0.545	4
3	6	12	1	0.947	椛梨 琳花	山梨学院大学	14	10	5	2	3	0	0	4	0	0	1	1	0	9	0.500	0	1	0	0.643	4
3	0	5	0	1.000	中野 花季	園田学園女子大学	17	16	8	6	0	0	0	1	0	0	2	0	9	0.500	0	0	1	0.529	5	
6	0	6	0	1.000	神林 碧莉子	山梨学院大学	14	11	5	5	1	2	0	1	0	1	1	5	0	6	0.455	0	1	1	0.500	4
6	1	29	0	1.000	松久 歩未	IPU・環太平洋大学	13	11	5	1	1	1	0	1	0	3	0	3	0	6	0.455	0	0	0	0.500	4
6	1	3	0	1.000	中川 唯	園田学園女子大学	16	11	5	4	2	3	0	2	0	0	0	2	0	7	0.455	0	0	0	0.538	5
9	0	7	0	1.000	松原 緑	山梨学院大学	13	12	5	2	4	0	0	1	0	1	1	6	0	6	0.417	0	0	1	0.462	4
10	2	4	0	1.000	児嶋 瞳	IPU・環太平洋大学	14	13	5	1	1	0	0	1	0	3	0	3	0	6	0.385	0	1	0	0.429	4
11	0	3	0	1.000	杉田 百々果	IPU・環太平洋大学	12	9	3	2	0	1	0	2	0	1	2	4	0	5	0.333	0	0	0	0.455	4
12	3	43	0	1.000	山根 葉月	園田学園女子大学	17	13	4	2	7	0	1	3	0	0	1	8	0	7	0.308	1	0	0	0.412	5
13	11	1	1	0.923	吉田 美緒	山梨学院大学	12	10	3	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	4	0.300	0	0	1	0.364	4
14	0	2	0	1.000	平岡 花	園田学園女子大学	17	17	5	1	3	0	0	0	0	0	0	0	5	0.294	0	0	1	0.294	5	
15	13	10	0	1.000	佐々木 桃花	中京大学	14	11	3	1	2	0	0	3	0	3	0	5	0	6	0.273	0	0	1	0.429	5
15	17	9	0	1.000	矢藤 輝羅菜	中京大学	14	11	3	1	1	1	0	2	0	2	1	3	0	5	0.273	0	0	0	0.385	5
17	0	4	0	1.000	井田 純麗	中京大学	18	15	4	1	0	0	0	2	1	2	1	5	0	7	0.267	0	0	0	0.389	5
18	4	2	0	1.000	中込 向日葵	山梨学院大学	16	12	3	3	1	2	1	0	1	2	0	1	0	4	0.250	0	0	0	0.286	4
18	8	8	0	1.000	渡辺 己湖	IPU・環太平洋大学	13	12	3	2	1	0	0	1	0	0	0	6	0	4	0.250	0	0	1	0.308	4
18	16	8	1	0.960	池川 綾香	園田学園女子大学	15	12	3	2	1	0	0	3	0	2	1	4	0	6	0.250	0	0	0	0.400	5
21	0	13	0	1.000	今田 弥里	IPU・環太平洋大学	14	13	3	1	1	1	0	0	0	0	0	3	0	3	0.231	0	0	0	0.231	4
22	1	33	0	1.000	市川 愛渚	中京大学	14	9	2	1	4	0	0	3	2	1	0	0	7	0.222	1	0	0	0.500	5	
23	0	3	0	1.000	本村 夏穂	金沢学院大学	12	10	2	1	1	0	1	1	0	3	0	2	0	3	0.200	0	0	0	0.250	3
23	1	0	0	1.000	竹田 愛佳	中京大学	12	10	2	1	1	0	0	2	0	3	0	1	0	4	0.200	0	0	0	0.333	4
25	1	9	0	1.000	田村 虹月	IPU・環太平洋大学	14	13	2	1	2	0	0	1	0	4	0	1	0	3	0.154	0	0	0	0.214	4
26	0	4	0	1.000	阿出川 美夢	園田学園女子大学	12	10	1	2	0	0	0	2	0	4	1	1	0	3	0.100	0	0	0	0.250	5
27	3	30	0	1.000	中込 楓	山梨学院大学	12	11	1	0	3	0	1	0	0	0	0	3	0	1	0.091	0	0	0	0.083	4
28	11	12	0	1.000	繁田 幸奈	中京大学	17	15	1	0	0	1	0	1	0	2	0	4	0	2	0.067	0	0	0	0.125	5
28	13	11	1	0.960	田村 涼	園田学園女子大学	15	15	1	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	1	0.067	0	0	0	0.067	5

文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地: 愛知県安城市 メイン会場: デンゾープライトベガススタジアムA球場 《記録4号》

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間26分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
製作大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	得点差コールド	
金沢学院大学		0	0	1	3	3x										7		
先攻 (投手) ●村田 瑞希, 岡村 結衣菜 (捕手) 村上 純明																		
後攻 (投手) ○中嶋 花実, 山下 千世 (捕手) 江藤 楓果, 角亨 優																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		
後攻 (本塁打) (三塁打) 中尾 友香, 高橋 吉 (二塁打) 神谷 優衣																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間38分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
岐阜聖徳学園大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
東京女子体育大学		1	1	0	0	0	0	x								2		
先攻 (投手) ●辻本 莉央, 村上 葉月, 高阪 咲良, 木田 紳心, 川原 綾花 (捕手) 荒木 めく																		
後攻 (投手) ○増岡 安月 (捕手) 中山 彩																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 02時間14分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
早稲田大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
同志社大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1x					1		
先攻 (投手) ●新宮 怜美 (捕手) 原田 理子																		
後攻 (投手) 櫻田 菜香, 入口 もえ, ○和田 凜 (捕手) 前納 果凛																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 02時間01分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
中京大学		0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
日本女子体育大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
先攻 (投手) 成瀬 結衣, ○櫻庭 方藤, 小泉 春奈 (捕手) 市川 愛希, 朝倉 彩海, 市川 愛希																		
後攻 (投手) ●磯山 明日香, 佐藤 彩夏, 高橋 くるみ, 磯山 明日香 (捕手) 林 純花																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 三浦 麻衣, 服部 夏実																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		

特記事項

文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地: 愛知県安城市 メイン会場: デンゾープライトベガススタジアムA球場 《記録4号》

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 02時間11分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
日本体育大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
太成学院大学		0	0	2	0	0	0	0	x							2		
先攻 (投手) ●丸山 美海, 荒川 めい, 持田 みなみ (捕手) 富子 佳也																		
後攻 (投手) 深川 愛実, 木立 彩夏, ○小林 彩絵 (捕手) 恒松 郁奈																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 高橋 舞里																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 宇川 百華, 恒松 郁奈																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間48分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
東京富士大学		0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
東海学園大学		0	2	3	0	0	0	x								5		
先攻 (投手) ●小井沼 美月, 上原 理瑛 (捕手) 野村 映実																		
後攻 (投手) 志田 美月, ○田中 真矢 (捕手) 橋本 花音																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 小野寺 綺美																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間34分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
立命館大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
東京国際大学		1	0	0	0	1	0	x								2		
先攻 (投手) 村田 響, ●岡本 雪乃 (捕手) 塩谷 真優																		
後攻 (投手) ○鈴木 ひとひら (捕手) 新田 愛実																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		
後攻 (本塁打) 有田 麗 (三塁打) (二塁打) 上田 百華, 灘美 日奈子																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間32分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
富士大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
IPU・環太平洋大学		0	0	1	0	0	1	x								2		
先攻 (投手) ●本城 咲良 (捕手) 伊田 楓菜																		
後攻 (投手) ○百村 虹月 (捕手) 田村 虹月																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 児嶋 瞳																		

特記事項

文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地: 愛知県安城市 メイン会場: デンゾープライトベガススタジアムA球場 《記録4号》

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間59分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
日本文理大学		0	2	1	2	0	6								11	得点差コールド		
東海大学		0	0	0	0	0	0	1							1			
先攻 (投手) ○鶴田 美優, 狩口 彩瑛, 野田 みさき (捕手) 柏木 みさ, 泉野 美音																		
後攻 (投手) ●佐々木 聖哉, 山下 芽生, 富田 芽里, 佐々木 聖哉, 河藤 凜 (捕手) 兵藤 月花																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 岸川 真菜, 高田 明日花, 山田 朝々夏																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 兵藤 月花																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間09分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
武蔵川女子大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
諏訪大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1x					1		
先攻 (投手) ●三谷 柚琴 (捕手) 土岐 規美香																		
後攻 (投手) ○浦田 結那 (捕手) 千葉 風子																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間41分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
清和大学		0	0	0	0	0	0	0	1						1			
日本福祉大学		0	0	2	1	0	0	0	0	x					3			
先攻 (投手) ●大橋 歩実, 金子 歩, 後藤 凜希 (捕手) 堀江 舞那																		
後攻 (投手) ○伊藤 瑞莉 (捕手) 洞口 舞																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 佐々木 萌																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間27分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
大阪青山大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
山梨学院大学		4	0	1	3	x									8	得点差コールド		
先攻 (投手) ●神崎 愛子, 高橋 なつみ, 工藤 里子, 沖崎 愛子 (捕手) 川原 理香																		
後攻 (投手) 林 里奈, ○手塚 心彩 (捕手) 榎梨 麻花																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		
後攻 (本塁打) (三塁打) 神林 碧莉子, 榎梨 麻花 (二塁打) 神林 碧莉子, 田中 愛花, 丸 優希																		

特記事項

文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地: 愛知県安城市 メイン会場: デンゾープライトベガススタジアムA球場 《記録4号》

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 02時間05分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
園田学園女子大学		0	0	2	6	0	11								19	得点差コールド		
国土師大学		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4			
先攻 (投手) 飯島 綾香, ○太田 瑠子 (捕手) 長江 乃愛, 平岡 花																		
後攻 (投手) ●田澤 楓菜 (捕手) 岩田 有未																		
先攻 (本塁打) 山根 葉月 (三塁打) 保谷 蓮 (二塁打) 保谷 蓮																		
後攻 (本塁打) (三塁打) 立川 野乃花 (二塁打) 吉江 和果奈																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 02時間09分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
大阪大谷大学		0	0	0	0	1	0	0	2						3			
城西大学		0	0	0	0	0	0	1	3x						4			
先攻 (投手) ●杉本 詩菜 (捕手) 竹内 鈴華																		
後攻 (投手) ○高橋 音森 (捕手) 佐々木 遥																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 竹崎 和奏																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 川原 悠莉																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間32分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
福岡大学		0	1	0	0	1	1	0							3			
中国学園大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
先攻 (投手) ○小城 遥香 (捕手) 堀海 彩花																		
後攻 (投手) ●高橋 実華, 竹下 実織 (捕手) 豊高 紗弥																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 島仲 結愛																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 竹下 実織																		

特記事項

第1日	2023年08月25日														1回戦	試合時間: 01時間06分	試合番号	備考
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
大阪国際大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
東北福祉大学		2	0	1	1	3x									7	得点差コールド		
先攻 (投手) ●黒徒 萌 (捕手) 黒山 葵																		
後攻 (投手) ○村山 莉南 (捕手) 和田 梨理花																		
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																		
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 杉原 あみ																		

特記事項

文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：愛知県安城市 メイン会場：デンソーブライトヘガサスタジアムA球場 《記録4号》

第2日	2023年08月26日		2回戦		試合時間： 01時間54分														試合番号	17	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
東海学院大学		0	0	0	0	0	0	2	0								2				
金沢学院大学		0	1	0	0	2	0	x									3				
先攻 (投手) ●美井 柚衣 (捕手) 中山 彩																					
後攻 (投手) ○中野 花菜, 山下 千世 (捕手) 江藤 楓果																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
後攻 (本塁打) (三塁打) 倉橋 李歩 (二塁打) 西原 千尋																					
特記事項																					

第2日	2023年08月26日		2回戦		試合時間： 02時間12分														試合番号	18	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
中京大学		0	0	6	0	0	0	0	0								6				
同志社大学		0	0	0	1	1	0	0									2				
先攻 (投手) 成瀬 結衣, ○櫻庭 万純, 本本 すず, 浅田 理沙, 小泉 杏奈 (捕手) 市川 愛浩, 朝倉 彩海, 市川 愛浩																					
後攻 (投手) ●藤田 菜音, 入口 毛え, 和田 凜 (捕手) 前納 果濃																					
先攻 (本塁打) 市川 愛浩 (三塁打) (二塁打) 日比野 佑香, 柳原 深那, 佐々木 桃花																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
特記事項																					

第2日	2023年08月26日		2回戦		試合時間： 01時間37分														試合番号	19	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
淑徳大学		0	0	0	0	0	0	0									0				
日本文理大学		0	0	0	0	0	1	x									1				
先攻 (投手) ●湯田 結那, 奥野 心 (捕手) 千葉 風子																					
後攻 (投手) ○山本 陽菜 (捕手) 相木 みく																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 岩永 優衣里, 早田 真愛																					
特記事項																					

第2日	2023年08月26日		2回戦		試合時間： 02時間09分														試合番号	20	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
山梨学院大学		1	0	1	0	0	0	4									6				
日本福祉大学		0	0	0	1	0	0	0									1				
先攻 (投手) 林 里奈, ○田中 愛花, 手塚 心彩 (捕手) 椋梨 珠花																					
後攻 (投手) ●伊藤 瑠莉, 川上 莉菜乃, 伊藤 瑠莉 (捕手) 河口 舞																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 出澤 優南																					
特記事項																					

文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：愛知県安城市 メイン会場：デンソーブライトヘガサスタジアムA球場 《記録4号》

第2日	2023年08月26日		準々決勝		試合時間： 02時間52分														試合番号	25	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
中京大学		0	0	0	0	0	0	0	1	0	1						2				
金沢学院大学		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0						1				
先攻 (投手) ○成瀬 結衣 (捕手) 市川 愛浩																					
後攻 (投手) ●山下 千世 (捕手) 江藤 楓果, 角平 優																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
特記事項 25日、雷雨により7回裏一死にて中断。降雨のため9回裏二死1ボール1ストライクでサスペンデッドゲーム26日、再開。																					

第2日	2023年08月26日		準々決勝		試合時間： 02時間07分														試合番号	26	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
山梨学院大学		2	0	1	1	0	0	2									6				
日本文理大学		0	0	0	0	0	0	0									0				
先攻 (投手) 林 里奈, 田中 愛花, ○手塚 心彩 (捕手) 椋梨 珠花																					
後攻 (投手) ●鶴田 美優, 山本 陽菜 (捕手) 相木 みく																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 松原 緑																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
特記事項																					

第2日	2023年08月26日		準々決勝		試合時間： 02時間12分														試合番号	27	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
IPU・環太平洋大学		0	0	5	0	1	0	0x									6	降雨コールド			
太成学院大学		0	1	2	0	0	0	0									3				
先攻 (投手) 吉村 凜, ○清水 咲良 (捕手) 田村 虹月																					
後攻 (投手) ●深川 愛実, 永立 彩愛, 小林 彩絵 (捕手) 恒松 郁奈																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 小寺 由愛 (二塁打) 渡辺 己湖																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 藤田 直																					
特記事項																					

第2日	2023年08月26日		準々決勝		試合時間： 01時間31分														試合番号	28	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
園田学園女子大学		0	0	0	1	0	2	0									3				
東北福祉大学		0	0	0	0	0	0	0									0				
先攻 (投手) ○飯島 綾香 (捕手) 長江 乃愛																					
後攻 (投手) ●飯島 小智美, 大江 真尋, 村山 莉瑚, 龍崎 小智美 (捕手) 和田 梨理花																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 中野 花季, 平岡 花																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
特記事項																					

文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：愛知県安城市 メイン会場：デンソーブライトヘガサスタジアムA球場 《記録4号》

第2日	2023年08月26日		2回戦		試合時間： 02時間08分														試合番号	21	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
東海学院大学		0	1	1	0	1	0	0									3				
太成学院大学		3	5	0	0	0	1	x									9				
先攻 (投手) ●志田 美月, 橋本 凜, 原田 唯, 田中 夢実 (捕手) 橋本 花音																					
後攻 (投手) ○深川 愛実, 永立 彩愛, 亀井 里菜, 出口 麻耶, 小林 彩絵 (捕手) 恒松 郁奈																					
先攻 (本塁打) 小林 楓 (三塁打) (二塁打) 橋本 花音																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 藤田 直, 渡辺 愛華, 村田 二葉																					
特記事項																					

第2日	2023年08月26日		2回戦		試合時間： 02時間15分														試合番号	22	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
東京国際大学		0	0	0	0	0	0	0									4				
IPU・環太平洋大学		0	0	0	0	0	4	0	1x								5				
先攻 (投手) 鈴木 りりか, ●浅間 珠理 (捕手) 新田 愛実																					
後攻 (投手) 松村 麗佳, 清水 咲良, ○吉村 凜 (捕手) 大西 優芽, 田村 虹月																					
先攻 (本塁打) (三塁打) 上田 百華, 瀧美 日奈子 (二塁打)																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
特記事項																					

第2日	2023年08月26日		2回戦		試合時間： 01時間52分														試合番号	23	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
園田学園女子大学		0	0	0	2	0	0	0									2				
城西大学		0	0	0	0	1	0	0									1				
先攻 (投手) ○飯島 綾香 (捕手) 長江 乃愛																					
後攻 (投手) ●高橋 音森 (捕手) 佐々木 遥																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 保谷 蓮																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 鎌田 志菜																					
特記事項																					

第2日	2023年08月26日		2回戦		試合時間： 02時間18分														試合番号	24	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
東北福祉大学		0	1	0	0	2	0	0	1								4				
福岡大学		0	0	2	0	1	0	0									3				
先攻 (投手) 村山 莉瑚, 大江 真尋, ○龍崎 小智美 (捕手) 和田 梨理花																					
後攻 (投手) 小坂 遥香, 行武 唯華, ●小坂 遥香 (捕手) 尾海 彩花																					
先攻 (本塁打) (三塁打) 高橋 秋華 (二塁打) 高橋 秋華																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 野田 小温																					
特記事項																					

文部科学大臣杯第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：愛知県安城市 メイン会場：デンソーブライトヘガサスタジアムA球場 《記録4号》

第3日	2023年08月27日		準決勝		試合時間： 02時間04分														試合番号	29	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
中京大学		0	1	0	1	0	0	0									2				
山梨学院大学		0	0	0	0	0	0	1	0								1				
先攻 (投手) 浅田 理沙, ○小泉 杏奈, 成瀬 結衣 (捕手) 市川 愛浩																					
後攻 (投手) ●林 里奈, 田中 愛花, 手塚 心彩 (捕手) 椋梨 珠花																					
先攻 (本塁打) 伊藤 美紅 (三塁打) (二塁打)																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 吉田 美緒																					
特記事項																					

第3日	2023年08月27日		準決勝		試合時間： 01時間39分														試合番号	30	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
IPU・環太平洋大学		0	0	0	0	0	0	0									0				
園田学園女子大学		2	0	0	0	3	0	x									5				
先攻 (投手) ●吉村 凜, 清水 咲良, 松村 麗佳 (捕手) 田村 虹月, 大西 優芽																					
後攻 (投手) ○飯島 綾香 (捕手) 長江 乃愛																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 保谷 蓮																					
特記事項																					

第3日	2023年08月28日		決勝		試合時間： 02時間05分														試合番号	31	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考				
中京大学		0	0	3	0	0	0	1									4				
園田学園女子大学		1	0	0	0	0	0	0									1				
先攻 (投手) ○成瀬 結衣 (捕手) 市川 愛浩																					
後攻 (投手) ●飯島 綾香, 太田 翔子, 飯島 綾香 (捕手) 長江 乃愛, 平岡 花, 長江 乃愛																					
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																					
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 保谷 蓮																					
特記事項 中京大学 10年ぶり2回目優勝																					

## 「第 58 回全日本インカレを振り返って」

中京大学 4年 市川 愛渚

文部科学大臣杯第 58 回全日本大学女子ソフトボール選手権大会を振り返ると、それ以前の 4 年間の思いや経験が甦ってきます。私たち中京大学女子ソフトボール部は、コロナ禍の 2020 年からビジョンに「希望～明日世界が滅亡しようとも私はリンゴの木を植える～」を掲げ、どんな状況、環境でもソフトボールを通して希望を持って、希望を与える存在になるために活動してきました。また今年は「What's Important Now 今やるべきことをやる」をスローガンとして、チーム 50 人の大所帯で活動してきました。



50 人もの部員がいるため、同じ方向を向いてチームを運営することは容易なことではありませんでした。良い運営をするためまずは、下級生でも上級生でも関係なく意見を言えるような環境を作ることとを目的として、一人ひとりが練習の意図を理解し、自分のパフォーマンスに繋げることができるように、主体的に練習に取り組むことや学年を超えた繋がりを大切にしてきました。具体的には、指示や練習のメニューの提示が、指導者やキャプテン、上級生からの一方通行だけで終わらないために、ポジションリーダーに下級生を指名して運営をしたり、各ポジションをまとめてチーム全体の課題を出して議論したりしました。学年に関係なく、またレギュラーだけなど一部の選手だけが意識的、技術的に高いのではなく、チーム全体がレベルアップして、誰が試合に出ても中京大学女子ソフトボール部として戦えるように、主体性と繋がりを大切にしてきました。

また、私自身はキャプテンとしてグラウンドで発言するだけではなく、日常でのコミュニケーションを特に大切にしてきました。部員の多くが寮生活ということもあり選手同士が日常で関わる時間も長く、自分から積極的にコミュニケーションをとることを意識しました。グラウンド以外の状況では、グラウンドとは違った雰囲気会話をしたり、下級生と一緒にご飯を食べる機会を増やしたりしました。また部活動の時間を割いて、レクリエーションを定期的に取り入れるたりすることで学年を超えた関わりが多くなる取り組みを行い、結果としてコミュニケーションが増えるきっかけになっていたと思います。

今年の全日本インカレは、昨年負けた金沢学院大学さん、そして、新チームが始まってから熊野市でのオープン大会や西日本インカレで敗れている園田学園女子大学さんにリベンジすることができました。この 2 つのチームと全日本インカレで当たる可能性を知ったときはリベンジできる良いチャンスだとワクワクした気持ちになったのを覚えています。金沢学院大学さんとの試合は、二時間の待機を経てタイブレークのサスペンデッドゲームとなりました。体力的にも精神的にも限界の中、最後まで中京大学女子ソフトボール部として戦えたことは、私のソフトボール人生の中でかけがえの無い経験となりました。園田学園女子大学さんとの試合では、リードはしていたものの 7 回までヒットがなく、最後まで苦しい展開となりました。ここでも、今年スローガンに掲げた「What's Important Now 今やるべきことをやる」の思いをプレーで示せたことが、勝ち切れた要因であったと思います。その他の三試合でも、思い通りに行かない、苦しい展開が数々ありましたが、ミッションにある「逆境に負けない本当の強さ」をチーム 50 人全員で体現することができたのではないかと思います。

大学女子ソフトボールは、お互いがインカレ優勝という目標を持ち続けながら高めあっていける素晴らしいスポーツだと思います。このような環境は当たり前ではないと思いますし、コロナ禍で大会がなくなったことを経験している私たちだからこそ、大学女子ソフトボールができることに感謝の気持ちを強く持たなければならないと思います。学生スポーツは、実施している学生だけで完結するのではなく、大会関係者や地域の方々、指導者やスタッフの方々、そして保護者の方々の理解と努力と途方もない時間の上に成り立っているのだと思います。多くの方たちのご尽力の上にプレーできているということ、強い実感とともに感じることもできた、本当にかげがえの無い 4 年間でした。私は、このような経験ができたことに感謝し、これからのソフトボール人生に繋がっていきたいと思います。このような執筆の機会をいただき誠にありがとうございました。これからも大学女子ソフトボールの益々の発展を祈念しております。



## 第 38 回東日本大学男子ソフトボール選手権大会

### 総評

東日本大学ソフトボール連盟

会長 高橋 伸次

今大会は、令和 5 年 7 月 8 日（土）～9 日（日）、群馬県館林市・高根運動場および大泉スバル運動公園において開催されました。参加したチームの内訳は東京地区 7、関東地区 7、北信越地区 2 の 16 チームでした。昨年度は 13 チーム、一昨年度は 11 チームの参加でしたので、コロナ禍の影響から少しずつ脱却しつつあるように思われます。しかしながら、昨年度大会に続き今大会においても北海道・東北地区からの参加がなく、東日本インカレとしての形を作れていないことは今後の大きな課題だと思われます。大会としての価値や権威を高めるためにも、フリーエントリーの参加形式を見直す時期にきているように感じます。



さて、今大会で特筆すべきは、東京や関東地区のチームが相対的に優位と目されている中で北信越地区の富山大学と信州大学が初戦を突破し 8 強に進出したことです。メンバーの数にも十分なものがああり、まとまりのある投手を中心として投打のバランスの良さがうかがわれ、チームとしての将来性を感じることができました。残念ながら 4 強に食い込むことはできませんでしたが、北信越をリードする存在として今後大いに期待したいと思います。

4 強には、東京というより全国の 3 強と言っても過言ではない日体大、国士館、早稲田と関東地区の高崎経済大学が進出しました。関東地区を代表する好投手・中島投手を擁する国際武道大学は、早稲田の稲垣投手にノーヒットノーランに抑えられ 4 強を阻まれました。

準決勝は対照的なゲーム展開となりました。日体大に挑んだ高崎経済でしたが、初回から 9 安打を集められ、そこに失策も絡んで 13 失点し 3 回で終了。高崎経済にとって王者との力の差をまざまざと見せつけられた試合となりました。一方、国士館対早稲田戦は、国士館：大坪投手、早稲田：稲垣両投手の投げ合いで 1 点を争う好ゲームとなりました。お互い譲らないなか、6 回にエンドランで 1 点をもぎ取った国士館が辛勝しました。

決勝戦は、日体大：野本投手、国士館・大坪投手のエース対決となりました。初回表、打ち取った飛球を太陽が目に入った二塁手が落球し（記録は安打）2 失点、これが最後まで響いた試合となりました。こうしたアクシデントにも動揺することなく、これ以降、強力打線を無失点に抑えた大坪投手の力投は圧巻でした。他方、野本投手も丁寧かつ力感あふれる投げっぷりでチャンスを与えず、失点は最終回のソロホームランのみでした。長年の好敵手の両チーム、全日本インカレでの頂上決戦の再現が観られる予感がしています。

今大会においても、群馬県ソフトボール協会や館林市ソフトボール協会の皆様には、本当にお世話になりました。重ね重ね御礼申し上げます。





優勝：日本体育大学（4年連続17回目）



準優勝：国士舘大学



# 第38回 東日本大学男子ソフトボール選手権大会 大会結果

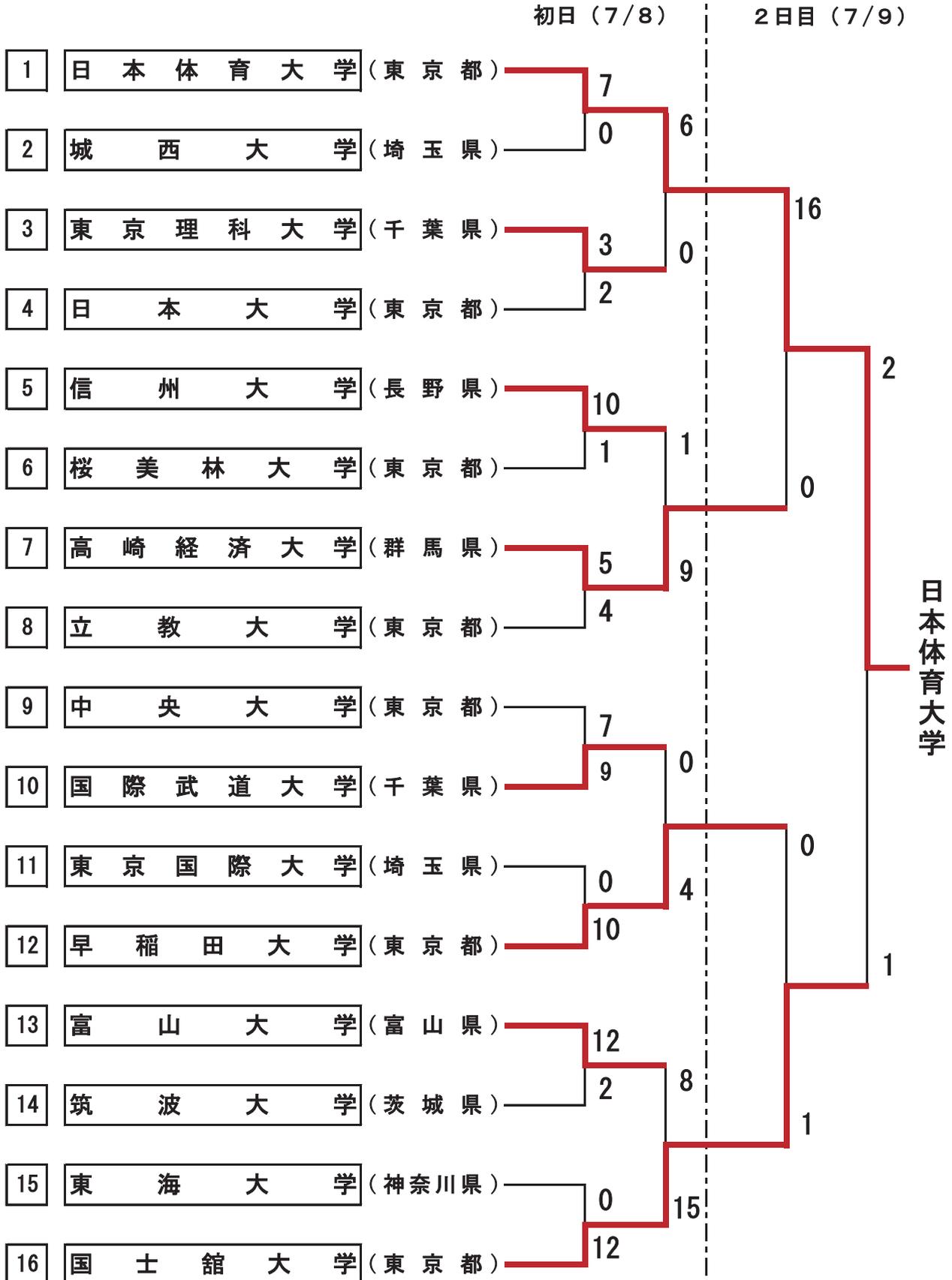
期 日 令和5年7月8日(土)～9日(日)

会 場 A・B・C球場：高根運動場（館林市高根町750番地先）

D球場：大泉スバル運動公園（群馬県邑楽郡大泉町一丁目3086）

試合開始：初 日 ①9:00～ ②11:30～ ③14:00～

予定時刻：2日目 ①9:00～ ②11:30～



第38回 東日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：群馬県 メイン会場：館林市高快速運動場 A球場

《記録4号》

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第1回戦, 試合時間: 01時間44分, 試合番号 1, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 城西大学 and 日本体育大学.

先攻 (投手) ●大竹 雅也,佐藤 悠,山内惟久夏 (捕手) 池田 亮介,野澤 日向

後攻 (投手) 新井 大和,○大島 烈士 (捕手) 藤原 琢磨

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 後攻 (本塁打) 古敷谷 宗 (三塁打) (二塁打) 名倉 寛太②,渋谷 卓

特記事項

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第1回戦, 試合時間: 01時間41分, 試合番号 2, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 日本大学 and 東京理科大学.

先攻 (投手) ●大坪 拓斗 (捕手) 齋木 康多

後攻 (投手) ○秋山 颯 (捕手) 鷺澤 尊

先攻 (本塁打) 吉岡 大雅 (三塁打) 齋木 康多 (二塁打)

後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

特記事項

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第1回戦, 試合時間: 02時間11分, 試合番号 3, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 信州大学 and 桜美林大学.

先攻 (投手) ○小川 大貴 (捕手) 小林 大輝

後攻 (投手) ●船越 光貴,中島 岳大 (捕手) 大山 泰平

先攻 (本塁打) 小林 大輝 (三塁打) 池戸 大智 (二塁打) 田端 祥人

後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 舟木 博人

特記事項

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第1回戦, 試合時間: 01時間55分, 試合番号 4, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 立教大学 and 高崎経済大学.

先攻 (投手) ●古川 司,坂入 康太 (捕手) 市川 大輝

後攻 (投手) ○西田 翔琉 (捕手) 平山 駿太

先攻 (本塁打) (三塁打) 市川 大輝 (二塁打) 中村 倫大

後攻 (本塁打) 平山 駿太 (三塁打) 梅本 功大 (二塁打)

特記事項

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第2回戦, 試合時間: 02時間04分, 試合番号 9, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 東京理科大学 and 日本体育大学.

先攻 (投手) ●秋山 颯,高梨 大智 (捕手) 鷺澤 尊

後攻 (投手) ○芝 夢太郎,野本 誠士 (捕手) 藤原 琢磨

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 後攻 (本塁打) 津田 龍輝 (三塁打) (二塁打) 新井 優太,藤原 琢磨

特記事項

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第2回戦, 試合時間: 01時間12分, 試合番号 10, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 信州大学 and 高崎経済大学.

先攻 (投手) ●小川 大貴,中山 隼也 (捕手) 小林 大輝

後攻 (投手) ○西田 翔琉 (捕手) 平山 駿太

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 藤本 大輝

後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 平山 駿太

特記事項

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第2回戦, 試合時間: 01時間59分, 試合番号 11, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 国際武道大学 and 早稲田大学.

先攻 (投手) ●中島 颯,小林 旺雅 (捕手) 菅野 博和

後攻 (投手) ○稲垣 拓朗 (捕手) 佐藤 希弥

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 渡邊 幸太

特記事項 船越翔一ノースヒットノースラン 三振: 11、内野ゴロ: 8、外野フライ: 1、盗塁: 1

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第2回戦, 試合時間: 02時間04分, 試合番号 12, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 国士館大学 and 富山大学.

先攻 (投手) ○大坪 優也,由岐 修一郎,高原 和志,寺田 祥介 (捕手) 井関 綾人,林 隆平,井関 義人

後攻 (投手) ●千葉 悠哉,松本 宙大 (捕手) 大崎 浩平

先攻 (本塁打) 大坪 優也,井関 綾人,渋谷 伶 (三塁打) 安池 陸,中島 萌朗,佐藤 麻輝 (二塁打)

後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 林 朋成 (二塁打) 林 朋成

特記事項 井関綾人: 演習本塁打

第38回 東日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：群馬県 メイン会場：館林市高快速運動場 A球場

《記録4号》

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第1回戦, 試合時間: 02時間16分, 試合番号 5, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 中央大学 and 国際武道大学.

先攻 (投手) ●菊岡 哉優,金子 拓未 (捕手) 茂原 大登

後攻 (投手) 菊岡 哉優,星 昇陽 (捕手) 菅野 博和,吉橋 勇征

先攻 (本塁打) 菊岡 哉優,星 昇陽 (三塁打) (二塁打)

後攻 (本塁打) 田嶋 康太 (三塁打) 高橋 亮斗 (二塁打) 中島 翼

特記事項 田嶋康太: 演習本塁打

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第1回戦, 試合時間: 01時間12分, 試合番号 6, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 東京国際大学 and 早稲田大学.

先攻 (投手) ●高畑 晴輝 (捕手) 阿部 翔太

後攻 (投手) ○川崎 晴 (捕手) 山崎祐太郎

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

特記事項

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第1回戦, 試合時間: 01時間16分, 試合番号 7, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 筑波大学 and 富山大学.

先攻 (投手) ●萩野 恭輔,奥田 隆人 (捕手) 萩原 郁特

後攻 (投手) ○松本 宙大 (捕手) 大崎 浩平,北山 誠次

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 松本 宙大

特記事項

Table with 11 columns: 第1日, 2023年07月08日, 第1回戦, 試合時間: 01時間06分, 試合番号 8, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 東海大学 and 国士館大学.

先攻 (投手) ●坂川 健太 (捕手) 山本 勘太

後攻 (投手) ○大坪 優也,由岐 修一郎 (捕手) 井関 綾人,林 隆平

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

後攻 (本塁打) 井関 綾人② (三塁打) (二塁打) 中島 萌朗

特記事項

Table with 11 columns: 第2日, 2023年07月09日, 準決勝戦, 試合時間: 01時間00分, 試合番号 13, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 高崎経済大学 and 日本体育大学.

先攻 (投手) ●西田 翔琉 (捕手) 平山 駿太

後攻 (投手) 新井 大和,○吉本 和央 (捕手) 藤原 琢磨,谷村 莉月

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

後攻 (本塁打) 福田 楓士,谷村 莉月 (三塁打) (二塁打) 我知古海斗

特記事項

Table with 11 columns: 第2日, 2023年07月09日, 準決勝戦, 試合時間: 02時間01分, 試合番号 14, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 国士館大学 and 早稲田大学.

先攻 (投手) ○大坪 優也 (捕手) 井関 綾人

後攻 (投手) ●稲垣 拓朗 (捕手) 佐藤 希弥

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

特記事項

Table with 11 columns: 第2日, 2023年07月09日, 決勝戦, 試合時間: 01時間49分, 試合番号 15, チーム名, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 合計, 備考. Includes teams like 日本体育大学 and 国士館大学.

先攻 (投手) ○野本 誠士 (捕手) 藤原 琢磨

後攻 (投手) ●大坪 優也 (捕手) 井関 綾人

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 古敷谷 宗

後攻 (本塁打) 安池 陸 (三塁打) (二塁打) 渋谷 伶

特記事項

## 第 38 回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

### 総評

東日本大学ソフトボール連盟

理事長 舟山 健一

第 38 回東日本大学女子ソフトボール選手権大会は、令和 5 年 7 月 8 日（土）～10 日（月）、山梨県北杜市にある長坂総合スポーツ公園、武川運動公園において、東日本大学ソフトボール連盟（以下、本連盟）主催、山梨県ソフトボール協会（以下、山梨県協会）、北杜市ソフトボール協会（以下、北杜市協会）主管のもとで開催されました。

まずは、本大会の開催・運営に際し、多大なるご尽力を賜りました山梨県協会、北杜市協会の皆様に連盟を代表し心より御礼申し上げます。

本大会は、時折雨もありましたが、ほぼ予定通り大会を進めることが出来ました。簡単に戦評を述べさせていただきます。

#### 【戦評】

準決勝より、戦評を行いたい。準決勝は山梨学院大学と東京女子体育大学、日本体育大学と東京国際大学で行われた。山梨学院大学と東京女子体育大学戦、東京女子体育大学は 2 回に 1 点を先制しその 1 点を守り切り勝利した。山梨学院大学はチャンスを作るものの、東京女子体育大学先発永井の緩急とコースを丁寧に突く投球の前に得点には至らなかった。

日本体育大学と東京国際大学戦は、2 回に東京国際大学が先制した後、両チーム点を「取り、取り返され」を繰り返した末、3 対 2 で日本体育大学が勝利した。東京国際大学打線も最後まで攻撃の手を緩めなかったが、日本体育大学持田、丸山、大島の 3 投手による粘りの投球に一步及ばなかった。

決勝は、日本体育大学と東京女子体育大学で行われた。日本体育大学は初回、連投となる東京女子体育大学永井を伊波、笠原の安打等で攻め先制した。日本体育大学はその後も攻撃の手を緩めず、伊波の本塁打の他、山本、横山、佐藤の長打等で計 8 点を奪い勝利し、5 年ぶり 19 回目の優勝を飾った。東京女子体育大学も終盤、走者をためるもあと一本が出ずに反撃は及ばなかった。決勝戦は、「決勝」の名にふさわしい好ゲームであった。優勝した日本体育大学、準優勝の東京女子体育大学は走攻守において高いレベルでバランスが取れており、8 月 25 日から開催される全日本大学選手権での躍進が大いに期待できるチームであったことを申し添えたい。

改めて、本大会の開催・運営に際しご協力賜りました多くの皆様に心より御礼申し上げます。



優 勝：日本体育大学



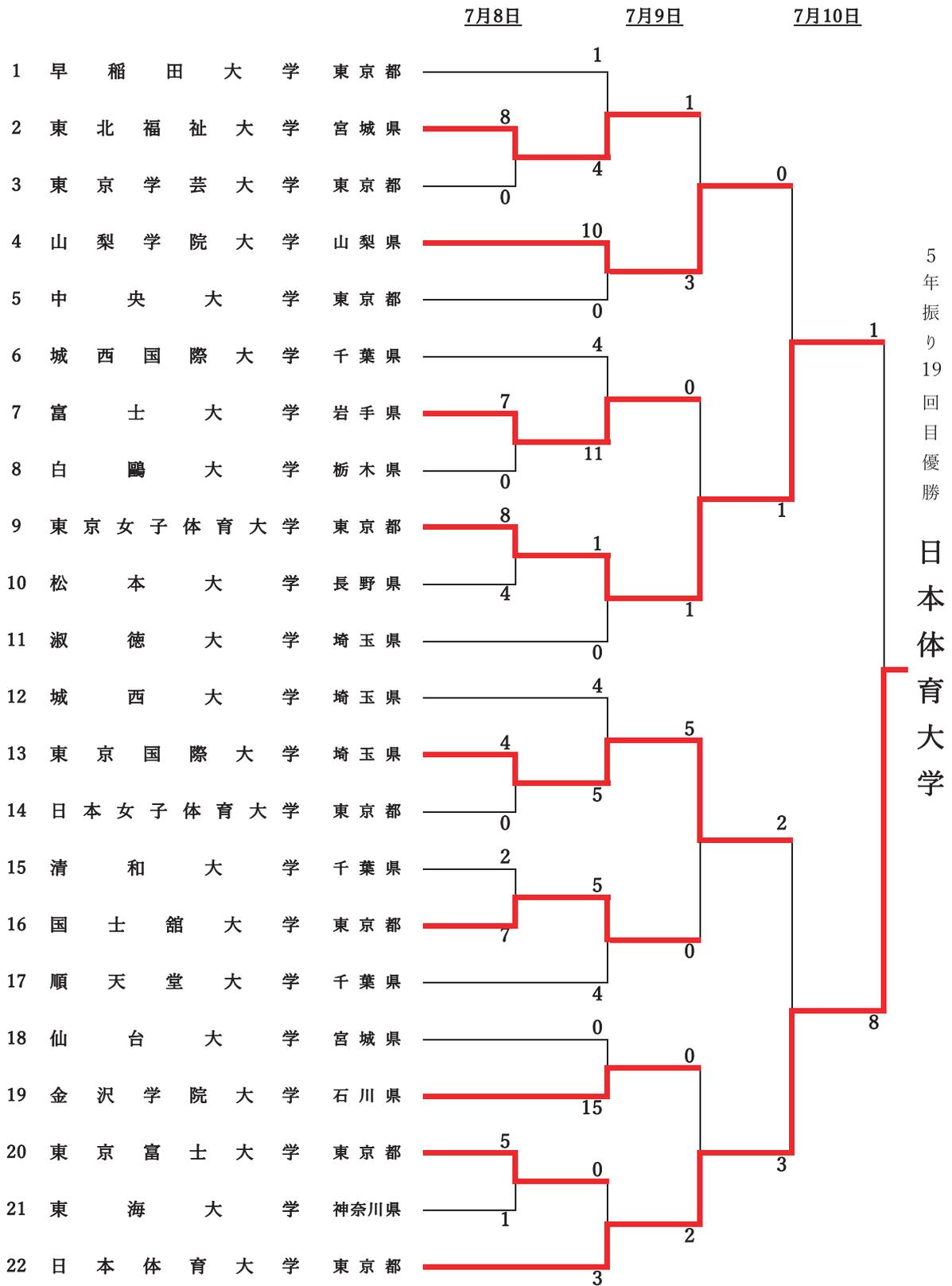
準優勝：東京女子体育大学



# 第38回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

期 日：令和5年7月8日(土)・9日(日)・10日(月) 予備日：11日(火)

会 場：山梨県北杜市 長坂総合スポーツ公園 A・B  
 武川運動公園 C・D



5年振り19回目優勝 日本体育大学

第38回東日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：山梨県  
メイン会場：北杜市・長坂総合スポーツ公園  
《記録4号》

第1日	2023年07月08日	1回戦	試合時間	01時間01分	試合番号	1										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
東京学芸大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東北福祉大学	4	1	2	1	x										8	得点差コード
先攻 (投手)	●加藤 隼乃															
(捕手)	山西 忠孝															
後攻 (投手)	○大江 真尋, 村山 莉瑚															
(捕手)	和田梨理花															
先攻 (本塁打)																
(二塁打)																
(三塁打)																
後攻 (本塁打)	○橋 愛美, 上原 千風															
(二塁打)	○大江 真尋, 山内南々華															
(三塁打)	和田梨理花, 上原 千風															

特記事項

第1日	2023年07月08日	1回戦	試合時間	01時間04分	試合番号	2										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
富士大学	3	2	0	0	2										7	得点差コード
白鷗大学	0	0	0	0	0										0	
先攻 (投手)	本城 咲良, 白 晴風, 鈴木 嵩															
(捕手)	戸田 陽菜, 村岡 蘭															
後攻 (投手)	●熊田 唯華, 田代 美咲															
(捕手)	大塚 愛菜															
先攻 (本塁打)																
(三塁打)	戸田 陽菜, 田村 和															
(二塁打)	吉野梨香															
後攻 (本塁打)																
(二塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)																

特記事項

第1日	2023年07月08日	1回戦	試合時間	01時間32分	試合番号	3										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
松本大学	2	1	0	0	1	0	0								4	
東京女子体育大学	2	0	2	1	3	0	x								8	
先攻 (投手)	●吉池 麻尋, 清水 玲花, 宮澤 亜美															
(捕手)	浅野 莉胡															
後攻 (投手)	増岡 安月, 永井 柚衣															
(捕手)	中山 彩															
先攻 (本塁打)	堀川美瑠															
(二塁打)																
(三塁打)	浅野 莉胡															
後攻 (本塁打)	高城 双葉															
(二塁打)	林 美央															
(三塁打)	葛城 双葉, 嶋 明優花, 本田 光音															

特記事項

第1日	2023年07月08日	1回戦	試合時間	01時間29分	試合番号	4										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
日本女子体育大学	0	0	0	0	0	0	0								0	
東京国際大学	1	0	0	3	0	0	x								4	
先攻 (投手)	●磯山明日香, 佐藤 彩夏															
(捕手)	山本穂乃花															
後攻 (投手)	○鈴木りりか, 戸倉 紗希, 浅間 珠理															
(捕手)	新田 愛美, 藤原 琴音															
先攻 (本塁打)																
(二塁打)																
(三塁打)																
後攻 (本塁打)	有田 颯															
(二塁打)	堀田 葉月															

特記事項

第38回東日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：山梨県  
メイン会場：北杜市・長坂総合スポーツ公園  
《記録4号》

第2日	2023年07月09日	2回戦	試合時間	01時間32分	試合番号	9										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
城西国際大学	0	0	4	0	0	0	0								4	得点差コード
富士大学	0	8	1	1	1	x									11	
先攻 (投手)	●阿部 叶夢, 大澤 萌, 森田和香奈															
(捕手)	池根 星															
後攻 (投手)	○鈴木 心菜, 滝本 瑞音															
(捕手)	武田愛香鈴, 戸田 陽菜															
先攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)																
後攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)	戸田 陽菜, 米田百々春															

特記事項

第2日	2023年07月09日	2回戦	試合時間	01時間34分	試合番号	10										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
淑徳大学	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
東京女子体育大学	0	0	0	0	0	0	1	x							1	
先攻 (投手)	森 舞華, ●湯田 結那															
(捕手)	千葉 風子															
後攻 (投手)	○永井 柚衣															
(捕手)	中山 彩															
先攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)	森 舞華															
後攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)																

特記事項

第2日	2023年07月09日	2回戦	試合時間	01時間57分	試合番号	11										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
城西大学	0	0	1	0	0	3	0								4	
東京国際大学	0	0	1	1	0	0	3	x							5	
先攻 (投手)	●高橋 音森, 岡 柚月, 高橋 音森															
(捕手)	佐々木 遼															
後攻 (投手)	鈴木りりか, 浅間 珠理															
(捕手)	新田 愛美, 藤原 琴音, 新田 愛美															
先攻 (本塁打)	相田くるみ															
(三塁打)																
(二塁打)	新井 千夏															
後攻 (本塁打)																
(三塁打)	上田 百華															
(二塁打)																

特記事項

第2日	2023年07月09日	2回戦	試合時間	02時間00分	試合番号	12										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
国土館大学	0	3	0	2	0	0	0								5	
順天堂大学	0	1	0	0	1	1	1								4	
先攻 (投手)	●黒澤 楓菜, 佐藤 蘭															
(捕手)	岩田 有未															
後攻 (投手)	●上野 夢															
(捕手)	小山 極佳, 太田 詩乃															
先攻 (本塁打)	立川野乃花															
(三塁打)	岩田 有未															
(二塁打)	小島 涼花, 岡本 萌花, 岩田 有未															
後攻 (本塁打)																
(三塁打)	柴田 夏美, 益子 那南, 加藤 詩音															
(二塁打)																

特記事項

第38回東日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：山梨県  
メイン会場：北杜市・長坂総合スポーツ公園  
《記録4号》

第1日	2023年07月08日	1回戦	試合時間	02時間03分	試合番号	5										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
清和大学	0	0	1	0	0	0	1								2	
国土館大学	0	2	1	3	0	1	x								7	
先攻 (投手)	●大橋 歩実, 後藤 颯希, 小山 萌, 金子 歩															
(捕手)	高橋 舞桜, 堀江 舞那															
後攻 (投手)	○黒澤 楓菜															
(捕手)	岩田 有未															
先攻 (本塁打)																
(三塁打)	佐々木 藍, 草野 梨緒															
(二塁打)																
後攻 (本塁打)																
(三塁打)	高野 真依															
(二塁打)	立川野乃花, 岩田 有未															

特記事項

第1日	2023年07月08日	1回戦	試合時間	02時間07分	試合番号	6										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
東京富士大学	0	1	0	1	3	0	0								5	
東海大学	0	0	0	0	1	0	0								1	
先攻 (投手)	○上原 理咲															
(捕手)	野村 映美															
後攻 (投手)	●佐々木聖純, 山下 芽生, 河高 颯															
(捕手)	兵藤 月花															
先攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)	野村 映美															
後攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)	渡邊はるか, 兵藤 月花															

特記事項

第2日	2023年07月09日	2回戦	試合時間	01時間43分	試合番号	7										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
早稲田大学	0	0	0	1	0	0	0								1	
東北福祉大学	0	0	3	1	0	0	x								4	
先攻 (投手)	●新宮 伶美															
(捕手)	原田 理子															
後攻 (投手)	○大江 真尋, 村山 莉瑚															
(捕手)	和田梨理花															
先攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)	河井なごみ															
後攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)																

特記事項

第2日	2023年07月09日	2回戦	試合時間	00時間57分	試合番号	8										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
中央大学	0	0	0	0	0										0	得点差コード
山梨学院大学	2	2	3	3	x										10	
先攻 (投手)	●小島 実夏															
(捕手)	大久保あい															
後攻 (投手)	○東 ひかる															
(捕手)	須藤 彩夏															
先攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)																
後攻 (本塁打)	本 彩優花															
(三塁打)	須藤 彩夏, 中込 楓, 松崎 紗也															
(二塁打)																

特記事項

第38回東日本大学女子ソフトボール選手権大会  
会場所在地：山梨県  
メイン会場：北杜市・長坂総合スポーツ公園  
《記録4号》

第2日	2023年07月09日	2回戦	試合時間	00時間54分	試合番号	13										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
仙台大学	0	0	0	0											0	得点差コード
金沢学院大学	6	9	x												15	
先攻 (投手)	●高橋 千夏, 齋藤 瑞奈, 木村 奈々															
(捕手)	松浦 楓															
後攻 (投手)	○中島 花菜, 富岡 真都															
(捕手)	江藤 楓菜															
先攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)																
後攻 (本塁打)	倉橋 李歩															
(三塁打)	宮本 愛里, 西佳 千尋, 倉橋 李歩															
(二塁打)	高橋 杏, 宮本 愛里															

特記事項

第2日	2023年07月09日	2回戦	試合時間	01時間47分	試合番号	14										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
東京富士大学	0	0	0	0	0	0	0								0	
日本体育大学	1	0	1	0	1	0	x								3	
先攻 (投手)	●上原 理咲															
(捕手)	野村 映美															
後攻 (投手)	○持田みなみ, 丸山 美海, 荒川 めい															
(捕手)	宮子 佳也															
先攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)	高 優芽, 岡崎 仁美															
後攻 (本塁打)																
(三塁打)																
(二塁打)	高橋 舞里, 山本うらら															

特記事項

第2日	2023年07月09日	3回戦	試合時間	01時間52分	試合番号	15										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
山梨学院大学	0	0	2	0	0	0	1								3	
東北福祉大学	0	1	0	0	0	0	0								1	
先攻 (投手)	阪野 愛心, 〇林															

第38回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

《記録4号》

第2日	2023年07月09日	準々決勝	試合時間：01時間31分	試合番号	17												
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
東京国際大学		0	0	0	0	3	1	1								5	
国士郎大学		0	0	0	0	0	0	0	0							0	

先攻 (投手) ○鈴木りか、浅間 珠理  
(捕手) 新田 愛実

後攻 (投手) ●中澤 楓葉  
(捕手) 岩田 有未

先攻 (本塁打) 上田 百華  
(二塁打)

後攻 (本塁打)

(三塁打)

(二塁打) 小島 涼佳

特記事項

第2日	2023年07月09日	準々決勝	試合時間：01時間55分	試合番号	18												
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
日本体育大学		0	0	0	0	0	0	0	0	2						2	
金沢学院大学		0	0	0	0	0	0	0	0							0	

先攻 (投手) ○下村 彩葉  
(捕手) 宮子 佳也

後攻 (投手) ●中嶋 花菜、山下 千世  
(捕手) 江藤 楓果

先攻 (本塁打)  
(三塁打) 高橋 舞里

後攻 (本塁打)

(三塁打)

(二塁打) 高橋 杏

特記事項

第3日	2023年07月10日	準決勝	試合時間：01時間30分	試合番号	19												
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
山梨学院大学		0	0	0	0	0	0	0	0							0	
東京女子体育大学		0	1	0	0	0	0	0	0	x						1	

先攻 (投手) 須藤 彩愛、●林 里奈、田中 愛花  
(捕手) 椋梨 琳花

後攻 (投手) ○永井 柚衣  
(捕手) 中山 彩

先攻 (本塁打)  
(三塁打)

(二塁打)

後攻 (本塁打)

(三塁打)

(二塁打) 本田 光音、藤田 杏

特記事項

第3日	2023年07月10日	準決勝	試合時間：01時間56分	試合番号	20												
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
日本体育大学		0	0	1	1	1	0	0								3	
東京国際大学		0	1	0	0	1	0	0								2	

先攻 (投手) 持田みなみ、○丸山 実海、大島南々子  
(捕手) 宮子 佳也

後攻 (投手) ●鈴木りか、浅間 珠理  
(捕手) 新田 愛実

先攻 (本塁打)  
(三塁打)  
(二塁打) 横山 木葉、山本うらら、忌部 愛苗

後攻 (本塁打)  
(三塁打)

(二塁打)

特記事項

第38回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

《記録4号》

第3日	2023年07月10日	決勝	試合時間：01時間59分	試合番号	21												
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
日本体育大学		1	0	3	0	0	2	2								8	
東京女子体育大学		0	0	0	0	0	0	1	0							1	

先攻 (投手) ○下村 彩葉、大島南々子、荒川 めい、鈴木 蒼  
(捕手) 宮子 佳也、栗城 倫尚

後攻 (投手) ●永井 柚衣、増岡 安月、澤村 真心  
(捕手) 中山 彩

先攻 (本塁打) 伊波 蘭  
(三塁打) 横山 木葉  
(二塁打) 笠原 朱里、山本うらら、佐藤くるみ

後攻 (本塁打)

(三塁打)

(二塁打) 縄 明優花②

特記事項

# アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 悪質なSNS投稿は 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆様のご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

## 安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。 SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。  
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。

「八代市での初開催と圧巻・環太平洋大学 5 連覇」

西日本大学ソフトボール連盟  
理事長 二瓶雄樹

本大会は、熊本県八代市で初めて開催された。同市は八代市スポーツコミッションを立ち上げ、各種スポーツ事業の合宿や大会を誘致する活動を加速させている。本連盟は、同市から昨年度に大会誘致を打診され、中村博生（なかむらひろお）市長を含む行政側と県協会、市協会と会談を重ね今回の大会実施に至った。コロナ禍で実施できなかった開会式も今大会から実施され、市長はじめ多くの関係者が立ち合いのもと盛大に開催された。先ず持って、今大会が中村市長をはじめ、八代市スポーツコミッション、熊本県ソフトボール協会、八代市ソフトボール協会の皆様のご尽力によって滞りなく開催できたことに、この場を借りて感謝申し上げます。



大会は晴天に恵まれ、4日間の日程を予定通り開催することができた。準決勝は、5連覇を狙う環太平洋大学と東海の雄・中京大学、好投手・内谷を有す京都産業大学と3枚看板で勝ちがった立命館大学の対決となった。前者は、序盤環太平洋大学の強力打線をなんとか凌いだ中京大学であったが、6回に先発・上鶴がつかまり2本の本塁打で2失点。チャンスを作るも要所で環太平洋大学のエース景山に抑えられ完封。環太平洋大学が5回連続の決勝へと進んだ。後者の対決は好投手、京都産業大学の内谷が1、2回に失点し0-3の苦しい展開。しかし、3回裏京都産業大学の猛打が爆発、一挙8得点。立命館大学も3枚看板を投入するも時すでに遅し8-5で京都産業大学が決勝へと駒を進めた。決勝は、昨年の西日本インカレ決勝、全日本インカレ決勝と同様のカードとなった。環太平洋大学のエース・景山と京都産業大学のエース・内谷との投手戦が予想されたがしかし、3回に2点、4回に2点、5回に1点を環太平洋大学が得点し、内谷を引きずり下ろすとその後も猛打は止まらず、結局11得点の猛攻で環太平洋大学が5回連続九回目の優勝を飾った。優秀選手賞には、優勝した環太平洋大学の景山が、敢闘賞には京都産業大学の内谷がそれぞれ選ばれた。

来年度、第56回の本大会もこの八代市で開催する意向で進んでいる。男子の西日本はこの八代市を拠点に発展と強化を一層進めていきたい。重ねて関係の皆様にご感謝申し上げます。誠にありがとうございました。





優勝：環太平洋大学（5年連続9回目）



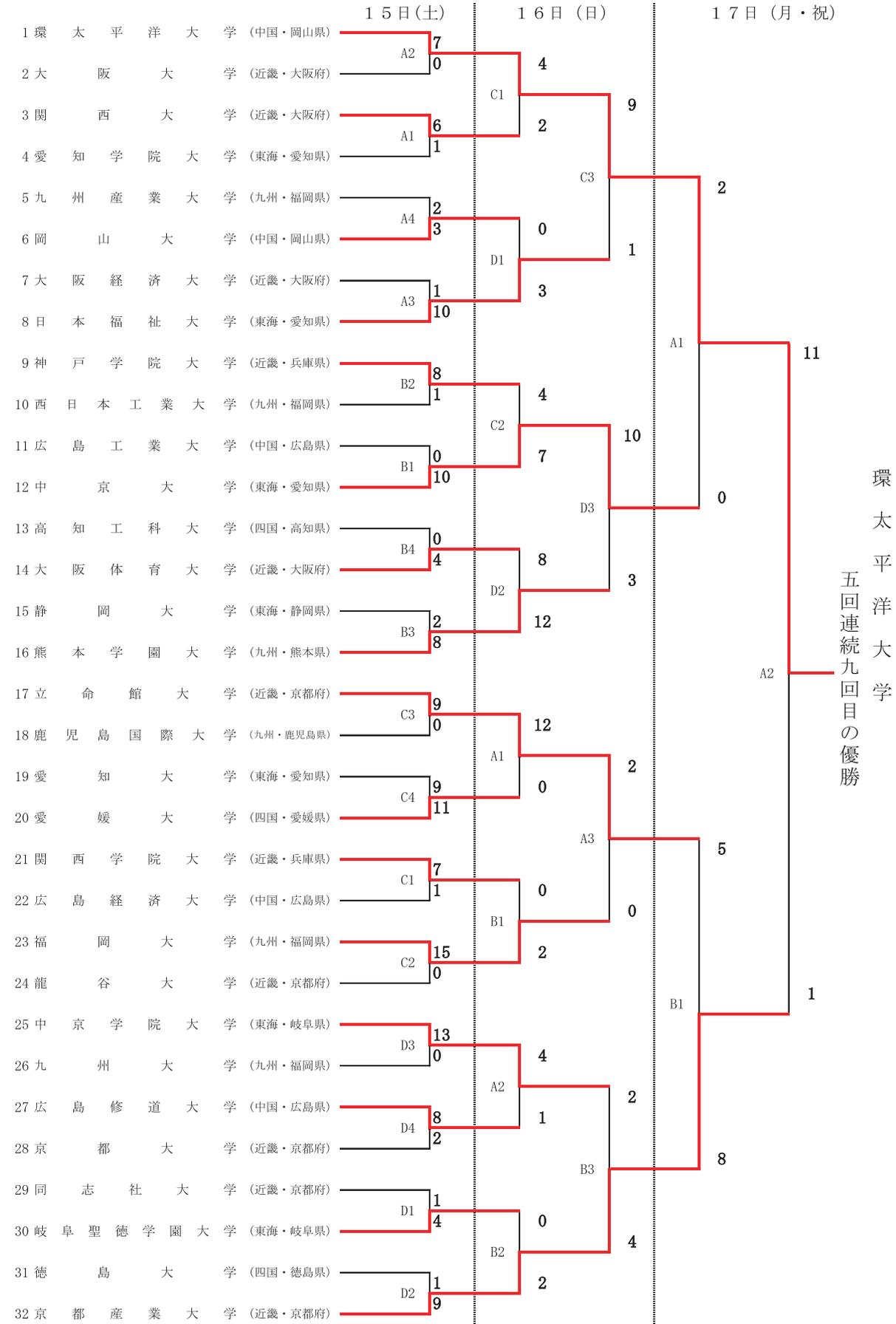
準優勝：京都産業大学



# 第55回西日本大学男子ソフトボール選手権大会

第1試合：9:00～  
 第2試合：11:00～  
 第3試合：13:00～  
 第4試合：15:00～

期 間 令和5年7月15日(金)～17日(月)  
 会 場 熊本県八代市鏡総合グラウンドソフトボール場他  
 A球場：鏡総合グラウンドA B球場：鏡総合グラウンドB  
 C球場：球磨川河川緑地ソフトボール D球場：球磨川河川緑地ソフトボール場B



環太平洋大学  
五回連続九回目の優勝

問い合わせ先：

第55回西日本大学男子ソフトボール選手権大会 令和5年 7月15日(土)～17日(月)

令和5年7月15日(土) 八代市鏡総合グラウンド 他

(注)全試合、3回15点、4回10点、5回以降7点差が生じた時は、得点差コールドを採用する。

(注)バッターの○:勝投手 ●:負投手 完:完全試合 無:無安打無得点、長打の④:本塁打 ③:三塁打 ②:二塁打

一回戦

大阪大学	近畿・大阪府	0	0	0	0	0	0	0	●金戸・島村-川口	
1 環太平洋大学	中国・岡山県	5	0	2	0	x	7	○景山・北川・倉永-望岡	試合時間 1:16	③奥間
愛知学院大学	東海・愛知県	0	0	0	1	0	0	1	●早川-吉田	
2 関西大学	近畿・大阪府	0	0	0	0	2	4	x	○和田-山口	2:12 ②野見山、末廣
九州産業大学	九州・福岡県	0	0	1	0	0	1	0	●平川-住田	④住田
3 岡山大学	中国・岡山県	0	0	0	0	0	0	3x	○江口-西垣	1:41 ②紙本
大阪経済大学	近畿・大阪府	0	0	0	1	0		1	●羽口-飯田	③井戸
4 日本福祉大学	東海・愛知県	0	3	5	2	x		10	○相島・竹鼻-加藤	1:56 ④野沢 ②野沢、宮下、尾崎
西日本工業大学	九州・福岡県	1	0	0	0	7		1	●片岡-下山	④下山
5 神戸学院大学	近畿・兵庫県	0	2	3	3	x		8	○谷本・神田・東野-松上	1:28 ④日浦 ③濱村 ②加藤
広島工業大学	中国・広島県	0	0	0	0			0	●新谷-難波	
6 中京大学	東海・愛知県	4	4	0	2x			10	○上鶴・植村-濱田	1:16 ④安形
高知工科大学	四国・高知県	0	0	0	0	0	0	0	清水・戎井	②中村
7 大阪体育大学	近畿・大阪府	1	0	0	0	3	0	x	○鈴木-間嶋	1:33 ④櫻井 ③間嶋
熊本学園大学	九州・熊本県	1	0	3	0	0	2	0	○津田・阪井・小林-富田	④溝口 ③溝口 ②溝口
8 静岡大学	東海・静岡県	0	0	0	0	2	0	0	●鈴木・寺井-久世	2:04 ③出井 ②小林
鹿児島国際大学	九州・鹿児島県	0	0	0	0			0	●小島・川枝-川枝・永田	
9 立命館大学	近畿・京都府	8	2	3	0	x		9	○名西・申辻・山上一大塚	1:17 ④田中、椎葉
愛媛大学	四国・愛媛県	0	0	3	2	2	2	2	清水・戎井・○清水-新谷	
10 愛知大学	東海・愛知県	2	2	3	1	0	0	1	黒木・●山田-草薨	2:31 ③黒木 ②鈴木、草薨
広島経済大学	中国・広島県	1	0	0	0	0	0	0	●藤井・大北-茶園	
11 関西学院大学	近畿・兵庫県	0	2	1	0	3	1	x	○小笹-今吉	1:32 ④姫田 ③姫田、田辺 ②姫田
龍谷大学	近畿・京都府	0	0	0				0	●岡村・所・林-宮城・石川	
12 福岡大学	九州・福岡県	3	8	4x				15	○青木-野上	1:09 ④池田、青山、山内
九州大学	九州・福岡県	0	0	0	0			0	●片山・藤本-大村・荒牧	
13 中京学院大学	東海・岐阜県	3	10	0	x			13	○宮崎・神尾-三島	1:17 ④寺本 ③寺本・三島 ②清覚
広島修道大学	中国・広島県	0	0	1	1	2	3	1	中田・○音間-海谷	④神谷、濱本 ②杉原
14 京都大学	近畿・京都府	1	1	0	0	0	0	0	●松阿彌・梅垣-篠原	2:07 ②綿谷、櫻井
岐阜聖徳学園大学	東海・岐阜県	1	0	2	0	1	0	0	○山本・遠藤-淀川	④山本
15 同志社大学	近畿・京都府	0	1	0	0	0	0	0	●高橋-上野	1:57 ④山本
京都産業大学	近畿・京都府	1	0	0	0	0	2	6	○内谷-清水	④清水 ③妹背、原田
16 徳島大学	四国・徳島県	0	0	0	1	0	0	0	●玉岡・竹澤・藤井-熊谷	1:44 ④熊谷

令和5年7月16日(日) 八代市鏡総合グラウンド 他

二回戦

環太平洋大学	中国・岡山県	0	0	0	2	0	0	0	2	4	○景山-岩松	④安藝、大城 ②岩松
17 関西大学	近畿・大阪府	0	0	1	1	0	0	0	0	2	●和田-山口	2:38 ④山口
日本福祉大学	東海・愛知県	0	0	0	0	0	3	0	3	相島・長谷川・○古瀬-加藤	④浜塚 ②加藤、篠原	
18 岡山大学	中国・岡山県	0	0	0	0	0	0	0	0	●池口-西垣	1:58	
中京大学	東海・愛知県	0	0	0	1	6	0	0	7	○上鶴・渡部-濱田	④出島、植村 ②安形	
19 神戸学院大学	近畿・兵庫県	3	0	1	0	0	0	0	4	●谷本・神田-松上	2:30	
熊本学園大学	九州・熊本県	0	4	1	3	1	0	3	12	津田・小林・○津田-富田	④佐々木 ③世名城、小林、仲宗根 ②溝口	
20 大阪体育大学	近畿・大阪府	0	1	0	5	2	0	0	8	島野・鈴木・●島野-間嶋	2:30 ④櫻井、鈴木 ③田中	
立命館大学	近畿・京都府	2	0	0	3	7			12	○中辻・山上一大塚・染谷	④田中、椎葉 ③山本 ②椎葉、染谷	
21 愛媛大学	四国・愛媛県	0	0	0	0				0	●清水・竹倉・戎井-新谷	1:24 ③日浦、津野	
関西学院大学	近畿・兵庫県	0	0	0	0	0	0	0	0	●小笹-今吉		
22 福岡大学	九州・福岡県	0	1	0	0	0	1	x	2	○豊村-野上	1:54 ④池田	
広島修道大学	中国・広島県	0	0	0	1	0	0	0	1	●中田・音間-海谷	④内	
23 中京学院大学	東海・岐阜県	0	2	0	2	0	0	x	4	宮崎・○神尾-三島	1:30 ②宮城	
京都産業大学	近畿・京都府	0	1	0	0	0	1	0	2	○内谷-清水		
24 岐阜聖徳学園大学	東海・岐阜県	0	0	0	0	0	0	0	0	●山本-淀川	1:53	

準々決勝

環太平洋大学	中国・岡山県	5	4	0	0	0			9	景山・安藝・○北川・倉永-岩松	④高草 ③高草	
25 日本福祉大学	東海・愛知県	0	0	0	1	0			1	●相島・長谷川-加藤	1:56 ②野沢	
熊本学園大学	九州・熊本県	0	0	1	2	0	0		3	●津田-富田	②鶴田、溝口	
26 中京大学	東海・愛知県	3	0	4	0	2	1x		10	○植村-濱田	1:52 ④濱田、植村 ③濱田	
立命館大学	近畿・京都府	0	0	0	1	0	1	0	2	○土田-大塚	③山本、田中	
27 福岡大学	九州・福岡県	0	0	0	0	0	0	0	0	青木・●豊村・青山-野上	2:13 ②青木	
中京学院大学	東海・岐阜県	0	0	2	0	0	0	0	2	宮崎・●神尾-三島		
28 京都産業大学	近畿・京都府	0	1	0	1	0	0	0	2x	4	○内谷-清水	2:02 ④清水

令和5年7月17日（月・祝日） 八代市鏡総合グラウンド

準決勝

環太平洋大学	中国・岡山県	0	0	0	0	0	2	0	2
29 中京大学	東海・愛知県	0	0	0	0	0	0	0	0
立命館大学	近畿・京都府	2	1	0	1	0	0	1	5
30 京都産業大学	近畿・京都府	0	8	0	0	0	0	x	8

○景山－岩松  
 ●上鶴－濱田  
 ●名西・山上・土田－大塚  
 ○内谷・佐藤－清水

④岩松、安藝  
 2:25  
 ④小山、大塚 ②椎葉  
 2:22 ④妹野 ②妹野

決勝

環太平洋大学	中国・岡山県	0	0	2	2	1	6		11
31 京都産業大学	近畿・京都府	0	0	0	0	1	0		1

○景山－岩松  
 ●内谷・佐藤－清水

④松田 ③岡田 ②安藝、奥間、植田  
 2:00 ④三澄

## 第 55 回西日本大学女子ソフトボール選手権大会

「台風にも負けず継続開催！聖地・熊野と熱戦の決勝戦」

西日本大学ソフトボール連盟  
理事長 二瓶 雄樹

本大会は、三重県熊野市で2年連続の継続開催となった。同市は、ソフトボールの聖地として幅広い年代で知られており、全国規模の大会を数多く開催している。本大会の期間中も、他のカテゴリーの大会が乱立する過密スケジュールの中行われた。また本大会は台風6号の影響で、開催自体が危ぶまれたが、奇跡的にも予定通りに開催することができた。毎日天気予報と睨み合い、雨天の中でも前向きに取り組み、選手のために汗・水・泥だらけになってグラウンドを整備し、運営して下さった熊野市および協会関係者の皆様様に心から感謝申し上げます。



本大会では先ずは、昨年の優勝校・東海学園大学と準優勝校・日本福祉大学に注目が集まった。日本福祉大学は準々決勝で同じ地区代表である中京大学と対戦。日本福祉大学は若きエース・伊藤瑠莉が先発完投するも中京大学の打線を抑えきれず0-6で敗退した。野手も含めて低学年の選手が多いだけに来年以降の成長に期待したい。東海学園大学は2回戦で武庫川大学との対戦。相手投手を打ち崩せず0-1のまさかの完封負けであった。主戦投手が残り、安定した守備と長打が魅力の小林楓らもいるだけに来年の巻き返しに期待したい。

決勝戦は、名門・園田学園女子大学と東海の雄・中京大学の対戦となった。先制したのは中京大学。四死球を皮切りに短打で初回に2点を先制した。しかしその裏すかさず園田学園女子大学が長短打を集め、また守備の隙をつき3点を返す展開となった。4回に中京大学が1点を返し同点。試合はそのままタイブレークへと進んだ。迎えた8回はお互い得点を許さず、勝負の行方は9回へと進んだ。中京大学は代打・竹田愛佳の内野ゴロの間に三塁走者が生還。1点勝ち越しとなった。その裏、園田学園女子大学は二塁走者が意表を突き三盗し、これが見事成功。次打者がフォアボールで出塁した後、打者・阿出川美夢が中京大学のエース・成瀬結衣の初球を捉え左中間を抜ける2ベースヒット。一塁ランナーが一気に生還し、逆転サヨナラで優勝を決めた。優秀選手賞には、優勝した園田学園女子大学の阿出川美夢が、敢闘賞には中京大学の市川愛渚がそれぞれ選ばれた。

来年度、第56回の本大会も聖地・熊野で開催する方向で進んでいる。今大会の状況は、熊野市でなければ開催することはできなかった。そう断言できるほどの悪条件と関係者の皆様の多大なるご尽力、そして強運であったように思います。重ね重ねになりますが、三重県ソフトボール協会、熊野市ソフトボール協会、そして熊野市スポーツ観光課及び熊野市役所の皆様はこの場を借りて心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。



優勝：園田学園女子大学

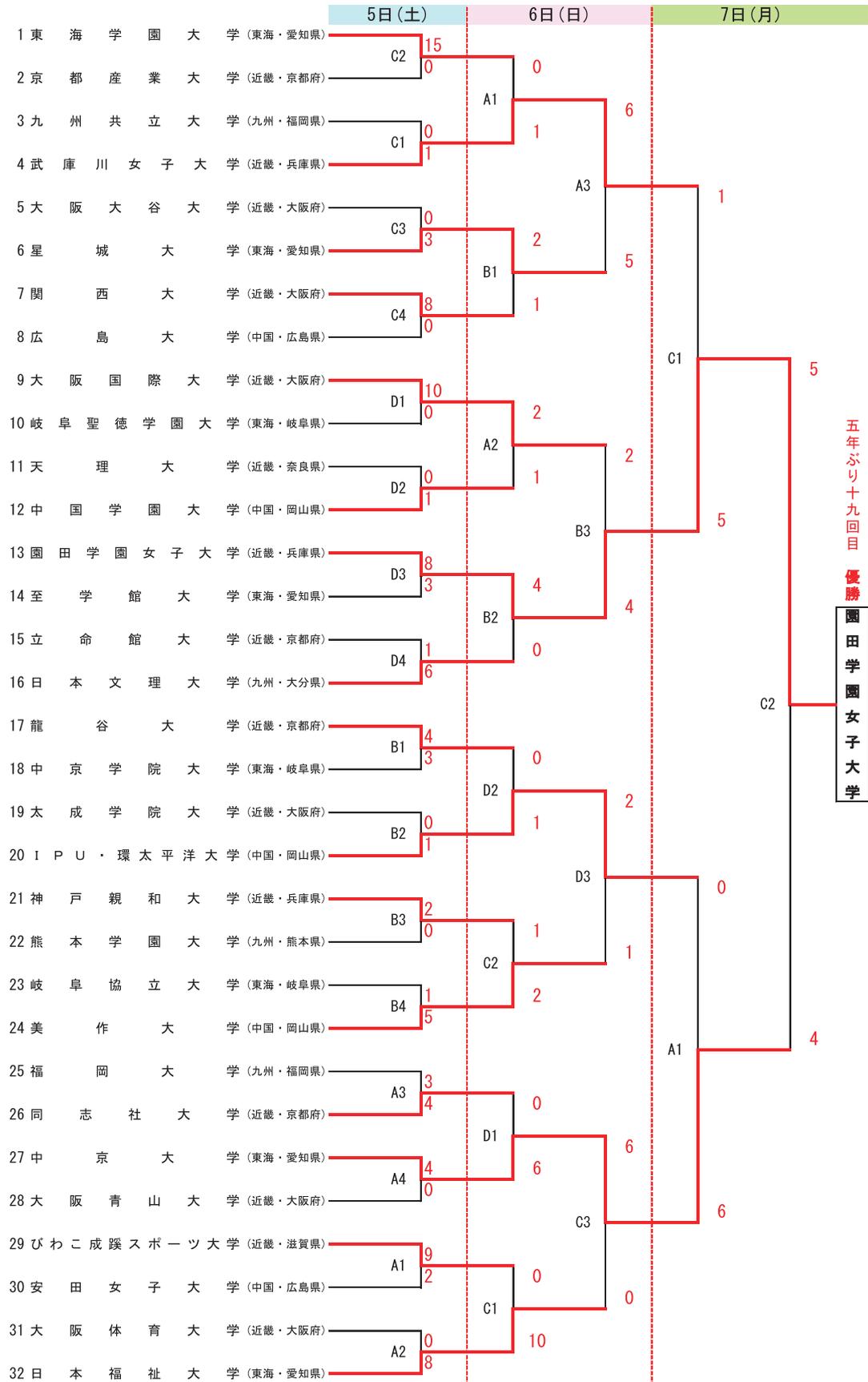


準優勝：中京大学



# 第55回西日本大学女子ソフトボール選手権大会

5日	6日・7日	期 間	令和5年8月5日(土)~7日(月)
第1試合：10:15~	9:00~	会 場	三重県熊野市
第2試合：12:15~	11:00~	A 球場	山崎運動公園 健康運動広場A
第3試合：14:15~	13:00~	B 球場	山崎運動公園 健康運動広場B
第4試合：16:15~	15:00~	C 球場	山崎運動公園 くまのスタジアム
		D 球場	防災公園野球場





第5回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会場所在地: 三重県熊野市 メイン会場: 山崎運動公園 くまのスタジアムC (記録4号)

第2日	2023年08月06日		2回戦		試合時間: 01時間25分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
武庫川女子大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
東海学園大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
先攻	(投手) ○三谷 柚琴																		
	(捕手) 土岐規美香																		
後攻	(投手) ●山中 真矢,志田 美月																		
	(捕手) 松口 陽香,仕垣 美泉																		
先攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打)																		
後攻	(本塁打) 小林 楓																		
	(三塁打)																		
	(二塁打)																		
特記事項																			

第2日	2023年08月06日		2回戦		試合時間: 01時間38分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
関西大学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
星城大学	0	0	0	0	2	0	x									2			
先攻	(投手) 岩崎 紗菜,●山本 萌楓,岩崎 紗菜																		
	(捕手) 早坂 千尋																		
後攻	(投手) 青木 夏葉,○鞠家 亜生,木澤 愛梨																		
	(捕手) 糸井 万葉																		
先攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 竹光久莉寿																		
後攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 立松 はづき																		
特記事項 降雨のため																			

第2日	2023年08月06日		2回戦		試合時間: 01時間31分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
大阪国際大学	1	2	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
中国学園大学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
先攻	(投手) ○無徒 萌																		
	(捕手) 横山 葵																		
後攻	(投手) ●高橋 実弥,竹下 実織																		
	(捕手) 豊島 沙弥																		
先攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 橋本 奈津紀																		
後攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 大倉 佳乃																		
特記事項																			

第2日	2023年08月06日		2回戦		試合時間: 01時間24分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
日本文理大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
園田学園女子大学	0	0	1	3	0	0	x									4			
先攻	(投手) ●鶴田 美優,木山 陽菜																		
	(捕手) 柏木 みく																		
後攻	(投手) ○飯島 綾香																		
	(捕手) 長江 乃愛																		
先攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 早田 真愛,原田 実優,伊礼 真歩																		
後攻	(本塁打) 田村 涼																		
	(三塁打) 保谷 蓮																		
	(二塁打) 中野 花香																		
特記事項																			

第5回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会場所在地: 三重県熊野市 メイン会場: 山崎運動公園 くまのスタジアムC (記録4号)

第2日	2023年08月06日		準々決勝		試合時間: 02時間28分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
星城大学	0	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	5			
武庫川女子大学	0	0	0	2	0	0	0	1	1	1	0	1	x			6			
先攻	(投手) 木澤 愛梨,●青木 夏葉																		
	(捕手) 糸井 万葉																		
後攻	(投手) ○太田 翔子,飯島 綾香																		
	(捕手) 土岐規美香																		
先攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打)																		
後攻	(本塁打) 長田 ひまり																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 土岐規美香,赤星 来望,西川 風蘭																		
特記事項																			

第2日	2023年08月06日		準々決勝		試合時間: 01時間24分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
大阪国際大学	0	0	0	0	0	0	0	2								2			
園田学園女子大学	2	0	0	0	2	0	x									4			
先攻	(投手) ●無徒 萌																		
	(捕手) 横山 葵																		
後攻	(投手) ○太田 翔子,飯島 綾香																		
	(捕手) 平岡 花,長江 乃愛																		
先攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打)																		
後攻	(本塁打)																		
	(三塁打) 保谷 蓮																		
	(二塁打) 保谷 蓮																		
特記事項 降雨のため																			

第2日	2023年08月06日		準々決勝		試合時間: 01時間36分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
製作大学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
I P U・環太平洋大学	0	0	0	0	1	0	1	x								2			
先攻	(投手) 村田 瑞希,●現々 紫月																		
	(捕手) 村上 純晴																		
後攻	(投手) 吉村 凜,○清水 咲良																		
	(捕手) 田村 虹月																		
先攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打)																		
後攻	(本塁打) 岡嶋 瞳																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 今田 弥里,内山 千彩哉,吉岡 美空																		
特記事項																			

第2日	2023年08月06日		準々決勝		試合時間: 01時間30分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
中京大学	0	1	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6			
日本福祉大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
先攻	(投手) ○小泉 杏奈,鈴木 万穂																		
	(捕手) 市川 愛渚																		
後攻	(投手) ●伊藤 瑞莉																		
	(捕手) 須口 舞																		
先攻	(本塁打) 市川 愛渚,繁田 幸奈																		
	(三塁打) 伊藤 美紅																		
	(二塁打) 井田 純麗,繁田 幸奈,榊原 深那																		
後攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打)																		
特記事項																			

第5回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会場所在地: 三重県熊野市 メイン会場: 山崎運動公園 くまのスタジアムC (記録4号)

第2日	2023年08月06日		2回戦		試合時間: 01時間31分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
龍谷大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
I P U・環太平洋大学	1	0	0	0	0	0	x									1			
先攻	(投手) ●新谷 真帆,濱田 胡桃																		
	(捕手) 辻 優哉																		
後攻	(投手) ○松村 桃佳																		
	(捕手) 大西 優芽																		
先攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 辻 彩乃																		
後攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打)																		
特記事項																			

第2日	2023年08月06日		2回戦		試合時間: 01時間40分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
神戸親和大学	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
製作大学	0	0	0	1	0	0	1	x								2			
先攻	(投手) 西田 風花,畑中 萌,●西田 風花																		
	(捕手) 藤井 采花																		
後攻	(投手) 村田 瑞希,○藤々 紫月																		
	(捕手) 村上 純晴																		
先攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 福井 美咲,里 詩月,大田原 湖洗																		
後攻	(本塁打)																		
	(三塁打) 山下 美桜																		
	(二塁打) 高橋 紀由																		
特記事項																			

第2日	2023年08月06日		2回戦		試合時間: 01時間54分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
中京大学	1	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6			
同志社大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
先攻	(投手) ○成瀬 結衣,櫻庭 万穂,木本 すず																		
	(捕手) 市川 愛渚,日比野 佑香																		
後攻	(投手) ●櫻田 菜音,林 希優,入口 もえ,山口 碧葉,和田 凜,櫻田 菜音																		
	(捕手) 前納 果穂																		
先攻	(本塁打) 榊原 深那																		
	(三塁打)																		
	(二塁打) 榊原 深那,繁田 幸奈,朝倉 彩海																		
後攻	(本塁打)																		
	(三塁打)																		
	(二塁打)																		
特記事項 降雨のため																			

第2日	2023年08月06日		2回戦		試合時間: 01時間08分										試合番号	備考			
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
びわこ成蹊スポーツ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
日本福祉大学	1	6	3	x												10	得点差コールド		
先攻	(投手) ●山本																		

## 令和5年 第19回全国国公立大学〈男・女〉ソフトボールオープン大会報告

兵庫教育大学ソフトボール部  
部長・監督 森田 啓之

長く続いたコロナがほぼ終息し、大学男子16チームの参加を得て（残念ながら予定数を超えた申し込みが複数あったが、会場等の関係で断わらざるを得なかった）、4年ぶりに大会開催をすることができた。北は北海道大学から南は琉球大学まで、まさに全国大会と言える顔ぶれであった。なお、女子の部については本学女子チーム以外の申し込みは広島大学のみであったため、大会としての実施は断念した。



期日は、令和5年3月18日（土）・19日（日）の二日間。兵庫教育大学グラウンド（ソフトボール場、野球場）、及び加東市第3グラウンド（ソフトボール場、多目的グラウンド）を使用して熱戦が繰り広げられた。ただ、前日夜半まで降り続いた雨の影響で、初日の午後からのスタートとなり、当初予定していたスケジュール（初日に4チームずつが4ブロックに分かれ亀の甲方式での対戦を行って順位を決定し、二日目は初日の成績に基づいた同順位同士でブロックを作り、ブロック内対戦を行って順位を決定する）を変更せざるを得ず、結果として1.5日間でのゲームとなった。

ちなみに、この大会は「一番を決定する」ことだけでなく、国公立大学でプレイする全国のメンバーが「ゲームを通じて交流する」ことを目的に、第1回から実施されてきた。したがって、主審こそ兵庫県ソフトボール協会の審判員に依頼するものの、塁審や記録、ポール係については当番大学を決めて参加大学が運営に参加する方式で進めてきた。今回もゲーム中は真剣な眼差しで互いにプレイしつつも、試合の合間には待機チームの学生同士で、さらには審判さんと、笑顔で様々な会話をする光景がいくつも見られた。余談であるが、滅多に実現しない「大阪大学 VS 東京大学」のゲームの主審をされた審判さんが大変喜んでジャッシをされていたことは印象的であった。

最後に、長年にわたって審判派遣の中心となって下さっている加東市ソフトボール協会はじめ、近隣市町の審判員の方々には心からお礼を言いたい。また、後援いただいた全日本大学ソフトボール連盟にも感謝申し上げたい。さらに、学生諸君においては、このオープン大会でできた縁が、今後、別の機会や場所での繋がりに発展してもらえたら幸いである。

次回は20回という節目の大会となる（令和6年3月16・17日実施予定）。これまでは私・森田が中心となって、兵庫教育大学男・女ソフトボール部が単体で主催してきたが、今後の持続可能性を考えると、参加大学の学生が主体となった大会づくりをしていく必要があるだろう。そのモデルとなるように新たな展開を意識しながら準備をしていきたいと考えている。

### 参加大学〈男子〉16チーム

北海道大学, 信州大学, 富山大学, 東京大学, 大阪大学, 神戸大学, 兵庫教育大学

岡山大学, 島根大学, 広島大学, 愛媛大学, 高知大学, 徳島大学, 九州大学, 名桜大学, 琉球大学



戸田中央メディカルケアグループ旗

第 15 回 HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール 2023 大会

2023 年 8 月 16 日 (水) ~18 日 (金) @長野県白馬村北部グラウンド

【1 日目結果】

【Aリーグ】北部G 北コート

	大阪青山	松本	東海	順位
大阪青山		1 - 2 ●	3 - 5 ●	3位
松本	2 - 1 ○		3 - 0 ○	1位
東海	5 - 3 ○	0 - 3 ●		2位

【Cリーグ】南部G 西コート

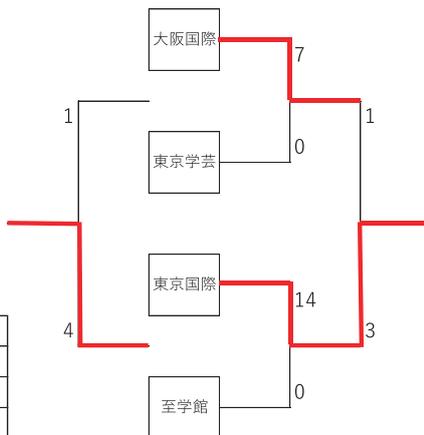
	東京富士	大阪体育	城西国際	順位
東京富士		3 - 2 ○	4 - 1 ○	1位
大阪体育	2 - 3 ●		1 - 8 ●	3位
城西国際	1 - 4 ●	8 - 1 ○		2位

【Bリーグ】北部G 南コート

	日女体	仙台	星城	順位
日女体		6 - 1 ○	4 - 4 △	1位
仙台	1 - 6 ●		2 - 6 ●	3位
星城	4 - 4 △	6 - 2 ○		2位

1位・2位は失点率による

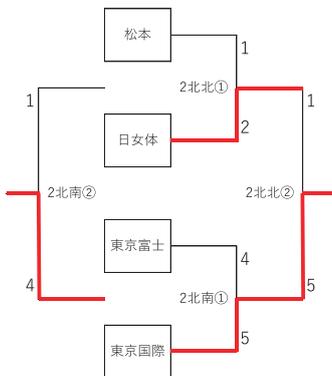
【Dトーナメント】切久保G



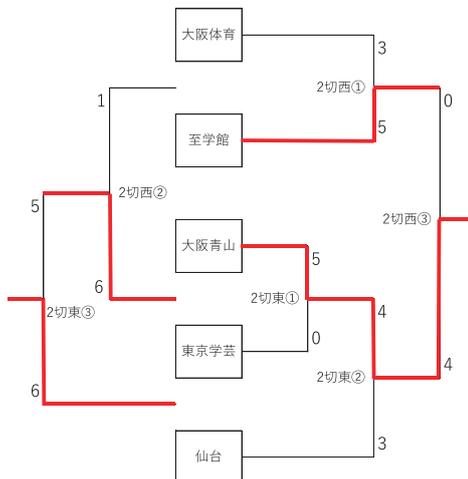
1位	東京国際
2位	大阪国際
3位	至学館
4位	東京学芸

【2 日目結果】

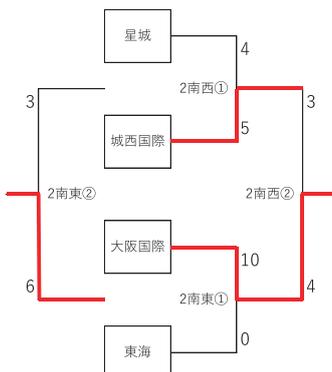
【1~4位トーナメント】



【9~13位トーナメント】



【5~8位トーナメント】



最終順位	
優勝	東京国際大学
準優勝	日本女子体育大学
第3位	東京富士大学
第4位	松本大学
第5位	大阪国際大学
第6位	城西国際大学
第7位	東海大学
第8位	星城大学
第9位	大阪青山大学
第10位	至学館大学
第11位	仙台大学
第12位	東京学芸大学
第13位	大阪体育大学





優勝：東京国際大学



準優勝：日本女子体育大学



## 第22回 大学（男子）東海オープン 最終結果

豊田市運動公園 多目的広場C面					石野運動広場			
	試合番号	1塁側	(運営当番)	3塁側	試合番号	1塁側	(運営当番)	3塁側
1 日 目	8:30	1 Cリーグ	愛知学院 3	関西 (中院) 2	5 Bリーグ	中京 15	(日福)	東海 0
	10:30	2 Aリーグ	環太平洋 6	同志社 (愛院) 2	6 Bリーグ	中京 2	(東海)	中央 3
	12:30	3 Aリーグ	中京学院 9	同志社 (環太) 3	7 Bリーグ	東海 4	(中京)	中央 11
	14:30	4 Aリーグ	中京学院 10	環太平洋 (同志社) 6	8 Cリーグ	関西 8	(中央)	日本福祉 2
2 日 目	8:30	9 Cリーグ	愛知学院 0	日本福祉 (関西) 9	13 9位決定戦	同志社 11	(環太)	東海 1
	10:30	10 3位決定戦	中京学院 7	中央 (日福) 2	14 6位決定戦	環太平洋 1	(東海)	中京 2
	12:30	11 1.2位決定戦	関西 4	中京学院 (中央) 5	15 7.8位決定戦	同志社 4	(環太)	愛知学院 7
	14:30	12 4.5位決定戦	中京 6	日本福祉 (関西) 8	(終了後撤収)			

### 最終順位

1位 中京学院大学 2位 関西大学 3位 中央大学 4位 日本福祉大学 5位 中京大学  
6位 環太平洋大学 7位 愛知学院大学 8位 同志社大学 9位 東海大学

### 予選順位

Aリーグ 1位 中京学院大学 2位 環太平洋大学 3位 同志社大学  
Bリーグ 1位 中央大学 2位 中京大学 3位 東海大学  
Cリーグ 1位 関西大学 2位 日本福祉大学 3位 愛知学院大学

予選順位が並んだ場合は次により順位を決定する

①直接対決 ②失点数 ③得失点差 ④得点 ⑤いずれも同じ場合は抽選

第24回「峠のまち」Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会 期：2023年4月22日（土）～23日（日）

会 場：群馬県安中市・五料運動場、坂本スポーツ広場

【男子】

〈横川リーグ〉

チーム名	福 島	城 西	高崎経済	信 州	勝 点	順 位
福 島	★	○4-1	×1-7	×4-7	3	4
城 西	×1-4	★	×2-6	○14-3	3	3
高崎経済	○7-1	○6-2	★	×4-19	6	2
信 州	○7-4	×3-14	○19-4	★	6	1

※1-2位、3-4位は大会規定による

〈碓氷リーグ〉

チーム名	都留文科	東京国際	東 海	筑 波	勝 点	順 位
都留文科	★	○18-6	×6-20	○14-9	6	2
東京国際	×6-18	★	×2-6	○8-7	3	3
東 海	○20-6	○6-2	★	○22-0	9	1
筑 波	×9-14	×7-8	×0-22	★	0	4

〈順位決定戦〉

1-2位決定戦：信州大学 3-3 東海大学 ※大会規定により東海大学が上位

3-4位決定戦：高崎経済大学 8-3 都留文科大学

5-6位決定戦：城西大学 3-1 東京国際大学

7-8位決定戦：福島大学 21-2 筑波大学

〈最終順位〉

1位：東海大学 2位：信州大学 3位：高崎経済大学 4位：都留文科大学

5位：城西大学 6位：東京国際大学 7位：福島大学 8位：筑波大学

第 20 回北信越大学男子・女子オープン・ソフトボール大会

日時：2023 年 7 月 22 日(土)～7 月 23 日(日)

場所：石川県小松市・スカイパークこまつ翼

【男子結果】

	チーム名	高崎経済	富山A	信州 A	信州 B	富山B	勝	負	分	勝ち点	得点	失点	得失差	イニング	失点率	リーグ戦順位
1	高崎経済大学		● 6 - 12	● 0 - 4	○ 7 - 3	● 2 - 11	1	3	0	2	15	30	-15	21 2/3	1.38	4位
2	富山大学A	○ 12 - 6		○ 9 - 5	○ 9 - 5	△ 13 - 13	3	0	1	7	43	29	14	20	1.45	2位
3	信州大学A	○ 4 - 0	● 5 - 9		△ 6 - 6	● 5 - 12	1	2	1	3	20	27	-7	19 2/3	1.37	3位
4	信州大学B	● 3 - 7	● 5 - 9	△ 6 - 6		● 7 - 14	0	3	1	1	21	36	-15	17 2/3	2.04	5位
5	富山大学B	○ 11 - 2	△ 13 - 13	○ 12 - 5	○ 14 - 7		3	0	1	7	50	27	23	19	1.42	優勝

○…勝ち ●…負け △…引き分け※ 優勝と2位の順位決定は、失点率による

優 勝：富山大学 B チーム

準優勝：富山大学 A チーム

【女子結果】

	チーム名	松本	大阪国際	金沢学院		勝	負	分	勝ち点	得点	失点	得失差	イニング	失点率	リーグ戦順位
1	松本大学		○ 5 - 4 ● 4 - 8	● 0 - 9 ● 1 - 5		1	3	0	2	10	26	-16	24	1.08	3位
2	大阪国際大学	● 4 - 5 ○ 8 - 4		● 0 - 7 ● 2 - 5		1	3	0	2	14	21	-7	23 1/3	0.90	2位
3	金沢学院大学	○ 9 - 0 ○ 5 - 1	○ 7 - 0 ○ 5 - 2			4	0	0	8	26	3	23	23	0.13	優勝

○…勝ち ●…負け △…引き分け※ 2位と3位の順位決定は、失点率による

優 勝：金沢学院大学

準優勝：大阪国際大学

# 第54回関東大学ソフトボール選手権大会

## 結果（男子の部）

期日：令和5年11月4日(土)～6日(月)

【試合開始予定時間】

会場：千葉県成田市

A球場 北羽鳥多目的広場(野球場)

第1試合 9:30～

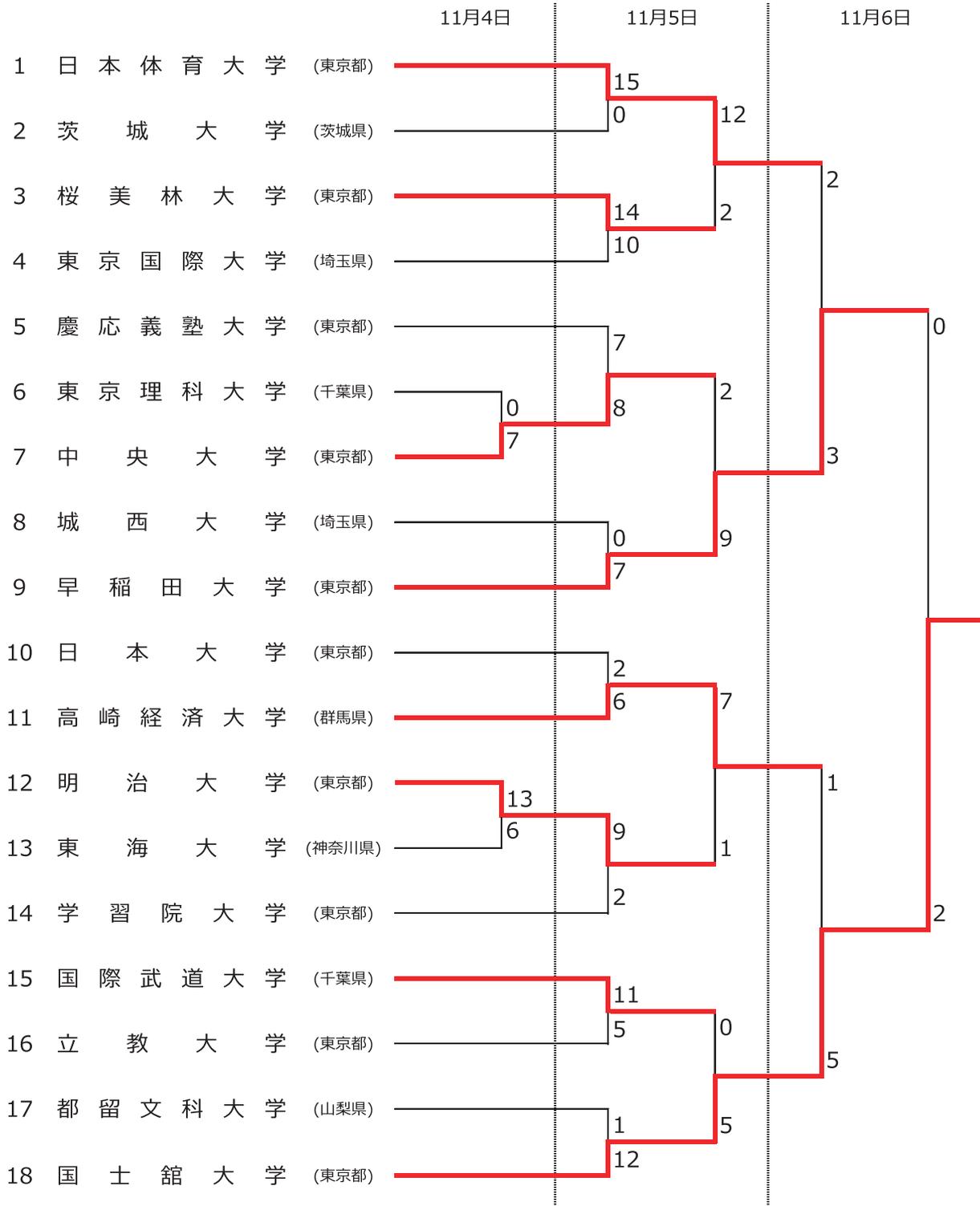
B球場 北羽鳥多目的広場(多目的広場)

第2試合 11:30～

E球場 ナスバスタジアム

第3試合 13:30～

F球場 下総運動公園野球場



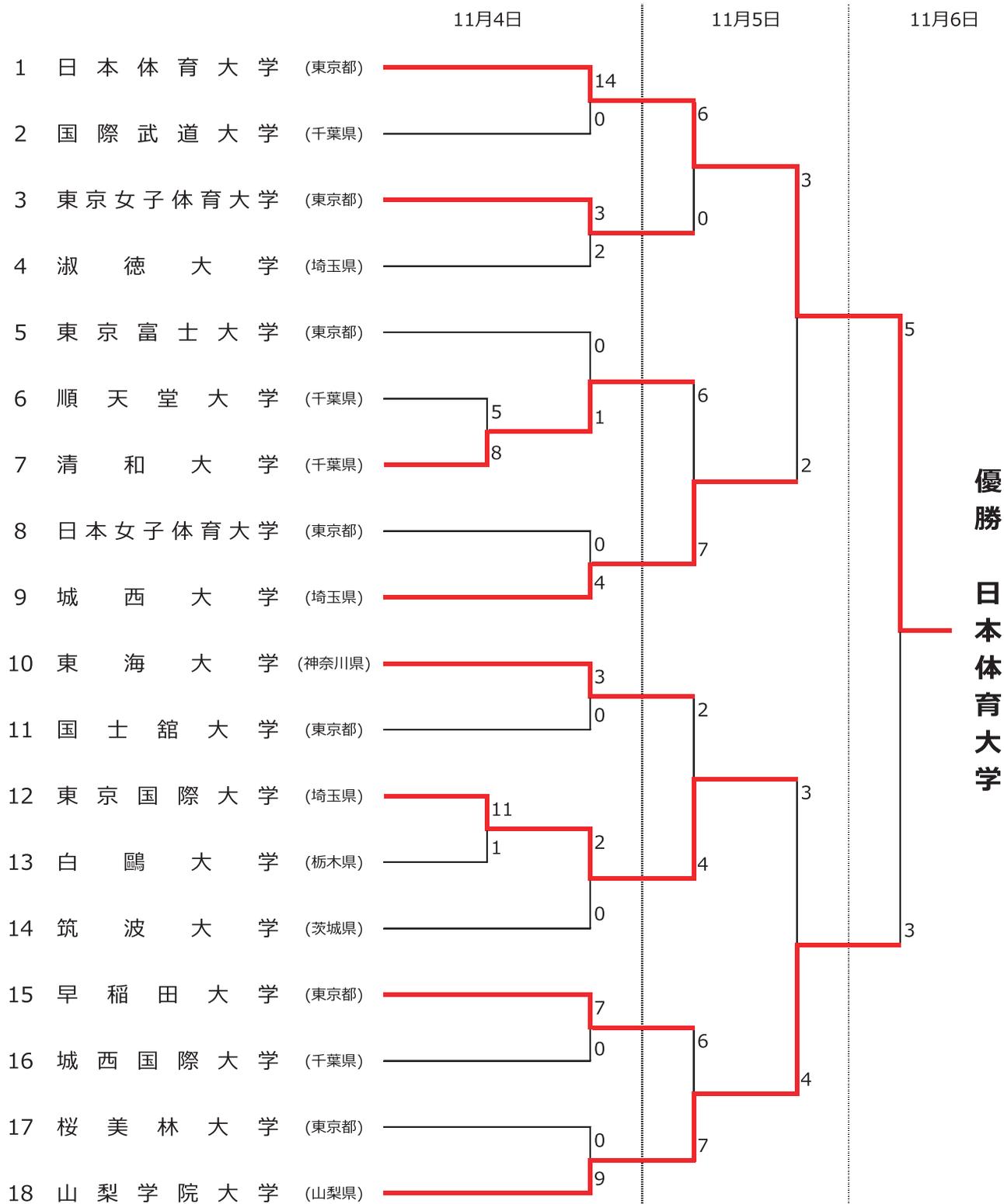
# 第54回関東大学ソフトボール選手権大会 結果（女子の部）

期日：令和5年11月4日(土)～6日(月)

【試合開始予定時間】

会場：千葉県成田市  
 A球場 北羽鳥多目的広場(野球場)  
 B球場 北羽鳥多目的広場(多目的広場)  
 C球場 大谷津運動公園野球場  
 D球場 大谷津運動公園多目的広場

第1試合 9:30～  
 第2試合 11:30～  
 第3試合 13:30～



2023 年度 第 2 回 関東大学選抜女子リーグ戦

11 / 11 (土)、12 (日)、23 (祝)、25 (土)、26 (日)、12 / 3 (日)、9 (土)、10 (日)

会 場：東京女子体育大学、城西大学、東京国際大学など

**【Women's Division 1】**

	2023	城西大	山梨学院	淑徳大	東京国際	東女体	日体大	東京富士	日女体	勝	負	分	得点	失点	順位	得失点
関東1位	城西大	●	○	○	●	●	○	○	○	4	3	0	27	16	3	11
関東2位	山梨学院	○	●	○	●	●	○	○	○	5	2	0	34	18	2	16
関東3位	淑徳大	●	●	○	●	○	○	○	○	3	4	0	20	22	6	-2
関東4位	東京国際	●	●	○	○	○	○	○	○	4	3	0	25	23	5	2
東京1位	東女体	○	○	○	○	○	○	○	○	6	1	0	41	21	1	20
東京2位	日体大	○	○	●	●	●	○	○	○	4	3	0	27	21	4	6
東京3位	東京富士	●	●	●	●	●	○	○	○	1	6	0	15	46	8	-31
東京4位	日女体	○	○	○	○	○	○	○	○	1	6	0	14	37	7	-23



優 勝：東京女子体育大学



準優勝：山梨学院大学

※ナガセケンコー株式会社より貴賓を贈呈していただいております。

関東大学ソフトボール連盟

「関東大学 A 選抜」(2024 年(前期)／強化指定選手名簿)

	ポジション	氏名	ヨミガナ	大学名	学年	所属
1	投手	奥野 心	オクノ ココロ	淑徳大学	3	埼玉県
2		下村 彩葉	シモムラ イロハ	日本体育大学	2	東京都
3		手塚 心彩	テヅカ ココナ	山梨学院大学	2	山梨県
4		増淵 安月	マスブチ アツキ	東京女子体育大学	1	東京都
5		湯田 結那	ユダ ユナ	淑徳大学	3	埼玉県
6		渡部 翠里	ワタナベ ミドリ	日本体育大学	3	東京都
7	捕手	千葉 風子	チバ フウコ	淑徳大学	3	埼玉県
8		橋崎 芽依奈	ハシザキ メイナ	東京女子体育大学	3	東京都
9		宮子 佳也	ミヤコ カヤ	日本体育大学	3	東京都
10		棕梨 琳花	ムクナシ リンカ	山梨学院大学	3	山梨県
11	一塁手	新井 千夏	アライ チナツ	城西大学	3	埼玉県
12		葛城 双葉	カヅラギ フタバ	東京女子体育大学	2	東京都
13		中込 楓	ナカゴメ カエデ	山梨学院大学	2	山梨県
14	二塁手	河西 真奈	カサイ マナ	山梨学院大学	2	山梨県
15		佐藤 くるみ	サトウ クルミ	日本体育大学	3	東京都
16	三塁手	川原 悠莉	カワハラ ユウリ	城西大学	2	埼玉県
17		宮崎 眞緒	ミヤザキ マオ	東京女子体育大学	1	東京都
18	遊撃手	相田 くるみ	アイダ クルミ	城西大学	2	埼玉県
19		伊波 蘭	イハ ラン	日本体育大学	3	東京都
20		宗片 夏樹	ムナカタ ナツキ	東京国際大学	1	埼玉県
21	外野手	有田 麗	アリタ ウララ	東京国際大学	2	埼玉県
22		川田 和	カワタ ヤマト	日本体育大学	3	東京都
23		神林 碧莉子	カンバヤシ ミリコ	山梨学院大学	3	山梨県
24		熊谷 千尋	クマガイ チヒロ	城西大学	2	埼玉県
25		東海林 緋織	ショウジ ヒオリ	東京女子体育大学	1	東京都
26		松原 緑	マツバラ ミドリ	山梨学院大学	3	山梨県
27		向田 衣舞	ムカイダ イブ	城西大学	2	埼玉県
28		横山 木葉	ヨコヤマ コノハ	日本体育大学	3	東京都

スタッフ (13名)

1	チームリーダー	清水 正	山梨学院大学		山梨県
2	ヘッドコーチ	高橋 流星	日本体育大学		東京都
3	サブヘッドコーチ	佐藤 理恵	東京女子体育大学		東京都
4	バッテリーコーチ	増淵 まり子	淑徳大学		埼玉県
5		黒川 春華	東京国際大学		埼玉県
6	守備・打撃・走塁コーチ	長澤 淑恵	城西大学		埼玉県
7		小窪 恭介	東京富士大学		東京都
8	学生アシスタント	高橋 楓	日本女子体育大学		東京都
9		半田 海	日本女子体育大学		東京都
10	トレーナー	齋藤 雄介	日本体育大学		東京都
11		只野 愛子	東京国際大学		埼玉県
12	主務	遠藤 那実	日本体育大学	3	東京都
13		植木 寧々	東京女子体育大学	2	東京都

# 第69回全日本総合男子ソフトボール選手権大会

期 日 令和5年9月16日(土)～19日(火)  
 会 場 滋賀県東近江市総合運動公園多目的グラウンド  
 東近江市長山公園グラウンド



第6回全日本総合男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 滋賀県 メイン会場: 東近江市総合運動公園 布引多目的グラウンド

(記録4号)

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 高知ペナッククラブ and 埼玉県庁クラブ.

特記事項 埼玉県庁クラブ 西山勝次 滋賀本塁打

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 岩手ソフトボールクラブ and デンソー.

特記事項 デンソー 松尾翔輝 滋賀本塁打

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like REUNION and 福島ソフトボールクラブ.

特記事項 福島ソフトボールクラブ 塩沼泰成選手 滋賀本塁打

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (本塁打) 轉法輪 and 後攻 (本塁打) 渡邊 智範.

特記事項 福島ソフトボールクラブ 塩沼泰成選手 滋賀本塁打

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 上鶴 大聖 and 後攻 (投手) 赤木 健太.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (本塁打) 中西 崇晏 and 後攻 (本塁打) 松岡 真央.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 上鶴 大聖 and 後攻 (投手) 赤木 健太.

特記事項

第6回全日本総合男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 滋賀県 メイン会場: 東近江市総合運動公園 布引多目的グラウンド

(記録4号)

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 平 新之介 and 後攻 (投手) 藤原 琢磨.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 北川 右悟 and 後攻 (投手) 原 大輝.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (本塁打) 菅枝 諒 and 後攻 (本塁打) 松本 元次.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 小野寺 翔太 and 後攻 (投手) 西森 亜沙夢.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 海藤 和也 and 後攻 (投手) 山内 直人.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (本塁打) 金子 京介 and 後攻 (本塁打) 吉川 大貴.

特記事項

第6回全日本総合男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 滋賀県 メイン会場: 東近江市総合運動公園 布引多目的グラウンド

(記録4号)

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 海崎 直次 and 後攻 (投手) 中村 将巳.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 長井 風雅 and 後攻 (投手) 藤田 空裕.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 小林 翔真 and 後攻 (投手) 上田 郁也.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 久田 莉也 and 後攻 (投手) 久田 莉也.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 西村 大洋 and 後攻 (投手) 下井倉 優斗.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (本塁打) 秋豆 幸輝 and 後攻 (本塁打) 大嶋 匠.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 鈴木 雄大 and 後攻 (投手) 大嶋 匠.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 鈴木 雄大 and 後攻 (投手) 大嶋 匠.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 藤井 賢亮 and 後攻 (投手) 大嶋 匠.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 佐藤 大介 and 後攻 (投手) 西角 和馬.

特記事項 マーシャル クロック (大阪・堺グローバル) 滋賀本塁打

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 山内 貴博 and 後攻 (投手) 井水 大輝.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (本塁打) 白木 啓太 and 後攻 (本塁打) 西角 和馬.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (投手) 小山 裕史 and 後攻 (投手) 裏 拓光.

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, Team Name, 1st-14th innings, Total, Score, Remarks. Includes teams like 先攻 (本塁打) 清水 公貴 and 後攻 (本塁打) 裏 拓光.

特記事項

第69回全日本総合男子ソフトボール選手権大会  
会場所在地: 滋賀県 メイン会場: 東近江市総合運動公園 布引多目的グラウンド (記録4号)

第2日	2023年09月17日	2回戦	試合時間: 02時間07分	試合番号	17											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
デンソー	0	0	1	1	2	0	0								4	
埼玉原序クラブ	0	0	0	0	0	0	0								0	
先攻 (投手) ○山脇 佑也 (捕手) 芝 聖																
後攻 (投手) ●和田 真也, 中島 悠貴 (捕手) 北澤 慶介																
先攻 (本塁打) 廣野 龍也, 田中 大輔 (二塁打)																
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 松本 勇亮																
特記事項																

第69回全日本総合男子ソフトボール選手権大会  
会場所在地: 滋賀県 メイン会場: 東近江市総合運動公園 布引多目的グラウンド (記録4号)

第2日	2023年09月17日	2回戦	試合時間: 01時間23分	試合番号	21											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
日本体育大学	7	6	4												17	得点差コールド
日本製鋼所 広島	0	0	0	0											0	
先攻 (投手) ○野本 誠士, 新井 大和 (捕手) 藤原 琢哉, 大前 輝彦																
後攻 (投手) ●中野 理也, 妻木 龍汰 (捕手) 原 大輝, 折出 遼																
先攻 (本塁打) 古敷谷 宗, 嶋谷 蒼, 宮本 祐道 (二塁打) 新井 優大																
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																
特記事項	宮本裕道 (日本体育大学) 満塁本塁打															

第2日	2023年09月17日	2回戦	試合時間: 02時間22分	試合番号	18											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
旭化成	0	9	4	0											13	得点差コールド
福岡ソフトボールクラブ	0	0	2	1											3	
先攻 (投手) ○池田 雅哉, 猪股 竜之助 (捕手) 赤木 優太																
後攻 (投手) ●志野 嵩幸 (捕手) 安齋 圭佑																
先攻 (本塁打) 松岡 真央, 黒木 功弥 (二塁打)																
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 塩沼 泰成, 安齋 圭佑																
特記事項																

第2日	2023年09月17日	2回戦	試合時間: 02時間11分	試合番号	22											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
トヨタ自動車	0	0	1	0	2	5	2								10	
安川電機	0	1	0	0	0	3	0								4	
先攻 (投手) ○小野寺 翔太, 八木 孔輝 (捕手) 西森 亜夕夢																
後攻 (投手) ●南達 和也 (捕手) 中野 栄介																
先攻 (本塁打) 三谷 芳輝 (三塁打) 杉山 喜規 (二塁打) 平嶋 修理, 小野寺 翔太																
後攻 (本塁打) 多岐島 力也 (三塁打) (二塁打) 金子 京介																
特記事項																

第2日	2023年09月17日	2回戦	試合時間: 02時間22分	試合番号	19											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
豊田自動織機	0	2	0	0	0	0	4								6	
Honda	1	0	0	0	5	0	1x								7	
先攻 (投手) 近森 大起, 深津 悠平, ●近森 大起 (捕手) 中村 将己																
後攻 (投手) 池田 空生, ○長井 風雅 (捕手) 野澤 空汰																
先攻 (本塁打) 近森 大起, 宮本 海斗, 森田 裕介 (三塁打) (二塁打) 森田 裕介, 脇長 丈																
後攻 (本塁打) 堀田 空樹, 坂田 大士 (三塁打) 藤原 隼俊 (二塁打)																
特記事項																

第2日	2023年09月17日	2回戦	試合時間: 02時間17分	試合番号	23											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
高崎市役所	0	0	0	0	0	3	5								8	
大阪・堺グローバル	0	0	0	1	3	0	0								4	
先攻 (投手) 松本 健, ○照井 賢吾 (捕手) 大井 宗																
後攻 (投手) マツル カツヲ, ●北浜 政樹, マツル カツヲ (捕手) 長谷川 敬広																
先攻 (本塁打) 大嶋 匠② (三塁打) (二塁打)																
後攻 (本塁打) 橋本 慎, 長谷川 敬広 (三塁打) (二塁打)																
特記事項																

第2日	2023年09月17日	2回戦	試合時間: 02時間15分	試合番号	20											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
山口水産	0	0	1	0	1	0	0								2	
三重ヴェルデウィン	0	0	0	0	1	0	0								1	
先攻 (投手) ○シロジツバ - ヘイ (捕手) 下井倉 優斗																
後攻 (投手) ●河野 祐那 (捕手) 上田 郁也																
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																
後攻 (本塁打) (三塁打) 上田 郁也 (二塁打)																
特記事項																

第2日	2023年09月17日	2回戦	試合時間: 02時間02分	試合番号	24											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
平林金属株式会社	0	0	1	0	1	0	0								2	
ダイヤモンド	0	1	0	0	2	0	x								3	
先攻 (投手) 井上 裕太郎, ●小山 玲央 (捕手) 藤井 雅広																
後攻 (投手) ○ツツノスガノゴウ (捕手) 井水 大樹																
先攻 (本塁打) 浜本 穂 (三塁打) (二塁打)																
後攻 (本塁打) 松山 和哉, 古川 恵士 (三塁打) (二塁打)																
特記事項																

第69回全日本総合男子ソフトボール選手権大会  
会場所在地: 滋賀県 メイン会場: 東近江市総合運動公園 布引多目的グラウンド (記録4号)

第2日	2023年09月17日	準々決勝	試合時間: 02時間22分	試合番号	25											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
デンソー	0	0	1	0	0	0	0								1	
旭化成	0	0	0	0	0	0	2x								2	
先攻 (投手) ●山脇 佑也 (捕手) 芝 聖																
後攻 (投手) ○池田 雅 (捕手) 赤木 優太																
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 水吉 飛斗																
特記事項																

第69回全日本総合男子ソフトボール選手権大会  
会場所在地: 滋賀県 メイン会場: 東近江市総合運動公園 布引多目的グラウンド (記録4号)

第3日	2023年09月18日	準決勝	試合時間: 01時間39分	試合番号	29											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
Honda	0	1	10	0											11	得点差コールド
旭化成	0	0	0	1											1	
先攻 (投手) ○長井 風雅 (捕手) 野澤 空汰																
後攻 (投手) ●池田 雅, 寺原 瑞希, 猪股 竜之助 (捕手) 赤木 優太																
先攻 (本塁打) 浦本 大樹 (三塁打) 藤原 隼俊 (二塁打)																
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																
特記事項																

第3日	2023年09月18日	準々決勝	試合時間: 02時間33分	試合番号	26											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
山口水産	1	0	0	0	0	1	0	0							2	
Honda	2	0	0	0	0	0	1x								3	
先攻 (投手) ●原口 響 (捕手) 下井倉 優斗																
後攻 (投手) 長井 風雅, 池田 空生, ○長井 風雅 (捕手) 野澤 空汰																
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 下井倉 優斗																
後攻 (本塁打) 坂田 大士 (三塁打) (二塁打)																
特記事項																

第3日	2023年09月18日	準決勝	試合時間: 02時間17分	試合番号	30											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
トヨタ自動車	0	0	2	0	0	2	2								6	
ダイヤモンド	0	1	0	3	0	0	0	1							5	
先攻 (投手) 小野寺 翔太, ○八木 孔輝 (捕手) 西森 亜夕夢																
後攻 (投手) ●ツツノスガノゴウ (捕手) 井水 大樹																
先攻 (本塁打) 黒岩 誠哉, 佐藤 光希 (三塁打) (二塁打) 西森 亜夕夢, 三谷 芳輝																
後攻 (本塁打) 百水 悠太 (三塁打) 古賀 優大 (二塁打) フジキ ユウスケ, 大城 賢輝																
特記事項																

第2日	2023年09月17日	準々決勝	試合時間: 02時間09分	試合番号	27											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
トヨタ自動車	0	0	3	2	1	0	0								6	
日本体育大学	0	0	0	1	0	0	1								2	
先攻 (投手) ○小野寺 翔太, 八木 孔輝 (捕手) 西森 亜夕夢																
後攻 (投手) ●宮本 和央, 野本 誠士 (捕手) 藤原 琢哉																
先攻 (本塁打) (三塁打) 西森 亜夕夢, 八木 孔輝 (二塁打) 杉山 喜規																
後攻 (本塁打) 古敷谷 宗 (三塁打) (二塁打)																
特記事項																

第4日	2023年09月19日	決勝	試合時間: 01時間54分	試合番号	31											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
トヨタ自動車	0	0	0	0	0	0	0								0	
Honda	0	1	4	0	1	0	x								6	
先攻 (投手) ●八木 孔輝 (捕手) 西森 亜夕夢																
後攻 (投手) ○池田 空生 (捕手) 野澤 空汰																
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																
後攻 (本塁打) (三塁打) 遠藤 光希, 坂田 大士 (二塁打) 船原 雄大																
特記事項																

第2日	2023年09月17日	準々決勝	試合時間: 01時間58分	試合番号	28											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
高崎市役所	0	0	0	0	0	0	0								0	
ダイヤモンド	0	0	1	1	0	0	x								2	
先攻 (投手) ●松本 健, 照井 賢吾, 小田澤 直紀 (捕手) 大井 宗																
後攻 (投手) マツル カツヲ, ○ツツノスガノゴウ (捕手) 井水 大樹																
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打) 松山 和貴																
特記事項																

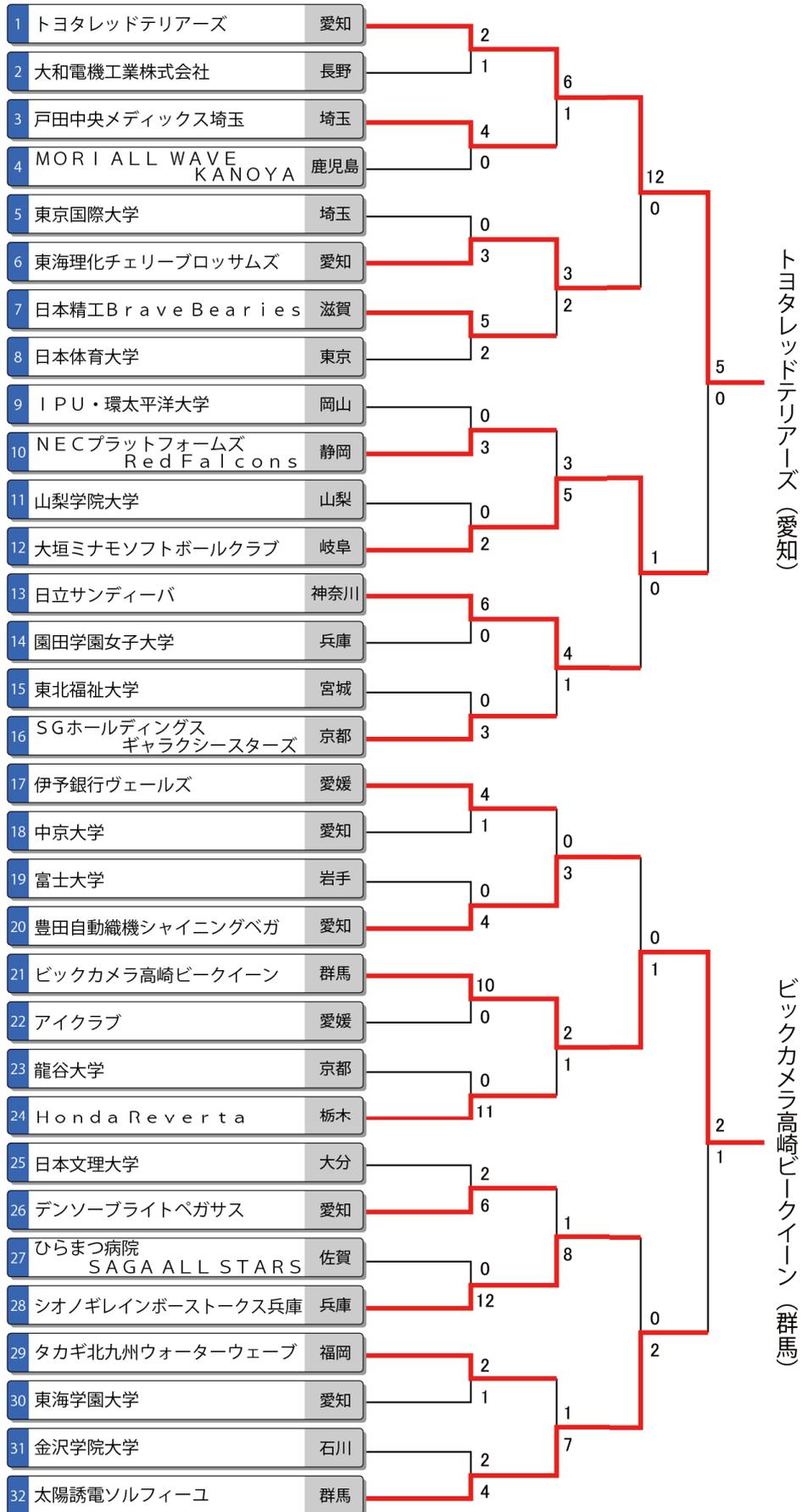
第2日	2023年09月17日	準決勝	試合時間: 02時間02分	試合番号	24											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
平林金属株式会社	0	0	1	0	1	0	0								2	
ダイヤモンド	0	1	0	0	2	0	x								3	
先攻 (投手) 井上 裕太郎, ●小山 玲央 (捕手) 藤井 雅広																
後攻 (投手) ○ツツノスガノゴウ (捕手) 井水 大樹																
先攻 (本塁打) 浜本 穂 (三塁打) (二塁打)																
後攻 (本塁打) 松山 和哉, 古川 恵士 (三塁打) (二塁打)																
特記事項																

第75回全日本総合女子ソフトボール選手権大会  
 (SAGA2024 国民スポーツ大会ソフトボール競技リハーサル大会)

開催日時：2023年9月16日(土)～19日(火・予備日)

開催場所：佐賀県 太良町・白石町

備考：大会期間中の荒天により準決勝まで実施



2年連続8回目の優勝

トヨタレッドテリアーズ (愛知)

2年ぶり4回目の優勝

ビックカメラ高崎ビーキューン (群馬)

第75回全日本総合女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 佐賀県太良町 メイン会場: 太良町B&G海洋センター運動広場

《記録4号》

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 大和電機工業株式会社 and 大和電機工業株式会社.

先攻 (投手) 香藤 未衣, 大車 都来希, 古川 歩佳, 大友 恭奈, ●大車 都来希

後攻 (投手) 堀 あかね

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like MORI ALL WAVE KANOYA and 戸田中央メディアックス埼玉.

先攻 (投手) 中野 花菜, ●竹原 由菜, 中野 花菜

後攻 (投手) ●増田 佑希, マリオン

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 東京国際大学 and 東海理化チエーリーブロッサムズ.

先攻 (投手) ●鈴木 りりか

後攻 (投手) ●田畑 七海

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 日本体育大学 and 日本精工Brave Beraries.

先攻 (投手) ●持田 みなみ, 下村 彩葉, 丸山 美海, 荒川 めい, 大島 南々子

後攻 (投手) ●山田 玲菜, 後藤 明日香

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 中京大学 and 伊予銀行ヴェルズ.

先攻 (投手) ●成瀬 結衣, 櫻庭 万寿, 水本 守平, 渡田 理沙

後攻 (投手) ●庄司 恭々

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 富士大学 and 豊田自動織機シャイニングベガ.

先攻 (投手) ●鈴木 心菜, 本城 咲良

後攻 (投手) ●原 奈々

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like アイクラブ and ビックカメラ高崎ビーコン.

先攻 (投手) ●曾我部 真瑠, 渡部 明香, 清水 晴佳, 中居 奈緒

後攻 (投手) ●藤坂 美咲

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 龍谷大学 and Honda Reverta.

先攻 (投手) ●新谷 真帆, 濱田 胡帆, 谷本 華依, 新谷 真帆

後攻 (投手) ●山崎 涼香

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

第75回全日本総合女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 佐賀県太良町 メイン会場: 太良町B&G海洋センター運動広場

《記録4号》

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like NECフラットフェイス Red Falcons and IPU・環太平洋大学.

先攻 (投手) ●大塚 亜由美, 磯谷 瑞希

後攻 (投手) ●吉村 麻, 松村 航佳, 清水 咲良

先攻 (本塁打) 川井 葉月

後攻 (本塁打) 川井 葉月

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 山梨学院大学 and 大垣ミナモトソフトボールクラブ.

先攻 (投手) 手塚 心彩, ●田中 愛花, 手塚 心彩

後攻 (投手) ●中山 日菜子

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 日立サンディーバ and 園田学園女子大学.

先攻 (投手) ●飯島 綾香

後攻 (投手) ●飯島 綾香

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 東北福祉大学 and SG3-67インダキアシアスターズ.

先攻 (投手) ●瀧島 小智美

後攻 (投手) ●新井 真奈, 菅原 菜々美

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 日本福祉大学 and SG3-67インダキアシアスターズ.

先攻 (投手) ●山本 陽菜, 鶴田 美優

後攻 (投手) ●小島 あみ

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like オパレレボースターズ兵庫 and ひらまつ病院 SAGA ALL STARS.

先攻 (投手) ●高妻 美沙希, 下村 真奈

後攻 (投手) ●高妻 美沙希, 下村 真奈

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like タカギ九州ウインターウェーブ and 東海学園大学.

先攻 (投手) ●鹿野 愛音, 上村 紗輝

後攻 (投手) ●田中 真実, 志田 実月, 田中 夢実

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

Table with 14 columns: 1st round, 2nd round, 3rd round, 4th round, 5th round, 6th round, 7th round, 8th round, 9th round, 10th round, 11th round, 12th round, 13th round, 14th round, Total. Includes team names like 太陽誘電ソルフィーユ and 金沢学院大学.

先攻 (投手) ●寺田 愛友, ●曾根 隼人

後攻 (投手) ●山下 千世, 中郷 花菜, ●山下 千世

先攻 (本塁打) 堀 あかね

後攻 (本塁打) 堀 あかね

特記事項

## 2023 年度日本女子リーグ交流戦イベント 報告書

会期：2023 年 7 月 1 日（土）～7 月 2 日（日） 会場：富山県富山市/岩瀬スポーツ公園ソフトボール場



令和 5 年度 日本リーグ交流戦大学選抜チーム選手名簿

選手（守備別五十音順）

NO.	守備	氏名	地区	所属
1	投手	飯島 綾香	関西	園田学園女子大学
2	〃	石原 瑠々	中国	IPU環太平洋大学
3	〃	木山 陽菜	九州	日本文理大学
4	捕手	柏木 みく	九州	日本文理大学
5	〃	田村 虹月	中国	IPU環太平洋大学
6	〃	長江 乃愛	関西	園田学園女子大学
7	内野手	池川 実希	関西	大阪青山大学
8	〃	上原 千風	東北	東北福祉大学
9	〃	笠原 朱里	東京	日本体育大学
10	〃	小林 楓	東海	東海学園大学
11	〃	古堅 菜奈未	関東	清和大学
12	〃	梶山 りりな	北信越	金沢学院大学
13	外野手	伊礼 真歩	九州	日本文理大学
14	〃	児島 瞳	中国	IPU環太平洋大学
15	〃	眞嶋 花	関西	同志社大学

スタッフ

NO.	役職	氏名	地区	所属
1	ヘッドコーチ	佐藤 理恵	東京都	東京女子体育大学
2	アシスタントコーチ	藤本 索子	北信越	金沢学院大学

[日本女子リーグ Jr オールスター(23歳以下)vs 大学選抜チーム]

	1	2	3	4	5	6	7	R
大学選抜	0	3	0	3	1	0	-	7
Jrオールスター	0	0	0	0	0	0	-	0

責任投手/打撃成績

勝利投手	[大学選抜] 木山陽菜
敗戦投手	[Jrオールスター] 山本すみれ
打撃成績	[大学選抜] 《本》 笠原朱里 《二》 上原千風、眞嶋花、梶山りりな
	[Jrオールスター]

バッテリー

大学選抜	石原瑠佐々、○木山陽菜、飯島綾香ー田村虹月、柏木みく、長江乃愛
Jrオールスター	●山本すみれ、斉藤未来、中田萌、川村まつりー三宅萌里、志賀彩音、三宅萌里

《本》:本塁打      《三》:三塁打      《二》:二塁打

[大学選抜チーム行動表]

7/1(土)

12:00 スタッフ集合 ミーティング (岩瀬スポーツ公園管理棟)

13:00 全体集合 開始式 全体ミーティング

14:00 練習 (アイズブレイク、雨天の為バッテリー・内野・外野別ミーティング)

16:30 ホテル到着

18:30 夕食及びミーティング

7/2(日)

6:00 朝食

6:30 ホテル出発

7:00 練習開始

9:00 試合

12:00 朝食及び試合見学 (レジェンドチーム vs JL オールスターチーム)

14:00 強化練習 (レジェンドチームによる指導)

15:30 解散式

## 2023年度 日本女子リーグ交流戦を振り返って

ヘッドコーチ 佐藤 理恵（東京女子体育大）

### 1. チーム編成について

2023年度の日本女子リーグ交流戦に大学選抜チームを編成し、日本女子リーグのU23リーグ選抜（Jrオールスター）との試合を行うことが決定し、女子強化委員会の中で選抜方法が検討なされました。2023年度の春季リーグやインカレ予選などで活躍した各地区の優秀選手を選出することとなり、東北地区1名（一塁手）、関東地区1名（二塁手）、東京地区1名（三塁手）、北信越地区1名（遊撃手）、東海地区1名（遊撃手）、関西地区4名（投手・捕手・内野手・外野手）、中国地区3名（投手・捕手・外野手）、九州地区3名（投手・捕手・外野手）の計15名が各地区から推薦され、理事会によって選抜チームが決定となりました。西日本地区の選割り当てが多くなりましたが、交流戦の1週間後に東日本インカレが差し迫る中での上りであるため、西日本の選手を多く選出することとなりました。



### 2. 直前練習及びJrオールスターとの交流試合について

集合初日はあいにくの雨のために、グラウンドでの練習ができなく開始式とミーティングを行いました。開校式には大学連会長の兒玉先生、専務理事の木田先生からの交流試合の目的、交流試合やレジェンドチームからの強化練習会への強化方針が話されスタッフ・選手の自己紹介をおこないました。選抜学生達も初対面ではありながらも、この機会を自らの学びに変えようとモチベーションも高く、しっかりとコミュニケーションを積極的に行っていました。選抜チームの主将には笠原朱里（日本体育大学）を据えて、サイン決めやバッテリー、内野・外野でミーティングを行って翌日の試合に臨むこととなりました。

Jrオールスター（23歳以下）との試合では、2回に主将の笠原朱里の3ランホームランで先制し、終始大学選抜チームの流れですべての選手が活躍し7-0で勝利することが出来ました。MVP賞には主将の笠原朱里選手が選出されるなど、大学生のレベルの高さを示すことが出来たのではないかと思います。

### 3. レジェンドチームによる強化練習会について

交流試合後には、東京五輪のメダリストや過去の日本リーグのレジェンドの皆様による強化練習会を開催し、大学選抜の選手達は自分自身の技術向上に取り組むことが出来ました。特に大きな収穫はレジェンドの皆様からの経験談や練習方法の指導を各ポジションで受けられたことが非常に大きな成果となりました。

### 4. 謝辞

この度の日本女子リーグとの交流試合とレジェンドチームとの強化練習会を運営していただいた皆様、また選抜チーム編成においてご協力していただいた所属大学チームの部長・監督様に感謝の意を述べさせていただきます。とても成果のある事業となりました。今後もこのような機会を増やしていき、選手強化の為に力を尽くしていきたいと思っております。

## 日本リーグ交流戦を振り返って

アシスタントコーチ：藤本 索子（金沢学院大学）

この度、アシスタントコーチとして、大学選抜に携わる機会をいただき、深く感謝申し上げます。今年度、「第56回日本女子ソフトボールリーグ」交流節 7月2日(日)のイベントとして、JSL（日本女子ソフトボールリーグ）の「若手選手」で構成された「Jrオールスター」と「大学選抜」との対戦は、木田専務理事のご尽力により実現したものでした。同年代の日本リーガーとの対戦は、大学生にとって大変貴重な経験となり、大学選抜チームの派遣としても大学ソフトボールの強化・普及・発展に対し、実り多きものであったと確信しております。



試合の前日に全国各地から集合し、当初は前日練習のみで試合に臨まないといけない状況にありましたが、降雨によりグラウンドでの前日練習すらできませんでした。しかし、その分ミーティングが密にできたように思います。まず、児玉会長、木田専務理事からのご挨拶、佐藤理恵ヘッドコーチからチームの方針や目的、約束事等が伝達され、その後選手からそれぞれ自己紹介と一言という流れでミーティングが行われました。特に印象的だったのは、佐藤ヘッドコーチがチームとしての雰囲気や士気をすぐに創り上げたことでした。一言では言い表せませんが、コミュニケーションの取り方が非常に洗練されており、学年が違う選手たちを和ませ、すぐにとっても良い雰囲気や士気のチームを創り上げていました。

試合では、日本リーグの選手を相手に堂々と戦い、投手力・打力ともにそれぞれの選手が実力を発揮し、選手全員が活躍できていました。やはり、試合に臨む準備がきちんとなされていた賜物だと感じました。チームとしてだけでなく、選手個人が良い結果を生むには、良い準備が必須だと考えます。このことは、単に日頃から選手の取り組みや意識の高さが問われるところです。1試合の中でも、大学生らしい大変積極的なソフトボールを展開できたのではないかと思います。試合後には、レジェンドチームの方々からポジション毎にご指導をいただきました。大学選抜の選手は、貪欲にアドバイスを求め、繰り返し確認するように何度も試みている姿がありました。その姿に対し、レジェンドチームの方々も親身になってひとつひとつを真剣に聞いてくださり、丁寧なご指導いただきました。2日間ではありましたが、強化事業として大変充実した形で終えることができました。

全体を通して、児玉会長、木田専務理事、佐藤ヘッドコーチの行動や言動からチームマネジメントの部分で多くの学びがありました。今後一層、ソフトボールの一指導者として、邁進して参ります。最後に、この度の大学強化事業が実現できたのは、日本リーグ、(一社)富山県ソフトボール協会やレジェンドチームのご協力、さらには選手派遣に際しまして、各大学のご理解とご協力の賜物だと考えております。関係各位に大学生選手の学びと成長の場をご提供いただき、衷心より感謝申し上げます。

今回、大学選抜チームとして日本リーグの交流イベントに参加させて頂き、まず感じたのは私自身がこれまで感じたことのない会場の盛り上がりでした。

ソフトボールを初めて10年経ちますが、ソフトボールは人気のないスポーツで会場でも応援して拍手をしてくれるのは保護者やチームの関係者だけだと思っていました。



試合が始まると多くの方で会場は溢れていて、交流ということもありますが、敵・味方関係なく「ナイスプレー、ナイスバッティング」という声や拍手が聞こえました。改めてソフトボールは魅力あふれる良いスポーツだと思うと同時に今回短い時間ではありましたが各大学の皆さんと交流して学びある時間になったと心の底から思います。そして、活動の中では1泊2日という限られた時間の中でどのようにコミュニケーションを取るかや、連携プレーやサインはどうするかなど様々なことに頭を悩ませました。あいにく天候にも恵まれず、貴重な初日の練習は行えませんでしたでしたがその時間をコミュニケーションを取る時間に費やし、有意義な時間になったと思います。実際に試合となると、不安な部分は沢山ありましたが、アイコンタクトでポジショニングを変えたり、バント処理やカットプレーであったりが事前の声かけやその時の感性だけでこんなにも連携が取れるものなのだと感じました。また、私たちが入学してからはコロナ禍で他の大学の人たちとも中々交流出来ませんでしたでしたが、今回の交流を通して改めて同じ競技をしている人たちと同じ時間を共有し、コミュニケーションを取っていく中で様々な感情に出会いました。勿論、選手として尊敬する部分であったり、負けたくないというライバル心だったり、全て含めて良い経験ができたと思います。また、選抜チームのメンバーや先生方と今度は同じユニホームで戦いたいと思っています。

今回、こうして大学選抜チームに選んで頂き、今後も競技を続けていく中で私たちが先頭に立ってソフトボール界を引っ張っていくというだけでなく、ソフトボールの良さや楽しさを多くの人に知ってもらいたいと感じました。今回の交流戦に関わって下さった方々や応援して下さった方のお陰で貴重な経験が出来たと思います。ありがとうございました。



富山県で行われた日本リーグとの交流戦に大学選抜として参加させて頂きました。

普段は一緒にプレーすることのない他大学の選手と共に、同年代の日本リーグの選手と試合が出来るということで凄く楽しみにしていました。今回は2日間という短い期間での活動となり、1日目は雨天で練習を行うことが出来ませんでした。全体でコミュニケーションを取る時間を取り、短時間でお互いを知り、チームの仲を深めることが出来ました。そして、サインや試合で想定されるプレーの確認などを行い、しっかりと交流戦への準備が出来た時間となりました。



試合当日は、いつもの違う雰囲気です少し緊張もありましたが、バッテリーは普段組んでいる選手同士で試合に入ったので、やりにくさは特にありませんでした。ですが、野手は普段と違う選手が隣を守っていたので、連携プレーやポジショニングなど難しい部分が沢山あったと思います。そのような中でも、個々の能力が十分に発揮され、チームが団結して戦うことが出来ました。どのような環境でも、自分の目で見て判断し、臨機応変に対応する、そして自分の最大限の力を発揮するということは、高いレベルでプレーする為には必要な能力であると改めて感じました。今回の交流戦を通して、大学のソフトボールのレベルの高さを実感したと共に、学生ソフトボールの魅力を広める良い機会になったと思います。

今回、このような貴重な体験が出来たのも、沢山の方のご協力があったからだと思います。ソフトボールを思い切り出来る環境に感謝し、もっともっと沢山の方に会場に足を運んで頂き、生で私たちがプレーしている姿を観て頂けるよう、ソフトボールの魅力や楽しさを更に広めていきたいと強く思いました。短い期間でしたが、他大学の選手と、素晴らしいスタッフ陣の元でソフトボールを学ぶことができ、とても充実した2日間でした。ありがとうございました。



日本リーグ交流戦では、日本リーグで活躍されている選手や日本代表として世界で活躍された方々、普段はライバルである他の大学の選手から多くの学びを得ることができました。いつもとは違う環境でソフトボールをし、様々な考え方やレベルの高さと出会い感じたことを必ず今後のキャリアアップにつなげようと私は心に決めています。



私は小学生のころ、日本リーグの試合を観戦しに行ったことがありました。見たこともないような動きの速さ、華麗なプレーに圧倒され「いつかこの場所でプレーできるような選手になりたい。」と強く思ったことを今でも覚えています。大学生となった今、あこがれだったレジェンドチームの選手からピッチング指導をしていただき、日本リーグのジュニアオールスターチームと戦い、わずか2イニングではありましたが守備に助けられながらも無失点に抑えることができたのは、私にとって大きな財産であり自信となりました。特に印象に残っているのは、レジェンドチームからの指導です。普段悩んでいることの改善策と一緒に考えてくださり、なかなかうまくいかない時期が続き悩むこともありましたが、この時間を通して今後もっとこうしていきたいという方向性を定めることができました。

大学選抜チームの一員としてこのような貴重な経験をさせていただき、大変うれしく思っています。この経験を糧に自らのレベルアップに努め、感じたことや学んだことを自チームの仲間にも伝えていきます。また、今後のソフトボール競技の発展に貢献していきたいです。

最後になりますが、大学選抜選手としてこのような貴重な経験をさせていただくことができたのは、全日本大学連盟の先生方や富山県ソフトボール協会の関係者の皆様、普段指導してくださっている山本先生のおかげであると強く思っております。心よりお礼申し上げます。



日本リーグ交流戦に参加させていただいて、Jr オールスターチームと対戦させていただきました。結果は7-0で勝利することができました。私は中継ぎピッチャーとして2回を投げたのですが、まだまだ自分の未熟な部分や日本リーグの皆さんとのレベルの差を再認識させられる結果に終わりました。



日本リーグ交流戦を通して、2日間という短い間でしたが、私自身たくさんのことを吸収することができました。いろいろな大学から選手が集まり、普段関わることのない選手や監督・コーチの方との会話をしたり、試合に向けての準備の仕方や試合の中での掛け声、試合の中でのプレーを見たりすることによって、その試合にどう臨むのかといった考え方について知ることが出来ました。

特に選抜選手の姿を見て、一人一人が自分の調整の仕方を理解し、準備しているところがとても印象的でした。試合の中では、チームが盛り上がるよう明るく声を掛けており、それだけでなく、ベンチに戻ってきた後の会話や二日間を通しての行動の一つ一つが、個々の選手のソフトボールに対する意識の高さを実感することができました。

このように、交流戦を通して様々なことを吸収するとともに、自分の課題を明確にすることも出来ました。試合後には、レジェンドチームの方にピッチングを見て頂きました。フォームから私の癖を見抜き、改善方法を教えて頂きました。また、変化球も見頂き、精度を上げるヒントをいただくことも出来ました。私も少し投げるだけで癖を見抜き指摘出来るほどの観察力を身に付け、そして、自分の感覚をもっと磨いていけるようになりたいと感じました。

今回、大学選抜に選出していただき、貴重な機会を与えてくださった全ての関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。今回の交流戦を通して学んだことを心に留め、日々成長出来るように練習に励んでいこうと思います。ありがとうございました。



## 日本リーグ交流戦を振り返って

日本文理大学 柏木 みく

私は九州地方の大学ということもあり、地方のチームの選手との交流が中々もてない中、今回全国各地の様々な大学から選手が集結し、大学選抜チームとして多くの人と交流を持つことができたこと、一緒にソフトボールができたことに大変嬉しく思いました。またとても良い経験をする事が出来ました。大学選抜チームは、試合前日に雨天の影響で調整練習をすることが出来ず、顔合わせ後すぐに試合に入ることとなりました。初めて会う人ばかりで初めは緊張や不安もありましたが、しっかりとコミュニケーションを取り試合に望むことが出来ました。本当に短期間のチームではありましたが、全員で楽しくソフトボールができた結果、日本リーグの選抜チームに勝つという素晴らしい結果で終われたことが本当に嬉しかったです。



試合内容としては、1打席目ではノーアウトランナー1塁のケースで回ってきました。なんとか繋いでチャンスを広げたいと思い打席に入り、結果として内野安打でチャンスを広げることが出来ました。この回に3点とる事ができ、先制点に貢献する事が出来て良かったです。また、守備でも野手も守ってくれて0点で抑え切ることが出来て良かったです。

試合後にレジェンドチームの方々に様々な事を教えていただきました。私は捕手なので渡邊さんにキャッチングについて教えていただきました。自分が苦手な捕り方について教えてもらい、今までとは確実に違う良い感覚やこうしたらもっと良くなるという事、悪い時と良い時の感覚を掴むことが出来ました。素晴らしい方々にソフトボールを教えてもらうことができ、とても嬉しく幸せで充実した時間を過ごすことが出来ました。

このような貴重な経験をする事ができたのは大学選抜に入ることができたからだと思います。ソフトボールを通して沢山の人の人に出会えることはソフトボールをしていて良かったと思えるひとつの理由です。ここで学んだ事や経験したことをこれからは活かしていき、大学ソフトボールをもっと盛り上げていけるように頑張っていきます。



## 日本リーグ交流戦を振り返って

IPU 環太平洋大学 田村 虹月

今回2日間に渡り大学選抜として活動させていただきました。1日目は雨が降っていたため練習が出来なかったのでチーム全体で自己紹介やサインの確認を行いました。初対面の子がほとんどのチームで初めはとても不安な気持ちもありましたが、コミュニケーションをたくさん取りチームメイトとだんだん仲を深める事ができました。選手全員でゲームや質問をし合うなどとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。食事の時間もみんながたくさんコミュニケーションを取ることができとても充実しました。2日目は試合と技術指導をしていただきました。初めはぎこちない部分もありましたが、回を重ねるごとにチームが一つになっていきとても良い試合をすることが出来ました。自分自身は思うような結果が出せませんでしたが、全国トップレベルの選手と一緒にプレーすることができとても良い経験をする事が出来ました。また、初めて一緒にプレーするチームメイトからはたくさんの事を学ぶことができました。プレーに対する考え方であったり、勝つための自分の役割など改めて学ぶことが多かった試合となりました。チーム全員が試合に出場し、勝利することが出来たので本当に良かったです。



試合が終わってからはレジェンドの方から技術指導をしていただきました。私は守備を教えていただきました。キャッチングや配球など分からない事を質問して、的確な指導をしていただきとても良い時間となりました。とても貴重な経験をする事が出来てよかったです。大学選抜として2日間活動させて頂き自分のプラスになることばかりで本当に充実した2日間を過ごすことが出来ました。この経験を今後の自分自身のプレーやチームに活かしていきたいです。

今大会に携わってくださった皆様のおかげで素晴らしい経験をすることが出来ました。2日間本当にありがとうございました。



## 日本リーグ交流戦を振り返って

園田学園女子大学 長江 乃愛

今回、大学選抜チームとして日本リーグ交流戦に参加させて頂きました。私自身、大学での選抜チームの参加が初めてということもあり、二日間という短い期間ではありましたが、とても楽しみにしていました。普段は、同じ大学内や関西地区といった、狭い関わりしかありません。この交流戦を通じて他大学の選手と行った交流はとても新鮮で、ソフトボールについての様々な考えに触れることができました。試合中の声掛けや、連携など、普段と違うソフトボールをする中で、選手間のコミュニケーションの大切さやチームが団結して戦う楽しさを感じました。日本リーグ交流戦に参加し、改めてソフトボールの素晴らしさを感じることができました。



現在、私は卒業研究でジュニアの指導者向けの指導書を作成しています。ソフトボールの普及、競技人口の増加を目的としています。ジュニアのソフトボール人口の減少は、自身が所属していたジュニアのソフトボールチームを訪ねた際に目の当たりにしました。今回の交流戦もそうですが、もっとソフトボールを普及、盛り上げていくためにはこのようなイベントやソフトボールに触れて頂く機会が大切だと強く感じました。今回の交流戦はライブ配信もあり、私が教育実習に行かせていただいた生徒たちも見てくれていたと聞いて、少しでもソフトボールの普及に繋がったのではと感じ、とても嬉しく思っています。

今回の交流戦を通じて、もっとソフトボールを盛り上げたいという気持ちが強くなりました。今後もソフトボールを楽しみながら、講習会や普及活動にも積極的に取り組んでいきたいと思えます。最後になりましたが、今回の交流戦の開催にあたり、ご尽力いただきました、関係者の皆様、チームスタッフの皆様から御礼申し上げます。貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。



この度はこのような機会に参加させていただき、ありがとうございました。  
インカレでよく名前を見る大学の選手ばかりで最初はすごく緊張しましたが、試合の前日に全員で雨の中ではありましたがプレーのこと、サインのことを確認するなどソフトボールを通じて自然体になっていくのを感じました。



試合当日は、初めて見るみんなのプレーに圧巻しながらも一緒にプレーできることが嬉しく感じました。たった2日間のチームでしたが、あの時間は間違いなくチームだったと思います。ショートとセカンド、5番バッターとしてフィールドに立つことができ、タイムリーを打つこともできました。自然と周りに引っ張られていたのだと今思います。

また、東京女子大学の佐藤監督や金沢学院の藤本コーチ、園田女子大学の木田さんと普段関わることができないトップレベルの指導者の方々とソフトボールが出来たことも私にとってとても嬉しく幸せなことでした。

また、他にもレジェンドの方のプレーをフィールドイングを通して関わることが出来ました。レジェンドの方達は私たちの目標であり憧れです。ボールへの入り方一つに私たちとは違う格別な技術を感じました。そんな方達にソフトボールを1時間ではありましたが指導して下さったことは貴重な時間でした。

大学選抜は、大学生であるからこそ参加できたことであり大学の4年間という限りある時間の中でインカレで戦うことに魅力を感じます。また、私は大学で看護師資格取得を目指し、今回も病院実習の4週間の実習の中での参加となりました。このように学業と両立しながらソフトボールが好きだから自分で選択して続けたいと思う人が大学生には多いと思います。ソフトボールを諦める理由が医療従事者を目指すことが多いと思います。そんな人たちにソフトボールを続けながら輝ける場所が1つでも増えて、1人でも多く大学ソフトボールを目指すきっかけがこの大学選抜だったらとうれしく思います。



## 日本リーグ交流戦を振り返って

東北福祉大学 上原 千風

今回大学選抜に選出していただいたことで、日本リーグ選抜との交流戦やレジェンドチームの方々から技術指導をしていただくなどの機会をいただき、多くの貴重な経験をさせていただくことができました。



この2日間は私にとって、とても有意義でたくさんの刺激を受けることのできる時間になりました。特にチーム内では2日間という短い期間での活動でしたが、普段とは違い今回は仲間として戦うからこそ、吸収するものが多くありました。同じ大学生ですが、普段は敵チームとして戦っているのも、あまり接する機会がなかった人たちも多くいました。その中でもたくさん交流を深め、一緒にソフトボールが出来たという事が技術面でもそれ以外の面でもとても良い刺激になりました。大学生の中でも、高い技術を持った人たちの中でソフトボールが出来たことで自分の技術の向上にも大きく影響しましたが、他の方の技術やベンチワークなど自チームに持ち帰って還元できることもあり、今回の経験が自分だけでなく自チームのレベルアップにも繋げることができたことはとても大きかったと感じています。また、他大学の方と交流をする時間もあつたことで仲を深めることができ、この活動が終わった後も刺激を受けながら自チームでの活動が出来たので、良い機会になりました。そして、日本リーグ選抜との交流戦とレジェンドチームからの技術指導では、見て学ぶこともありましたし、普段の練習だけでは得られないものもあり、全ての経験が自分の技術向上に繋がったと感じています。

今回の経験が、私自身にとっても今後大きく影響するものにもなりまして、参加できたことで得るものが多くある活動になりました。この経験をソフトボールだけではなく、今後の人生にも生かしていきたいと思います。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。



## 日本リーグ交流戦を振り返って

東海学園大学 小林 楓

7月2日に行われた日本リーグ交流戦に参加させて頂きました。まずは、イベントを開催して下さった運営の方々や、選んで下さった指導者、このイベントに携わって下さった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。また、このイベントを通して、ソフトボールの楽しさを改めて実感しました。初めてお会いした方々と同じチームで戦い、他チームのレベルの高さや日本リーグの技術の高さを間近で体験することができ自分にとって、ものすごく刺激になりました。初めは人とコミュニケーションをとることが苦手な自分にとってこのイベントに不安しかありませんでしたが、周りの方々が声をかけて下さったり、チームをまとめようとしてくれたりと、助けられながらこの環境に慣れることができました。自チームでは守ることのなかったポジションも守らせて頂いたりと初めて経験することも多くあり、新鮮な気持ちでした。交流戦後はレジェンドの方々に守備やバッティングを教えて頂き、守備の取り組み方や、バッティングの考え方など、ソフトボールに対して全てが一流で学ぶことが多くありました。貴重なお時間を有意義にするため積極的に質問すると、細かな返答をして下さったり、後から考えたときに後悔のない時間を過ごすことができました。実業団でプレーしていた方々を間近で見ることができて、オーラに圧倒されたり、プレーに刺激を受けたり、可愛さやかっこよさに目を輝かせたりと1日でたくさんの感情が湧き出てきました。こういった経験は誰もがができるわけではないので、この環境に感謝をしこの想いを大切にしたいです。



改めて2日間限定のチームでしたが、交流戦・講習会など素敵な環境でソフトボールを楽しめた事に感謝をし、この経験をチームに持ち帰り、自分自身もチームも更にレベルアップできるよう、取り組んでいきます。



## 日本リーグ交流戦を振り返って

清和大学 古堅 菜奈未

普段、自分が交わることのできないトップレベルの選手、トップレベルの指導者とソフトボールができる機会を頂けたこと、とても感謝しています。二日間という短い期間で結成されたチームで不安が大きかったのですが、積極的にコミュニケーションを取りあったり、試合をしている中でチームワークもより高めることができましたと思います。最終的に、一つのチームとして、全員で戦え、このメンバーで勝利という形で終わることができてうれしかったです。自チームではないのにも関わらず、常にベストパフォーマンスを出せてたり、一人一人が自分の今やるべきことを理解しそれを実際にやり切れるのを見て、すごい刺激になりました。自分もその中で一緒になって試合をしていく中で、常に考え、一つ一つのプレーに意味を持ちソフトボールをすることの大切さを改めて感じ、すごい刺激になりました。試合だけではなく、元JDリーグの選手から直接、守備や打撃のアドバイスを貰い、自分には何が足りないのか、今のスタイルを活かすためにはどうすればいいかなど、他の人ができない特別な経験をするのができ、ソフトボールを更に追求するきっかけを貰いました。また、実業団や同じ大学生の色々な選手を肌で感じるこのような機会を頂いたおかげで、自分のプレーの引き出しが前よりも増え、視野が広がり、短期間の中で確実に自分の成長につながりました。



日本リーグ交流戦を通して、チーム内外からいい刺激をたくさんもらい、普段感じる事のできない多くのことを感じ、学ぶことができました。この経験を活かし、チーム・自分の掲げている目標を達成できるように、常に挑戦し続けていきたいと思っています。



## 日本リーグ交流戦を振り返って

金沢学院大学 梶山 りりな

日本リーグ交流戦を振り返って、たくさんの学びと収穫を得ることができました。

初めは、たくさんの名門大学の先輩方がいることを知り、楽しみと緊張と不安が入り交じった気持ちでした。でも、どの先輩方も良い方たちばかりで初対面でもこんなに馴染めるのだと実感し、とても嬉しく試合をするのが楽しみになりました。



初日は雨で練習はできなかったのですが、みんなで集まって自己紹介などたくさん会話をしたりして、コミュニケーションをたくさんとることができました。正直、先輩たちばかりで不安もあり、大丈夫かなと思うこともありましたが、これも自分の中でいい経験だなと思い、試合をすることができました。試合の中でも、普段はライバルチームである先輩方のプレーも目の前で見ることができ、1試合の中でもものすごく学び、収穫のある試合でした。1日だけのチームとしての試合でしたが、大学生としてハツラツと試合をすることができ、しっかり勝ちきることもできました。とても一体感のあるチームで盛り上がりもあって、とても楽しく試合をすることができました。

試合の後は、レジェンドチームの試合を目の前で見ることができ、やっぱり生で見るレジェンドチームのプレーには目を奪われるものがありました。レジェンドチームの試合のなかでも、自分のものになる、ためになることも多くあり、目の前でその試合を見ることができ、本当に良かったです。最後には、その偉大な方たちからの守備、バッティングのご指導も受けることができました。とても短い時間の中でしたが、その時間の中でたくさんのことを聞き、実際にプレーをしてもらいながらとても貴重な時間を過ごすことができました。このような経験ができることは当たり前ではないし、この交流戦に参加させていただくことができ、感謝でいっぱいです。この貴重な経験を今後自チームの中でしっかり生かし、この交流戦で学び、得たものを自分のものにできるように頑張っていきたいと思います。そして、今年果たせなかったインカレ日本一という目標に貢献できるように、日々精進していきたいと思います。



## 日本リーグ交流戦を振り返って

日本文理大学 伊礼 真歩

日本リーグ交流戦では、大学選抜として、他チームの大学生と練習や試合を行い、とても貴重な経験をする事ができました。1日目練習、2日目が日本リーグとの交流戦の予定でしたが、あいにくの雨で1日目は練習する事ができませんでした。しかし、その分、チームメイトとの交流や試合に向けての話し合いを多くすることができ、仲を深めることができました。他チームの大学生のソフトボールに対する考え方や姿勢は自分自身学ぶことが多くあり、とても勉強になりました。2日目には、ジュニアオールスターとの試合がありました。初めてのメンバーでの試合だったので、緊張もありましたが、恵まれた環境の中でソフトボールをすることができ、自らの力を十分に発揮することができました。そして、何よりこのメンバーとの1試合を全力で楽しむことができました。試合後には、日本代表として活躍されていた方や元実業団の方に技術指導をして頂きました。守備では、ゴロの合わせ方やスローイングにつながる捕球を教えて頂きました。バッティングでは、鋭い打球を打つ方法、フォームの改善等を教えて頂きました。全日本大学女子ソフトボール選手権大会を控えていたので、技術向上だけでなく、良いモチベーションでチームでの練習に取り組むことができました。



この二日間を通して、ソフトボールに対する考えが広がり、自分自身成長することができる大きなきっかけになりました。それと同時に、さらに上のレベルで通用する選手になれるように努力を怠らず頑張りたいと思いました。大学卒業後は、JDリーグのチームでソフトボールをやらせてもらえるので、日本リーグ交流戦を通して得たことを今後のソフトボール人生に活かしていきたいと思います。

日本リーグとの交流戦に大学選抜の代表として参加し、本当に貴重な経験をさせて頂きました。本当にありがとうございました。



今回、このような素晴らしい経験をさせて頂きありがとうございました。普段より高いレベルでソフトボールを経験ができ、沢山の事を学ぶことができました。



1日目は雨の影響で練習ができなかったので選手とスタッフでミーティングを行いました。内野、外野、バッテリーに分かれて連携をどう取るか、バッテリー間のサインを考えました。試合は1試合しかできませんがその1試合のためにみんなで協力し、万全の準備ができました。その後に選手だけで仲が深まるようにレクリエーションをしました。学年関係なく楽しめ、試合を向かえることが出来ました。

2日目はいよいよ日本リーグの方と試合を行いました。この経験をして一番感じたことはみんながソフトボールを楽しんでいたことです。出会って1日でここまでみんなと試合を楽しみながらできると思っていませんでした。全国でも有名な選手ばかりで堂々している姿はとても尊敬しかありませんでした。私はなかなか活躍ができませんでしたが、このチームで試合ができ、勝つことができとても嬉しかったです。

試合の後はレジェンドの方々にバッティングや守備を教えて頂きました。守備ではいつも疑問に思っていることや難しく感じることを質問することができ、解決することが出来ました。とても貴重な時間を過ごすことができ、これからのソフトボール人生に活かしていきたいと思います。

なかなか自分の思うような結果は残すことができませんでしたが、それも今の自分の実力だと思い、これからの練習に励みたいと思います。

普段とは違う選手とプレーすることでいつもは見えない部分に気づくことができ、とても良い刺激を貰うことが出来ました。

今回このような貴重な機会を頂きありがとうございました。



富山県で行われた交流戦に参加させていただき、とても充実した時間を過ごすことができました。

最初はとても緊張していましたが、皆とても優しく親しみやすくすぐ打ち解けることができました。練習日が雨の影響で流れてしまいましたが、自己紹介やゲームをして交流を深め、準備と確認をして試合に繋げることができたと思います。普段試合をすることが無い相手と試合をし、いつもとは違った雰囲気の中での試合となり、違った土俵で活動している同年代の方々と試合をすることもとても良い機会でした。即席のチームでしたが、一人一人が自身の力を発揮し打線もつながり、良いプレーが沢山ありました。個人の力が集結し、1つの円となり力をぶつけられました。いつもとは違う守備のリズムやベンチの雰囲気を味わうことができとても楽しかったです。社会人らしさと学生らしさのお互いの良さが滲み出ていた交流戦で、私たちも周りの方々と一緒に楽しんでくれていたと思います。試合後にはレジェンドチームの方々に指導していただき、競技力のレベルアップに励みました。苦手な部分を指導していただき、今までの自身にはなかった考え方や、様々な話を聞くことができ、普段は経験できないような貴重な時間を過ごせました。

天候が危ぶまれる中このような交流会を開催できたのは、たくさんの方々の協力があったからです。当たり前のようにソフトボールができて環境に感謝し、私自身もソフトボールの楽しさを世に発信できるように努めていきたいです。2日間という短い期間ではありましたが、良いプレーを目で見て肌で感じられて、他大学の方々と交流ができたと共に、トップレベルを経験された指導者の元でソフトボールをすることができてとても充実した濃い時間を過ごすことができました。





## 第1回 WBSC 女子 U15 ソフトボールワールドカップ 2023 大会を経験して

東京女子体育大学ソフトボール部  
東京都大学ソフトボール連盟学生役員  
3年 小池 愛悠夏 (左)  
3年 志賀 琴美 (右)

2023年10月21日(土)から第1回 WBSC 女子 U15 ソフトボールワールドカップ 2023 大会が東京都駒沢オリンピック公園、世田谷総合運動公園、大田スタジアム等で盛大に行われ、29日(日)に無事終了しました。出場チームは、下記の12カ国が参加していましたが、ウガンダが、諸事情で不参加となりました。

日本 U15 代表チームは、3位という結果で、アメリカが優勝しました。大会は、天候にも恵まれ、非常に良い大会となりました。

大会開催にあたり、私たちはその中の半分以上の日数を大会ボランティアとして大会に携わせて頂き、大会運営の経験をさせていただきました。東京都大学ソフトボール連盟に所属する、日本体育大学、日本女子体育大学、東京富士大学、早稲田大学、明治大学、立教大学、国士舘大学、日本大学など、200名を超える学生がボランティアとして大会をサポートしました。

主な仕事内容としては、まず、8月中旬くらいから、この大会のチラシ配りからスタートしました。バレーボール競技の大会会場(都内約10会場程度)で U15 ワールドカップのチラシ配りを行い、大会の広報活動をしました。チラシ配り自体が、初めての経験で、ロビー活動の難しさを経験しました。

大会期間中については、ボールガール(ファールボール担当)や BSO、電光掲示板の表示、備品の移動・管理、グラウンド整備、フラッグガールなど、非常に多くの仕事がありました。また、英語での放送も担当し、何度も何度もリハーサルを行いました。英語での放送は、本当に大変でしたが、非常に勉強になりました。



TEAMS チーム紹介				
アジア地域	北中南米地域	オセアニア地域	ヨーロッパ地域	アフリカ地域
日本	アメリカ	ニュージーランド	チェコ	ウガンダ
タイニース・タ イハイ	メキシコ		イタリア	
フィリピン	プエルトリコ			
	ブラジル			
	ペルー			

様々なことで覚えることが多く、一概にも簡単と言える仕事内容ばかりではありませんでした。また、それだけではなく、海外選手や海外審判、海外の保護者の方など、海外の方との関わりが多くあり言葉の壁も感じました。

そういった普段やり慣れていない仕事や、海外の方と関わることの難しさなど不慣れなことが多く、初めの方は不安が大きくなるばかりで、なかなか自信を持って行動することが出来ませんでした。

しかし、WBSCの方や他のスタッフの方に明るく話しかけて頂いたり、的確な指示を頂いたりして不安だった気持ちも少しずつ自信へと変わっていきました。特に WBSCの方には大会ボランティアに参加する度に話しかけて頂き、何も分からなかった私たちに対して優しく接して下さい、私たちがやりやすいように気にかけて頂いて感謝の気持ちで一杯でした。

この度、大会ボランティアとして大会運営に参加させて頂き、世界大会を通して改めてソフトボールの魅力を知ることができ、ソフトボールを通して海外の方と関わりを持つことの大切さを理解することが出来ました。今回の経験をここで終わらせるのではなく、2028年にも五輪復帰も決定しましたし、これからもソフトボール競技の魅力を多くの人に伝えられるよう、競技力の向上だけでなく、少しでもソフトボールが普及・発展するように努めていきたいと感じました。この経験を活かして、東京都大学連盟の活動にも役立てていきたいと思っております。



マカッサルオープン(男子) 報告書

会期：2023年9月17日(日)～9月24日(日)会場：インドネシア／マカッサル

令和5年度大学男子選抜チーム マカッサルオープン参加者名簿

No.	守備	氏名	地区	所属
1	投手	稲垣 拓朗	東京	早稲田大学
2	〃	大坪 優也	東京	国土舘大学
3	〃	景山 蓮	中国	環太平洋大学
4	〃	谷本 聖也	近畿	神戸学院大学
5	〃	山本 愛闘	東海	岐阜聖徳学園大学
6	捕手	井関 綾人	東京	国土舘大学
7	〃	岩松 近良	中国	環太平洋大学
8	内野手	安藝 大地	中国	環太平洋大学
9	〃	有村 翼冴	中国	環太平洋大学
10	〃	小山 竜加	近畿	立命舘大学
11	〃	高草 昂大	中国	環太平洋大学
12	〃	成崎 想	九州	福岡大学
13	外野手	青木 琉真	九州	福岡大学
14	〃	出嶋 聖治	東海	中京大学
15	〃	安池 陸	東京	国土舘大学

スタッフ

No.	守備	氏名	地区	所属
1	チームリーダー	木田 京子	近畿	園田学園女子大学
2	ヘッドコーチ	吉田 智行	近畿	神戸学院大学
3	アシスタントコーチ	三谷 舜	東海	中京大学
4	トレーナー	森 実由樹	関東	国際武道大学



予選リーグ（会場は全て Karebosi Field）

・2023年9月17日 開始：20:58

	1	2	3	4	5	6	7	計
BALADEWA	0	0	0	0	3	0	0	3
大学選抜	0	1	0	0	1	0	0	2

稲垣（4）、山本（1）、谷本（1）-井関

本塁打：安池、小山 三塁打：高草 二塁打：井関

・2023年9月19日 開始：19:04

	1	2	3	4	計
大学選抜	0	4	4	3	11
DKI JAKARTA	0	0	0	1	1

大坪（2）、青木（1）、景山（1）-井関、岩松

本塁打：岩松 2塁打：安池（3）、有村、大坪、出嶋

Player of the Game：大坪

・2023年9月20日 開始：14:02

	1	2	3	4	計
PIRATES	0	0	0	0	0
大学選抜	3	0	5	2	10

稲垣（3）、谷本（1）-岩松

本塁打：岩松 2塁打：青木 3塁打：小山

Player of the Game：岩松

・2023年9月21日 開始：14:58

	1	2	3	4	計
大学選抜	0	5	9	2	16
MALAYSIA UNIVERSITY	0	0	0	0	0

大坪（2）、山本（1）、景山（1）-井関、岩松

本塁打：有村、安池 2塁打：岩松（2） 3塁打：小山、井関

Player of the Game：有村

・2023年9月22日 開始：7:27

	1	2	3	計
PORT MORESBY	0	0	0	0
大学選抜	5	7	3	15

谷本（2）、青木（1）-井関、岩松

本塁打：安池（2）、岩松、小山、高草、成崎 3塁打：井関

Player of the Game：安池

予選終了時の星取表

	BALADEWA	大学選抜	MALAYSIA UNIVERSITY	PIRATES	PORT MORESBY	DKI JAKARTA	勝	敗	順
BALADEWA		○	○	○	○	○	5	0	1
大学選抜	●		○	○	○	○	4	1	2
MALAYSIA UNIVERSITY	●	●		○	○	○	3	2	3
PIRATES	●	●	●		○	○	2	3	4
PORT MORESBY	●	●	●	●		○	1	4	5
DKI JAKARTA	●	●	●	●	●		0	5	6

## FINAL (順位決定戦 予選1位 vs 予選2位)

2023年9月23日 開始:12:05

	1	2	3	4	5	6	7	計
大学選抜	0	0	2	0	1	2	3	8
BALADEWA	0	0	0	1	0	1	0	2

景山 (4)、青木 (2)、山本 (1/3)、大坪 (2/3) -岩松、井関

本塁打:小山、安池、岩松、出嶋 三塁打:有村 二塁打:高草

Player of the Game: 影山

## GRAND FINAL (決勝戦)

2023年9月24日 開始:14:05

	1	2	3	4	5	計
BALADEWA	0	0	0	0	0	0
大学選抜	4	1	3	0	0	8

稲垣 (3 1/3)、大坪 (1)、谷本 (1/3)、景山 (1/3) -岩松、井関

本塁打:井関、安藝 三塁打:成崎 二塁打:小山、有村

Player of the Game: 井関

## 個人賞

M V P: 安池陸 Best Hitter (優秀打者): 安池陸 Best Slugger (優秀長打率): 安池陸

Most RBI (最多打点): 岩松近良

## 【打撃成績】

Name	GP	IP	PA	OAB	H	1B	2B	3B	HR	R	RBI	Avg	Slug	BB	HBP	S	SF
YASUIKE Riku	7	34	22	21	11	3	3	0	5	12	11	.524	1.381	1	0	0	0
IWAMATSU Chikara	7	33	21	19	9	3	2	0	4	7	12	.474	1.211	2	0	0	0
NARUSAKI So	7	33	17	17	5	3	0	1	1	4	4	.294	.588	0	0	0	0
ISEKI Ayato	7	32	21	17	7	3	1	2	1	8	3	.412	.882	3	0	0	0
ARIMURA Tsubasa	7	34	19	16	6	2	2	1	1	5	12	.375	.812	3	0	0	0
OYAMA Ryuga	7	34	22	15	8	2	1	2	3	11	6	.533	1.467	6	1	0	0
TAKAKUSA Kodai	7	29	18	15	4	1	1	1	1	3	6	.267	.667	2	1	0	0
DEJIMA Seichi	7	32	21	14	5	3	1	0	1	7	7	.357	.643	7	0	0	0
AKI Daichi	7	34	21	14	6	5	0	0	1	7	3	.429	.643	7	0	0	0
AOKI Ryushin	6	15	7	6	2	1	1	0	0	3	0	.333	.500	1	0	0	0
YAMAMOTO Manato	5	4	2	2	2	2	0	0	0	2	0	1.000	1.000	0	0	0	0
OTSUBO Yuya	4	9	2	1	1	0	1	0	0	1	0	1.000	2.000	1	0	0	0
KAGEYAMA Ren	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000	0	0	0	0
INAGAKI Takuro	3	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000	0	0	0	0
TANIMOTO Seiya	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000	0	0	0	0

【投手成績】

Name	BF	H	1B	2B	3B	HR	R	BB	HB	BK	WP	SO	W	PC	IP	ER	ERA
INAGAKI Takuro	35	2	2	0	0	0	0	2	0	0	0	26	0	136	10.33	0	0.00
KAGEYAMA Ren	27	4	4	0	0	0	2	4	0	0	0	12	1	115	6.33	1	1.11
OTSUBO Yuya	19	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	14	1	89	5.67	0	0.00
TANIMOTO Seiya	15	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	7	0	63	4.33	0	0.00
AOKI Ryushin	13	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	8	0	57	4.00	1	1.75
YAMAMOTO Manato	10	3	1	0	1	1	3	0	0	0	0	6	0	34	2.33	3	9.00

【大会における行動表】 ※記載はすべて現地時間(ジャカルタ：- 2時間, マカッサル：- 1時間)

9月15日(金)

11:45 羽田空港(HND)発  
 17:10 スカルノ・ハッタ国際空港(CGK)着  
 22:50 スカルノ・ハッタ国際空港(CGK)発

9月16日(土)

2:50 マカッサル国際空港(UPG)着  
 4:30 ホテル到着  
 10:00 朝食  
 11:00 買い物  
 13:30 練習(13:30~17:00)  
 18:00 夕食

9月17日(日)

8:00 朝食  
 9:00 練習(9:00~11:00)  
 12:30 昼食  
 15:00 オープニングセレモニー  
 17:00 W-up 開始  
 19:00 VS BALADEWA【HOME(後攻・3  
 塁側)ゴールド】  
 22:00 夕食

9月18日(月)

8:00 朝食  
 10:00 練習(10:00~12:00)  
 13:00 昼食  
 17:00 ウェルカムパーティー・夕食

9月19日(火)

8:00 朝食  
 12:00 女子チームの応援  
 16:00 W-up 開始  
 18:00 VS DKI JAKARTA【HOME(後攻・  
 3塁側)ゴールド】  
 21:00 夕食

9月20日(水)

8:00 朝食  
 12:00 W-up 開始  
 14:00 VS PIRATES【HOME(後攻・3  
 塁側)ゴールド】  
 16:00 女子チームの応援  
 19:00 夕食

9月21日(木)

8:00 朝食  
 12:00 W-up 開始  
 14:00 VS MALAYSIA UNIVERSITY  
 【VISIT(先攻・1塁側)ホワイト】  
 16:00 女子チームの応援  
 19:00 夕食

### 9月22日(金)

6:00 軽食  
6:10 W-up 開始  
7:30 VS PORT MORESBY 【HOME(後攻・3塁側)ゴールド】  
11:00 昼食  
13:00 マーケットで買い物  
17:30 女子チームの応援  
19:30 夕食

### 9月23日(土)

8:00 朝食  
10:00 W-up 開始  
12:00 VS BALADEWA 【VISIT(先攻・1塁側)ホワイト】  
19:00 決起集会・夕食

### 9月24日(日)

8:00 朝食  
10:00 女子チームの応援  
11:00 昼食  
12:00 W-up 開始  
14:00 VS BALADEWA 【VISIT(先攻・1塁側)ホワイト】  
20:00 祝勝会・夕食

### 9月25日(月)

16:40 マカッサル国際空港(UPG)発  
18:10 スカルノ・ハッタ国際空港(CGK)着  
19:35 スカルノ・ハッタ国際空港(CGK)発  
※1時間30分程度の遅延が発生  
22:45 デンパサール国際空港(DPS)着 ※  
1時間30分程度の遅延が発生

### 9月26日(火)

0:20 デンパサール国際空港(DPS)発  
8:50 成田空港(NRT)着  
10:00 解散



男子・女子チームリーダー 木田京子

2023年5月でコロナが5類に移行し、不自由な学生生活を過ごしてきた学生たちは、過去の3年間を取り戻すように活発に生活する姿が微笑ましく見えていました。今回、少しでも多角的な経験が出来る機会をと思い今回の派遣を準備しました。法人化2年目、まだまだ弱体組織ですが、多くの皆様のご支援ご協力により、無事に事業終了できましたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。

今回の派遣は、「公募による募集」・「男女同時派遣」と昨今にないことを試みました。男子の希望者は約50名と国際事業に興味ある学生の多さを感じました。佐藤強化委員長を中心に強化委員で検討を重ね、更に指導者により西日本・東日本インカレ視察を経て、15名が選考されました。女子については大会と重なる関係もあり募集人数は少な目でしたが、無事に15名が決定されました。その後、それぞれのインカレ時にオリエンテーションを開催し、海外遠征の目的・準備等の話をそれぞれのスタッフより指導頂きました。

準備について、今回の遠征は大学連盟独自の派遣の為、参加者負担で行いました。物価高騰の中でしたが、少しでも参加費を抑えられるよう、チケット・現地経費・国内旅費・保険・ユニフォーム代等に様々な交渉等がありました。鈴木陽子氏による国際派遣のアドバイスや翻訳でサポート頂きながらの交渉、さらに株式会社JTB・ミズノ株式会社のご協賛もあり、学生の参加費については27万円で決定致しました。安くはない参加費になりましたが、その参加費に値する遠征を参加学生に提供し、充実した遠征にすることを目標したことも確かです。

次に、私自身が自チームの大会のため、5日間を遅れて合流しました。その間を藤井まり子顧問にチームリーダーの代行として、ご協力頂きました事をご報告致します。チームの東京集合から現地入り・大会スタートまで、チームが落ち着くまでのすべてを準備頂きました。心強く、安心してスタッフ・選手が過ごせたと思います。また、現地の交渉などもインドネシアのジュリア氏にもサポート頂きました。ここに御礼申し上げます。

チーム合流後は大会スタートしておりました。スタッフの努力もあり、すでに生活リズムを獲得していました。大会は、男子は初戦を敗戦したものの、その後は順調に進み男女共に優勝することになりました。いずれのチームもベンチ近くで観戦しましたが、ソフトボールを楽しむ学生達を見ているととても嬉しい気持ちになりました。

生活面では、大会側が提供する食事に苦心する学生がおり、近くのバーガーショップで自費で食事することも見受けられました。最後まで体調を崩さずにプレーしてもらうためにも数回買い出しに向かい牛丼等を準備しました。海外の食生活に馴染まないことも次への課題かと思います。その後、誰一人体調と壊す学生もおらず無事に大会が終了しました。華やかな表彰式も印象的でした。

帰国後、学生たちの意見を聞いていると、「参加してとてもよかった」「また集まって試合したい」など良い印象が目立ちました。男女同時派遣も同じソフトボールをする仲間意識も芽生え、よい交流となったのではないかと思います。

最後になりましたが、2023年インドネシアマカッサルオープンの派遣に際し、ご尽力賜りました派遣スタッフの皆さん、また関わって頂きました全ての皆様に感謝申し上げます。

今後も一社) 全日本大学ソフトボール連盟として、学生たちの様々な経験のための事業に積極的に取り組んでいきたいと考えております。ありがとうございました。



## 令和5年度 大学男子/女子選抜インドネシアマカッサルオープン選手団 トレーナー帯同報告

男子担当 森 実由樹

女子担当 安原 みどり

帯同期間：9月15日～9月26日

### 大会概要

期間：9月17日～9月24日

会場：インドネシア マカッサル Karebosi Field

参加チーム：男子6チーム、女子6チーム

### 試合日程

日程	男子	女子
9月17日	18:00~ vs BALADEWA	16:00~ vs Philippines
9月18日		
9月19日	17:00~ vs DKI JAKARTA	11:00~ vs STINGGERS
9月20日	14:00~ vs PIRATES	16:00~ vs LAKIDENDE
9月21日	14:00~ vs Malaysia Unv.	16:00~ vs MIRAMAR
9月22日	7:30~ vs PAPUA NEW GUNENA	17:30~ vs Malaysia Unv.
9月23日	12:00~ vs BALADEWA (準決勝)	8:00~ vs LAKIDENDE (準決勝)
9月25日	14:00~ vs BALADEWA (決勝)	10:00~ vs Malaysia Unv. (決勝)

**活動内容**：外傷・障害既往歴の情報収集、怪我・外傷の処置、コンディショニング、  
理全般、ウォーミングアップ、クーリングダウンの指導（サポート）

健康管

**時差**：-1時間

**天候**：全日程晴れ

**気候**：気温 30.0～38.3℃、湿度 29.2～70.0% (40～60%程度)、WBGT 24.8～31.4℃

### 衛生状態

乾燥していて埃っぽい。グラウンド周辺は交通量が多く空気が悪い。蚊が多く発生するため対策が必要。ホテルの水道水に関しては匂いがあり、歯磨きにはミネラルウォーターを使用するよう指導した。

### 健康管理について

ONE TAP SPORTS を1ヶ月間のみ使用し、アプリ内にある「感染症対策」から朝食後に体温、体重、咳の有無、喉の状態、頭痛の有無、体のだるさ嗅覚・味覚の状態、その他健康状態について入力を求めた。

大会期間中、大きな健康問題はなかった。女子の選手で1名、芝の上でストレッチをした際、芝(草?)アレルギーまたは発疹を発症したが悪化することなく日が経つにつれて回復した。

### コンディション管理について

健康管理同様に、ONE TAP SPORTS を1ヶ月間のみ使用し大会期間中入力求めた。

定期的に入力した選手においては、入力することで自分のコンディションを知り、疲労部位の選手自身がストレッチを行うなど自身の身体に対する関心が高まったのではないかと思える。また、トレーナーもコンディションを把握しておくことで選手とスムーズにコミュニケーションが取れたと思う。

大会中試合に出場できないようなコンディション不良はなく、大会を終えることができたが、その要因としてはコールドゲームが多く、1試合あたりの疲労度が低かったことが挙げられる。疲労度が高い選手に関しては、必要に応じてストレッチやマッサージでトレーナーが対応した。

また選手によっては、試合よりも長時間のフライトによる疲労の方がコンディションに影響していたように思える。選手は、改善策として「機内で定期的にトイレに行くなどして動く」「機内が寒かったので、現地が暑くても長袖などをもっていく」「到着後ストレッチをする」などの課題を持つものもいたもので、国際大会の経験として良い気づきを得られたのではないかと思われる。

スポーツ外傷・障害については、出国前に google form を用いて、既往歴、現在のコンディショニング、テーピングの有無について情報収集し、必要に応じてテーピングやストレッチ、アイシングなどで対応した。

熱中症対策として、ウォーミングアップの時間短縮やアイスパックの作成、粉末の OS-1 の準備などを行った。ベンチ内にある水は不足することなく、適切に水分補給が出来ていたと思われる。

ホテルのプールが使用してクーリングダウンを行うことができた。客室に浴槽がないためプールに浸かることで良いリカバリーになったと思える。

### 食事関係

食事は3食ホテルのバイキングが利用可能であった。朝食はパン、炒めご飯、卵料理など他に5種類ほどのインドネシア料理が出ていた。試合時間によっては球場隣接のマクドナルドでハンバーガーを購入し、朝食や昼食、補食に利用することがあった。マクドナルドばかりにならによるランチボックスも用意したが、口に合わず残す者が多かった。事前情報として生野菜や果物は下痢などの症状が出るため避けるよう指示が出ていた。その後、フルーツなどは新鮮なものが提供されているとわかり食べることもできた。

### 栄養サプリメント関係

試合中は日本から持参したポカリスエットをはじめとするスポーツドリンク粉末を個人に支給し、適宜摂取するように指導した。現地にはスポーツドリンク等の飲み物が少なく、途中合流した木田チーム

リーダーに不足分を日本から粉末のスポーツドリンクを追加購入してもらい対応した。

### **滞在先(ホテル)の環境・設備**

洋室ベッドルーム 2 名部屋。選手はツインで、スタッフはシングルで利用した。シャワーの水圧は弱く、時間帯によって匂いとほのかにオレンジ色の水が出るがあった。ホテルの内での Wi-Fi の環境は良い。ランドリーの回収はあるが返却が 1 日後であり、到着時間が遅れることもあり利用には注意が必要であった。

### **競技会場/練習会場内外の設備**

試合会場は 1 会場のみであった。練習会場はなく外野の空いているスペースを利用した。テントがあったため、

水 (500ml) 24 本 2 ケースは試合毎に大会側が用意。氷は有料にて 2 袋購入。クーラーボックスが 2 つであったため、試合時間によっては、男女で共有することもあった。

トイレは会場側のマクドナルドを利用した。ホテルの施設であったため、何も購入しなくても使用可能であった。会場には Wi-Fi の環境はなかった。

### **グラウンド状態など**

試合会場の内野は粗目の赤土、外野の芝はデコボコでフェンスの近くはさらにデコボコしていた。夕方以降の試合時には蚊が多く発生するため対策が必要。

### **トレーナールームの環境**

スタッフの部屋をケアルームとして使用した。ベッドの移動ができず工夫して利用した。

### **トレーニング施設の環境**

ホテル内にフィットネスルームがあったため適宜利用した。また屋外プールがあり試合後のクールダウンに利用した。水は衛生的に問題なかったと思われる。

ドーピング検査：なし

### **救急体制(近隣病院との連携など)関連**

現地の救急隊員が大会期間中は常に滞在していた。AED は日本からレンタルで持参し、男女で共有した。

### **物品調達関連**

近隣のコンビニにて飲料やパンなどの軽食は購入できたが、大量に購入する場合は車で 30 分ほどのスーパーで水や食料品などを調達した。

使用したテーピング：なし。(個人持ちのテーピングで対応)

### 大会を通じた選手のコンディショニングに関するアンケートの要約 (ChatGPT で作成)

遠征中の選手たちは、コンディション管理についての感想や改善点を述べています。選手たちは、ストレッチやアフターケア、食事や睡眠の管理など、自身のコンディションを向上させるために様々な努力をしていました。また、移動中の長時間の座りっぱなしや気温の変化による体調の変化にも気を配っていました。選手たちは、この遠征を通じてコンディション管理の重要性を学び、今後も継続して取り組むことを意識していました。

### 総評

前回大会に参加したスタッフからの事前情報と藤井チームリーダーのコーディネートにより氷や食品などの調達、大会本部との連絡などが比較的スムーズに行うことができた。また、メディカル面では事前に傷害調査を実施し選手の状態を把握し準備することができた。乾燥と埃、空調の微調整が効かなかったことで咳をする選手がいた。芝の上でストレッチをした際、芝アレルギーを発症する選手がいたためビニールシートなどの準備、現地でコールドスプレーを購入することができなかったが、事前に準備が必要であった。

選手の中には、ウォーミングアップやストレッチの重要性、コンディショニングについての気づきを得たものも多かったので、今後更なる成長を期待したい。

今回の活動において、大きな怪我・体調不良がなく終わったのは、木田リーダー、藤井さん、泉 HC、吉田 HC、古宇田 AC、三谷 AC のサポートと、佐藤強化委員長、佃先生の出国前の準備やアドバイスのおかげだと思います。誠にありがとうございました。



## 【Makassar Open 2023】に参加して

全日本大学男子選抜  
ヘッドコーチ 吉田智行（神戸学院大学）

新型コロナウイルスの影響もあり大学男子の海外遠征は2019年以来遠ざかっていたが、大学連盟の皆様のご尽力もあって今回4年ぶりに全日本大学選抜で海外遠征を行うことになった。

私は前回の【Makassar Open 2019】にアシスタントコーチとして参加させていただき、前回の経験を生かし今回はしっかりと準備をし、参加する学生たちにも事前に注意事項や大会の雰囲気、大学日本代表としての心構え等を伝えることができた。

私自身今回初めてヘッドコーチとして大学男子選抜を率いさせていただき、これまでの海外での経験を学生たちに少しでも伝えたいという想いで今回の遠征に臨むことにした。

まず、9月15日午前羽田空港を出発し、ジャカルタ経由でマカッサルには現地時間午前2時30分頃に到着。16日は昼まで回復時間とし、午後から練習をスタートさせた。

最初は緊張した選手や疲労が大きい選手も見えたが、やはりグラウンドに足を踏入れて練習が始まると男女共に目の色が変わり、コミュニケーションも徐々に取れるようになった。

夜は藤井顧問のご厚意もあり、ホテルの屋上にて全員でディナーを行い、より交流を深めて翌日から始まる大会に向けて気持ちも高まった。

17日からいよいよ大会が開幕となり、盛大なオープニングセレモニーの後にまずは大学女子選抜がオープニングゲームで登場し勝利を取めた。

その後、大学男子選抜の登場となったがインカレ後のコンディションが把握しきれなかった事などもあり、相手フィリピン代表投手の独特なボールにも対応できずに敗戦し黒星スタートとなった。ただ、この敗戦で選手たちの闘争心に火がつき明らかに意識も目の色も変わったため結果的には今回の海外遠征の中でいろいろと考えさせられた非常に意味のある敗戦であったと感じている。

その後の試合では、普段とは異なる環境にも徐々に適応し始め個々の力もしっかりと発揮できるようになった。コンディションも自然と上がっていったこともあり快勝が続くことになった。試合を重ねるごとにチームの団結力も深まり、セミファイナルやファイナルでも初戦で敗れた相手に快勝し、男女ともに日本チームとして大会初優勝を果たすことができた。

チーム編成においては今回大学男子選抜の主将を早稲田大学の稲垣選手（3回生）に務めていただき、各大学で主将を務めていた4回生が稲垣主将やチームを支えてくれたこともありチームのバランスも絶妙であったと感じている。また、今回は男女30名の派遣であったにも関わらず大きな体調不良者や怪我人がいなかったことが個人的にも最も安堵した部分であった。

選手たちからも「また海外のソフトボールに挑戦したい」「今後、U23やトップ日本代表を目指していつかまた日の丸を背負いたい」といった未来への熱い想いを沢山聞くことができた。新型コロナウイルス

スの影響もあり、これまで国際舞台になかなか縁がなかった「大学男子」にも今回再び海外遠征の機会が  
いただけたことを心から嬉しく思う。

「大学男子」の更なる普及や発展、強化は今後も多方面から考える必要があると思う。その中でも大学選  
抜の海外遠征は重要な位置づけであると確信している。今後も継続されることを心から願っているし、  
一人でも多くの学生に「海外」のソフトボールを肌で感じてもらいたい。そして個々がソフトボールの視  
野を広げ、この「大学男子」からも「日本のソフトボールを牽引する選手」がこれからも数多く出てきて  
くれることを心より期待している。

最後になりますが、今回このような機会をいただけたことに対し、大学連盟の皆様をはじめ関係各位  
に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。





## 大学男子・女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの

男子アシスタントコーチ  
三谷 舜 (中京大学)

今回派遣された選手たち、我々スタッフが、本事業を通じて「得たもの」とはなんだっただろうか。ともすると、生活面、競技面、語学・コミュニケーション能力など、表面的な表現に終始してしまう。ソフトボールも含む「スポーツは社会関係の特性を探求するための一種の「自然の実験室」<sup>1</sup>であり、その自然の実験室で学生たちは何を得たのだろうか。「強化事業」として行った今回の派遣で本質的に獲得されたことについて、以下本事業を振り返りながら紐解きたい。

2023年9月14日の前泊から9月26日の解散まで、12日間にわたって行われた今回の派遣事業は、インドネシアで開催されるマカッサルオープン (Makassar OPEN) に参加することが目的であった。派遣前準備として、オンラインでのスタッフミーティング、男女それぞれインカレ開会式の日を利用しての顔合わせ、オンラインでの事前研修会を行った。

派遣前準備においては、本事業の目的と意義を選手・スタッフで周知・確認した。それは、以下の3点であった。①海外派遣を通じて、日本のソフトボール界において重要なカテゴリである大学カテゴリ<sup>2</sup>を強化する。②本強化事業を通じて得た経験を各地区に持ち帰り、地区のレベルアップを図る。③国際的な競技活動に触れ、ソフトボール競技を取り巻く環境・状況について考えを深め、日本におけるソフトボールの普及・発展に寄与する。

これらの目標を達成するために、16日よりインドネシア・マカッサルにて活動を開始した。初戦の敗退、最終日、その前の日と同じ対戦相手と3回対戦することになった。結果、対戦するごとに大差で勝つような試合展開になっていくのだが、初見の対戦相手に対する対応という側面において、男子ソフトボールの強化を考える端緒があるのではないだろうか。大会を通じて、戦術・コーチング的な面では打者で得点を重ねていくことを心がけた。今回選考したメンバーは将来的に日本のソフトボールを担う選手たちであると期待している。それゆえ、初見の投手に自分達でどのように対応していくのが課題となった。

ホテルでは食事が3食提供されていたが、それぞれ現地の東南アジア料理である、味付けに飽きるケースやそもそも現地の食事に慣れないケースが散見されたが、どの国際派遣においても、食事が摂れる選手・睡眠ができる選手、これがコンディション維持の一丁目一番地であることを再確認できた。

また、活動中には選手に活動日誌を記録してもらった。その中では、海外生活への戸惑いとその対応、プレーへの感想、チームとして一体感が醸成されていく様子が読み取れた。この活動日誌について

<sup>1</sup> エリック・ダニング (1986=1995) p.7

<sup>2</sup> 大学カテゴリは、JDリーグ、JSリーグ、男子日本リーグ等へ直結するカテゴリであるとともに、教員養成を担えるカテゴリとして、国際的な視点を持った次世代のプレイヤー、指導者を養成する必要がある。そのため、1人でも多くのJDリーグ、JSリーグ、男子日本リーグプレイヤーを輩出し、TOP日本代表を目指す人材を育成することが目指される。

は、稿をあらためて提示したい。

最終的に、本事業で得られたこととしては、最高学府としての大学において、ソフトボール競技を行うことで獲得を目指される能力の確認・活用の場であるということに尽きると感じた。また、国際派遣において必要な能力は日頃の国内活動において身につけられるような仕掛けを指導者としておこなっていく必要があると感じた。

最後に、今回派遣に際してご尽力いただきました、JTBさま、ミズノさま、自己負担分を捻出いただきました選手の保証人のみなさま、快く送り出してくださった全日本学連関係者の皆さまに感謝申し上げます。



## インドネシアマカッサルオープンを振り返って

トレーナー 森 実由樹

海外派遣のない、私にとって大きな怪我・体調不良がなく終わったのは、木田リーダー、藤井さん、泉 HC、吉田 HC、古宇田 AC、三谷 AC、安原トレーナーのサポートと、佐藤強化委員長、佃先生の出国前の準備やアドバイスのおかげだと思います。誠にありがとうございました。また、選手のみなさんのソフトボールに対する思いに触れることができ、高いレベルでコンディショニングについて話をするのができ、私にとって多くの学びを得られたことに選手の皆様にも感謝申し上げます。

私の主な役割として、①コンディションの把握、②ウォーミングアップとクーリングダウンの支援、③個別のケア、④熱中症対策を行いました。

コンディションの把握には、インカレ終了後に google forms を用いて既往歴、アレルギー、持病など情報収集を行い選手のコンディションをある程度把握し、考えられるリスクに対して物品等を準備しました。

ウォーミングアップでは、全体アップ前に 10~15 分個人の時間を作り個々に対して必要なアドバイスを行うようにしました。また、毎日ウォーミングアップの内容を変え、試合開始時間や気温、疲労具合を考慮し実施しました。大会後半では、運動強度や運動量を高くするなどの運動負荷が落ちないように調整しました。選手からはコンディショニングについて「普段アップしない選手とかもいるので学んだことを持ち帰りたい」「個人の時間があつたのでしっかりと準備ができた」などポジティブな意見がありました。

コンディション・健康管理は、アプリを使用して、毎日入力を求めました。入力を忘れも多く見られましたが、入力した選手からは、「コンディショニングについて考える時間が増えた」、「自分でどのように対応すべきか考えストレッチを行った」など、ソフトボールのパフォーマンスとコンディショニングの関係について考えてもらう事ができ、大学生選手に対してとして教育的支援もできたのではないかと思います。

今回のプレーができないほどの腹痛や下痢はありませんでしたが、反省として滞在したホテルの食事によって選手がどれだけ食べられたのか、食べられない場合どのように捕食したのか確認できなかった事があげられます。今後、またこのような機会があれば、事前に対策を講じて体調や体重の管理ができればと思います。

改めてこのような機会をいただき誠にありがとうございました。

## 大学男子日本代表派遣事業を振り返って



早稲田大学 稲垣 拓朗  
(新島学園高等学校出身)

今回私はインドネシアで開催されたマカッサルオープンに全日本大学男子日本代表に選抜していただき様々な経験をさせていただきました。今回の派遣で経験させていただいたことを主将として、国際交流で感じたこと、日本代表のレベルの高さ、この三点から綴らせていただきます。

まず私は今回の全日本大学男子日本代表の主将を務めさせていただきました。日本代表や国際大会の経験が選手の中で最も多いことで推薦していただき、投手との兼任や最高学年でないことからチームをまとめることができるか不安でしたが、私以外副将というチーム方針や各大学で主将を務める選手が多数いることで一人一人がチームを引っ張っていく意識をすることができ、チームが一つになりました。スタッフとチームメイトに支えられて最後まで無事に主将を務めることができたことを感謝しています。

今回インドネシアのマカッサルに初めて訪れました。交通整備されていなく車とバイクが行き交うところで手をあげて横断すること。日本でなかなか味わうことのない食事。通じない言語や慣れない紙幣を使うこと。全て非日常の経験で国際理解を深めることができ、日本の環境の良さを再確認することで愛国心が増しました。

今回の派遣で選抜された選手では全日本大学選手権で優勝や準優勝など好成績を納めた選手で組まれていてソフトボールの技術やこだわり、自チームでの取り組み、進路など様々な意見交換をすることで視野が広がりました。また技術や考え方だけではなくチームとしてこうどうするなかで協力する姿勢やどんな状況でもポジティブでいれる精神を持っていることなどの人間性を学ぶことができました。

最後に今回のインドネシア派遣に参加できたことは両親や指導者の方々、スタッフのみなさんの支えのおかげであることを強く感じることができました。私たちの活動がこれからの男子大学ソフトボールがさらに盛り上がるきっかけになればと思います。

## 大学男子・女子代表日本代表派遣事業を振り返って得たもの



国士舘大学 大坪 優也  
(埼玉栄高等学校出身)

私は今回の大学男子代表日本代表派遣を行なって、自分の中で初めての海外の試合ということもあり私の中で得たものは多くありました。

初めに、やはり海外の大会ということもあり移動によるコンディション調整の仕方です。飛行機に乗り移動をしたのですが、フライトも10時間以上とそして時差もあり疲労が多く貯まる環境で大会に臨みました。そんな中私が行なったことは、トレーナーである森さんのウォーミングアップをどこに効くかを理解して行うことです。自分でどのような箇所に効くかを理解することで、自分が今どこがストレスがかかっているのかを理解しケアすることで、私は今回の大会をコンディション良く迎えられたと思います。

次に、海外ということもあり食事についてです。正直、今回行われたマカッサルの食事はあまり自分の口に合わなかったことが多かったです。それでもエネルギーは食事から取らなければならないので、あまり体には良くないかもしれないですが、日本から持ってきたカップラーメンや、日本にもあるマクドナルドやケンタッキーなどを食べることで、体重も落ちることなく派遣期間を終えることができました。

最後に、海外の選手とやることでプレーで多くのことを得ることができました。今回、日本と違う部分が多く、ボールは大会専用のボールで、日本のボールよりも小さく、軽く感じ、ボールの質も滑りやすく感じました。プレートからホームまでの距離も日本より約60cmほど長く日本とは違う環境でした。私は、違う環境だからこそ自分の最善尽くそうと考えました。ボールは小さく、軽い分抵抗が大きく、そして距離も長かった為、ライズボールが有効でした。普段は得意ではないのですが、今回の大会では投げる場面が多く、空振りも多く取ることができました。他にも自分の強みを活かして今大会私は、良い成績で終えることができたと考えます。私は今回の大会で、ボールや距離などに対応する力と、海外の選手にも通用するという自信を得ることができたと考えます。

今大会、大学男子代表は優勝という最高の結果で終わることができました。優勝することができたのは、チームリーダーの木田さんを初めとした、吉田さん、三谷さん、トレーナーの森さんの支えがあったからだと思います。そして今回この大会に行かせてくれた両親に感謝の気持ちを忘れず、今回の大会で得たものをこれからのソフトボール人生に活かしていき、これからある、u23やトップ日本代表に入れるように努力しようと考えます。

## 大学男子日本代表派遣事業を振り返って

環太平洋大学 景山 蓮  
(東岡山工業高等学校出身)



今回私がインドネシアで開催されたマカッサルオープンに全日本大学男子日本代表に選抜していただき様々な経験をさせていただきました。今回の派遣で経験をしたことについて、海外生活の難しさ、大会の振り返りの2点についてまとめさせていただきます。

まずは私自身初めての海外でインドネシアに訪れました。インドネシアに着いてまず思ったことは、日本とは全く違う食事についてです。日本人の私からするとインドネシアの料理は独特な味で今まで日本の食事しか食べてこなかったので初めての海外で食文化の違いを肌で感じる事ができました。私が海外での生活で1番困ったことが食生活だと感じました。

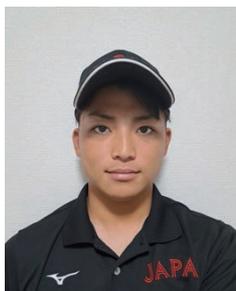
また日本との交通の違いについても苦労しました。日本の交通道路は整備されていて安全だと思うんですが、インドネシアだと信号がどこにあるから分からなかったり、道路を横断するときバイクと車の間を渡ったりなどとても危険な生活をしていたと感じました。日本での生活がどれほど安全なのかを再確認をすることができました。

次に大会を振り返って大学日本代表のレベルの高さを実感しました。今回の大会期間中多くの選手と意見交換をしました。多くの意見を取り入れることにより違った角度からソフトボールを見ることができ、私自身のピッチングの幅ピッチングの意識が変わりました。またアップ会場がなくアスファルトの上などでアップなどをしていてコンディションを良い状態に持っていく難しさ日本との環境の違いを感じました。今回の大会期間中私は全日本選手権後ということで大会の後半から出場することが多かったのですが、最後優勝投手としてマウンドに上げてもらい吉田ヘッドコーチに感謝しかありません。

最後に今回のインドネシア派遣に参加できたことそして無事に帰ることができたことは両親、スタッフ関係者の支えがあってこそだと感じました。感謝の気持ちを込めて今後の男子ソフトボールの発展に貢献できるよう頑張りたいと思います。



「大学男子・女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの」



神戸学院大学 谷本 聖也  
(興國高等学校出身)

今回、初めて日本代表に選ばれ、とても良い経験ができ得たものがある。

1つ目は、いつもとは違う責任感を感じられたこと。自チームのレギュラーに選ばれること、県選抜に選ばれることとは違い、日本のソフトボール選手の代表として日の丸を背負う、お手本となり憧れられる存在だということ。今の世の中では SNS や YouTube 等で簡単に一つ一つの行動や言動が見られ聞かれ広がる。そして影響を与える。日本の代表としてふさわしい行動や言動を意識して生活できたことで代表派遣へ行く前の自分よりも1人のアスリート選手として成長できた。

2つ目は、海外の選手と試合をできたこと。日本ではどこのチームと試合をしても、多少相手チームの情報や特徴を知って試合に挑めるが、今回の対戦した相手や海外では全く情報のないチームとの試合だった。だから、日本で試合する時以上に1球1球の集中力や、相手の一つ一つのプレーやサイン等を見て対策を立てたり研究をしていった。

1球1球の集中力や、相手チームをよく見て対策を立て研究をした今回の経験は、今までやっているはず、やっているつもりだった所を改めて大切だと感じさせられ、日本へ帰ってどんどん活かしていこうと思った。

3つ目は、楽しむ気持ちを忘れないこと。今回、競技を楽しむことはもちろん、それ以外にも海外の人とコミュニケーションをとり、普段は相手チームの人ともよくコミュニケーションをとり、慣れない環境の地でストレスなく楽しく過ごすことができた。試合中、点差の開く試合展開が多かったが、ひとつのアウトやひとつのヒット等で相手チームも自チームも喜んだり悔しがったり本当の意味で競技を楽しむということができたと思う。また、私は英語が得意では無いが、海外の人と知っている単語やジェスチャー、携帯の翻訳機を使ってたくさん交流ができた。言葉が分からないがその人と話をしたいと思い頑張ってコミュニケーションをとるのが楽しく思えた。

普段とは違う環境で頑張れたこと、日本代表として責任感を感じられたこと、改めて楽しむ気持ちを忘れないと気づけたこと。この経験をこれからは活かして頑張っていこうと思う。





## 大学男子日本代表派遣事業を振り返って得たもの

岐阜聖徳学園大学 山本 愛闘  
(大村工業高等学校出身)

今回大学代表としてインドネシアのマカッサルに派遣されました。マカッサルでの試合は会場が1つという事もあり、朝7時半からの試合や予定時間よりもかなり遅れての試合がありました。この中で試合に向けての気持ちの持っていき方や試合の入り方が難しくはありましたが、キャプテンを中心としチーム全員が集中して初回の攻防から入ることができました。また試合ではボールも大会から出されるボールで日本では投げたことが無いボールだったり、マウンドの距離も14.02では無いなどと環境が違う中で早くそれに対応する力が必要でした。海外の打者に投げてみて、ボール球も結構振ってくれる事が多いのでカウントは作りやすいのかなと感じました。また緩急に弱いイメージがありました。甘く入るとパワーがあるので外野まで運ばれるなど感じました。スピードというよりはボールのキレで勝負した方がいいのかなと感じました。また外国人投手は独特な投球フォームで投げる投手や、変化球も日本人とは少し違う変化のしかたでした。また今回大学代表で集まった選手の中で、ボールの握りやリリースの仕方、どんな風に練習したらもっとキレた球が投げられるのかななどの意見をもらったりバッティングでのボールののせ方意識している事を教わったりなど聞いて学ぶ事や見て学ぶ事が沢山ありました。また事前練習などもなかったので、お互いのことをあまり知らない状態からのスタートでしたが、選手間でのコミュニケーションがしっかり取れていたのが試合での連携も取れていたと思うのでコミュニケーションの大切だなと改めて感じました。また試合中のベンチワークや相手投手の情報共有がしっかりできていて早いイニングから点をとる展開が多かったと感じます。今回短い派遣ではありましたが、とてもいい経験をすることができました。また今回の事は自チームに戻って共有しできることからやっていたと思います。



## 大学男子日本代表派遣事業を振り返って

国士舘大学 井関 綾人  
(埼玉栄高等学校出身)



大学男子日本代表としてインドネシア・マカッサルに行き、大会を通じて得たものがたくさんありました。この大会に参加する上で協力してくれた関係者の方々、ありがとうございます。

この大会を振り返って一番に得たものは仲間です。初めはみんな、オラオラしてるんだろうなど、とても不安でしたが、意外にもそういうことはなく、いい人たちばかりで、みんなで行動をしていくうちに、仲が深まりました。グラウンド内では、全員がレベルの高い選手でとても刺激を受けました。一つ一つのプレーや声掛け、スイングの意識、打席内の考え方、ちょっとした雑談など、学ぶことが多くありました。このメンバーで大会を優勝できたこと、一員になれてよかったです。

グラウンド外では、スタッフ含めみんなでアイシングの為にプールに入り、クールダウンしながらも胴上げの練習をしたり、ちょっとだけ戯れたりして、グラウンド外でも共に行動することで、チームとして団結して行く姿を見て、衣食住を共にすることの大切さを学びました。また、試合前に木田さん流アイブラックを塗ってもらうことで仲間意識を向上させる技も学びました。

他にも外国でプレーをするという経験をえました。U18日本代表の時にも感じたことですが、自チーム以外の相手チームと審判とコミュニケーションが取れないことやナイターでの試合、朝早い試合など日本にはあまり少ないことが、今回もありながらも、違った環境を楽しめることができました。また今回、ピッチャーの距離が60cm遠く、投手陣は工夫して投げ、打者陣もバッターボックス内で工夫するなど、各選手の対応力を学びました。

12日間という短い間でマカッサルオープン大会を通じて、異国の地で普段一緒にプレーすることの出来ない仲間と、ソフトボールが出来る楽しさ、日本代表としての意識や心構えを学ぶことができました。

参加させてくれた親への感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張っていきます。



## 大学男子・女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



環太平洋大学 岩松 近良  
(鹿屋農業高等学校出身)

私はインドネシア・マカッサルオープン派遣を通して、多くのことを得ることができました。まずは自分は日本の大学生の代表として、派遣に来ているということの自覚です。私たちは大学選抜として派遣に参加しましたが、他の国のチームからすると私たちは、日本を代表して来ているチームというふうに見られていたと考えています。そのため、プレイ中はもちろん、グラウンドでの立ち振る舞い、ソフトボールをしていない時の行動など全てにおいて、日本の代表として適切な行動を取るよう心がけました。次に得たこととしては、インドネシアに行けたことです。私はこれまで海外を訪れたことがなく、この派遣で初めて海外を訪れました。インドネシアと日本は街並みや物価、時間、食事など多くのものが異なり、日本では経験できないことをたくさん経験することができました。次に得たことは、ソフトボールについてです。私は大学4年生で全日本インカレも終わり、大学生活最後のソフトボールでした。これまで約16年間ソフトボールをしてきて、相手チームが全員外国人ということが初めてで、1つ1つのプレイにとってもワクワクしました。また、他の大学から選ばれた優秀すぎる仲間たちと一緒にプレイできることがとても楽しく誇りに思いました。マカッサルオープンの予選リーグでは3勝1敗、全体の2位として決勝ラウンドに進出しました。この初めて一緒にプレイをする仲間たちと3勝できたこと、決勝ラウンドに進出できたことはとても大きな収穫で、試合の中で1人1人の選手がチームでの目標や個人の目標を達成するべく、考え、共有、実行をすることができていました。その結果、決勝ラウンドでは予選リーグで敗北を喫した相手に対して、2連勝し、マカッサルオープンで優勝することができました。試合全体から得ることができたこととして、考えながらソフトボールをしていくことの大切さやコミュニケーションを多く取ることの重要性、仲間たちと協力し試合に勝ったときの達成感や喜びを感じることができたということが挙げられます。このインドネシア・マカッサルオープン派遣では普段できないような貴重な体験をすることができ、参加して本当によかったと思いました。最後にこの派遣に参加するにあたって、支援してくれた家族、安全に充実した時間を過ごせるように計画、引率をいただいたチームのスタッフ関係者の方々、大会の運営の方々、最高の仲間たちに感謝をしたいと思います。本当にありがとうございました！





## 大学男子日本代表派遣事業を振り返って

環太平洋大学 安藝 大地  
(徳島科学技術高等学校出身)

私は大学男子日本代表派遣事業でインドネシアのマカッサルという所に行きました。初めは日本とは違うことだらけで戸惑いました。初めに驚いたことは車やバイクの数が多いい事です。日本も多いと思いますがマカッサルでは多くの人が車やバイクに乗っていました。

バイクに人が3人乗っていたり中学生くらいの子供がバイクに乗っているのを見て驚きました。マカッサルの人達にとって車とバイクは生活に欠かせないものなのだと感じました。

次に驚いたことは食べ物や住むところがなくて困っている人が沢山いた事です。日本でも貧富の差はありますがインドネシアは日本より差があると感じました。歓迎会に参加した時食べ物を貰うために近くに子供達が寄ってくるがありました。日本ではそういった経験をした事が無かったので心が痛みました。可哀想だと思うと同時に何も出来ない自分の無力さも感じました。世界中には似たような生活を強いられている人達が沢山いると思います。いつか貧しい人達に手を差し伸べられるような人になりたいと思うようになりました。

マカッサルではこのような様々な体験をしましたが、人種や言葉が違う人達とスポーツを通して交流出来たことが一番心に残っています。試合で相手チームと対戦してソフトボールの良さを改めて感じる事が出来ました。ソフトボールを通してお互いのプレーをほめあったり必死になったり出来ることは素晴らしい事だと思いました。また、日本の強力な投手陣を相手にした時の海外のチームの攻め方やバッティングフォームは勉強になりました。速くて変化する球をコンパクトに打ち返す技術が凄いと感じました。タイミングのとり方やスイングの仕方を参考にしたいと思いました。

今までソフトボールをしてきて楽しいことばかりではありましたが今回このような経験をさせて頂く機会に恵まれて本当に良かったです。スタッフの方々、応援して下さった方々、素晴らしいチームメートのおかげで素晴らしい経験をすることが出来ました。本当にありがとうございました。



## 大学男子日本代表派遣事業を振り返って

環太平洋大学 有村 翼  
(鹿屋農業高等学校出身)



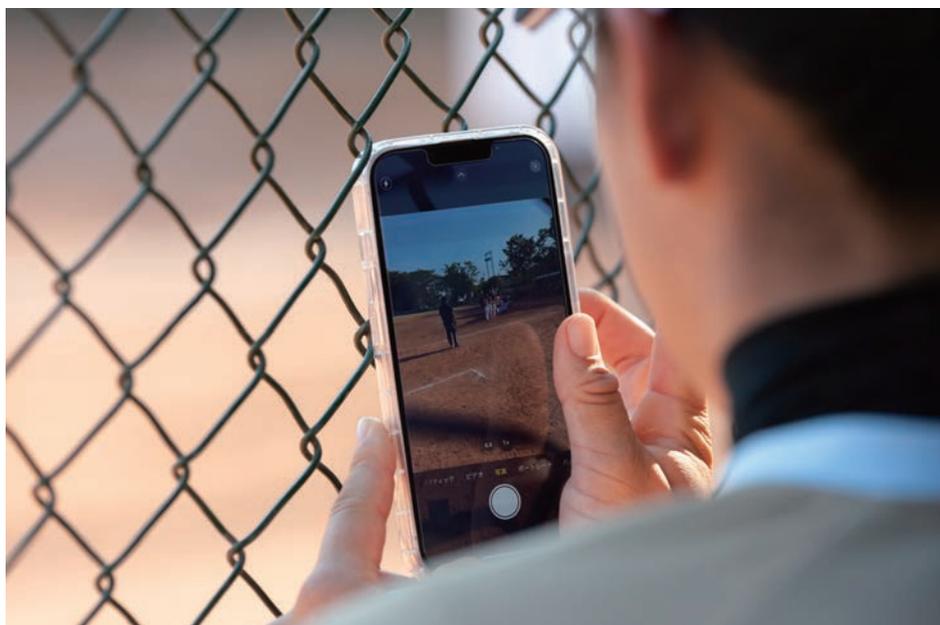
私が、大学男子・女子日本代表派遣事業を振り返って得たものは3つあります。

まず1つ目は、情報の伝え方です。これは試合の中で多く感じたことで、日本にはあまりいないタイプのピッチャーや日本のピッチャーとは違うボールの軌道などに対策する中で、どの球種をどのように打つのかだったり、自分が打席に入っているときに「今下から出すぎているからもう少しボールの上を見たほうがいいよ」というような声掛けだったり、誰が聞いても伝わるような声掛けが多かったと思います。そうすることで打席の中で迷うことなく振ることができ、自チームに帰ってからもこのような伝え方をしようと思いました。

次に2つ目は、コミュニケーションの大切さです。今回招集された選手は、技術面だけではなく、挨拶や返事、試合外での会話など見習うべき所が多いなと感じました。私は、あまり自分から話すことが得意ではなくチームになじめるか心配していました。しかし、先輩方が話しかけてくれたおかげで早くチームになじめることができました。また、先輩方を見ていると選手間でのコミュニケーションだけでなく、監督やコーチなどとも積極的にコミュニケーションをとって、そうすることで監督・コーチと選手がどのように試合を展開していきたいのかなど多くの点でかみ合い、チームの状態を上手く保てることを学びました。

最後に3つ目は、先のことを考えて行動する力です。今回のように違う国で集団行動をする中で、改めて大切なことだと感じました。飛行機やバスでの移動が多く一人が遅ればみんなが遅れてしまう状況で、5分前集合などが徹底されていて日常生活から大切なことだと感じました。

これらの得たものを自分のものだけにすることなく、自チームにも共有していきたいと思います。また、この経験を通してソフトボールプレイヤーとしての成長はもちろんのこと、人としても成長できるように生かしていこうと思います。



## 大学男子・女子日本代表派遣事業を振り返って



立命館大学 小山 竜加  
(佐世保西高等学校出身)

私にとって二度目の海外遠征。前回はU18代表として世界一に輝いたものの、自分の思うような成績を収められず、悔しい結果であった。そのため、今回の遠征ではチームの勝利はもちろんのこと、全国の大学生代表としての重責を自覚し、自己成長の機会にしたいと心に決めて大会に臨んだ。

この海外派遣で得た特別な体験は、日本では得難い特別なものであった。特に試合中の選手たちの集中力に感銘を受けた。試合の雰囲気作りや、瞬時の状況対応、試合の中で修正する力など、このチームでしか得られない多くの学びがあった。そのような選手がそろっているからこそ、初戦での敗戦を乗り越え、セミファイナル、ファイナルで勝利を収めることができたと感じている。またソフトボールだけでなく生活の面でも、食事や宗教、価値観などを、現地の人々との交流を通じて異なる文化を実感することができた。しかし、スポーツ、ソフトボールは、世界共通の文化であり、その違いを超えて共に競い合うことで、お互いに理解しあうことができる素晴らしいものであると感じた。だからこそ結果に関わらずお互いを認め合い、称賛しあえることができた上に、こうした経験を通して私自身のスポーツに対する視野が広がった。

男子ソフトボールのトップ代表チームの試合を見てみると、特に海外選手はパワーだけでなく、技術も上がっており、レベルの高いソフトボールをしていた。しかし、野球同様、ソフトボールも日本が世界をけん引していかなければならない。だからこそ、この大会で得た知識や感動を、大学や今後のソフトボール活動に生かし、日本ソフトボールの更なる発展に繋げたい。また、多くの人々からのサポートや応援があってこそ、この大会に参加でき、ソフトボールができていたことを再認識した。これからも、その方々に対する感謝の気持ちを忘れずに、プレーを続けていきたい。



## 大学男子日本代表派遣授業を振り返って



環太平洋大学 高草 昂大  
(近畿大学附属東広島高等学校出身)

大学男子日本代表派遣を振り返ってみて、まず私はソフトボールを海外で行うのは初めてでした。初めての経験だったので楽しかったという気持ちが1番にあります。大学のトップの人達が集まって、練習試合や大会で戦っていた相手とチームメイトになって試合をするということが普通ではできない事なので、貴重な経験になりました。試合をする時に、嫌なバッターやピッチャーがチームメイトになると頼もしい気持ちになって、バッティングで意識している事を聞いたりすると新しい発見があり、自分のプレー向上に繋がる事が多くありました。他にも海外の人のバッティングを見ているとポイントが後ろなのかなと思いました。自分自身の気づきとして、日本でいつも打っているポイントやスイングと仕方だとファールが多くなりました。外人独特のライズや今回の大会のボールが、日本のボールより軽く感じたのでファールが多くなったのかなと思いました。このような差を無くすために外人はポイントを後ろにして押し込むようなスイングをしているのかなと思いました。このような気づきも海外でプレーすることができたから気づけたのでいい経験になりました。

難しいと思った点は身体の調整や生活面です。

飛行機に長時間乗って乗り換えなどもして現地に着いたので疲れがある中でプレーをしないといけないというのは、日本ではない移動時間だったので、ついていつも通りプレーをする調整するのは難しいのかなと思いました。

生活面では、食事がやはり海外なので、日本人の口に合わない食べ物が多かったです。そこで食べられるものがマクドナルドがあったのでどうしても身体にはよくない食べ物を多く食べる事が多くなりました。スポーツをしに行っている所以体が1番大事になってくるので、口に合わない中でも食べられるものを探して、慣れていかないといけないと思いました。

最後にこのような貴重な経験をして、コーチの三谷さんも言っていた、大学日本代表から、U23やTOPに選ばれるように目指してほしいと言っていて、初めて海外でソフトボールをしてみてもっとレベルの高い所でやってみたいと感じたので自分の代で受けられる可能性があればU23に入る事を目標にこれからのソフトボール生活を送っていきたいと思いました。

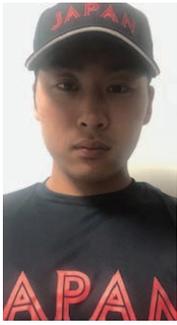


## 大学男子日本代表派遣事業を振り返って

福岡大学 成崎 想  
(日向高校出身)

大学男子代表派遣事業を振り返り、また改めて新しいものを得ることができた。まずは大学代表という意識を持つということです。日本の代表として、各国のチームと戦うであったり交流したりなど色々ある中で自分の行動や言動が正しいのか、正しく無いのかなど考えたりなどすることがあった。今回の派遣でまた自分を客観的に見ることの大事さを知ることができた。また、時間を守るであったり当たり前にするべきことをきちんとするなどのことができていないことが多々ありました。代表として来ている中でそのようなことが出来ていないのは、社会人としてもスポーツマンとしてもやってはいけない事だと思う。代表としては一敗はしたものの優勝という最高の形で学生ソフトボールを終えることができとても光栄です。初めて JAPAN に選ばれ、各学校のトップが集まるということで楽しみもありながら、不安もありました。色んな考えを持っている人がおり、新しい考えを得ることができましたし、レベルの高い中でプレーをしている中で違う景色を見ることができました。私は現在四年生ですが、中には2年生や3年生もおりその下級生たちはとても良い経験をできたと思っており、チームに帰り自分の感じた事や他の人から得たもの、そして盗んだものなどを共有することによりチームのレベルアップも図ることができるということもできると思います。来年もあるのであればぜひ学年関係なくこの大学 Japan に参加してほしと感じた。今回の派遣で得たものはとても多く自分としては引退という形にはなったのですが、大学までソフトボールを続けて良かったと思う。大学 JAPAN にいかせてくれた親、そして監督、コーチそしてマッカッサルオープンに携わってくださった方々に感謝しかないです。社会人になってもソフトボールを続けようと思っているので、今回得たものをいかせていけるようにして行きたいです。本当に今回の大学 JAPAN に参加して良かったと改めて感じました。





## 大学男子日本代表派遣事業を振り返って

福岡大学 青木 琉真  
(九州産業大学附属九州高等学校)

大学選抜を振り返って多くのことを学び、大変良い経験ができました。

一つ目は体調管理についてです。自分自身初めての海外遠征で長時間の移動で思ったように睡眠が取れず、身体が怠かったり重かったりしました。海外についてからも自分の口に合うものが見つからず偏った食生活になっていました。また、水道水も日本人には合わないのを口に入れないように意識して生活しなければいけないのでとても大変でした。そんな環境でも結果が求められるので、睡眠時間をいつもより長く取ったりストレッチなどの身体のケアをしてできる限りコンディションを整えて試合に臨むことができたと思います。

二つ目はピッチングについてです。いくつかの大学から良いピッチャーが集まっていました。自分を伸ばすために積極的にコミュニケーションを取ったりしていました。同じ球種でも一人一人違った投げ方や握り方をしているので新しい変化球やより質の良い球にできるキッカケになったと思います。今回バッテリーを組んだキャッチャーの人も初めて組む人で配球の組み立て方も斬新だったり、緩い球の使い所が自分が組み立てる中で頭のないところで使っていたりしたので色々な攻め方を学ぶことができたので、これからのピッチングの幅を広げられるように取り組んでいこうと思っています。

三つ目は国外のチームとの対戦についてです。初めての海外遠征で自分の中の海外選手のイメージは強振はするがミート力があんまり無いというイメージでした。実際に闘ってみて自分が思っていた通り、振り回してくる選手もいましたがそれよりもミート重視で当てにきている感じの選手が多い印象でした。日本人よりもガタイの良い選手が多かったのでホームランだけは打たれないように普段よりもコースや高さを意識して丁寧に投げることができ結果を残すことができました。



## 大学男子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



中京大学 出嶋 聖治  
(星稜高等学校出身)

まずは、全日本大学ソフトボール連盟、サポートしてくださったスタッフの方、マカッサルオープンを運営してくださった大会関係者の方の存在があり、大学男子日本代表派遣事業で貴重な経験が出来たことに感謝しています。今回の大学日本代表は、多くの応募者の中から選ばれた15名であり、大学男子ソフトボールを代表する選手と11日間ともにプレーすることが出来ました。

一緒にプレーするうえで、体が大きいや技術があるだけでなくベストパフォーマンスを出すための準備や試合に入るときの気持ちのスイッチの入れ替え方がとても上手だなと感じました。ひとりひとりが自分の身体について理解していて何が良くて何が良くない状態なのかに応じて準備の仕方を変えていました。自分自身に理解があるからこそ練習内容に自主性がでてより効率的な練習が出来ているのではないかと思います。そして試合前はとてもリラックスしていますが、ユニホームを着た瞬間チームの雰囲気が変わる事や打席内容が悪くても次の打席では修正してくるといった気持ちの切り替えの面などプレイヤーとして基本的なところがしっかりしていてまだまだ学ぶことはたくさんあると感じました。

マカッサルでの生活では、日本では経験できないような経験できました。トイレをする事にお金を払わなければいけない事や水道水が飲めない事、町並みだけで貧困の差がわかる事など日本で当たり前のようにできていることが当たり前ではないことを経験しました。もっと日ごろから感謝して生活していかなければいけないと感じました。

今回の大学男子日本代表の11日間を通して、高いレベルでプレーをして単純に楽しかったですし、私自身もっと改善するべき点が見えまだまだレベルアップできると感じました。U23やトップ代表といったさらに高いレベルでプレーしたいと新たな目標もできました。海外のチームに日本人の方も参加しており話を聞き様々な道がある事を知り海外でプレーしてみたいといった気持ちにもなりました。私自身高校までは野球をしており大学からソフトボールを始めましたが、今回の経験でさらにソフトボールが好きになりましたし、これからもソフトボールに真摯に向き合い男子ソフトボールをもっと広めたいと思いました。



## インドネシア派遣を終えて

国士舘大学 安池 陸  
(国士舘高等学校出身)



私がまずインドネシア到着して感じたことは、街並みやその地域の人々が日本とは違うという事だ。当たり前前のことだが、行ったことがない国に夜中に着き、少し怖いなと感じた。15時間くらいの移動時間の末、早朝4時くらいにホテルに着いた。その後シャワーを浴びた。お風呂を上がり、髪の毛を乾かそうと備え付けのドライヤーを使おうとした時、何か黒い物体がコロッと出てきた。まさかと思ったがその正体はゴキブリだった。私はその時絶望を感じた。代表の人数が15人ということもあり、私が1人余り1人部屋だった。とても心細い中でこの出来事は心が折れそうだった。しかし、次の日その出来事をみんなに話すとみんな笑ってくれた。面白いお土産話ができて良かったなと今では思っている。他にもたくさんあるが、このように日本では考えられないことが日常茶飯事で起きるのが海外なんだと感じた。

2日目は練習をし、3日目はオープニングセレモニーと初戦があった。オープニングセレモニーもたくさんの現地の人々が会場作りやたくさんの出し物で大会を盛り上げてくれた。とても嬉しく、歓迎されてるな、頑張ろうと思えた。

やはり国際大会ということもあり、ピッチャーの投げ方やバッターの特徴など日本のプレイヤーと違うところもたくさんあった。基本私はバッティング時に足を上げるが、ピッチャーがいつもと違ったり投げ方もワンモーションだったりタイミングが取りづらいピッチャーが多かったのでインドネシアではノーステップで打つということに心がけた。また相手のバッターはパワーもあったので当たればホームランや強い当たりが多かった。自分はセンターを守っていた為、ポジショニングや内野からの球種の伝達などを徹底して守備をするように心がけた。

大学の日本代表ということもあり、一人一人の意識が高く、技術も高い。だがそれに驕ったり誰かを下に見たりするという素ぶりは一切なかった。みんなが謙虚で協調性があり本当にいい仲間だった。そんな人間に自分もなりたいたと思えた。また全国に友達、仲間ができてこれからソフトボールを続けていく中で本当にいい経験ができた。監督、コーチ、スタッフを始め、インドネシアに行かせてもらった両親にも心から感謝したいと思う。



## マカッサルオープン(女子) 報告書

会期：2023年9月17日(日)～9月24日(日)会場：インドネシア／マカッサル

### 令和5年度大学女子選抜チーム マカッサルオープン参加者名簿

No.	守備	氏名	地区	所属
1	投手	伊藤 瑠莉	東海	日本福祉大学
2	〃	岡 柚月	関東	城西大学
3	〃	杉本 詩菜	近畿	大阪大谷大学
4	〃	八角 美海	東京	早稲田大学
5	〃	横田 麗羅	近畿	園田学園女子大学
6	〃	増渕 安月	東京	東京女子体育大学
7	捕手	中山 彩	東京	東京女子体育大学
8	〃	洞口 舞	東海	日本福祉大学
9	内野手	須田 梓	関東	城西大学
10	〃	高橋 妃由	中国	美作大学
11	〃	藤井 鈴乃	中国	美作大学
12	〃	本田 光音	東京	東京女子体育大学
13	〃	宮崎 眞緒	東京	東京女子体育大学
14	外野手	向田 衣舞	関東	城西大学
15	〃	古本 爽	近畿	園田学園女子大学

### スタッフ

No.	守備	氏名	地区	所属
1	チームリーダー	木田 京子	近畿	園田学園女子大学
2	ヘッドコーチ	泉 健介	近畿	大阪大谷大学
3	アシスタントコーチ	古宇田 佳愛	東海	日本福祉大学
4	トレーナー	安原 みどり		株式会社 PEP Osaka

### 【予選リーグ】

2023年9月17日 場所：KAREBOSI Field 開始：18:30

	1	2	3	4	5	6	7	計
大学選抜	0	3	1	1	0	2		8
Philippines	1	0	0	0	0	0		1

先攻 増渕(3)、伊藤(2)、八角(1)-中山(3)、洞口(2)、中山(1)  
2塁打：藤井 MVP：藤井

2023年9月20日 場所：KAREBOSI Field 開始：15:52

	1	2	3	4	5	6	7	計
大学選抜	3	0	8	2				13
LAKIDENDE	0	0	0	0				0

先攻 八角(2)、伊藤(1)、増渕(1)-中山(2)、洞口(1)、中山(1)  
本塁打：古本 3塁打：宮崎  
2塁打：高橋、向田 MVP：古本

2023年9月19日 場所：KAREBOSI Field 開始：12:37

	1	2	3	4	5	6	7	計
大学選抜	8	2	3	11				24
STINGERS	1	2	0	0				3

先攻 横田(2)、岡(1)、杉本(1)-洞口(2)、中山(1)、洞口(1)  
本塁打：須田、向田② 3塁打：宮崎、中山  
2塁打：高橋、本田 MVP：向田

2023年9月21日 場所：KAREBOSI Field 開始：17:03

	1	2	3	4	5	6	7	計
MIRAMAR	0	0	0	0	0	0	1	1
大学選抜	0	2	0	1	0	0	X	3

後攻 杉本(3)、岡(2)、横田(2)-洞口(3)、中山(2)、洞口(2)  
本塁打：本田 3塁打：宮崎  
2塁打：向田 MVP：本田

2023年9月22日 場所：KAREBOSI Field 開始：18:21

	1	2	3	4	5	6	7	計
大学選抜	11	7	3					21
VARSIITY	0	0	0					0

先攻 伊藤(2)、八角(1)-洞口(2)、中山(1)

本塁打：古本、洞口、向田、須田 3塁打：古本

2塁打：洞口、中山② MVP：洞口

	JAPAN	LAKDENDE	M RAMAR	VARSIITY	STINGERS	PHRPPNES	勝	負	順
JAPAN		○	○	○	○	○	5	0	1
LAKDENDE	●		○	○	○	●	3	2	2
M RAMAR	●	●		○	●	●	1	4	3
VARSIITY	●	●	●		○	●	1	4	4
STINGERS	●	●	○	●		●	1	4	5
PHRPPNES	●	○	○	○	○		4	1	棄権

### 【FINAL】

2023年9月23日 場所：KAREBOSI Field 開始：07:57

	1	2	3	4	5	6	7	計
LAKIDENDE	0	0	0	3				3
大学選抜	2	2	4	5				13

後攻 岡(3)、横田(1)-中山(3)、洞口(1)

3塁打：洞口 2塁打：古本、藤井 MVP：藤井

### 【GRAND FINAL】

2023年9月24日 場所：KAREBOSI Field 開始：10:05

	1	2	3	4	5	6	7	計
大学選抜	1	0	1	1	2	0	1	6
LAKIDENDE	0	0	0	0	0	1	0	1

先攻 増淵(3)、八角(2)、杉本(1)、岡(1/3)、横田(1/3)、伊藤(1/3)-中山(5)、洞口(2)

本塁打：向田

2塁打：本田、洞口 MVP：向田

向田衣舞選手(城西大学)は大会 MVP、首位打者賞、ベストスラッガー賞、打点賞の4冠を獲得



【打撃成績】

Name	GP	IP	PA	OAB	H	1B	2B	3B	HR	R	RBI	Avg	Slug	BB	HBP	S	SF
MUKAIDA Ibu	7	37	23	21	15	9	2	0	4	14	13	.714	1.381	1	0	0	0
HORAGUCHI Mai	7	33	22	20	11	7	2	1	1	10	9	.550	.900	0	0	1	1
HONDA Minon	7	34	23	20	11	8	2	0	1	9	9	.550	.800	2	0	0	1
FURUMOTO Sawa	7	37	23	21	11	7	1	1	2	9	9	.524	.952	1	0	0	0
SUDA Azusa	7	37	23	18	9	7	0	0	2	12	10	.500	.833	2	1	0	1
MIYAZAKI Mao	7	34	22	18	8	5	0	3	0	8	6	.444	.778	2	0	0	2
FUJII Suzuno	7	37	23	21	9	7	2	0	0	6	7	.429	.524	2	0	0	0
NAKAYAMA Aya	7	37	24	23	8	5	2	1	0	8	5	.348	.522	0	0	0	0
TAKAHASHI Hiyori	7	37	24	16	4	2	2	0	0	8	3	.250	.375	6	0	0	1
YOKOTA Reira	7	12	4	4	2	2	0	0	0	1	0	.500	.500	0	0	0	0
OKA Yuzuki	7	13	4	3	1	1	0	0	0	0	1	.333	.333	0	0	0	1
SUGIMOTO Shiina	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000	0	0	0	0
MASUBUCHI Azuki	4	11	1	0	0	0	0	0	0	1	0	.000	.000	1	0	0	0
ITO Ruri	5	10	0	0	0	0	0	0	0	1	0	.000	.000	0	0	0	0
HAKKAKU Minami	5	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000	1	0	0	0

【投手成績】

Name	BF	H	1B	2B	3B	HR	R	BB	HB	BK	WP	SO	W	PC	IP	ER	ERA
MASUBUCHI Azuki	27	5	5	0	0	0	1	0	0	0	0	11	0	101	7.00	0	0.00
OKA Yuzuki	22	5	4	1	0	0	0	0	2	0	0	7	1	91	6.33	0	0.00
HAKKAKU Minami	20	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	65	6.00	0	0.00
ITO Ruri	21	3	3	0	0	0	0	1	0	0	0	9	1	69	5.33	0	0.00
YOKOTA Reira	32	12	10	2	0	0	7	2	2	0	0	1	1	107	5.33	7	9.19
SUGIMOTO Shiina	18	3	2	1	0	0	1	0	0	0	0	5	0	66	5.00	1	1.40

【大会における行動表】 ※記載はすべて現地時間(ジャカルタ：-2時間, マカッサル：-1時間)

**9月15日(金)**

18:00 夕食

11:45 羽田空港(HND)発

17:10 スカルノ・ハッタ国際空港(CGK)着

22:50 スカルノ・ハッタ国際空港(CGK)発

**9月17日(日)**

8:00 朝食

9:00 練習(9:00~11:00)

12:30 昼食

15:00 オープニングセレモニー

15:30 W-up 開始

17:00 VS PHILIPPINES【VISIT(先攻・1塁側)ゴールド】

20:00 夕食

**9月16日(土)**

2:50 マカッサル国際空港(UPG)着

4:30 ホテル到着

10:00 朝食

11:00 買い物

13:30 練習(13:30~17:00)

### 9月18日(月)

8:00 朝食  
10:00 練習(10:00~12:00)  
13:00 昼食  
17:00 ウェルカムパーティー・夕食

12:00 昼食  
15:30 W-up 開始  
17:30 VS MALAYSIA UNIVERSITY  
【VISIT(先攻・1塁側)ホワイト】  
20:30 夕食

### 9月19日(火)

8:00 朝食  
10:00 W-up 開始  
12:00 VS STINGERS 【VISIT(先攻・1塁側)ホワイト】  
14:00 昼食  
18:00 夕食  
19:00 男子チームの応援

### 9月23日(土)

6:00 朝食  
6:15 W-up 開始  
8:00 VS LAKIDENDE 【HOME(後攻・3塁側)ゴールド】  
11:00 昼食  
14:00 男子チームの応援  
19:00 決起集会・夕食

### 9月20日(水)

8:00 朝食  
9:30 練習(9:30~11:30)  
12:00 昼食  
14:00 W-up 開始  
16:00 VS LAKIDENDE 【VISIT(先攻・1塁側)ホワイト】  
19:00 夕食

### 9月24日(日)

7:00 朝食  
8:00 W-up 開始  
10:00 VS LAKIDENDE 【VISIT(先攻・1塁側)ホワイト】  
12:30 昼食  
14:00 男子チームの応援  
20:00 祝勝会・夕食

### 9月21日(木)

8:00 朝食  
9:30 練習(9:30~11:30)  
12:00 昼食  
14:00 W-up 開始  
16:00 VS TSUNAMI MARIMAR  
【HOME(後攻・3塁側)ゴールド】  
19:00 夕食

### 9月25日(月)

16:40 マカッサル国際空港(UPG)発  
18:10 スカルノ・ハッタ国際空港(CGK)着  
19:35 スカルノ・ハッタ国際空港(CGK)発  
※1時間30分程度の遅延が発生  
22:45 デンパサール国際空港(DPS)着 ※  
1時間30分程度の遅延が発生

### 9月22日(金)

8:00 軽食  
9:30 マーケットで買い物

### 9月26日(火)

0:20 デンパサール国際空港(DPS)発  
8:50 成田空港(NRT)着  
10:00 解散



ヘッドコーチ：泉 健介(大阪大谷大学)

最初に、マカッサルオープン 2023 に参加させていただいたことに対しまして、(一社)全日本大学ソフトボール連盟の加盟大学の皆さまに心より感謝申し上げます。

事前の物品の準備やさまざまな事務手続きをご担当いただいた佐藤理恵強化担当理事(東京女子体育大学)をはじめ強化委員の皆さま、チームリーダーとして男女同時派遣という中でご尽力いただいた木田京子チームリーダー(園田学園女子大学)、様々な細やかな点に気づき選手のフォローを行っていただいた古宇田佳愛アシスタントコーチ(日本福祉大学)、選手と同じ目線で会話をして身体の使い方やケアの方法など様々な引き出しを増やしてくださった安原みどりトレーナー(株式会社 PEP Osaka)、木田チームリーダーが合流するまでチームを後方支援し支えてくださった藤井まり子さん(全日本大学ソフトボール連盟顧問)、ジュリアさん、しおりの作成や航空券の手配などいただいた高橋巧様(JTB)、男子の吉田智行ヘッドコーチ(神戸学院大学)、三谷舜アシスタントコーチ(中京大学)、森実由樹トレーナー(国際武道大学)を含めました、本派遣事業に関わられた皆さまのご尽力なくして大きな事故なく本事業を終了することはできなかったと考えております。また、各地区秋季のリーグ戦などを間近に控えた大切な時期にも関わらず選手を快く派遣していただいた選手の所属大学の指導者の皆さまへの感謝を尽くせません。

私個人といたしましては、2019年の第8回東アジアカップにアシスタントコーチとして参加させていただいて以来の国際派遣事業となりました。従前より感じていたことではありましたが、国際大会に出場参加させていただくと、競技力の向上はもちろんですが、多様な価値観に触れることができるのが何にも変えられない体験であると感じています。今回は3年生以下の学生を中心とした選手構成となっており、今まで競技力向上に主眼をおいてソフトボールをプレーしてきた学生にとって、海外の選手の失敗をしてもネガティブにならず前向きに取り組む姿や、得点差が生じてでもソフトボールを楽しむ姿が新鮮に映ったことと思います。このような価値観に対して、自分と違う価値観を人は受け入れがたいものだと考えますが、どのような形であれソフトボールを愛する仲間であるという価値観をもってほしいと考え、選手に伝えたつもりです。このことに限ったことではありませんが、今回参加した学生には、さまざまな体験を経験に昇華してくれることを願ってやみません。また、少子化に伴うスポーツ競技人口は大学ソフトボールにおいても例外ではなく、加盟チーム数もコロナ禍での活動停止なども相まって急激に減少しています。『すべてを犠牲にして競技に打ち込んでいる人が偉い』という優劣感をなくすことなくして競技人口の拡大には繋がらないのではないのではないかと再認識させられる機会となりました。

チームとしては、結果的に7戦全勝のうち4試合はコールドという結果となり、前述の通り『競技力』という視点のみで考えると差は大きく感じられました。また、スタッツで見ても、打撃成績はチーム打率：.481、チーム出塁率：.512、チーム長打率：.778、投手成績はチーム防御率：1.60、チーム被打率：K%：25.7%、BB%：2.1%と安定した成績を残しました。選手全員が自分たちにできるベストなプレーをする準備をした上でプレーした結果であると考えます。大会前半に、『公募』という募集方法で集まった

チームであっても海外の選手からしたら『日本を代表して参加している』と見られるという話を私と古宇田アシスタントコーチからしました。しっかりとそのことを認識して普段とは違う環境、チームメイトとのプレーであっても自分がやるべきことをぶらさずにプレーをした選手たちには感謝をしています。一方で、各々がもっているベストパフォーマンスはとても素晴らしいものがあると感じましたが、そのパフォーマンスを安定して出すこと(再現性)が全体として課題であると感じました。下級生の多い構成だったので、この先今回の派遣事業に参加した選手の中から一人でも多くの選手が所属大学や大学全体に対して好影響を与えることを期待しています。また、最初はよそよそしかったチームも、洞口キャプテン(日本福祉大学)を中心に様々なコミュニケーションを取り、最後にはチームらしくなっていたと思います。短期間でのチームビルディングについて、私も多くのことを学ばせていただきました。

繰り返すになってしまいますが、今回得た学びや経験は、言葉では表現できないほど素晴らしいものであり、私自身を大きく成長させていただきました。今回の派遣事情にご尽力賜った多くの皆さまには感謝の思いしかありません。本当にありがとうございました。末筆になりましたが、後期授業開始後にも関わらず13日間職場を空けることを快諾してくださった大阪大谷大学ならびに、秋季リーグ前半を監督不在で試合することを強いてしまったにも関わらず、上級生を中心にやるべきことを遂行してくれた大阪大谷大学ソフトボール部の選手の皆さんに感謝いたします。



## 大学女子海外派遣事業マカッサルオープン 2023 を振り返って



アシスタントコーチ：古宇田 佳愛（日本福祉大学）

はじめに、海外派遣事業の準備段階から帯同、帰国後の後片付けまで、木田チームリーダーをはじめ、多くのスタッフ・関係者の皆様にご尽力をいただき、今回の事業が無事終了しましたことを深く感謝申し上げます。また、藤井顧問におかれましては、男女同時派遣という大きな選手団を出発から引継ぎまで、細かな部分にまでご配慮をいただきました。生活に欠かせない雑務から外交役まで、また精神的支柱としての並々ならぬご尽力に心からお礼申し上げます。

今回、海外派遣事業に初めて携わらせていただき、全く知識もノウハウもない私にとって、とても貴重な経験になりました。女子選手団は、そもそも渡航したことがない選手が大半で、顔合わせではスーツケース軽量化のための非常食の選び方の話から始まりました。後日、男女合同での ZOOM ミーティングを開催し、異国の文化や今回の派遣の意義について、全体に共有し、出立となりました。

現地に入ると気候や環境の変化への対応、長時間のフライトや慣れない食事環境によるコンディション調整がとても難しいと感じました。試合でも 2 時間の時間制限のなかに、攻守交代などの時間は含まれない形式だったことや、男子の試合では、日本と他国のタイブレークの解釈の違いで交代違反になるなど、初めて経験することが多くありました。女子は下級生中心の編成でしたが、時間厳守や団体行動の統制が取れており、コミュニケーションを積極的に取ろうという姿勢も多く見受けられ、早い段階でチームがまとまっていきました。選手間で話し合う場を設け、チームテーマとして①自分たちのプレーをする ②一体感を出す を掲げました。その後、テーマを各々が意識し、声のかけ方や、プレーに向かう姿勢が変化していきました。選手の変化として、他チームの選手と親交を深めて友人を増やしている姿や、男子選手とソフトボール談義をしている様子がありました。今回の派遣を通して、ソフトボールの輪が広がり、選手にとって良い刺激が多かったのではないかと感じています。

今回、特に泉ヘッドコーチがミーティングで仰っていたことは、「私達だけが良ければいい、という世界ではないということ。様々な文化や価値観があることを知り認め合うこと。今回の経験を普及・発展につなげていくこと。」という事でした。他者とのかかわり方や、交流の大切さ、周りの方々への感謝などを選手に常々伝えていました。

大会では、異国の地で不慣れな状況下でも、選手たちが持てる力を存分に発揮した結果、男女ともに優勝をすることが出来ました。優勝に至るまでの先生方の細かなサポートや、選手に対してのアプローチの仕方、選手との関わり方などを勉強させていただきました。今回の海外派遣を通じて、ソフトボールが競技スポーツとしても、生涯スポーツとしても愛される種目になるよう、普及・発展していく必要性を感じ、この度の派遣で得た経験を、少しでも還元できるようにしていきたいと思えます。

素晴らしいスタッフの皆様と選手たち、すべての関係者の皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。



令和5年度大学代表チーム 2023 インドネシアマカッサルオープンを振り返って

女子担当 安原 みどり

今回私は、インドネシアマカッサルオープンに女子担当トレーナーとして参加した。選抜チームの海外遠征ということもあり、スタッフミーティングで事前準備を行い、大学連の活動や今回の遠征の目的など大会に関する情報を共有した。また海外が初めての学生もいたことから、長時間のフライト時の対応や衛生環境など考えられるトラブル対応を準備した。そうした準備の結果もあり期間中大きく体調を崩すことや、怪我が発生することはなかった。

コンディション管理に関しては、大会期間中を含む1ヶ月間 ONE TAP SPORTS を利用した。普段利用していない学生も多く、入力漏れもみられたが、体重変動、疲労度や身体の張りなど自分自身でコンディションを振り返り、その上で個人に必要な対応をするよう指導した。今後選手としてコンディションを自分で調整する能力も必要であるため、自分自身の身体の調子と向き合う良いきっかけであった。暑熱環境への対応としては、WBGT 測定、体重管理、スポーツドリンクの補給と緊急用の経口補水液の準備、氷での冷却などを行なった。WBGT では14-15時ごろに31℃を超えることがあり、特にその時間帯は注意を促した。すでに経口補水液を摂取する習慣やイニング間で冷却する習慣がある選手も多かった。整備されていない環境での練習やタイムスケジュール通りに進まない試合への対応など海外ならではの経験をしたことは今後の取り組みに良い変化与えると感じた。

女子は下級生中心のチーム編成であったこともあり男子チームから技術面で学ぶ機会がたくさんあった。また国際大会に参加することで勝敗だけでなく対戦相手や開催国の文化に触れ、ソフトボールを通じて人として成長する姿がみられた。

最後になりましたが、今回大きな怪我や体調不良なく遠征を終えることができたのは木田チームリーダーをはじめ藤井顧問、吉田 HC、三谷 AC、泉 HC、古宇田 AC、森男子担当トレーナーのサポートと佐藤先生、佃先生のアドバイスと出国前準備があったからです。大変ありがとうございました。





## 振り返って得たもの

日本福祉大学 伊藤 瑠莉 #20  
(多治見西高等学校出身)

インドネシアマカッサルオープンを通して、日本のソフトボールの技術の高さ、ソフトボールの楽しさを改めて感じることができました。また、普段は違うチームの方々と同じチームでプレーをしたことでさまざまな考え方を知ることができ、いつもと違う考え方、広い視点で捉えることができるようになったと感じています。一つのプレーに全員で盛り上がり、ひとりのミスを全員でカバーする、チーム全員が勝つために考えられていたからこそ、ソフトボールの楽しさや面白さを改めて感じることができました。また、短期間のチームであったからこそコミュニケーションを取ることの大切さに気づかされ、日を追うごとにチームとしてのまとまりが生まれていきました。

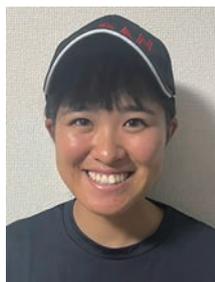
私は、海外で他国と試合をすることは初めての経験でした。国ごとにソフトボールのレベルの差はありながらも、どの国にも共通して言えることはソフトボールを楽しんでいるという点であると感じました。ソフトボールを楽しんでいるからこそ些細な良いプレーで盛り上がり、負けていてもそれぞれのプレイスタイルが変わらず常に攻める姿勢であったと感じました。海外でプレーをしたことで日本はとても恵まれた環境でソフトボールができていると実感しました。

また、今回のインドネシアマカッサルオープンは、男女同時派遣だったこともあり、普段は見ることのない男子のプレーを間近で見ること、技術を聞くことができとても良い機会になりました。男子のプレーは新しい発見があり、多くの学びがありました。

最後に、たくさんの方々の協力・応援があったからこそマカッサルオープンに参加し、優勝することができました。さらに、今回の大会では、チーム内外からの良い刺激を沢山もらうことができました。この出会いに感謝をし、私自身のレベルアップだけでなく、ソフトボールの楽しさをより多くの人に普及することができる存在になっていきたいと考えています。



## 女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



城西大学 岡 柚月 #5

(宇都宮文星女子高等学校出身)

まず初めに、今回このような舞台に立つことが出来たのは快く送り出してくれた両親、先生方、チームメイトまた応援してくれた方々がいたからこそ貴重な経験が出来ました。優勝という結果を残せたことにとても嬉しく思う気持ちと同時に応援してくれた方々に感謝をしたいです。私は今回の国際大会を通して沢山のことを学ぶことが出来ました。

まず私が一番苦しんだことは環境です。日本ではナイター試合はあったとしても朝早くから試合を行うことは大きな大会ほどありません。しかし、国際大会では夜遅く試合が終わったとしても次の日朝早くから試合をすることが当たり前ということを知りました。慣れない食事や街の匂い、スケジュールを含めてコンディションを整えることがすごく難しかったです。試合時間や洗濯関係に関しても30分から1時間のズレは当たり前という価値観の違いなどに初めはストレスと感じるときもありました。このような海外でしか経験出来ないことを経験したからこそどんな環境でも対応できる引き出しや考え方などをもっておけるようにしたいです。

そして11日間という短い時間の中で、コミュニケーションをとることの重要性を知りました。練習時間が少ない中で日常生活から会話をする必要やプレーの中で必要以上に声を掛け合うことなどチームが団結するうえで一番必要なことだと感じました。他チームの人と同じチームになれたことで技術面や練習を行う上での意識の高さを知ることが出来て毎日新しい発見をすることが出来ました。海外の選手と戦ってみてソフトボールを純粹に楽しんでいるように感じました。試合終わった後に「ナイスピッチング!」と声を掛けてもらえたり海外の選手は勝敗に関わらず相手を素直に称えていたりソフトボールの価値観は違ったとしてもソフトボールを通して分かり合えることがあると感じました。

今大会を通して自分自身課題も多く見つけることが出来ました。ソフトボールが出来る環境は当たり前でないということを忘れず、支えてくださる方にプレーで恩返し出来るように精進していきたいです。最後に素晴らしい仲間に出会えたことに感謝します。本当にありがとうございました。





大阪大谷大学 杉本 詩菜 #11

(笠田高等学校出身)

この海外派遣を通して、初めて外国の方がプレーしている姿を目にし、明らかな日本との違いは「楽しみながら笑顔でプレーしている」ことだった。本来、スポーツというものは楽しむことを目的として発足している。しかし、日本のスポーツは練習を重ねるにつれてそれが訓練化し、プレーに対して萎縮し勝敗を求め、その結果、練習を真面目にしなければならない、勝たなければならないという部分に重点を置いてしまう傾向にある。対して、外国のスポーツは、勝つことや完璧さに重点を置くのではなく、スポーツ自体を楽しむことを重視していた。実際に、インドネシアの少年サッカーチームと交流し練習を見学できた機会があったが、選手全員が笑顔で楽しくプレーし、自ら主体的に練習に参加していた。言葉は通じなかったが、全員がサッカーに対して楽しんで向き合い、プレーしていることが伝わってきた。どちらかが正しいというものではなく、スポーツに対して多様な価値観があり、その価値観の中でプレーする選手がいるからこそ、そのスポーツは世界で成り立っているものだと実感した。

また、着ているものや食べているもの、住居や言語までが違うものの、逆に日本人の私たちと同じくする価値観も多く広い視野を得ることもできた。日本の常識には当てはまらないものが常識であったり、初めは理解するまで大変だったが世界にはさまざまな背景の人がいて、人は違って当然であることを改めて認識した。そのような方々と生活をともにするためには、その国の文化や習慣、考え方や、価値観などを理解する必要がある、また受け入れることが大切なのだと思った。これをきっかけに、私自身の視野を大きく広げることができた。

この海外派遣を通して、感じたことが多くあったが、日本の中での固定概念に縛られることなく、多様な人々の考え方を理解し受け入れることが重要であり、その第一歩として広い視野を得ることができた。この経験をソフトボール競技だけでなく今後の人生全般に渡り活かしていきたい。



## 大学女子日本代表インドネシア感想



早稲田大学 八角 みなみ #19

(神田女学園高等学校出身)

今回、大学日本代表に選出していただき、インドネシアで開催されたマカッサルオープンに参加致しました。まず、この様な中々経験することのできない海外遠征に参加させていただきありがとうございました。私自身、日本代表経験というのは初めてで、不安も緊張も沢山ありましたが、チームのみんなとコミュニケーションを取っていく中で日に日に打ち解けうことができました。私がこの遠征を通して一番感じたことは、海外と日本のソフトボールの価値観の違いです。日本のソフトボールは勝敗を重視し、その中にある過程はあまり重視されていない。また、チームスポーツということもあり統一感や総合力をととても大切にしているように思います。一方、海外のソフトボール選手達の根本にあるのは「楽しんでソフトボールをする」ということなのかなとこの遠征を通して思いました。例えば、試合において負けていても笑顔でプレーをしていたり、ヒットを打てばホームランを打ったかのように全員が喜び盛り上がる、そんなソフトボールを生で見るととても衝撃を受けました。また、様々な国のプレイヤーが揃っていた為、その国の風習や宗教などもある中でも工夫をしてプレーしている姿を見て、相手を尊重し、理解しながらソフトボールをすることの大切さも同時に学びました。もう一つ私が印象に残ったことは、プレイヤーだけが楽しむのではなく現地の観客もソフトボールという競技を楽しんでいて、他国でもソフトボールの知名度が高いことに感動しました。更なるソフトボールの普及を目指すために、私ができることはまず、「自らが楽しんでソフトボールをすること」ソフトボールの楽しさを知ってもらうためにティーボールというソフトボールに近いスポーツを地域の小学校に教えに行くなど工夫をして日本のソフトボール人口を増やしていくことも重要であると思いました。この遠征を通して学んだソフトボールを自チームに還元し、チーム自体のレベルアップにも繋げていきたいと思えます！



## 大学女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



園田学園女子大学 横田 麗羅 #6

(高知丸の内高等学校出身)

私はこの日本代表派遣事業を通して、改めてソフトボールというスポーツの素晴らしさに気づけた。海外で外国の方々と試合をする事ができ、技術だけではなく、私たちと同じ様にみんなソフトボールが好きで、心から楽しんでいるように感じた。スポーツをする上で楽しむという事は大切であると感じた。海外のソフトボールと日本のソフトボールでは、日本のレベルは高いと言われている。しかし、私たちの同じ様にみんながひとつのボールを追いかけたり、全力で取り組んでいる姿、上手いかななくても前を向いて、プレーしている姿を見て、私もソフトボールにもっと向き合おうという気持ちになれた。また、日本代表チームでみんなとプレーする事で、いつも違うチームでプレーをしている仲間と共に短い期間ではあったが、技術、ソフトボールへの考え方を学ぶ事ができた。団体競技であるソフトボールは仲間、対戦相手が居て、審判の方々、支えてくださる人が居てできるスポーツであり、1人でする事ができないスポーツである。だからこそ沢山の人への感謝の気持ちを持ち、ソフトボールをする事が大切だと改めて実感した。またもっとソフトボールというスポーツが日本や日本だけではなく多くの世界で、広がってほしいと思った。ソフトボールと言うと「野球と同じでしょ?」と言われる。まだソフトボールがメジャーなスポーツではない事が分かる。近年では、ソフトボールをする人、チーム数が減少傾向にある。私は日本代表派遣事業での経験や今までソフトボールをしてきた経験を活かし、その経験を沢山の人に伝え、またソフトボールの楽しさなどを伝え、今後ソフトボール界に恩返ししていきたいと考える。

このような貴重な場を設けて頂きました関係者の方々、派遣先で自分たちがソフトボールに集中できる環境を整えてくださいましたスタッフの方々には心からありがとうございます。これからソフトボールが多くの方々に届くように私自身も頑張ります。



## 大学女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



東京女子体育大学 増渕 安月 #15

(千葉経済大学付属高等学校出身)

私は今回の大学女子日本代表に参加し、普段ではすることが出来ない貴重な経験をさせて頂きました。私自身、海外遠征自体は2度目でしたが、フライト時間が10時間を超える長時間の移動は今回が初めてでした。それを含め、インドネシアでのコンディション調整はとても大変でした。1つ目は食事。日本食とは全く系統が異なり、毎食しっかりと量を食べる事が難しかったです。その為、自分で工夫して卵料理や肉料理を多く食べ、タンパク質を多くとったり、近くのコンビニへ行き、食べれるものを買って食べるようにしていました。2つ目は、試合までの持っていく方。試合は1日1試合で、早朝からの試合やナイターをつけての試合だったり、試合開始時間がバラバラで、体の作り方が大変でした。ですが、日本ではこういう経験する事がなかなか出来ない所以良い経験だと思いました。そして今回、世界各国のチームと対戦して感じた事は、日本のソフトボールはトップレベルだということです。日本人とは違って、体格が私たちの倍以上ある選手が沢山いて、スイングスピードや飛距離が全然違いました。ですか、日本には長打はなくとも小技をしかけて塁に出て、走塁で掻き回して点をとる手段がある。守備では、鉄壁と言ってもいいほどの守備範囲だったり、繊細なグラブさばき。これはどの国よりも勝っていると感じました。日本はどの国からも特別視されているからこそ、プレーはもちろん、日常生活や振る舞いにおいて見本となる行動をしなくてはならないなと思いました。これは、いついかなる時もソフトボールをやっている上では当たり前が出来なくては行けないことだと思いました。今日本全体として、勝ちにこだわる、厳しく行うスポーツが多いと思います。ですが、色々な国を共通して、ソフトボールを心から楽しんでいたというのが印象に残っています。勝つことが全てではなく、「楽しむ」。私たちもソフトボールを広めていくためには、楽しむということを前提にしていかなければならないと思いました。又、大学男子日本代表も一緒にインドネシアに参加したことによって、とても良い影響を受けることが出来ました。女子には無いスピード感や、ピッチングでの投げ方など新たな学びを得ることができ、これからの大学ソフトボールに繋げることが出来ました。

今回の遠征で、今何不自由なくソフトボールができる環境が当たり前ではないことを改めて実感しました。現地に行くとグラウンドがボコボコだったり、設備が整っていない中、私たち日本では当たり前のように道具があり、練習する環境がある。それを当たり前だと思っはいけないと思いました。今回たくさん吸収したことを今後のソフトボール人生、そして自チームに反映し、日本のソフトボールレベルを上げていけたらいいと思います。

## 女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



東京女子体育大学 中山 彩 #17

(神田女学園高等学校出身)

私は今回の大学女子日本代表の活動で「ソフトボール」について深く考えさせられました。

今まで当然日本でプレーをして来て、日本のレベルが当たり前だと思っていたし、日本の戦い方、雰囲気、練習の仕方などこれが”普通”なんだと思っていました。

でも、初めて世界のソフトボールに触れて私がして来たソフトボールはまだ一部分にしか過ぎないんだと感じました。

1番私が他国と日本の違いを感じた点は選手達の楽観的な姿勢です。

日本では「ふざけている」と捉えられるくらい明るい雰囲気だったり、試合に負けた後も落ち込んでいる様子が一切見えなかったり、勝ち負けよりも純粋に「ソフトボール」を楽しんでいるんだと感じました。勝負の世界だから勝ち負けが絶対あって、自分が活躍して勝ちたいと思うから”結果”にこだわる様になる。それは悪い事では無いし当たりの感情だと思います。

でも、この遠征で「ソフトボールを楽しむ」とは。と凄い考えさせられました。

観客の人達に淡々とプレーする姿では無く勝ちに貪欲になる姿、純粋に楽しむ姿、色んな姿を体現し何の為にソフトボールをしているのか応援してくれる人達に”魅せる”事が出来たら、感じ取って貰えたら、勝敗だけに注目される事なくソフトボールそのものに注目し、盛り上がり貰えるんじゃないかと思いました。この事から、私は固定概念に囚われる事なくもっと幅広く見れる様にすべきなんだと学びました。

そして、今回男子日本代表とも行動を共にし、女子とはまた違うパワー、スピード感を間近で見ることができ、女子にはない大胆さが私にはない”引き出し”を増やしてもらおうきっかけとなりました。

完全アウェーな中で試合をする事で、どう対応して行くべきなのか、挑戦と改善の繰り返しで上手く行かない事の方が多かったけれどその分沢山の収穫を得ることが出来ました。

ソフトボールの楽しさ、面白さ、深さをもっと周りの人に知ってもらえる様にこれから活動して行きたいと思っています。



## 大学女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



日本福祉大学 洞口 舞 #2

(星城高等学校出身)

私がこの派遣事業を振り返って得たものは理解する力、対応する力である。試合を通して、日本のレベルと比べると、差があるように感じた。日本は指導者を含めソフトボールができる環境が整っている。それに比べて他国はそうではないのかもしれないと感じた。日本で海外のチームと試合をしたことは何度かあったが、海外に自分が行き、試合を行うことは初めてだった。言葉が通じない中での審判との交流、試合の初めと終わりの挨拶の仕方の違いなど、日本で試合をするのとは全く違った試合展開であった。試合中にも宗教上お祈りの時間があったり、点数を取り過ぎないようにする、アウトが取りやすい打球にしたりするなど、日本で行われる試合ではありえないことを行った。だが、国際試合を経験したことで私たちのソフトボールの試合を行うことは勝つことが全てではないということが分かった。自分たちのプレースタイルは保ちながら目には見えない配慮を瞬時に行うことが必要になる。選手の中には勝ちに来たのに何故、という意見もあった。それは当たり前だろう。だが、そこで自分たちが良ければよいで試合を進めるのではなく、様々な環境の中でソフトボールをしている国があるということを理解することが大事であると感じた。相手国には試合に勝とうが、負けようが、試合が終わったら笑顔で挨拶を交わしていた。点差が広く負けている状況でヒットがでる、良いプレーが出たりすると点差関係なく盛り上がっていた。試合だけではなく、時間に対して日本に比べるとルーズな部分があること、開会式での準備等の段取りの違いなど普段とは全く違う中でソフトボールをすることは非常に良い経験となった。

また、これはソフトボールに限らず必要な力になってくると思うのでこの経験を活かしてこれからも生活していく。以上が私の派遣事業を振り返って得たものである。



## 大学女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



城西大学 須田 梓 #13

(高崎健康福祉大学高崎高等学校出身)

大学女子日本代表派遣事業を振り返って、技術はもちろんそれ以外の様々なことも学べ、得ることが出来ました。

一つ目は体調管理の大切さです。国内遠征ならバスでの長時間移動や飛行機でも短時間で済むためそこまで体調を崩すことはありませんでした。しかし、今回の遠征は飛行機で約1日の移動時間や乗り換えも多数あったため疲れがたまったり、機内の冷房などで体調を保つのが大変でした。インドネシアについてからも食事が合わずあまり食べられなかったり、日本とは違い水が綺麗ではないため飲み水はもちろん、歯を磨くときもペットボトルの水するなど日本との違いにもとても苦労しました。そんな中で万全な状態で試合に臨めるようにするため、自分でできる限りのケアや少しでも食べて体を回復させたり、いつもより多く睡眠を取ったりなど日本にいたときよりも体調面を意識していました。そのおかげでコンディションの良い状態で試合に臨め、結果を残すことが出来ました。このことから、今回の遠征で改めて「体調管理の難しさや大切さ」を認識、意識していたことを実践でき、その成果も得られたのでとても良い経験になりました。

二つ目は、ソフトボールを楽しむということです。インドネシアなどアジア圏などではソフトボールが日本ほど発展していない国もあります。今回のマカッサルオープン2023ではどのチームも勝とうという姿は見ており、それよりもソフトボールをすごく楽しんでいるように私の目には映りました。私もソフトボールを始めたころはソフトボールを楽しめていたけれど、いつからか勝つことしか考えていませんでした。けれど、今回の事業派遣で色々なチームのプレーをしている姿を見て「ソフトボールを楽しむ」という初心に帰れました。ソフトボールを一生懸命に、楽しそうにプレーをしている姿には見ている人の心を魅了するだけでなく、何か掴むものがあると改めて実感しました。

私もこれからソフトボールを続けていく中でそんな姿を見せて、ソフトボールの楽しさを広めていきたいと思いました。



大学女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



美作大学 高橋 妃由 #3

(美作高等学校出身)

私がマカッサルオープンに参加させて頂いて学んだことは世界では色々な価値観でソフトボールを楽しんでいる人がいるという事です。ソフトボールの楽しみ方は色々あって、どう楽しむかは自分たち次第であることがわかりました。そして日本のソフトボールを世界各地に広げていきたいと思いました。そのため、まだまだ日々の練習を積み重ね技術をあげていく必要があると改めて感じました。

また、いつもはライバルである人達と出会い、短い間で仲間になって戦うという難しさや楽しさ素晴らしさを知りました。

そこでソフトボールでは、まずはお互いを知りお互いを認め合うことが大切だと気付きました。自分のことだけでなく、いつも以上に視野を広げ周りを見るというところを意識しました。そうすることで普段は気付かなかったこともたくさん気付きました。

環境が変わってなかなか思うように体が動かなかったりなど、難しい部分もたくさんありましたが、そういう時こそ自分でコンディションを整えていく必要があると分かったので、自分を知りプレーだけでなく自分の体もしっかり自己分析をしていこうと思いました。

ここでたくさん経験をさせていただいたのでこの経験をしっかり自分のものにし、これから続いて行くソフトボール人生を良いものにし、目標を達成し将来の夢を叶えます。

この短い期間で最高の仲間と出会えたこと、大きい舞台でソフトボールができたこと、その中でたくさんの経験ができたこと、携わって支えてくれた方々、全ての方々や全てのことに感謝します。ありがとうございました。

これからも何事も感謝の気持ちを忘れず過ごしていきます。応援よろしくをお願いします。





美作大学 藤井 鈴乃 #14

(広島商業高等学校出身)

マカッサルオープンに参加させて頂き、私は沢山の経験を積むことができました。初めは、各大学の代表選手の方々と一緒にソフトボールが出来ることに対する楽しみの反面、皆と打ち解けられるかや皆に着いていけるのか、不安な気持ちもありました。ですが、優しく話しかけてくださったり、話しやすい環境を作ってくれる方ばかりで仲が深まったと思います。そして、練習や試合を重ねていくうちにチームが勝つために自分に出来ることを一人ひとりが考え、チームワークが良くなっていくのを感じました。

今回の大会で、様々な国の文化を知ることができました。マカッサルの方をはじめ、他国の方は暖かく接して下さり、ソフトボール以外の面でも充実した時間を過ごす事ができました。また、自分がソフトボールができているのは当たり前ではないということを改めて実感しました。まずは今回の大会に関わってくださった方々、ソフトボール協会の皆様、スタッフの方々、大きな負担があるなかで行かせてくれた両親、チームを長い期間抜けることを受け入れ、暖かく送り出してくれた監督、チームメイトがいたからこそ貴重な経験ができたと思います。そして、自チームを離れてソフトボールをすることに少し不安もありましたが、他の大学の選手が普段どのような意識で練習や試合に臨んでいるのかを教えてもらったり、感じることで自分の意識の低さを感じ、自分のソフトボールに対する意識を見直すきっかけになりました。

10日間のマカッサルオープンでソフトボールを通じて多くの方と関わり、スタッフの方々にも恵まれ沢山の貴重な経験をすることができました。そして男女でアベック優勝を達成できたことは一生の思い出です。この経験を活かし、自チームに恩返しできるよう頑張ります。本当にありがとうございました。



## 大学女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



東京女子体育大学 本田 光音 #4  
(山梨学院高等学校出身)

私は今回大学女子日本代表に選出して頂き、多くの事を学び、沢山の経験をさせて頂きました。海外へ出てソフトボールをプレーする事が初めてだった為、様々な事に驚きを感じました。

プレー面では日本のソフトボールは一つ一つのプレーのスピード感、丁寧な正確さは世界でも1つ抜けていて、とても高いレベルでプレーをしていたのだなと感じました。だからこそ、日本が今のソフトボール界を引っ張っていく存在であるべきだと思いました。そして、環境面では日本のように思い切りプレーが出来るグラウンドは少ないなと感じました。今まで当たり前のように使わせて頂いていた環境の大切さを改めて感じる事が出来ました。ですが、海外のプレイヤーはそんな環境の中でソフトボールを存分に楽しんでいました。この楽しむという部分に私は魅力を感じました。海外のチームは試合に負けても落ち込む仕草を見せず、相手との交流やソフトボールを素直に楽しんでいました。

一方日本は勝ちにこだわり過ぎてしまい、ソフトボールを楽しむ気持ちを疎かにしてしまっていると感じる事が出来ました。この楽しむという部分はソフトボールをこれからもっと世界に広める為に最も必要な部分だと思います。だからこそ、これから日本でプレーする時も楽しむという気持ちをぶらさずにプレーして行きたいと思います。

又、宗教などの関係で礼拝により試合が中断され試合時間が伸びてしまったり、日本と比べて時間にルーズな所もあって、試合においての体のコンディションや集中力を持続させる事が難しかったです。今回の大学日本代表派遣事業でこのような普段出来ない貴重な経験をさせて頂き、各国のソフトボールを知れ、私の中のソフトボールがより深く広がったと思います。今大会に携わって下さった全ての方々に感謝をし、ソフトボールの魅力をもっと世界に発信出来る様精一杯活動して行きます。



## 大学女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



東京女子体育大学 宮崎 眞緒 #18

(千葉経済大学付属高等学校出身)

私は今回、大学女子日本代表に選出して頂き世界のソフトボールについて沢山の事を学ばせて頂きました。私自身、海外遠征は初めてだったのですが日本のソフトボールのレベルと世界のソフトボールのレベルのギャップに1番驚きました。やはり、日本は技術の面においても、環境の面においても1歩進んでおり高いレベルでプレーしていたのだなと感じました。その為、ソフトボールの魅力をもっと世界に発信する為には我々日本のソフトボールプレイヤーがこんなスピード感で、こんなにも素晴らしいプレーが出来るんだという事を見せていく必要があると感じました。ですが逆に日本が見習って行くべきだなと思う点もいくつかありました。どうしても競技化していき、高い順位を目指そうとして行くと純粋に楽しむという部分が徐々に薄れて行ってしまっているのが日本のスポーツだと思います。ですが、純粋に良いプレーを全力で喜び、称えたりお祭りのように盛り上がりたりする事が出来る海外のスポーツの文化がとても素晴らしいと思いました。また、国際試合という事もありますが、地域の方が間近で見られる環境があり、ソフトボールを誰にでも知って頂ける環境が整っていました。そして、お客さんも一つ一つのプレーに盛大に盛り上がり楽しんでくれていました。日本でもソフトボールに限らず、全てのスポーツが楽しんでどんなプレーに対しても純粋に盛り上がる環境があって欲しいと感じました。そして今回、男子のソフトボールを間近で見させて頂いて、女子には無い圧倒的なパワーとスピード感溢れる試合ばかりでとても魅了されました。またベンチでの盛り上がり方や声掛け、プレーの大胆さにソフトボールの楽しみ方を改めて知る事が出来ました。

今回の大学日本代表派遣事業で、私は多くの事を学ぶ事が出来ました。そしてより一層ソフトボールを沢山の方に知って頂きたいと感じました。この様な経験をさせて下さった全ての関係者の方々に感謝し、ソフトボールの魅力をこれからも更に伝えられる様に活動していきたいと思っています。



## 女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



城西大学 向田 衣舞 #1  
(光明学園相模原高等学校出身)

今回、マカッサルオープンに参加させて頂けて、凄く充実した日々を過ごすことが出来ました。私自身、初めての日本代表としてユニフォームを着てプレーが出来、貴重な時間でした。普段はライバルとして戦う他大学の選手とひとつのチームとなって試合が出来てほんとに楽しかったですし、沢山のことを学ぶことが出来ました。

日本とは環境が違う中での生活だった為、なれない部分が多くありました。最初に長時間の移動、飛行機で長時間の移動をしたことが無かった為体が固まり体が思う様に動くまでに時間がかかりました。また、日本みたいに会場がいくつもある環境では無かった為、試合前に思う様に練習をして入る事が出来ませんでした。アスファルトの上でアップなどをしないといけなかったので、自分の調子をコントロールするのが難しかったです。日本は会場がいくつもあり、練習会場も割り振られていたり、設備がとても整っているなど感じ、当たり前ではないこと、日本は恵まれていると痛感させられました。グラウンド状況も日本とは違い、外野はでこぼこしていてイレギュラーが起こりやすかったり、フェンスが固く、普段いい環境でソフトボールをさせて貰えていると思いました。食事の面でも、インドネシアの料理に慣れるまでに時間がとてもかかりました。日本の味付けとは全然異なり、香辛料が強かったり、お肉に癖があったり、普段はなかなか食べることのない料理ばかりでした。

今回選ばれた選手と出会えたことにより、違う視点でソフトボールを考えられる事が出来、面白さを改めて感じる事が出来ました。現在ソフトボール人口が減少している状況にあります。日本での普及活動も必要ですが、今後さらにソフトボールが世界各国に普及していくことも必要だと思いました。

今回優勝出来たこと、さらに MVP など4冠取れたこととても嬉しく思います。思い切りソフトボールが出来たのは大会参加の為にチーム運営にご尽力頂いたスタッフの方々や、関係者の皆様がいたからだと思います。感謝申し上げます。今回の出会いにも感謝をし、これからより一層飛躍出来るように精進していきたいと思っています。



## 大学女子日本代表派遣事業を振り返って得たもの



園田学園女子大学 古本 爽 #7

(三潞高等学校出身)

私自身今回初めての海外ということもあり、とても不安ではあったが長年続けているソフトボールでの派遣で沢山の学びや沢山の交流をすることが出来た。初めて多くの海外の方とプレーをすることが出来て、海外の方の積極的にバットを振りに行く姿勢であったり、様々な球種を投げるピッチャーがいたり日本ではなかなか経験が出来ないような濃い時間を過ごすことが出来た。また、言葉が通じなくてもソフトボールを通じて同じ目標を持った仲間が居るということが分かったことに対しても大変喜びを感じ、今回の大会の中でも勝負ももちろん大切だが現地の方々が自国のチームだけではなく、参加している全チームの応援であったり、私達 JAPAN チームの応援をして下さる姿を見て、スポーツはやはり素晴らしいものだと感じた。そして、ソフトボールの人口が減ってきているので、今回の大会を通じて沢山の方々に少しでも見るだけではなく、ソフトボールをしたいと思って貰えるように今後も活動していきたいと思った。さらに、来年行われるパリオリンピックではソフトボールが種目として入っていないので、ソフトボールがオリンピックの中でも必ず種目として入るように、今回の大会が少しでも繋がれば良いなと思った。また、私自身生活していく中で積極的に行動することを心掛けているが、海外へ行くと日本人の私達に積極的に話しかけに来て下さったり、日本語で声をかけて下さったり、積極的にコミュニケーションを取ろうとして下さって、自国だけではなくソフトボールというひとつのスポーツを通じて言葉は通じなくても交流することが出来て、海外の方は積極的に行動しているからこそソフトボールの中でも積極的にスイングが出来たりプレーにも繋がっているのだろうと感じた。今回の派遣での経験を無駄にせず、ソフトボールが出来ていることを対しての感謝の気持ちを忘れず、今後ともソフトボールはもちろん生活の中でも学びを生かしていければ良いと思った。



全日本大学選手権大会成績一覧表（男子の部）

回	西暦	元号	開催日	開催地	優勝	準優勝	3位
1	1966	S 41	11.03～05	東京都世田谷区	日本体育大学	高崎経済大学	早稲田大学 国土館大学
2	1967	S 42	7.26～28	東京都世田谷区	日本体育大学	学習院大学	早稲田大学
3	1968	S 43	8.16～18	群馬県高崎市	日本体育大学	国土館大学	学習院大学
4	1969	S 44	7.26～28	東京都世田谷区	国土館大学	日本体育大学	早稲田大学
5	1970	S 45	11.13～15	大阪府吹田市	日本体育大学	中京大学	国土館大学
6	1971	S 46	8.27～29	東京都世田谷区	日本体育大学	高崎経済大学	茨城大学
7	1972	S 47	8.17～19	愛知県豊橋市	日本体育大学	高崎経済大学	中京大学
8	1973	S 48	8.28～30	群馬県草津町	日本体育大学	都留文科大学	中京大学
9	1974	S 49	8.24～26	東京都世田谷区	日本体育大学	中京大学	学習院大学
10	1975	S 50	8.20～22	兵庫県姫路市	日本体育大学	中京大学	関西大学 福岡大学
11	1976	S 51	8.22～25	広島県呉市	中京大学	日本体育大学	国土館大学
12	1977	S 52	7.26～28	三重県熊野市	日本体育大学	福岡大学	中京大学
13	1978	S 53	8.15～17	山梨県甲府市	中京大学	日本体育大学	関西大学
14	1979	S 54	8.20～23	群馬県安中市	琉球大学	東海大学	京都産業大学
15	1980	S 55	8.22～25	石川県金沢市	日本体育大学	京都産業大学	広島修道大学
16	1981	S 56	8.21～24	山口県宇部市	日本体育大学	東海大学	広島修道大学
17	1982	S 57	8.06～09	福岡県大牟田市	日本体育大学	国土館大学	広島修道大学
18	1983	S 58	8.09～12	東京都昭島市	日本体育大学	中京大学	京都産業大学 東海大学
19	1984	S 59	8.10～13	静岡県浜松市	日本体育大学	国土館大学	九州東海大学
20	1985	S 60	8.24～27	香川県坂出市	東海大学	福岡大学	大阪体育大学
21	1986	S 61	8.08～11	岐阜県下呂町他	日本体育大学	福岡大学	京都産業大学
22	1987	S 62	8.14～17	山口県宇部市	日本体育大学	国土館大学	東海大学 愛媛大学
23	1988	S 63	8.19～22	福岡県大川市	日本体育大学	東海大学	立命館大学 福岡大学
24	1989	H 1	8.26～28	千葉県千葉市	日本体育大学	京都産業大学	福岡大学 国土館大学
25	1990	H 2	8.17～20	石川県野々市町	東海大学	中京大学	日本体育大学 福岡大学
26	1991	H 3	8.09～12	愛知県豊田市	日本体育大学	国土館大学	早稲田大学 神戸学院大学
27	1992	H 4	8.07～10	香川県観音寺市他	中京大学	早稲田大学	愛知大学 九州東海大学
28	1993	H 5	8.06～09	山口県宇部市	京都産業大学	中京大学	東海大学 山梨学院大学
29	1994	H 6	8.19～21	群馬県前橋市	沖縄国際大学	京都産業大学	神戸学院大学 龍谷大学
30	1995	H 7	8.11～13	福井県福井市	沖縄国際大学	京都産業大学	日本体育大学 国際武道大学
31	1996	H 8	8.08～11	山口県宇部市	立命館大学	同志社大学	中京大学 東海大学
32	1997	H 9	8.08～10	鹿児島県桜島町	日本体育大学	関西大学	早稲田大学 沖縄国際大学
33	1998	H 10	8.07～09	三重県磯部町・二見町	日本体育大学	東海大学	立命館大学 沖縄国際大学
34	1999	H 11	8.08～10	宮城県矢本町	立命館大学	早稲田大学	日本体育大学 福岡大学
35	2000	H 12	8.05～07	香川県丸亀市	日本体育大学	東海大学	福岡大学 関西大学

全日本大学選手権大会成績一覧表（男子の部）

回	西暦	元号	開催日	開催地	優勝	準優勝	3位
36	2001	H13	8.09～11	茨城県下妻市	日本体育大学	国土館大学	九州産業大学 神戸学院大学
37	2002	H14	8.10～12	京都府宇治市	日本体育大学	立命館大学	早稲田大学 国土館大学
38	2003	H15	8.29～31	山口県宇部市	日本体育大学	早稲田大学	高崎経済大学 東海大学
39	2004	H16	8.25～29	静岡県富士宮市	国土館大学	日本体育大学	福岡大学 立命館大学
40	2005	H17	9.03～05	群馬県安中市	早稲田大学	国際武道大学	国土館大学 東海大学
41	2006	H18	8.26～28	愛知県豊橋市	国土館大学	中京学院大学	京都産業大学 神戸学院大学
42	2007	H19	8.25～27	京都府舞鶴市	国土館大学	日本体育大学	広島修道大学 中京学院大学
43	2008	H20	8.29～9.01	宮城県東松島市	日本体育大学	国土館大学	熊本学園大学 京都産業大学
44	2009	H21	8.28～30	宮崎県宮崎市	日本体育大学	福岡大学	早稲田大学 同志社大学
45	2010	H22	9.10～12	富山県富山市	環太平洋大学	同志社大学	関西大学 中京大学
46	2011	H23	8.27～29	山口県宇部市	中京学院大学	立命館大学	中京大学 神戸学院大学
47	2012	H24	9.01～03	埼玉県坂戸市	早稲田大学	神戸学院大学	中京大学 九州共立大学
48	2013	H25	9.07～09	大阪府大阪市	早稲田大学	同志社大学	日本体育大学 高知工科大学
49	2014	H26	8.30～9.01	岩手県花巻市	早稲田大学	環太平洋大学	神戸学院大学 関西大学
50	2015	H27	8.29～9.01	三重県志摩市	立命館大学 日本体育大学	中京大学 福岡大学	準決勝戦・決勝戦 雨天中止4校入賞
51	2016	H28	8.25～9.01	鹿児島県南九州市	環太平洋大学	国土館大学	常葉大学 岡山大学
52	2017	H29	9.01～04	岡山県新見市	日本体育大学	国土館大学	関西大学 城西大学
53	2018	H30	9.02～04	石川県小松市	日本体育大学	早稲田大学	中京学院大学 国土館大学
54	2019	R1	8.30～9.01	富山県富山市	日本体育大学	早稲田大学	中京学院大学 国土館大学
選 抜	2020	R2	10.31～11.01	富山県富山市	日本体育大学	福岡大学	国際武道大学 中京大学
56	2021	R3	9.11～9.13	富山県富山市	日本体育大学	福岡大学	中京大学 国際武道大学
57	2022	R4	9.10～9.12	富山県富山市	環太平洋大学	京都産業大学	早稲田大学 岐阜聖徳学園大学
58	2023	R5	9.9～9.11	富山県富山市	環太平洋大学	岐阜聖徳学園大学	福岡大学 高崎経済大学

全日本大学選手権大会成績一覧表（女子の部）

回	西暦	元号	開催日	開催地	優勝	準優勝	3位
1	1966	S 41	11.03~05	東京都世田谷区	日本体育大学	日本女子体育大学	東京女子体育大学
2	1967	S 42	7.26~28	東京都世田谷区	日本体育大学	東京女子体育大学	日本女子体育大学
3	1968	S 43	8.16~18	群馬県高崎市	東京女子体育大学	日本体育大学	大阪成蹊女子短大
4	1969	S 44	7.26~28	東京都世田谷区	日本体育大学	東京女子体育大学	武庫川女子大学
5	1970	S 45	11.13~15	大阪府吹田市	日本体育大学	東京女子体育大学	武庫川女子大学
6	1971	S 46	8.27~29	東京都世田谷区	東京女子体育大学	日本体育大学	武庫川女子大学
7	1972	S 47	8.17~19	愛知県豊橋市	日本体育大学	大阪成蹊女子短大	東京女子体育大学 武庫川女子大学 日本女子体育大学
8	1973	S 48	8.28~30	群馬県草津町	東京女子体育大学	大阪成蹊女子短大	日本女子体育大学 日本体育大学
9	1974	S 49	8.24~25	東京都世田谷区	東京女子体育大学	日本体育大学	日本女子体育大学
10	1975	S 50	8.20~22	兵庫県姫路市	東京女子体育大学	日本体育大学	大阪成蹊女子短大
11	1976	S 51	8.22~25	広島県呉市	日本体育大学	東京女子体育大学	中京大学
12	1977	S 52	7.26~28	三重県熊野市	日本体育大学	東京女子体育大学	中京大学
13	1978	S 53	8.15~17	山梨県甲府市	日本体育大学	東京女子体育大学	大阪成蹊女子短大
14	1979	S 54	8.20~23	群馬県安中市	日本体育大学	東京女子体育大学	大阪体育大学
15	1980	S 55	8.22~25	石川県金沢市	日本体育大学	大阪成蹊女子短大	中京大学
16	1981	S 56	8.21~24	山口県宇部市	日本体育大学	大阪成蹊女子短大	中京大学
17	1982	S 57	8.06~09	福岡県大牟田市	中京女子大学	日本女子体育大学	東京女子体育大学
18	1983	S 58	8.09~12	東京都昭島市	園田学園女子大学	東京女子体育大学	大阪成蹊女子短大 日本女子体育大学
19	1984	S 59	8.10~13	静岡県浜松市	大阪成蹊女子短大	大阪体育大学	武庫川女子大学
20	1985	S 60	8.24~27	香川県坂出市	日本体育大学	東京女子体育大学	園田学園女子大学
21	1986	S 61	8.08~11	岐阜県下呂町他	東京女子体育大学	武庫川女子大学	日本体育大学
22	1987	S 62	8.14~17	山口県宇部市	日本体育大学	園田学園女子大学	東京女子体育大学 日本女子体育大学
23	1988	S 63	8.19~22	福岡県大川市	園田学園女子大学	日本体育大学	日本女子体育大学 東京女子体育大学
24	1989	H 1	8.26~28	千葉県千葉市	園田学園女子大学	日本女子体育大学	中京女子大学 東京女子体育大学
25	1990	H 2	8.17~20	石川県金沢市	日本体育大学	東京女子体育大学	大阪成蹊女子短大 日本女子体育大学
26	1991	H 3	8.09~12	愛知県豊田市	東京女子体育大学	日本体育大学	日本女子体育大学 中京大学
27	1992	H 4	8.07~10	香川県観音寺市他	日本体育大学	東京女子体育大学	中京大学 園田学園女子大学
28	1993	H 5	8.06~09	山口県宇部市	東京女子体育大学	日本体育大学	九州女子大学 中京大学
29	1994	H 6	8.19~21	神奈川県相模原市	日本体育大学	東京女子体育大学	園田学園女子大学 仙台大学
30	1995	H 7	8.11~13	広島県御調町	東京女子体育大学	日本体育大学	園田学園女子大学 中京大学
31	1996	H 8	8.08~11	山口県宇部市	日本女子体育大学	日本体育大学	東京女子体育大学 中京大学
32	1997	H 9	8.08~10	鹿児島県桜島町	日本体育大学	東京女子体育大学	九州女子大学 関西外国語大学
33	1998	H 10	8.07~09	三重県磯部町	東京女子体育大学	日本体育大学	淑徳大学 園田学園女子大学
34	1999	H 11	8.08~10	宮城県女川町	東京女子体育大学	日本女子体育大学	中京大学 武庫川女子大学
35	2000	H 12	8.05~07	香川県丸亀市	東京女子体育大学	園田学園女子大学	日本体育大学 神戸親和女子大学

全日本大学選手権大会成績一覧表（女子の部）

回	西暦	元号	開催日	開催地	優勝	準優勝	3位
36	2001	H13	8.09~11	茨城県古河市	東京女子体育大学	東海女子大学	大谷女子大学 園田学園女子大学
37	2002	H14	8.10~12	京都府宇治市	東京女子体育大学	東海学園大学	園田学園女子大学 龍谷大学
38	2003	H15	8.29~31	山口県宇部市	淑徳大学	東京女子体育大学	日本体育大学 大阪国際大学
39	2004	H16	8.26~29	静岡県富士宮市	大谷女子大学 日本体育大学	決勝戦は雨天中止 両チーム優勝	愛媛女子短期大学 東海女子大学
40	2005	H17	9.03~05	群馬県安中市	東北福祉大学	園田学園女子大学	中京大学 清和大学
41	2006	H18	8.26~28	愛知県豊橋市	早稲田大学	日本体育大学	福岡大学 淑徳大学
42	2007	H19	8.25~27	京都府福知山市	園田学園女子大学	大阪国際大学	東北福祉大学 大阪大谷大学
43	2008	H20	8.29~9.01	宮城県女川町	東北福祉大学	大阪国際大学	日本女子体育大学 東京女子体育大学
44	2009	H21	8.28~30	宮崎県宮崎市	東北福祉大学	日本体育大学	立命館大学 園田学園女子大学
45	2010	H22	9.10~12	富山県富山市	東京女子体育大学	武庫川女子大学	東北福祉大学 鈴鹿国際大学
46	2011	H23	8.27~29	山口県下関市	園田学園女子大学	鈴鹿国際大学	日本体育大学 早稲田大学
47	2012	H24	9.01~03	埼玉県毛呂山町他	園田学園女子大学	東京女子体育大学	日本体育大学 東海学園大学
48	2013	H25	9.07~10	大阪府交野市	中京大学	園田学園女子大学	大阪国際大学 環太平洋大学
49	2014	H26	8.30~9.01	岩手県花巻市	東京国際大学	日本体育大学	東京富士大学 園田学園女子大学
50	2015	H27	8.29~9.01	三重県伊勢市	中京大学 東海学園大学	東京富士大学 日本体育大学	準決勝戦・決勝戦 雨天中止4校入賞
51	2016	H28	8.29~9.01	鹿児島県南九州市	園田学園女子大学	日本体育大学	日本文理大学 東海学園大学
52	2017	H29	8.26~29	広島県東広島市他	環太平洋大学	園田学園女子大学	中京大学 日本体育大学
53	2018	H30	9.02~04	石川県金沢市	日本体育大学	園田学園女子大学	東北福祉大学 東京女子体育大学
54	2019	R1	8.30~9.01	愛知県安城市	日本体育大学	園田学園女子大学	環太平洋大学 金沢学院大学
選 抜	2020	R2	8.30~9.01	愛知県安城市	中京大学	日本体育大学	城西大学 金沢学院大学
56	2021	R3	8.30~9.01	愛知県安城市	園田学園女子大学	環太平洋大学	東海学園大学 東京女子体育大学
57	2022	R4	8.30~9.01	愛知県安城市	金沢学院大学	東北福祉大学	中京大学 環太平洋大学
58	2023	R5	8.25~8.28	愛知県安城市	中京大学	園田学園女子大学	山梨学院大学 環太平洋大学

### 全日本大学(男子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞	入賞合計
日本体育大学	32	5	4	1	42
国士舘大学	4	8	7		19
早稲田大学	4	5	8		17
中京大学	3	6	8	1	18
環太平洋大学	3	1	1		5
東海大学	2	5	6		13
立命館大学	2	2	3	1	8
沖縄国際大学	2		2		4
京都産業大学	1	5	5		11
中京学院大学	1	1	2		4
琉球大学	1				1
福岡大学		5	9	1	15
高崎経済大学		3	2		5
同志社大学		3	1		4
学習院大学		1	2		3
神戸学院大学		1	6		7
関西大学		1	6		7

大学名	優勝	2位	3位	入賞
国際武道大学		1	2	
都留文科大学		1		
岐阜聖徳学園大学		1	1	
広島修道大学			4	
九州東海大学			2	
茨城大学			1	
愛媛大学			1	
愛知大学			1	
大阪体育大学			1	
山梨学院大学			1	
龍谷大学			1	
九州産業大学			1	
熊本学園大学			1	
九州共立大学			1	
高知工科大学			1	
城西大学			1	

※第55回連続出場校:日本体育大学・早稲田大学・国士舘大学 ※赤字は本年度入賞

### 全日本大学(女子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞	入賞合計
日本体育大学	20	13	7	1	41
東京女子体育大学	15	15	9		39
園田学園女子大学	6	8	9		23
東北福祉大学	3	1	3		7
中京大学	2		13	1	16
日本女子体育大学	1	5	8		14
大阪成蹊女子大学	1	4	5		10
淑徳大学	1		2		3
大阪大谷大学	1		2		3
中京女子大学	1		1		2
早稲田大学	1		1		2
環太平洋大学	1		4		5
東京国際大学	1				1
金沢学院大学	1		1		2
武庫川女子大学		2	6	1	9
大阪国際大学		2	2		4

大学名	優勝	2位	3位	入賞
大阪体育大学		1	1	
東海学園大学		1	1	1
東海女子大学		1	1	
鈴鹿国際大学		1	1	
九州女子大学			2	
仙台大学			2	
東京富士大学			1	1
関西外国語大学			1	
神戸神和女子大学			1	
龍谷大学			1	
愛媛女子短期大学			1	
龍谷大学			1	
神和大学			1	
福岡大学			1	
立命館大学			1	
山梨学院大学			1	

※旧校名を含む ※第39回の優勝校は2校 ※第50回は入試4校 ※第55回連続出場校:日本体育大学・東京女子体育大学

# 令和5年度 男子加盟大学一覧

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟

地区	数	加盟大学名
北海道・東北	7	北海道大学 盛岡大学 東北大学 宮城教育大学 仙台大学 福島大学 日本大学工学部
関東	14	城西大学 国際武道大学 東海大学 東京理科大学 高崎経済大学 東京国際大学 埼玉大学 都留文科大学 文教大学 茨城大学 筑波大学 千葉大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部
北信越	4	信州大学 富山大学 長岡大学 福井県立大学
東京	14	日本体育大学 早稲田大学 国土館大学 中央大学 学習院大学 慶応義塾大学 東京学芸大学 明治大学 日本大学 立教大学 桜美林大学 東京大学 成蹊大学 東洋大学
東海	14	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学
近畿	21	大阪経済大学 大阪工業大学 大阪公立大学 大阪産業大学 大阪体育大学 大阪大学 関西学院大学 関西大学 京都産業大学 京都大学 近畿大学生物理工学部 甲南大学 神戸学院大学 神戸大学 四天王寺大学 同志社大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 立命館大学 龍谷大学 和歌山大学
中国	10	岡山大学 岡山理科大学 環太平洋大学 鳥取大学 島根大学 近畿大学工学部 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学
四国	7	愛媛大学 松山大学 香川大学 徳島大学 四国大学 高知大学 高知工科大学
九州	11	九州大学 九州産業大学 西日本工業大学 福岡大学 熊本学園大学 大分大学 宮崎大学 鹿児島国際大学 沖縄国際大学 名桜大学 琉球大学

# 令和5年度 女子加盟大学一覧

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟

地 区	数	加 盟 大 学 名
北 海 道 ・ 東 北	6	弘前大学 富士大学 東北福祉大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学 仙台大学
関 東	16	山梨学院大学 東京国際大学 城西大学 東海大学 淑徳大学 新島学園短期大学 清和大学 城西国際大学 文教大学 順天堂大学 千葉大学 筑波大学 茨城大学 白鷗大学 日本大学生物資源科学部 国際武道大学
北 信 越	2	金沢学院大学 松本大学
東 京	16	東京女子体育大学 日本体育大学 早稲田大学 東京富士大学 国士舘大学 日本女子体育大学 東京学芸大学 学習院大学 日本大学 慶應義塾大学 中央大学 東洋大学 実践女子大学 明治大学 桜美林大学 成蹊大学
東 海	13	愛知教育大学 岐阜協立大学 岐阜聖徳学園大学 至学館大学 静岡大学 星城大学 中京大学 中京学院大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 日本福祉大学 鈴鹿大学
近 畿	19	大阪青山大学 大阪大谷大学 大阪公立大学 大阪国際大学 大阪体育大学 関西大学 京都産業大学 神戸親和大学 四天王寺大学 園田女子学園大学 太成学院大学 天理大学 同志社大学 羽衣国際大学 兵庫教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学
中 国	7	I P U環太平洋大学 中国学園大学 広島大学 安田女子大学 美作大学 鳥取大学 広島修道大学
四 国	3	愛媛大学 香川大学 四国大学
九 州	4	九州共立大学 福岡大学 日本文理大学 熊本学園大学
男子：102 大学 2,167 名 女子：86 大学 2,013 名 合計：188 大学 4,180 名		
令和5年12月31日現在		

一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟 理事・監事・社員

役職	氏名	所属
代表理事	児玉 公正	大阪大谷大学
業務執行理事	丸山 悟	日本福祉大学
業務執行理事	高橋 知美	富士大学
業務執行理事	木田 京子	園田学園女子大学
業務執行理事	大塚 健樹	盛岡大学
業務執行理事	長澤 淑恵	城西大学
理事	舟山 健一	東北福祉大学
理事	佐藤 理恵	東京女子体育大学
理事	高橋 流星	日本体育大学
理事	伊勢 幸広	広島工業大学
理事	増淵 まり子	淑徳大学
理事	山本 清人	環太平洋大学
理事	濱 貴一	熊本学園大学
理事	藤本 索子	金沢学院大学
理事	二瓶 雄樹	中京大学
理事	田島 良輝	大阪経済大学
理事	渡邊 華月	トヨタ自動車
理事	井上 明子	西東京いこい法律事務所
理事	山田 優子	城西大学
理事	泉 健介	大阪大谷大学
監事	森田 啓之	兵庫教育大学
監事	平野 義明	関西大学
社員	森 英寿	富士大学
社員	高橋 光平	城西国際大学
社員	多田 邦宏	金沢学院大学
社員	秋葉 茂季	国士舘大学
社員	東 美幸	東海学園大学
社員	吉末 和也	関西大学
社員	土谷 文乃	美作大学
社員	藤本 賢一	四国大学
社員	野田 堅三	福岡大学

## 令和6年度 全日本関係大会日程(案)

※参加申込期限は原則大会40日前で設定

回数	種 別	期 日	参加申込期限	会 場	参加数
64	実業団男子選手権	7月27日(土)～29日 監・開:26日	6月21日	鹿児島県 鹿児島市	32
64	実業団女子選手権	7月27日(土)～29日 監・開:26日	6月19日	石川県 金沢市	20
45	クラブ男子選手権	7月20日(土)～22日 監・開:19日	6月12日	岡山県 津山市	32
45	クラブ女子選手権	7月20日(土)～22日 監・開:19日	6月12日	岩手県 一関市	24
59	高校男子選手権	7月28日(日)～31日 監・開:27日		長崎県 大村市	42
76	高校女子選手権	7月22日(月)～25日 監・開:21日		長崎県 大村市	48
59	大学男子選手権	9月 7日(土)～ 9日 監・開: 6日	7月26日	富山県 富山市	32
59	大学女子選手権	8月30日(金)～9月1日 監・開:29日	7月19日	愛知県 安城市	32
70	全日本総合男子選手権	9月14日(土)～16日 監・開:13日	8月5日	長野県 伊那市	32
76	全日本総合女子選手権	9月14日(土)～16日 監・開:13日	8月5日	滋賀県 守山市・草津市・東近江市・高島市	32
38	小学生男子大会	8月 3日(土)～ 6日 監・開: 2日	6月24日	埼玉県 戸田市	48
38	小学生女子大会	7月27日(土)～30日 監・開:26日	6月15日	秋田県 由利本荘市	48
46	全国中学校男子大会	8月18日(日)～20日 監・開:17日	8月8日	富山県 富山市	16
46	全国中学校女子大会	8月18日(日)～20日 監・開:17日	8月8日	富山県 富山市	28
29	レディース大会	8月17日(土)～19日 監・開:16日	7月 5日	北海道 石狩市	48
16	エルダー大会	11月2日(土)～4日 監・開: 1日	9月26日	滋賀県 高島市	48
23	エルDEST大会	10月19日(土)～21日 監・開:18日	9月8日	静岡県 浜松市	48
70	教員大会	7月27日(土)～29日 監・開:26日	6月19日	香川県 丸亀市	32
21	一般男子	8月24日(土)～26日 監・開:23日	7月13日	宮崎県 宮崎市	48
39	壮年大会	9月21日(土)～23日 監・開:20日	8月9日	東京都 八王子市	48
33	実年大会	8月31日(土)～ 9月2日 監・開: 30日	7月21日	大分県	48
38	シニア大会	10月12日(土)～14日 監・開:11日	8月31日	山梨県 甲府市・甲斐市	48
19	ハイシニア大会	9月21日(土)～23日 監・開:20日	8月10日	兵庫県 明石市・高砂市・加古郡	48
24	中学生男子大会	8月11日(日)～13日 監・開:10日	7月17日	福岡県 福岡市	48
24	中学生女子大会	8月10日(土)～12日 監・開: 9日	7月17日	大阪府 堺市	48
78	国スポ 成年男子	10月12日(土)～14日 監:11日	9月4日	佐賀県 白石町	13
"	成年女子	" "	9月4日	佐賀県 江北町・小城市	13
"	少年男子	" "	9月4日	佐賀県 みやき町・上峰町	13
"	少年女子	" "	9月4日	佐賀県 太良町	13
24	日本スポーツマスターズ大会(男子)	9月28日(土)～10月1日 監:27日		長崎県 時津町・長与町	48
36	ねんりんピック	10月19日(土)～22日		鳥取県 米子市・琴浦町・大山町・南部町	
43	高校選抜 男子	2025年3月22日(土)～25日 監・開:21日	2月7日	千葉県	48
43	高校選抜 女子	2025年3月21日(金)～24日 監・開:20日	1月15日	長崎県 大村市	48
21	都道府県対抗全日本中学生男子大会	2025年3月29日(土)～31日 監・開:28日	2月7日	宮崎県 宮崎市	48
21	都道府県対抗全日本中学生女子大会	2025年3月29日(土)～31日 監・開:28日	2月7日	群馬県 伊勢崎市	48
18	春季小学生男子大会	2025年3月29日(土)～31日 監・開:28日	2月7日	奈良県 奈良市・大和郡山市・生駒市	48
18	春季小学生女子大会	2025年3月28日(金)～30日 監・開:27日	2月7日	岐阜県 揖斐川町	48

(注)監は監督会議、開は開会式の略

## 1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、(一社) 全日本大学ソフトボール連盟に登録された者(理事、監督、コーチ、選手等)に限る。また、著者が複数の場合はいずれかの者が本資格を満たしていればよい。調査・研究委員会が特に認めた者については、この限りではない。

## 2. 投稿内容

内容は、ソフトボールに関連したものとし、巻頭言、提言、総説、論文(含、抄録)、研究資料、実践研究、事例報告、卒業論文・修士論文、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内(巻頭言、提言の場合は1ページ以内)とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであっても良い。

## 3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものは全て受理とし、査読の上、採択する。なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合もある。

## 4. 投稿原稿の提出

1) 投稿原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、電子ファイルにて提出する。メールによる投稿の場合は、研究委員会からの返信をもって受け付けとする。投稿の締め切りは、毎年11月末日で区切るものとする。

2) 投稿先および連絡先

担当者：高橋 流星 (日本体育大学)

研究委員会 E-mail:subaru-takahashi@nittai.ac.jp

Tel&FAX：03-5706-0925

## 5. 執筆要項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守する。

1) 投稿原稿は原則として下記のファイル形式で作成する。

・本文ファイル：Microsoft Word 標準ファイル形式

・図・表・写真ファイル：Microsoft Word 標準ファイル形式、Excel 標準ファイル形式、PowerPoint 標準ファイル形式、JPEG、PNG など

2) 用紙設定

A4版縦置き横書き、全角40字×40行(上下余白25mm・左右余白25mm)、文字サイズは10.5ポイント、和文フォントは明朝体を基本とする。手書きは、原則、不可とする。

一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟

定 款

## 第1章 総則

### (名称)

第1条 この法人は、一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟と称し、英語では Japan College Softball Federation (略称 J C S F) と表記する。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を愛知県知多郡美浜町に置く。  
2 この法人は、理事会の決議によって従たる事務所を必要な地に置くことができる。これを変更又は廃止する場合も同様とする。

## 第2章 目的及び事業

### (目的)

第3条 この法人は、全国の大学ソフトボール団体を統轄し、大学ソフトボールの普及・発展、振興及び競技力向上を図るとともに、ソフトボールを通して学生の心身の健全な発達及び我が国のソフトボールの発展に寄与することを目的とする。

### (事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。  
(1) 大学ソフトボール競技会の企画、運営及びその開催に関する事業  
(2) 大学ソフトボールの普及・発展、振興及び競技力向上に関する事業  
(3) ソフトボールの国際競技会に派遣するチームの編成並びに当該チーム及び選手の派遣に関する事業  
(4) ソフトボールの指導者、審判員及び記録員等の育成に関する事業  
(5) ソフトボールに関する研究・調査の推進  
(6) ソフトボールに関する講演会・講習会等の開催  
(7) その他この法人の目的達成のために必要な一切の事業

## 第3章 会員

### (法人の構成員)

第5条 この法人に次の会員を置く。  
(1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した大学の団体又は個人で、下記にあたるもの  
①団体会員 公益財団法人日本ソフトボール協会に登録し、当該大学の体育会、学友会又はこれに準ずる組織に認められている団体。

②個人会員 前号の団体に所属する学生若しくは指導者又はこの法人の目的に賛同して入会した個人。

(2) 特別会員 この法人の目的に賛同し、この法人の事業に協力又は支援するために入会したスポーツ関係団体。

2 設立時社員のほか、前項の正会員のうち、その所在地により設置される地区大学ソフトボール連盟から選出されるものを、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）上の社員とする。

(入会)

第6条 この法人の会員になろうとするものは、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第7条 正会員は、この法人の活動に必要な経費に充てるため、毎年、社員総会において別に定められた額の登録費（以下「会費」という。）を支払わなければならない。

(退会)

第8条 正会員及び特別会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(会員の資格喪失)

第9条 会員は、次の各号の一に該当したときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。
- (2) 除名されたとき。
- (3) 正当な理由なく2年間分以上会費を滞納したとき。
- (4) 当該会員を除くすべての社員が同意したとき。
- (5) 会員が死亡し、又は解散したとき。
- (6) 満70歳に達した日が属する事業年度が終了したとき。

(懲戒)

第10条 会員が次の各号の一に該当したときは、本条第4項に定める決議を経て、その会員を懲戒することができる。

- (1) この法人の定款又は規則その他の規程に違反したとき。
- (2) 職業行為に関し、法令に違反して、刑罰に処され、又は行政処分を受けたとき。
- (3) この法人の会費を滞納し、かつ催告を受けてなお納付しないとき。
- (4) この法人又はこの法人の会員としての信用と名誉を傷つける行為をしたとき。
- (5) その他の正当な事由があるとき。

- 2 懲戒は、次の各号に定める方法のうち、何れかの方法により行う。
- (1) 戒告
  - (2) 定款その他の規程により会員に与えられた権利の停止
  - (3) 除名（前項第3号に該当する場合を除く。）
- 3 懲戒は、その事由に該当すると認められた会員に対し、決議の前に、理事会及び理事会に先立ち懲戒案件を審査する委員会において、十分な弁明の機会を与えなければならない。また、前項第3号に定める方法による場合は、当該会員に対し、社員総会の2週間前までに、当該総会において除名を審議すること、かつ、その決議の前に弁明する機会を与えることを通知しなければならない。
- 4 懲戒は、第2項第1号又は第2号に定める方法による場合は理事会の決議により、また、同項第3号に定める方法による場合は理事会の決議を経た上、社員総会において、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって、これを決する。
- 5 会費の滞納者に対しては、別に規則をもって定める請求手続により催告を行い、催告後1年を過ぎてもなお納入がないときは、第2項第2号に定める方法による懲戒を行う。また、次項に定める当該懲戒の通知後、1年を過ぎてもなお未納の場合は、第9条第3号の規定により、会員資格を喪失するものとする。
- 6 第4項により懲戒が決議されたとき、又は前項により会員資格を喪失したときは、代表理事は、当該会員に対し書面によりその内容及び理由を通知するとともに、別に定める懲戒処分等の公示に関する取扱細則に従い、所定の事項を機関紙その他に公示しなければならない。
- 7 本条に定めるもののほか、懲戒に関し必要な事項は、理事会の決議を経て、規則をもってこれを定める。

(会員資格喪失に伴う権利及び義務)

第11条 会員が第9条の規定によりその資格を喪失したときは、この法人に対する会員としての権利を失い、義務を免れる。ただし、未履行の義務は、これを免れることができない。

- 2 この法人は、会員がその資格を喪失しても、既納の会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。

## 第4章 社員総会

(社員総会の構成)

第12条 社員総会は、すべての社員をもって構成する。

(社員総会の権限)

第 13 条 社員総会は、次の事項に限り決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
  - (2) 定款の変更
  - (3) 会員の除名
  - (4) 入会の基準及び会費の金額
  - (5) 解散及び残余財産の処分
  - (6) 合併、事業の全部若しくは一部の譲渡又は事業の全部の廃止
  - (7) その他社員総会で決議するものとして、法令及びこの定款に定める事項
- 2 前項にかかわらず、個々の社員総会においては、第 15 条第 3 項の通知に記載又は記録された社員総会の目的である事項以外の事項は、決議することができない。

(社員総会の種類及び開催)

第 14 条 この法人の社員総会は、定時社員総会及び臨時社員総会の 2 種とする。

- 2 定時社員総会は、毎事業年度終了後 3 ヶ月以内に開催する。
- 3 臨時社員総会は、次の各号の一に該当するときに開催する。
  - (1) 理事会において開催の決議がなされたとき。
  - (2) 総社員の 10 分の 1 以上の議決権を有する社員から、社員総会の目的である事項及び招集の理由を記載した書面又は電磁的方法により、招集の請求が代表理事にあったとき。

(社員総会の招集及び議長)

第 15 条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき代表理事が招集し、議長となる。

- 2 代表理事は、前条第 3 項第 2 号の請求があったときは、その請求があった日から 6 週間以内の日を社員総会の日とする社員総会の招集の通知を発しなければならない。
- 3 社員総会を招集するときは、社員総会の日時、場所、目的である事項その他法令で定める事項を記載した書面又は電磁的方法により、社員総会の日から 1 週間前までに通知を発しなければならない。

(社員総会の定足数)

第 16 条 社員総会は、総社員の過半数の出席がなければ開催することができない。

(議決権)

第 17 条 社員総会における議決権は、社員 1 名につき 1 個とする。

(社員総会の決議)

第 18 条 社員総会の決議は、総社員の過半数が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって決し、可否同数のときは否決とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

(1) 社員の除名

(2) 監事の解任

(3) 定款の変更

(4) 解散

(5) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第21条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(社員総会の決議の省略)

第 19 条 理事又は社員が、社員総会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、社員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(社員総会の議事録)

第 20 条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び出席した理事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

## 第 5 章 役員

(役員を設置)

第 21 条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 3名以上 25名以内

(2) 監事 1名以上 3名以内

2 理事のうち1名を代表理事とする。

3 代表理事以外の理事のうち5名以内を業務執行理事とする。

(選任等)

第 22 条 理事及び監事は、社員総会の決議によって各々選任する。

2 代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 前項で選定された代表理事は会長に、業務執行理事は常任理事に就任する。

- 4 理事会は、その決議によって、第2項で選定された業務執行理事より、副会長、専務理事及び常務理事を選定することができる。ただし、副会長は2名以内、専務理事は1名、常務理事は2名以内とする。

(理事の職務及び権限)

第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款に定めるところにより、この法人の業務の執行の決定に参画する。

- 2 代表理事は、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 副会長に就任した業務執行理事は、代表理事を補佐し、この法人の業務を執行する。また、代表理事に事故があるとき又は代表理事が欠けたときは、理事会が予め決定した順序によって、その業務執行に係る職務を代行する。
- 4 前項以外の業務執行理事は、代表理事及び副会長に就任した業務執行理事を補佐し、この法人の業務を執行する。また、代表理事及び副会長に就任した業務執行理事に事故があるとき又は欠けたときは、代表理事の業務執行に係る職務を代行する。
- 5 前二項の他、業務執行理事は、この法人の業務を分担執行する。
- 6 代表理事及び業務執行理事は、毎事業年度ごとに4ヶ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の職務執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成すること。
- (2) この法人の業務及び財産の状況を調査すること、並びに各事業年度に係る計算書類及び事業報告等を監査すること。
- (3) 必要に応じて理事及び使用人に対して事業の報告を求めること。
- (4) 社員総会及び理事会に出席し、必要あると認めるときは意見を述べること。
- (5) その他監事に認められた法令上の権限を行使すること。

(役員任期)

第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した理事の補欠として又は増員により選任された理事の任期は、前任者の任期又は他の在任理事の任期の満了するときまでとする。
- 3 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。
- 4 任期の満了前に退任した監事の補欠として選任された監事の任期は、前任者の任

期の満了するときまでとする。

- 5 役員は、第 21 条第 1 項に定めた役員の員数が欠けた場合には、辞任又は任期満了後においても、新たに選任された者が就任するまでは、なお理事又は監事としての権利義務を有する。
- 6 役員は就任時において、その年齢が 70 歳未満でなければならない。

(役員解任)

第 26 条 役員は、いつでも社員総会の決議によって、解任することができる。ただし、監事を解任する場合は、総社員の半数以上であつて、総社員の議決権の 3 分の 2 以上の議決に基づいて行わなければならない。

(役員報酬等)

第 27 条 理事及び監事に対して、社員総会において定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従つて算定した額を、報酬等として支給することができる。

(顧問)

第 28 条 この法人に顧問を複数名置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の推薦により代表理事が委嘱する。

(顧問の職務)

第 29 条 顧問は、この法人の運営に関する事項について、代表理事の諮問に応え、代表理事に対し、又は理事会から諮問された事項について意見を述べることができる。

## 第 6 章 理事会

(理事会の構成)

第 30 条 この法人に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(理事会の権限)

第 31 条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) 社員総会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定
- (2) 規則等の制定、変更及び廃止
- (3) 前各号に定めるもののほか、この法人の業務執行の決定
- (4) 理事の職務の執行の監督
- (5) 代表理事及び業務執行理事等の選定及び解職

(理事会の種類及び開催)

第 32 条 この法人の理事会は、通常理事会及び臨時理事会の 2 種とする。

2 通常理事会は、毎事業年度に 4 ヶ月を超える間隔で 2 回以上開催する。

3 臨時理事会は、次の各号の一に該当するときに開催する。

(1) 代表理事が必要と認めたとき。

(2) 代表理事以外の理事又は監事から、会議の目的である事項を記載した書面又は電磁的方法により、招集の請求が代表理事にあったとき。

(理事会の招集及び議長)

第 33 条 理事会は、法令に別段の定めがある場合を除き、代表理事が招集し、議長となる。

2 代表理事は、前条第 3 項第 2 号の請求があったときは、その請求があった日から 5 日以内の日を理事会の日とする臨時理事会の招集の通知を発しなければならない。

3 理事会を招集するときは、理事会の日時、場所、目的である事項を記載した書面又は電磁的方法により、理事会の日の 5 日前までに、各理事及び各監事に対して通知を発しなければならない。

4 前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続を経ることなく理事会を開催することができる。

5 代表理事が欠けたとき又は代表理事に事故があるときは、業務執行理事が、理事会が予め決定した順序によって理事会を招集する。

(理事会の定足数)

第 34 条 理事会は、議決に加わることができる理事の過半数の出席がなければ開催することができない。

(理事会の決議)

第 35 条 理事会の決議は、この定款に別段の定めがあるもののほか、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行い、可否同数の時は議長の裁決するところによる。

2 前項に規定する可否同数の時の裁決を除き、議長は、理事会の決議に、理事として議決に加わることはできない。

(理事会の決議の省略)

第 36 条 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったも

のとみなす。ただし、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(報告の省略)

第 37 条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知したときは、その事項を理事会に報告することを要しない。

(理事会の議事録)

第 38 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印しなければならない。ただし、代表理事の選定を行う理事会については、他の出席した理事も署名又は記名押印する。

## 第 7 章 資産及び会計

(事業年度)

第 39 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月末日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第 40 条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、代表理事が作成し、理事会の決議を経て、社員総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所（及び従たる事務所）に、当該事業年度が終了するまでの間、備え置きするものとする。

(事業報告及び決算)

第 41 条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、代表理事が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、その承認を受けた書類のうち、第 1 号、第 3 号及び第 4 号の書類については定時社員総会に提出し、第 1 号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

- 2 前項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に 5 年間、また、従たる事務所に 3 年間備え置きするとともに、定款を主たる事務所及び従たる事務所に、社員名簿

を主たる事務所に備え置きするものとする。

(剰余金の不分配)

第 42 条 この法人は、剰余金の分配を行わない。

## 第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第 43 条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第 44 条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第 45 条 この法人が解散等により清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

第 46 条 この法人の公告は、電子公告により行う。

- 2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

## 第 10 章 補則

(委任)

第 47 条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

## 第 11 章 事務局及び職員

(事務局及び職員)

第 48 条 この法人の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局長の選任及び解任については、理事会の決議を要する。その他の職員は、会長が任免する。

- 3 事務局の職員（事務局長を除く）には、理事会において定めた報酬等の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

#### 附則

- 1 この法人の設立初年度の事業年度は、この法人の成立の日から令和5年3月31日までとする。

- 2 この法人の設立時理事及び設立時監事は、次に掲げる者とする。

設立時理事	丸山 悟
設立時理事	高橋 伸次
設立時理事	森田 啓之
設立時監事	平野 義明

- 3 この法人の設立時社員の氏名及び住所は、次のとおりである。

設立時社員	岩間 英明
-------	-------

「掲載省略」

設立時社員	柳田 信也
-------	-------

「掲載省略」

設立時社員	二瓶 雄樹
-------	-------

「掲載省略」

- 4 この定款に定めのない事項は、すべて一般法人法その他の法令に従う。

以上、一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟設立のため、設立時社員の定款作成代理人である弁護士小塩康祐は、電磁的記録であるこの定款を作成し、これに電子署名する。

令和4年5月2日

設立時社員 岩間 英明

設立時社員 柳田 信也

設立時社員 二瓶 雄樹

上記定款作成代理人 弁護士 小塩 康祐

## 編集後記

元日早々の能登半島地震により、犠牲となられた方々に対しまして、謹んでお悔み申し上げますとともに、被災者の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。被災地におかれましては、現在もまだ余震が続いております。安否や消息が確認されていない方々も多数おられ、不安な日々を送られています。皆様のご無事と安全確保、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

本機関誌「ウインドミル」は1997年12月に第1号が創刊され、約25年間、発行を続けてこられ、その編集長としてご尽力を頂戴いたしました水谷博先生（至学館大学）には、本当に感謝しております。重ね重ね御礼申し上げます。

本機関誌の発刊にあたりまして、限られた時間のなかで不慣れな編集作業であり、記録などの欠ける部分や、誤字脱字等につきましては、ご寛容の程をお願い致します。2028年にも五輪競技として復活も決定しました。今後も本連盟がさらに進化、発展できるよう努力して参ります。

最後になりましたが、本機関誌発行にあたり、ご支援いただきました執筆者や読者の皆様をはじめ、研究報告や卒業論文を執筆して頂きました先生方、貴重な記録データをご提供いただいた(公財)日本ソフトボール協会記録委員会と試合の記帳をしていただいた全国の記録委員の皆様、(株)日本体育社竹崎治様には、特集ページの編集および大会等の写真のご提供も頂戴致しました。また、一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）より写真のご提供も頂き、更には、ミズノ株式会社様、内外ゴム株式会社様、ナガセケンコー株式会社様には、広告協賛も頂戴致しました。多くの皆様に対しまして、特に記して衷心より感謝と御礼を申し上げます。

一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟  
研究委員会 委員長 高橋 流星

一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第27号

2024年2月吉日発行

発行者 一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟 代表理事 児玉 公正  
編集責任者 研究委員会 委員長 高橋 流星  
E-mail : [subaru-takahashi@nittai.ac.jp](mailto:subaru-takahashi@nittai.ac.jp)

発行所 一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟 事務局 泉 健介  
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3丁目11番1号  
URL : <https://jcsf.jp/>

印刷 株式会社 春日 冊子印刷ドットコム  
〒630-8126 奈良県奈良市三条栄町9-18  
URL : <http://www.34.insatsu.com/>  
TEL:050-353-3432 FAX:0742-35-7223



一般社団法人  
全日本大学ソフトボール連盟  
Japan College Softball Federation

# 感動！ サプライヤー ケンコーボール

1934年創業以来85年以上にわたり 一心にボールを作り続けてまいりました。  
これからもスポーツライフに相応しい自信作をお届けしていきます。



(公財)日本ソフトテニス連盟公認球  
ケンコーソフトテニスボール



(公財)全日本軟式野球連盟公認球  
ケンコーボール



(公財)日本ソフトボール協会検定球  
ケンコーソフトボール

## **KE/KO BALL**

ケンコーボール

ナガセケンコー株式会社 [www.nagase-kenko.com](http://www.nagase-kenko.com)



## NAIGAI SOFTBALL

(公財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・革製3号



## NAIGAI BASEBALL

(公財)全日本軟式野球連盟公認球 M号・J号・D号・H号



naigai

内外ゴム株式会社

# 想いを込める一球がある。



一般社団法人  
**全日本大学ソフトボール連盟**  
Japan College Softball Federation